

博士学位論文（東京外国語大学）  
Doctoral Thesis (Tokyo University of Foreign Studies)

氏名	李宇霞
学位の種類	博士（学術）
学位記番号	博甲第243号
学位授与の日付	2018年3月12日
学位授与大学	東京外国語大学
博士学位論文題目	親疎関係によるポライトネスの日中対照研究ーディスコース・ポライトネス理論の観点からー

Name	Yuxia, Li
Name of Degree	Doctor of Philosophy (Humanities)
Degree Number	Ko-no. 243
Date	March 12, 2018
Grantor	Tokyo University of Foreign Studies, JAPAN
Title of Doctoral Thesis	A Japanese-Chinese Contrastive Study of Politeness via Degree of Intimacy---from the Perspective of Discourse Politeness Theory

東京外国語大学大学院地域文化研究科  
博士論文

# 親疎関係によるポライトネスの日中対照研究 ーディスコース・ポライトネス理論の観点からー

---



学位請求者：李 宇霞  
所 属：大学院地域文化研究科  
学 籍 番 号：5408021

## 目次

第一章	はじめに.....	1
1.1	研究背景および本研究の分析視点.....	1
1.2	本研究の目的と章立て.....	4
第二章	先行研究と本研究の理論的枠組み.....	6
2.1	ポライトネス研究の流れ.....	6
2.1.1	Lakoff のポライトネス理論.....	6
2.1.2	Leech の丁寧さの原理.....	7
2.2	理論的枠組み.....	8
2.2.1	Brown & Levinson (1987) のポライトネス理論.....	8
2.2.2	宇佐美 (1998、2001ab、2002 等) のディスコース・ポライトネス理論.....	10
2.2.2.1	「ディスコース・ポライトネス (discourse politeness)」.....	10
2.2.2.2	「基本状態 (default)」.....	11
2.2.2.3	「有標ポライトネス (marked politeness)」と「無標ポライトネス (unmarked politeness)」.....	11
2.2.2.4	有標行動 (marked behavior) と無標行動 (unmarked behavior).....	11
2.2.2.5	ポライトネス効果 (politeness effect).....	12
2.2.2.6	「見積もり差 (Discrepancy in estimations:De 値)」と「行動の適切性 (appropriateness of behavior)」、 「ポライトネス効果 (politeness effect)」の 関係.....	12
2.2.2.7	「相対的ポライトネス (relative politeness)」と「絶対的ポライトネス (absolute politeness)」.....	13
第三章	本研究の立場.....	15
3.1	研究目的および研究設問.....	15
3.2	研究方法.....	16
3.2.1	総合的会話分析について.....	16
3.2.2	協力者(被験者).....	17
3.2.3	実験手順.....	19
3.2.4	文字化の方法.....	20
3.2.5	日本人男性会話データ.....	30
第四章	日本人会話のスピーチレベル.....	32
4.1	文中スピーチレベル.....	33
4.1.1	文中スピーチレベルのコーディングの基準.....	33
4.1.2	文中スピーチレベルの基本状態.....	36
4.1.2.1	日本人初対面会話の文中スピーチレベルの基本状態.....	36
4.1.2.2	日本人友人会話の文中スピーチレベルの基本状態.....	40
4.1.3	文中スピーチレベルについての考察.....	50

4.1.3.1	親疎関係による文中スピーチレベルの差異 .....	50
4.1.3.2	日本人初対面会話と友人同士会話の文中スピーチレベルの対称性 .....	53
4.1.3.3	日本人初対面会話と友人同士会話の文中スピーチレベルにおける性差 .....	57
4.2	文末スピーチレベル .....	58
4.2.1	文末スピーチレベルのコーディングの基準 .....	59
4.2.2	文末スピーチレベルについての考察 .....	62
4.2.2.1	日本人初対面会話の文末スピーチレベル .....	62
4.2.2.2	日本人友人同士会話の文末スピーチレベル .....	68
4.2.2.3	文末スピーチレベルの各項目の差異 .....	70
4.3	スピーチレベルシフト .....	75
4.3.1	スピーチレベルシフトのコーディングの基準 .....	76
4.3.2	スピーチレベルシフトの結果について .....	79
4.3.3	スピーチレベルシフトについての考察 .....	86
4.3.3.1	日本人初対面会話におけるスピーチレベルシフトについて .....	86
4.3.3.2	日本人友人同士会話のスピーチレベルシフト .....	98
4.4	まとめ .....	109
第五章	中国人会話の語彙の丁寧度 .....	111
5.1	中国人会話の語彙の丁寧度のコーディング基準 .....	111
5.2	中国人初対面会話の語彙の丁寧度について .....	116
5.2.1	中国人女性初対面会話の語彙の丁寧度について .....	116
5.2.2	中国人男性初対面会話の語彙の丁寧度について .....	117
5.3	中国人友人同士会話の語彙の丁寧度について .....	127
5.3.1	中国人女性友人同士会話の語彙の丁寧度について .....	127
5.3.2	中国人男性友人同士会話の語彙の丁寧度について .....	132
5.4	中国人会話の語彙の丁寧度の差異 .....	137
5.4.1	親疎関係による中国人会話の語彙の丁寧度の差 .....	137
5.4.2	中国人会話の語彙の丁寧度の性差 .....	139
5.4.2.1	対人コミュニケーションの観点からみる中国人会話の語彙の丁寧度の性差 .....	140
5.4.2.2	話題選択の観点からみる中国人会話の語彙の丁寧度の性差 .....	143
5.5	まとめ .....	145
第六章	話題選択と展開に関する日中対照 .....	147
6.1	話題の定義と先行研究 .....	147
6.1.1	「話題」の定義について .....	147
6.1.2	初対面会話における話題選択の先行研究 .....	149
6.2	初対面会話における話題選択の基本状態 .....	150
6.2.1	日本人初対面会話における話題選択の基本状態 .....	150
6.2.2	中国人初対面会話における話題選択の基本状態 .....	153



6.3	初対面会話における話題選択のストラテジー.....	157
6.3.1	初対面会話における話題選択のストラテジーの分類.....	158
6.3.2	日本人初対面会話における話題選択のストラテジーの結果.....	170
6.3.3	中国人初対面会話における話題選択のストラテジーの結果.....	173
6.4	初対面会話における典型的な話題展開パターン.....	176
6.4.1	日本人初対面会話における典型的な話題展開パターン.....	176
6.4.1.1	日本人女性初対面会話における典型的な話題展開パターン.....	176
6.4.1.2	日本人男性初対面会話における典型的な話題展開パターン.....	178
6.4.2	中国人初対面会話における典型的な話題展開パターン.....	180
6.4.2.1	中国人女性初対面会話における典型的な話題展開パターン.....	180
6.4.2.2	中国人男性初対面会話における典型的な話題展開パターン.....	182
6.5	まとめ.....	185
第七章	話題導入に関する日中対照.....	187
7.1	話題導入のコーディングの基準について.....	187
7.2	日本人会話の話題導入の頻度.....	190
7.2.1	日本人女性会話の話題導入の頻度.....	190
7.2.2	日本人男性会話の話題導入の頻度.....	196
7.2.3	日本人初対面会話と友人会話の話題導入の差.....	199
7.2.3.1	親疎関係による日本人初対面会話と友人会話の話題導入の差.....	199
7.2.3.2	日本人初対面会話と友人会話の話題導入の性差.....	200
7.3	中国人会話の話題導入の頻度.....	200
7.3.1	中国人女性会話の話題導入の頻度.....	200
7.3.2	中国人男性会話の話題導入の頻度.....	203
7.3.3	中国人初対面会話と友人会話の話題導入の差.....	209
7.3.3.1	親疎関係による中国人初対面会話と友人会話の話題導入の差.....	209
7.3.3.2	中国人初対面会話と友人会話の話題導入の性差.....	210
7.4	日本人の話題導入の仕方.....	210
7.4.1	日本人初対面会話の話題導入の仕方.....	211
7.4.2	日本人友人同士会話の話題導入の仕方.....	214
7.5	中国人の話題導入の仕方.....	216
7.5.1	中国人初対面会話の話題導入の仕方.....	217
7.5.2	中国人友人同士会話の話題導入の仕方.....	220
7.6	まとめ.....	225
第八章	あいづちに関する日中対照.....	227
8.1	あいづち (uh-uhu) について.....	227
8.1.1	あいづち (uh-uhu) の定義.....	227
8.1.2	あいづちの分類.....	231
8.1.2.1	日本語のあいづちの分類.....	231

8.1.2.2	中国語のあいづちの分類.....	232
8.2	日本人会話におけるあいづちの頻度.....	233
8.2.1	日本人会話の総発話数に対するあいづちの比率.....	233
8.2.1.1	日本人女性会話の総発話数に対するあいづちの比率.....	233
8.2.1.2	日本人男性会話の総発話数に対するあいづちの比率.....	237
8.2.2	日本人会話の時間当たりのあいづちの回数.....	240
8.2.2.1	日本人女性会話の時間当たりのあいづちの回数.....	240
8.2.2.2	日本人男性会話の時間当たりのあいづちの回数.....	242
8.3	日本人会話におけるあいづちの使用状況.....	244
8.3.1	日本人女性初対面会話におけるあいづちの使用状況.....	244
8.3.2	日本人女性友人同士会話におけるあいづちの使用状況.....	246
8.3.3	日本人男性初対面会話におけるあいづちの使用状況.....	248
8.3.4	日本人男性友人同士会話におけるあいづちの使用状況.....	252
8.4	中国人会話におけるあいづちの頻度.....	256
8.4.1	中国人会話の総発話数に対するあいづちの比率.....	256
8.4.1.1	中国人女性会話の総発話数に対するあいづちの比率.....	256
8.4.1.2	中国人男性会話の総発話数に対するあいづちの比率.....	261
8.4.2	中国人会話の時間当たりのあいづちの回数.....	264
8.4.2.1	中国人女性会話の時間当たりのあいづちの回数.....	264
8.4.2.2	中国人男性会話の時間当たりのあいづちの回数.....	265
8.5	中国人会話におけるあいづちの使用状況.....	266
8.5.1	中国人女性初対面会話におけるあいづちの使用状況.....	266
8.5.2	中国人女性友人会話におけるあいづちの使用状況.....	268
8.5.3	中国人男性初対面会話におけるあいづちの使用状況.....	269
8.5.4	中国人男性友人会話におけるあいづちの使用状況.....	271
8.6	まとめ.....	273
第九章	総合的考察（親疎関係によるポライトネスの日中対照）.....	274
9.1	日本人会話のスピーチレベルと中国人会話の語彙の丁寧度の共通点について.....	274
9.1.1	日本人会話のスピーチレベルについて.....	274
9.1.1.1	文中のスピーチレベルの結果.....	274
9.1.1.2	文末のスピーチレベルの結果.....	276
9.1.2	中国人会話の語彙の丁寧度について.....	279
9.1.3	日中の語彙の丁寧度の共通点に関する考察.....	281
9.2	日本人会話と中国人会話の話題導入の仕方の共通点.....	281
9.2.1	日本人会話の話題導入の仕方について.....	282
9.2.2	中国人会話の話題導入の仕方について.....	282
9.2.3	日中の話題導入の仕方の共通点に関する考察.....	284
9.3	日本人会話と中国人会話のあいづちの使用状況の共通点.....	285

9.3.1	日本人会話のあいづちの使用状況について .....	285
9.3.2	中国人会話のあいづちの使用状況について .....	287
9.3.3	日中のあいづちの使用状況の共通点に関する考察 .....	289
第十章	おわりに（DP理論の有効性と今後の課題） .....	290
10.1	日本人会話のスピーチレベルと DP 理論 .....	290
10.2	中国人の語彙の丁寧度と DP 理論 .....	291
10.3	日中の話題導入の仕方と DP 理論 .....	292
10.4	日中のあいづちの使用状況と DP 理論 .....	294
10.5	本研究と DP 理論の鍵概念との関連性 .....	295
10.6	今後の課題 .....	300
	謝辞 .....	301
	日本語参考文献 .....	302
	英語、中国語参考文献 .....	308

## 第一章 はじめに

### 1.1 研究背景および本研究の分析視点

我々の日常生活の会話を振り返ってみると、人々は常に相手との関係を考えながら、コミュニケーションを図っていることに気づくであろう。どのような言葉遣いをするのかという言語上の問題、どのような話題が選択され、会話を進めていくのかという会話展開上の問題、相手の話した内容にどのようなあいづちを打っているのかという相互作用の問題など、多様な配慮が行われている。初対面の相手と親しい友人と会話をする場合において、同じようにコミュニケーションをしているとはいえない。つまり、親疎関係の異なる相手によって配慮が違っているのである。一体どのような違いがあるのかという疑問を抱えながらこの研究を始めた。

本研究はBrown&Levinson(以下はB&Lと略称する)(1987)のポライトネス理論を出発点としている。しかし、そこでは文レベル、発話行為レベルにおける言語形式の丁寧度だけの問題として捉えているため、構造の違う言語の比較がしにくい、敬語のある言語における方略的な言語使用や敬語のない言語における社会言語学的規範や慣習に則った言語使用が十分考慮されていないなどの問題点が指摘されている(宇佐美2002)。さらに、宇佐美(2001b、2002)は、より普遍的なポライトネス理論として「ディスコース・ポライトネス理論(以下はDP理論と略称する)」という捉え方を導入することの重要性を述べている。そこで、本研究では、敬語を有する言語である日本語と日本語のような敬語体系のない言語である中国語とのポライトネスを同じ枠組みで比較・検討することによって、ポライトネス理論とDP理論の有効性を実証的に検証したい。

今までのポライトネスの研究は主にフェイス侵害度の軽減行為としての有標ポライトネスについてのものである(鄭2011の誘い行動、時2014の「断り」行為、鄭2015の謝罪談話など)。「守られていて当たり前」の言語行動の状態(宇佐美2002)、つまり無標ポライトネスについての研究はまだ少ないようである。そこで、本研究では無標ポライトネスに焦点をあててその基本状態を同定することを目指す。宇佐美(2001a)は「各々の言語文化における代表的な活動の型のディスコース・ポライトネスを構成する主要の要素(スピーチレベル、話題導入頻度、あいづちの頻度、その他)が何であるかを明らかにしていく必要がある」と指摘している。そこで、本研究では①日本人会話のスピーチレベルと中国人会話の語彙の丁寧度②日中の話題導入の仕方③日中のあいづちの使用状況という3つの観点から分析を始めたい。

また、宇佐美(2008)ではポライトネスを文レベルと談話レベルという2つのタイプに分けている。Usami(1999)での研究結果は文レベルを中心としているBrown&Levinson(1987)のポライトネス理論では説明できない。一方、談話レベルから分析すれば、宇佐美(1998、2001ab、2002等)のDP理論で解釈できる。したがって、本研究での語彙の丁寧度の分析は文レベルで行い、話題導入とあいづちは談話レベルでの分析となっている。つまり、文レベルと談

話レベルという二つの側面から研究を進めていく。

「日本語は、文末に丁寧体を使用するか普通体を使用するかという判断に端的に見られるように、常に相手との関係や場面に応じてスピーチレベルを選択しつつコミュニケーションする言語である」(三牧 2013)。このスピーチレベルにどのような基本的なルールがあるのかについて研究する必要がある。日本人大学生は、初対面会話の場合、スピーチレベルの基本状態は敬体(です・ます体)である(陳 2003)。一方、友人同士の会話の場合、スピーチレベルの基本状態は常体(だ体)である(宮武 2007)。このように、日本人の言語行動は、相手との関係(親疎関係)によって異なるのである。

中国語の場合は、日本語と異なり常体と敬体の区別がない。しかし、初対面の場合と友人同士の場合における言語使用が全く同じとは言えない。李健(2003)は、中国人のポライトネス・ストラテジーの使用に一番大きく影響を与える要因として、日本語と同じく話者の親疎関係が挙げられることを指摘している。

そこで、本研究では日本語と中国語の親疎関係の異なる会話データ(初対面の会話と友人同士の会話)を収集し、それぞれの基本状態を同定し、さらにその基本状態から離脱する言語行動に焦点を当てて分析を進める。

さらに、宇佐美(2001a:32)では「ディスコース・ポライトネスを構成する要素は言語形式としてのスピーチレベルだけでなく、適切なあいづちの打ち方や頻度、話題導入の頻度、発話連鎖のパターンなどの談話行動も含んでいる」と繰り返し強調した。ディスコース・ポライトネス理論に基づいて研究するには、話題導入の仕方(頻度、展開パターンなど)、あいづちの使用状況などを研究の対象とする必要があると思われる。

また、李宇霞(2008)では初対面会話の話題選択、李宇霞(2009)では初対面会話の話題導入の仕方、李宇霞(2012)では初対面会話の話題展開パターンについて研究してきた。ただし、研究対象は中国人学習者同士の会話である。日本人ネイティブではどのような話題が選択され、どのように話題を導入し、展開していくのかはまだ解明されていない。また、友人同士会話と初対面会話のような親疎関係の異なる会話における違いはどうなるのかさらに研究する必要がある。

新しい話題を導入することは、相手からターンを取ることを考慮すると、一般的な発話と比べて、フェイス侵害度がより高い言語行動であると思われる。Brown&Levinson(1987)は、フェイス侵害度の向上に伴い、よりポライトなストラテジーが必要となることを指摘している。そのポライトなストラテジーとして、話題導入の仕方が挙げられる。従って、新しい話題導入を論じるにあたっては、話題導入の仕方を視野に入れて分析する必要があると考えられる。

人間関係の第一歩といわれている初対面においてどのように話題を導入するのか、またどのような流れで会話を進めるかが、対人関係において大切な役割を果たしている。三牧(2013)で指摘されたように、「親密な相手との会話と異なり、初対面会話ではこのように話題が途切れて気まづくなる事態を招かないよう、双方協力する傾向が強い。相手情報を

質問する場合はもちろん、自己情報を自発的に話題化する場合（三牧1999）も、話題導入する行為そのものが、B&Lがポジティブポライトネス・ストラテジーとして挙げている『自分と相手が協力的であること』となる」。要するに、円滑なコミュニケーションを維持するために話題導入の重要性が際立っている。そこで、その基本状態を同定する必要があると思われる。

また、友人同士の会話だからといって何でも話せるというわけではない。例1のライン番号3のように「出て行け」という罵り言葉を使用することで、相手に失礼だと感じさせてしまう恐れがある。そこで、友人同士の話題導入の基本状態を同定した上で、そこから離脱する言語行動を抜き出して、相対的なポライトネスの観点から、その発話効果を分析する必要があると思われる。

#### 例1

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
1	1	*	CWB02	开始啦<笑>。 (始めよう<笑い>。)
2	2	*	CWB02	哎,「CWF02 姓名」<边笑边说>你知道<笑>[拍手声]。 (ねえ,「CWF02 の姓名」さん<笑いながら>知っているの<笑い>[拍手]。)
3	3	*	CWB02	<b>你滚</b> , 这熟‘shou2’人就是跟这生人不一样。 ( <b>あんた出て行け</b> 。友達との会話はやっぱり全く知らない人と違うよね。)

黒崎(1998)では「日本語の会話にはあいづちを求めつつ、会話を進めるという特徴が内在しており、聞き手がその求めに積極的に応えることが、会話を進展させていく原動力となっている」と指摘している。あいづちは円滑なコミュニケーションを維持するために重要な役割を果たしているといえよう。したがって、対人関係におけるポライトネスの重要な要素の一つとして、あいづちの頻度という無標ポライトネスの基本状態を同定する必要がある。

あいづちは、聞き手から話し手に対して送るコミュニケーションの手段の一つであり、様々な言語に見られるが、使い方は言語及び文化によって違いがあるとMaynard(1989)、White(1989)で言われている。中国語のあいづちは日本語のあいづちより、表現形式の種類も少なく、出現頻度も低いと指摘されている(劉1987、水野1988、劉2012など)。李宇霞・張志剛(2017)では親疎関係の異なる条件統制された中国語と日本語の準自然会話のデータに基づいてあいづちの違いについて研究がなされた。しかし、研究対象は全て女性に限

定されており、男性の会話データについての研究はまだされていないようである。女性のみならず、男性を含む会話データにおいては具体的にどのような種類のあいづちが使用されるのか研究する必要があると思われる。

## 1.2 本研究の目的と章立て

Brown&Levinson(1987)のポライトネス理論によると、FTAの負担度を計算する公式は、次のとおりである。

$$W_x = D(S, H) + P(H, S) + R_x$$

W<sub>x</sub>: フェイス侵害度 (FT 度)      S: 話し手      H: 聞き手

D: 話し手と聞き手の社会的な距離 (social distance)

P: 聞き手の話し手に対する力 (power)

R<sub>x</sub>: 特定の文化において、ある行為 (x) が聞き手にかける負担の度合い  
(absolute ranking of imposition in the particular culture)

本研究は、P「力関係」とR<sub>x</sub>「相手にかかる負荷度」が一定の場合、D「社会的距離」(話者の親疎関係を指標とする)を変数としている。つまり、親疎関係が日本人と中国人の言語行動にどのような影響を与えるのか考察することを研究目的とする。具体的には、①日本人会話のスピーチレベルと中国人会話の語彙の丁寧度②日中の話題導入の仕方③日中のあいづちの使用状況という3つの観点から分析していく。

本研究では日本人と中国人の親疎関係の異なる会話を研究対象として、文レベルから談話レベルまで、それぞれのポライトネスの在り方を実際の会話データに基づき考察するのである。本研究は十章より構成しており、以下に各章の概要を記述する。

第一章では、研究背景、本研究の分析視点、および構成を紹介する。

第二章では、ポライトネス理論の流れを踏まえながら、本研究の理論的な枠組みについて説明する。

第三章では、研究目的、研究設問、実験手順という本研究の立場を明らかにする。宇佐美(2008b)の「総合的会話分析」という実証的な研究方法に基づき、条件統制された日本人と中国人の会話データの収集方法について述べる。

第四章から第五章までは「どのように話すか」に注目し、日本人会話のスピーチレベルと中国人会話の語彙の丁寧度について分析する。具体的に第四章では尊敬語、謙譲語などが含まれるかどうか、話者自身の言葉遣いの特徴の指標となる(宇佐美 2001)日本人会話の文中スピーチレベルと、対話相手への配慮、心的距離の調節、待遇の指標となる(宇佐美 2001)日本人会話の文末スピーチレベルについて分析する。第五章では、中国人会話の語彙の丁寧度について詳述する。

第六章から第七章までは「どのような流れで会話を進めるのか」に焦点を当てて考察する。具体的に第六章では、日本人と中国人初対面会話における典型的な話題展開パターンについて分析する。第七章では話題導入の仕方について詳述する。

ここまでの分析は話し手を中心として進めてくるが、第八章では、聞き手に注目して、あいづちの使用状況を考察する。

第九章では、研究設問に答える形で、節ごとに①日本人会話のスピーチレベルと中国人会話の語彙の丁寧度②日中の話題導入の仕方③日中のあいづちの使用状況という3つの観点から、親疎関係によるポライトネスの日中対照研究の共通点をまとめる。

第十章では、本研究と宇佐美（1998、2001ab、2002 等）のDP理論との関連性を述べた上で、今後の研究課題を挙げる。



## 第二章 先行研究と本研究の理論的枠組み

### 2.1 ポライトネス研究の流れ

ポライトネス研究は、1970年代に Lakoff(1973)の論文に端を発し、その後、文化人類学、社会学、語用論などの分野でも注目を集めている。代表的研究として Lakoff(1973)、Leech(1983)、B&L(1987)など挙げられる。それらの研究に共通していることは、ポライトネスを世界のどの言語においても存在する言語使用ルールの一つと考え、普遍的原理の追究を目的に理論を提唱したことである。しかし、まだ実際の会話データで証明されていないようである。そこで、本研究は実際の日本人と中国人の会話データを収集し、その理論の普遍性を実証的に証明しようと考えている。

この章では、ポライトネスに関する研究として代表的なものを概観する。まずポライトネスを言語学に最初に導入した Lakoff のポライトネス理論を挙げ、次に Grice の協調の原則を応用した Leech の丁寧さの原理、さらに本研究の理論的な枠組みであるポライトネス研究の中心に位置する B&L、それを発展させる談話レベルでポライトネスを捉える宇佐美の DP 理論を紹介する。

#### 2.1.1 Lakoff のポライトネス理論

「ポライトネスの母」と呼ばれる Lakoff は女性言葉から言語使用におけるポライトネスの概念を提示し、人々の言語行動の研究に「ポライトネス」の枠組みを導入した。Lakoff(1973)は「語用論的能力の原則」として、次の二つのことを提唱した。

①明確に述べること：誤解が生じないように明確に伝達することが重視されている。

②ポライトに述べること：会話の参加者同士の人間関係に重点をおくことで、明快に述べることよりポライトに述べる。

さらに、Lakoff(1973:297)は「語用論的能力の原則」の下位原則として、相互言語行為の基本的ルールを以下の3つの「ポライトネスの原則」に集約した。

①強要しない(Don't impose) ・避ける(例:相手に負担のかかることを言わない) ・許可を求める(例:依頼する) ・謝る(例:詫びから始める)

②選択肢を与える(Give options) ・自分の要求や意見を判断しない(例:ぼかし表現を使う) ・相手が断れるようにする(例:否定疑問文を使う)

③相手の気分を良くし、親しみをもって接する(Make the hearer feel good) ・親密さを表す(例:遠慮しない、直接聞く、冗談、からかいなど)

Lakoff は語用論的能力の原則の二つが衝突する場合に、「明確さ」より相手の気持ちを害さないことが会話では重要であるため、多くの場合、「ポライトネス」が優先されるという。

それぞれのルールを守る上で必要なストラテジーとして、以下の3つを付け加えた。

①形式尊重(Rule of formality):相手との距離を保て(Keep aloof)

— 話し手の社会的地位が聞き手より高い場合に多い。

②敬意(Rule of deference):選択の自由を与えよ(Give options)

— 聞き手の地位のほうが高いということを伝える機能がある。一般に言葉や行為を控えめにすることで実現される。

③仲間意識(Rule of camaraderie):共感を示せ(Show sympathy)

— フレンドリーに接したい、興味を持っていることなどを相手に感じさせることが目的。また、この3つのルールは各言語によってその比重は異なっているが、普遍的なものであると述べている。

Lakoff(1973)の観点はのちに出てくるBrown&Levinson(1987)のポライトネス理論と共通するところがあると思われる。

### 2.1.2 Leechの丁寧さの原理

Grice(1975)は、コミュニケーションにおいてはその双方が文化的背景の如何にかかわらず、会話を順調に進めていくために、会話の双方は会話の中で「協調の原則」を守っていると指摘した。この理論は後に発展したポライトネス理論、関連性理論の基礎となったと考えられる。この「協調の原則」は具体的に「量」「質」「関係」「様態」という四つの公理によって構成される。「量の公理」は、目的に応じてできるかぎりの情報を過不足なく相手に提供するようにというもので、「質の公理」は偽りであること、十分な根拠のないことは言わないようにというものである。「関連性の公理」は、関連のあるものにせよというもので、「様態の公理」は簡潔で順序よく述べるようにというものである。Grice(1975)によると、会話というものは、単に言葉のやり取りだけでなく行為のやり取りも含むという。会話に参加する人それぞれが、ある特定の会話における共通の目的を理解していれば、その目的達成の方法はおのずと分かるので会話は成立する。どの会話においても、その中には特定のルールが存在し、話し手と聞き手がその行動ルールに従うとき、会話はスムーズに進められる。会話において最優先されるのは「協調の原則」であるとしている。

一方、LeechはGrice(1975)の「協調の原則」だけでは人々はなぜ意図的に公理に違反することで言外の意味を伝えるのか、その動機について説明できないということを指摘した。それを補う原則として、いかに社会的均衡、他人との友好的な関係を維持するかも人間のコミュニケーションの目指す重要な目標の一つと主張し、言語のこの対人関係的機能を「丁寧さの原理」によって記述した。

「丁寧さの原理」:

- (a) 礼儀に適うとは言えないような信念を表す表現を最小限にせよ
- (b) 礼儀に適う信念を表す表現を最大限にせよ

(Leech 1983: 81)

その下位原則としてLeech(1983)は次のような6つの原則を設けた。

#### 1. 気配りの原則(Tact Maxim)

- (a) 他者に対する負担を最小限にせよ

- (b) 他者に対する利益を最大限にせよ
- 2. 寛大性の原則 (Generosity Maxim)
  - (a) 自己に対する利益を最小限にせよ
  - (b) 自己に対する負担を最大限にせよ
- 3. 是認の原則 (Approbation Maxim)
  - (a) 他者の非難を最小限にせよ
  - (b) 他者の賞賛を最大限にせよ
- 4. 謙遜の原則 (Modesty Maxim)
  - (a) 自己の賞賛を最小限にせよ
  - (b) 自己の非難を最大限にせよ
- 5. 合意の原則 (Agreement Maxim)
  - (a) 自分と他者との意見の相違を最小限にせよ
  - (b) 自分と他者との合意を最大限にせよ
- 6. 共感の原則 (Sympathy Maxim)
  - (a) 自分と他者との反感を最小限にせよ
  - (b) 自分と他者との共感を最大限にせよ

(Leech 1983: 190-191)

Leech(1983)は丁寧さの原理は各原則が語用論的尺度(負担・利益・選択性・間接性・社会的距離・力など)に参照されて決定されるという。

## 2.2 理論的枠組み

ポライトネスの問題を単に言語上の問題としてではなく、人間の社会的な相互行為という文脈の中で考察したのはゴフマン (Erving Goffman) である。

また、ブラウンとレビンソン (Penelope Brown and Stephen Levinson) は、デュルケーム (Emile Durkheim) の積極的・消極的儀式という概念を敬意に応用し、相手に対する共感・好意・関心を示す「ポジティブ・ポライトネス」と、相手をいたわり、相手の負担を軽減しようとする「ネガティブ・ポライトネス」とを区別した。

この節では、本研究の理論的な根拠となるBrown & Levinson (1987) のポライトネス理論と宇佐美 (1998、2001ab、2002 等) のディスコース・ポライトネス理論の枠組みについて紹介する。

### 2.2.1 Brown & Levinson (1987) のポライトネス理論

Brown&Levinson(1987)のポライトネス理論は、これまでのポライトネスに関する理論において最も影響力を持つものである。この理論は、Goffman (1967) のフェイスの概念を採用して、すべての人が共有している基本的欲求である「フェイス」の概念を仮定し、相手のフェイスを侵害しないために取られる方略としてポライトネスを扱った。このポライト

ネスの概念は「フェイス」、「フェイス侵害行為」、「フェイス侵害行為をする際のストラテジー」、「ストラテジーの選択に関わる要因」の4つの要素から説明されている。この4つについて以下で説明する。

ゴフマン (1955 : 213) によると、フェイスとは「ある出会いの最中に、ある人が採っている (と他者たちが思った) 態勢によって、自分のために効果的に主張することのできる、社会的に価値ある物 (事) である。フェイスは認められた社会的属性によって描かれる自己のイメージである」と定義している。一方、Ho (1976:883) では「フェイスとは、社会のネットワークの中である人が占める相対的地位と、その地位で満足に役割を果たしていると判断される度合いと、一般的な品行方正の故に、彼 (女) が自分のために他者から要求することができる尊敬や恭順である」と指摘した。本研究ではBrown&Levinson (1987) のフェイスの概念を採用し、「フェイス」は、すべての人が共有している基本的欲求を仮定した概念である。この「フェイス」は、他人から称賛、理解、賛同されたいという「ポジティブ・フェイス」と、称賛されないまでも、少なくとも立ち入ってほしくない、邪魔されたくないという「ネガティブ・フェイス」の二種類があるとされている。

「フェイス侵害行為 (以下FTAと称す)」は、上記のように仮定された「フェイス」を侵害する行為のことで、ある種の行為 (依頼等) は本来フェイスを侵害するものであることが指摘されている。FTAは、どのようなフェイスが侵害されるのかという観点からの分類、話し手と聞き手のどちらのフェイスが侵害されるのかという観点からの分類が可能である。

「フェイス侵害行為をする際のストラテジー」では、FTAが行われる場合にどのようなストラテジーを取る可能性があるかを説明している。ここでは、「フェイス侵害行為を行わない」、「ポジティブ・ポライトネス」、「ネガティブ・ポライトネス」、「オフ・レコード」、「FTAを行わない」の5通りのストラテジーがあることが示されている。

「ストラテジーの選択に関わる要因」では、それぞれのストラテジーによって得られる利益、社会言語学的な3つの変数「社会的距離 (D)」、「力関係 (P)」、「相手にかかる負荷度 (R)」とその3つの変数から計算されるFTAの負担度が説明されている。FTAの負担度を計算する公式は、次のとおりである。

$$W_x = D(S, H) + P(H, S) + R_x$$

W<sub>x</sub>: フェイス侵害度 (FT 度)      S: 話し手      H: 聞き手

D: 話し手と聞き手の社会的な距離 (social distance)

P: 聞き手の話し手に対する力 (power)

R<sub>x</sub>: 特定の文化において、ある行為 (x) が聞き手にかかる負担の度合い  
(absolute ranking of imposition in the particular culture)

ポライトネス・ストラテジーは、「話し手と聞き手の社会的な距離 (D)」、「聞き手の話し手に対する力 (P)」、「特定の文化において、ある行為 x が聞き手にかかる負担の度

合い(R)」の総和によって見積もられたフェイス侵害度の大きさに応じて使い分けられる。話し手によって見積もられたフェイス侵害度が大きければ大きいほど、よりポライトなストラテジーが必要になる。

Brown&Levinson (1987) のポライトネス理論の最大の特徴は次の2点である。

- ・ 「フェイス」を操作的定義によって仮定し、それを補償する行為としてポライトネスを包括的に捉えたこと。
- ・ また、FTAの負担度の公式が社会的・文化的要因を変数として含んでいるために、すべての文化におけるポライトネスについて捉えることを可能にしたこと。

また、B&L の日本語版(2011)に掲載された B&L の「日本語版出版によせて」には、ポライトネス・モデルを最初に構想してから、40 年近く経過したことをふまえ、ポライトネスの普遍性に関する議論に言及し、「総体としてのポライトネスは個々の語や文体に備わっているのではなく」、「状況の中で発せられる言葉によって、ポライトな態度や意図を首尾よく伝えることによって伝達される可能性を持つある推論なのである」ことにより、「世界中の様々な言語・文化の中に観察されるポライトな語法に関する共通性を説明できる」(2011: vii)と、改めてポライトネスの普遍性に関する見解を述べている。さらに、ポライトネスの意義は、「言語選択の規則的パターンによって、人間が相互に社会的関係を築くという事実にあるのだ。ゆえに、この分野における研究は、文化の壁を超えて伝え合うことのできる人間共通の性質および能力、そして、時に誤解を生じさせる文化的相違を考慮に入れた、社会的相互作用に関する理論に基づく必要があると考えられる」(2011: vii-viii)と指摘した。そこで、本研究はポライトネスの普遍性を証明するために、日本人と中国人の自然会話を録音し、会話の相互作用における共通性を見出すことを目指す。

## 2.2.2 宇佐美 (1998、2001ab、2002 等) のディスコース・ポライトネス理論

宇佐美 (1998、2001ab、2002 等) は、Brown & Levinson (1987) の基本的な枠組みを支持したうえで、ポライトネスを談話レベルで捉えることを主張し、「ディスコース・ポライトネス (Discourse Politeness) 理論」を提唱している。(以下、DP 理論と略記) DP理論には7つの鍵概念がある。(1) ディスコース・ポライトネス (2) 基本状態 (3) 有標ポライトネスと無標ポライトネス (4) 有標行動と無標行動 (5) ポライトネス効果 (6) 見積もり差と行動の適切性、ポライトネス効果の関係 (7) 相対的ポライトネスと絶対的ポライトネス、の7つである。以下、それぞれの概念について宇佐美 (2008a、2008b) に基づき、簡単に紹介する。

### 2.2.2.1 「ディスコース・ポライトネス (discourse politeness)」

「ディスコース・ポライトネス」とは、一文レベル、一発話行為レベルでは捉えることのできない、より長い談話レベルにおける要素、及び、文レベルの要素も含めた諸要素が、語用論的ポライトネスに果たす機能のダイナミクスの総体であると定義されている (宇佐

美2001, 2002; Usami, 2002)

#### 2.2.2.2 「基本状態 (default)」

「基本状態」はDP理論の最も重要な点の一つである。特定の談話の「基本状態」は、ポライトネス効果を相対的に捉えるために同定する必要があるものである。この「基本状態」を「媒介変数 (parameter)」として扱うことによって、「ポライトネス効果を相対的に捉える」ということが、より具体化されて理論に組み込まれた。(宇佐美, 2008a:160)「基本状態」には、以下の2種類がある。

- ・特定の「活動の型」における談話の「失礼のない典型的な状態」
- ・その談話の基本状態を構成する要素としての「特定の言語行動や言語項目それぞれの典型的な状態」

そして、「基本状態」として捉えるものとして、数多くの同じ活動の型の「失礼のない状態の談話」における「主要な言語行動の平均的な構成比率 (分布)」、「各々の要素の平均的な生起率」、「典型的な談話展開パターン」といったものが挙げられている。

#### 2.2.2.3 「有標ポライトネス (marked politeness)」と「無標ポライトネス (unmarked politeness)」

Brown & Levinson (1987) のポライトネス理論では依頼行為などのように、相手のフェイスを脅かす「フェイス侵害行為」を行わざるを得ないときに、「相手のフェイス侵害度を少しでも軽減するためにとるストラテジー」としてポライトネスが捉えられていると位置づけている。しかし、我々の日常生活には、「フェイス侵害度行為」にかかわらないタイプのポライトネスもある。それは、「特定の状況で、あつて当たり前で、それが現れないときに初めてそれがないことが意識され、ポライトではないと捉えられる」という類のものである。

DP理論ではこの両者を区別し、前者のような「フェイス侵害度の軽減行為」としてのポライトネスを「有標ポライトネス」と呼び、後者のようなタイプのポライトネスを「無標ポライトネス」と呼ぶ。(2) で述べられている談話の「基本状態」は、「ポライトネス」の観点からは、「無標ポライトネス (相手のフェイスを侵害しない状態)」であると捉えることができる。

#### 2.2.2.4 有標行動 (marked behavior) と無標行動 (unmarked behavior)

2.2.2.3で述べられている「有標ポライトネス」と「無標ポライトネス」は、ポライトネスの観点から見た状態であり、談話の「基本状態」は「無標ポライトネス」である。そして、談話の「基本状態」を構成する要素としての言語行動を「無標行動」、各々の要素の基本状態から離脱する言語行動、或いは、基本状態とは異なる談話レベルから見た一連の行動を、「有標行動」と呼ぶ。

### 2.2.2.5 ポライトネス効果 (politeness effect)

2.2.2.2や2.2.2.4で述べられているように、談話の基本状態を構成する要素の何かが欠けたり、バランスが崩れたりした場合は、それが意識され、ポライトネスの観点から何らかの効果が生まれると考えられる。DP 理論において、この「ポライトネス効果」とは、「談話の基本状態や話し手の言語行動、選択されたストラテジーに対する話し手と聞き手の『見積もり差 (Discrepancy in estimations: De値)』によって引き起こされる聞き手側からの認知を表わしている。ポライトネス効果には、①プラス効果、②ニュートラル効果、③マイナス効果の3つがあるとされる。プラス効果、マイナス効果は、「心地よい」という効果、「不愉快」な効果と言い換えることができる。「ニュートラル」な効果とは、ポライトネス効果の観点からは、特に心地よいというわけでもなく不愉快でもないということである。

### 2.2.2.6 「見積もり差 (Discrepancy in estimations:De 値)」と「行動の適切性 (appropriateness of behavior)」、「ポライトネス効果 (politeness effect)」の関係

「見積もり差 (De値)」は、もちろん、絶対的な数値として算出できるわけではないが、以下の図1に示すように、0を挟む-1から+1までの一つの連続線上に分布すると仮定することによって、体系的に捉えることができるとされている。

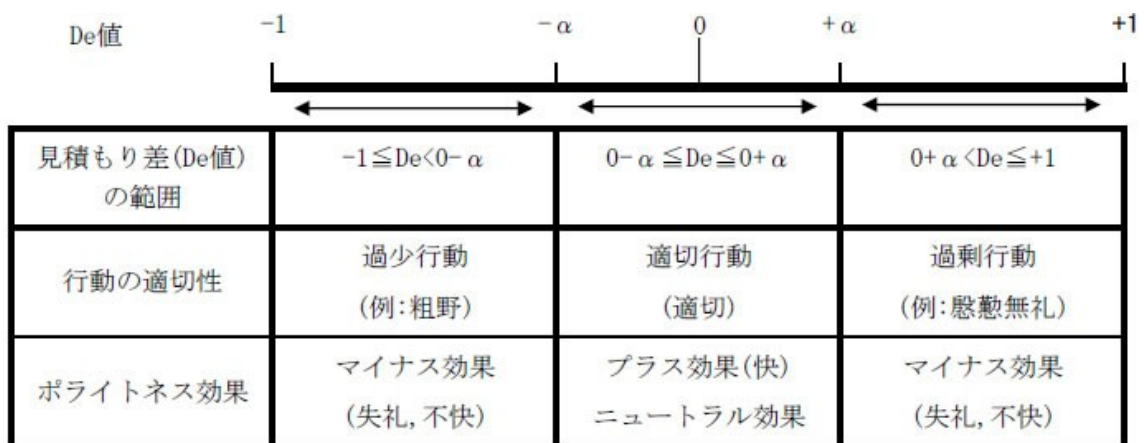


図1 「見積もり差 (De 値)」、「行動の適切性」、「ポライトネス効果」(宇佐美, 2008a:162)

見積もり差 (Discrepancy in estimations: De 値) :  $De = Se - He$

Se : 話し手 (Speaker) の「見積もり (estimation)」(以下の\*を参照)。仮に、0から1の間の数値で表すものとする。

He : 聞き手 (Hearer) の「見積もり (estimation)」。仮に、0から1の間の数値で表すものとする。

$\alpha$  : 許容できるずれ幅

\* 「見積もり (estimation)」には、以下の3種がある。

- ① 「ある有標行動のフェイス侵害度」の見積もり
- ② 「談話の基本状態」が何であるかについての見積もり
- ③ 「フェイス侵害度に応じて選択されたポライトネス・ストラテジー」についての見積もり

「行動の適切性」の観点からは、見積もり差とポライトネス効果の関係は以下のようにまとめられる。

- ・話し手と聞き手の「見積もり差」が、0 か、「許容できるずれ幅 ( $\pm\alpha$ )」の範囲内に収まる行動は、「適切行動」とみなされ、不快感をもたらさない。ポライトネス効果の観点からは、プラス効果を生むか、ニュートラル効果になる。
- ・話し手の見積もりが聞き手の見積もりよりも「許容できるずれ幅 ( $\alpha$ )」を超えて少ない場合は、「過少行動」となり、ポライトネス効果の観点からは、マイナス効果（失礼、不快）を生む。
- ・話し手の見積もりが、聞き手の見積もりよりも、許容できるずれ幅 ( $\alpha$ ) を超えて多い場合は「過剰行動」となり、ポライトネス効果の観点からは、マイナス効果（慇懃無礼、失礼、不快）を生む。

### 2.2.2.7 「相対的ポライトネス (relative politeness)」と「絶対的ポライトネス (absolute politeness)」

「絶対的ポライトネス」とは、「行く」より「いらっしゃる」のほうが丁寧度が高い、というような言語形式に焦点をあてた研究や、その他の条件が一定ならば直接的表現より間接的表現のほうがより丁寧であるというような捉え方である。しかし、現実には、「敬語」の使用がかえって皮肉やいやみになるということも起こる。これに対し、「相対的ポライトネス」とは、以下のような捉え方を行う。

つまり、実質的に「ポライトネスの効果」を生み出すのは、「言語形式」それ自体の丁寧度ではなく、ある特定の「談話」の「基本状態」からの離脱や回帰という言語行動の「動き」や、特定の場面においてどのような言語行動が適切であると考えているかという「基本状態」、「当該の言語行動や談話行動の有標性の度合い」、及び「フェイス侵害度に応じて選択されたポライトネス・ストラテジー」の話し手と聞き手の「見積もり差 (ずれ)」から生まれるということが分かる。これが、「相対的ポライトネス」という捉え方である。宇佐美 (2008a:164)

見積もり差とポライトネス効果、および「相対的ポライトネス」という捉え方により、DP理論は、「円滑な人間関係を確立・維持するための言語行動としてのポライトネスだけではなく、『失礼』『無礼』『慇懃無礼』といった行動も、マイナス・ポライトネスとして、同一の枠組みで捉える」ものとなっている。



今まで宇佐美（1998、2001ab、2002 等）の DP 理論を用いた研究が数多く現れてきた（謝韞 2005、李恩美 2008、李宇霞 2008、2009、2012、2014、母育新・鄧永玮 2010、鄭榮美 2011、吳少華 2012、母育新 2014、时晓阳 2014、王榮 2015、鄭賢兒 2015、張若楠 2016、馬浦珍 2016、李瑤 2016、野村琴菜 2017、張瀟尹・熊紅芝 2017、李宇霞・張志剛 2017、劉恋 2017、宋敏 2017 など）。その中では文学作品における研究まで出てきた。吳少華（2012）は夏目漱石の『明暗』という作品の原稿で第一人称の「あたし」を「わたくし」に修正することを宇佐美（1998、2001ab、2002 等）の DP 理論で分析したものである。

一方、会話データを用いた研究では主にフェイス侵害度の軽減行為としての有標ポライトネスについてのものである。鄭榮美（2011）の誘い行動、时晓阳（2014）の「断り」行為、鄭賢兒（2015）の謝罪談話など挙げられる。「守られていて当たり前の言語行動の状態」（宇佐美 2002）、つまり無標ポライトネスについての研究はまだ少ないようである。本研究はその無標ポライトネスに焦点を当てて分析を進めていく。

### 第三章 本研究の立場

人々はどのような社会文化においても言語上の配慮が存在する。敬語を有する日本語とそうでない中国語は親疎関係の異なる場合、同じようなポライトネスを使用するとは限らない。この章では本研究の目的を述べたうえで、それを達成するための具体的な研究設問を設け、その問いを解くに最も適切な研究方法を紹介するのである。

#### 3.1 研究目的および研究設問

本研究は、Brown&Levinson(1987)のポライトネス理論に基づき、P「力関係」とRx「相手にかける負荷度」が一定の場合において、D「社会的距離」(親疎関係を指標とする)を変数としている。つまり、親疎関係(初対面会話と友人同士会話)が日本人と中国人の言語行動にどのような影響を与えるのか考察することを研究目的とした。

ポライトネスには日本語の敬語などに見られる定型的な表現のみでなく多様な言語行動が含まれる。本研究では宇佐美(2002)に従い、ポライトネスを「円滑な人間関係を確立・維持するための言語行動」と定義する。B&Lの日本語版(2011)に掲載されたB&Lの「日本語版出版によせて」には、「ポライトネス・モデルは元々、人々が発話を構築する際に、対話者の社会的ペルソナ、つまり『フェイス』への配慮を示す、その仕方に見られる言語の違いを超えた共通性の根底にある相互作用の原則を明らかにするための試みとして考案されたものである。」(2011: vi)と述べている。したがって、ポライトネス理論の普遍性を追求するため、本研究では次のような大きな研究設問を設けることにした。

I. 日本人の初対面会話と友人同士会話における円滑な人間関係を維持するための言語行動の基本状態はどのようなものか。

II. 中国人の初対面会話と友人同士会話における円滑な人間関係を維持するための言語行動の基本状態はどのようなものか。

III. 日本人と中国人の言語行動の共通点は何か。

その言語行動の指標として、①日本人会話のスピーチレベルと中国人会話の語彙の丁寧度②日中の話題導入の仕方③日中のあいづちの使用状況を取り上げ、さらに以下のような小さな研究設問を設ける。

設問1. 日本人の場合、初対面の会話と友人同士の会話とでは、スピーチレベルの基本状態において如何なる相違が認められるのか。

設問2. 中国人の場合、初対面の会話と友人同士の会話とでは、語彙の丁寧度の基本状態において如何なる相違が認められるのか。

設問3. 日本人と中国人は、それぞれ初対面の会話と友人同士の会話とでは、スピーチレベルの基本状態と語彙の丁寧度の基本状態において如何なる共通点が認められるのか。

設問4. 日本人の場合、初対面の会話と友人同士の会話とでは、話題導入の仕方において如何なる相違が認められるのか。

設問5. 中国人の場合、初対面の会話と友人同士の会話とでは、話題導入の仕方において如何なる相違が認められるのか。

設問6. 日本人と中国人は、それぞれ初対面の会話と友人同士の会話とでは、話題導入の仕方において如何なる共通点が認められるのか。

設問7. 日本人の場合、初対面の会話と友人同士の会話とでは、あいづちの使用状況において如何なる相違が認められるのか。

設問8. 中国人の場合、初対面の会話と友人同士の会話とでは、あいづちの使用状況において如何なる相違が認められるのか。

設問9. 日本人と中国人は、それぞれ初対面の会話と友人同士の会話とでは、あいづちの使用状況において如何なる共通点が認められるのか。

## 3.2 研究方法

### 3.2.1 総合的会話分析について

本研究では、宇佐美(2008b・2015)が提唱する「総合的会話分析」に従って分析を行う。「総合的会話分析」とは「社会の中に生きる人間を、会話という相互作用の分析を通して探求することを目的とするもので、会話自体の分析に加えて、年齢等の社会的要因も質問紙等で確認し、総合的に分析するという会話分析方法の一つである。方法論的には、『言語社会心理学的アプローチ』宇佐美(1999)とほぼ同様の手順を踏むが、分析の際に、『ローカル分析・グローバル分析』という観点が必要であることをより強調し、一連の方法と分析の観点すべてを含むものとして新たに命名したものである」。その特徴を、以下に簡単にまとめる。

- (1) 条件を統制してデータを収集する。
- (2) 「録音された会話」以外の分析も重視する。フェイス・シート、フォローアップ・アンケート(インタビュー)等で必ずインフォーマントの社会的属性や、会話自体に対する感想等も収集する。その際、自由記述欄を設けて参考にするが、基本的には、5段階評定法等を用いて、定量的処理が行える形でデータを収集する。
- (3) 定量的分析も可能な文字化資料を作成して分析を行う。定性的分析だけでなく、定量的分析もしやすい形で会話の分析資料を作成する。
- (4) 定性的分析をふまえてコーディングを行う。
- (5) 分析項目のコーディングの結果については、2人の評定者間の評定者間信頼性係数(Cohen's Kappa: 単純一致率から偶然一致する確率を差し引いたもの)を算出することによって、「信頼性」を確認、確保する。
- (6) 定性的分析によって、コーディングの「妥当性」の確認を行う。コーディングの過程で見落とされている特徴はないか等、定量的分析方法によって記号化、数値化した結果には表れにくい特徴を、必ず、定性的分析で確認・検討する。
- (7) 分析の際は、必ず、グローバルな観点からの分析によって全体的な傾向等を踏まえ

た上で、ローカルな観点からの分析を行う。

本研究では以上のような「総合的会話分析」の方法論を踏まえた研究を行い、親疎関係が日本人と中国人の言語行動にどのような影響を与えるのかを解明することを目指す。

### 3.2.2 協力者(被験者)

協力者の選定は 3.3.1 における「条件を統制してデータを収集する」という研究プロセスに基づいて行う。日本人女性会話データは日本の東京都内某私立大学で収集した。データを収集する場合、協力者に対して以下のように条件統制している。

- ① 出身地：関東地域
- ② 日常の使用言語：日本語の共通語（方言なし）
- ③ 海外滞在歴：1年以下
- ④ 学年：3年生
- ⑤ 専攻：中国語以外<sup>1</sup>

中国人の会話データは中国河北省にある某重点大学で収集した。データ収集する場合の条件統制は以下の通りである。

- ① 出身地：北方（「秦岭」(山)と「淮河」(川)より北の地域）
- ② 民族：漢民族
- ③ 日常の使用言語：中国語の共通語（普通話）
- ④ 海外滞在歴：なし
- ⑤ 学年：3年生
- ⑥ 専攻：日本語以外<sup>2</sup>

日本人ペアのベース協力者は女性6名とする。初対面同士及び友人同士の会話を20分ずつ行い、計12組の会話データを収集した。日本人女性会話<sup>3</sup>の具体的な組み合わせは以下の表1に示す通りである。

---

<sup>1</sup> 中国語学習が母語に影響を及ぼす可能性があることから、中国語専攻以外の日本人を研究対象としている。

<sup>2</sup> 日本語学習が母語に影響を及ぼす可能性があることから、日本語専攻以外の中国人を研究対象としている。

<sup>3</sup> データ収集条件の制限により日本人男性会話データは宇佐美まゆみ監修(2013)に収録されているものを使用することになった。データの概要は3.2.5で詳細を示す。

表1 日本人女性会話の組み合わせ

ベース協力者	会話相手
JWB <sup>4</sup> 1	(初対面) JWN <sup>5</sup> 1
	(友人) JWF <sup>6</sup> 1
JWB2	(初対面) JWN2
	(友人) JWF2
JWB3	(初対面) JWN3
	(友人) JWF3
JWB4	(初対面) JWN4
	(友人) JWF4
JWB5	(初対面) JWN5
	(友人) JWF5
JWB6	(初対面) JWN6
	(友人) JWF6

中国人ペアは男女6名ずつとし、24組の会話データを収集した。中国人女性会話の組み合わせは表2に示す通りである。中国人男性会話の組み合わせは表3に示す通りである。

表2 中国人女性会話の組み合わせ

ベース協力者	会話相手
CWB <sup>7</sup> 1	(初対面) CWN <sup>8</sup> 1
	(友人) CWF <sup>9</sup> 1
CWB2	(初対面) CWN2
	(友人) CWF2
CWB3	(初対面) CWN3
	(友人) CWF3
CWB4	(初対面) CWN4
	(友人) CWF4
CWB5	(初対面) CWN5
	(友人) CWF5
CWB6	(初対面) CWN6
	(友人) CWF6

<sup>4</sup>JWB : J (Japanese) 日本人、W (Woman) 女性、B (Base) ベース

<sup>5</sup>JWN : J (Japanese) 日本人、W (Woman) 女性、N (New friend) 初対面

<sup>6</sup>JWF : J (Japanese) 日本人、W (Woman) 女性、F (Friend) 友人

<sup>7</sup>CWB : C (Chinese) 中国人、W (Woman) 女性、B (Base) ベース

<sup>8</sup>CWN : C (Chinese) 中国人、W (Woman) 女性、N (New friend) 初対面

<sup>9</sup>CWF : C (Chinese) 中国人、W (Woman) 女性、F (Friend) 友人

表 3 中国人男性会話の組み合わせ

ベース協力者	会話相手
CMB <sup>10</sup> 1	(初対面) CMN <sup>11</sup> 1
	(友人) CMF <sup>12</sup> 1
CMB2	(初対面) CMN2
	(友人) CMF2
CMB3	(初対面) CMN3
	(友人) CMF3
CMB4	(初対面) CMN4
	(友人) CMF4
CMB5	(初対面) CMN5
	(友人) CMF5
CMB6	(初対面) CMN6
	(友人) CMF6

日本人ペアと中国人ペアを合わせて、総計 36 組 (720 分) のデータを収集した。

### 3.2.3 実験手順

まず、日本人のベース協力者と初対面会話相手の会話データを収集する。協力者に同意書にサインをしてもらい、フェイス・シートに記入してもらって、会話のデータを収集する。2名1組とし、教室において2人だけで20分間自由会話をしてもらい、それをICレコーダーに録音した。すべての協力者は、名前も含め、互いに相手についての情報を知らされていない。協力者には特に話題を与えず、なるべく自然に自由に会話するようにとの指示を行った。また、データの妥当性を検討するために会話終了後にフォローアップ・アンケートを行い、①相手の年齢についてどう認知したか ②相手が初対面の相手として話しやすかったか ③相手の言葉に失礼だと感じたことがあったか ④録音を意識せずに自然に話すことができたかなどについて五段階評価で評定してもらった。(宇佐美、1993、2001a 等の手順に準じる。)

初対面同士の会話が次の友人同士の会話に影響を与えないように、一週間の間をおき、同じ手順でベース協力者と友人の会話データ (20 分間) を取った。データの妥当性を検討するために会話終了後に同じくフォローアップ・アンケートを行い、石田(1998)を参考にして ①相手との関係の新密度についてどう認知したか (石田 1998 を参考) ②相手の言葉を失礼だと感じたことがあったか ③録音を意識せずに自然に話すことができたかなどについて五段階評価で評定してもらった。

<sup>10</sup>CMB : C (Chinese) 中国人、M (Man) 男性、B (Base) ベース

<sup>11</sup>CMN : C (Chinese) 中国人、M (Man) 男性、N (New friend) 初対面

<sup>12</sup>CMF : C (Chinese) 中国人、M (Man) 男性、F (Friend) 友人

その後、加藤(2008)を参考にしてフォローアップ・インタビューを実施した。構造的な質問を含む半構造化形式でベース協力者にインタビュー<sup>13</sup>をした。

中国人会話データは日本人会話データと同じようにまず初対面の会話(20分間)を録り、一週間後に友人同士の会話(20分間)を収集する。会話終了後にフォローアップ・アンケートを行い、会話の自然さ(自然に話せたかどうか)について五段階評価で評定してもらう。その後、加藤(2008)を参考にしてフォローアップ・インタビューを実施する。構造的な質問を含む半構造化形式<sup>14</sup>でベース協力者にインタビューをする。具体的なフォローアップ・インタビューの項目は以下の通りである。

会話の感想：初対面会話と友人会話の違い

- ① 選択された話題について：話しやすかった話題と失礼な話題
- ② 会話中の言葉遣いについて：  
日本人の場合：スピーチレベルについて  
中国人の場合：罵り言葉について
- ③ その他

### 3.2.4 文字化の方法

3.2.3の手順を踏まえて収集した日本人女性会話データは宇佐美(2011)「改訂版：基本的な文字化の原則(Basic Transcription System For Japanese : BTSJ)」に従って文字化した上で分析資料としている。

まず、発話文の認定については宇佐美(2011:2-4)にしたがって、以下のようにした。

BTSJでは、「実際の会話の中で発話された文」という意味で「発話文」という用語を用い、基本的な分析の単位とする。これは、日本語では、スピーチレベルの分析など、「文」単位でコーディングをする必要があるものがあるためである。

「発話文」の定義は、会話という相互作用の中における「文」とする。そして、以下のように認定する。基本的に、ひとりの話者による「文」を成していると捉えられるものを「1発話文」とする。しかし、自然会話では、いわゆる「1語文」や、述部が省略されているもの、あるいは、最後まで言い切られない「中途終了型発話」など、構造的に「文」が完結していない発話もある。そのような場合は、話者交替や間などを考慮した上で「1発話文」であるか否かを判断する。つまり、「発話文」の認定には、「話者交替」、「間」という2つの要素が重要になる。

たとえば、1語の発話(例1)、文末が省略された形で言い切られた発話(例2)、話者が自分で発話の最後まで言い切らず言いよどんだ発話(例3)や、第1話者の発話文が完結する前に、途中に挿入される形で、第2話者の発話が始まり、結果的に第1話者の発話が終了した発話(例4)などは、話者交替や間があった場合は、「1発話文」として扱う。いわゆるあ

<sup>13</sup> 協力者にインタビューをするというのはDP理論の話し手と聞き手の見積もりの差及び発話効果を測定するためである。

<sup>14</sup> 半構造化インタビュー：事前に大まかな質問事項を決めておき、回答者の答えによってさらに詳細に尋ねていく簡易な質的調査法である。

いづちや笑いも、話者交替や間などを考慮して「1発話文」であるか否か判断する(例5)。

また、構造的には「文」となっているが、独立した1発話文とはみなさない発話もある。例えば、何かを思い出そうとするときなどに用いられる「そうですねえ、歩くとですねー、12、3分かかります。」などのフィラーは、先行部・後続部とまとめて「1発話文」とする(例6)。直接引用を含む発話文も同様である(例7)。さらに、同一話者による「そうです、そうです、そうです」などのような繰り返しも、「そうです」のみで「文」となっているが、それらのあいだに間がなく、繰り返されたものがまとまったものとして捉えられる場合は、それらをまとめて1発話文とする(例8)。また、「行きますよ、学校に」のような発話は、「行きますよ」と「学校に」のあいだに間がない場合は、まとめて1発話文とみなす。この発話は、結果的に倒置の形となっている(例9)。「行きますよ」だけでも「文」とみなしうるが、途中で相手の発話が入って話者が一旦交替したため改行され、複数のラインに渡っている発話も、同一話者によって発せられた「文」を成していると捉えられるものは、複数のラインにまたがる発話をまとめて「1発話文」とする(例10を参照のこと)。

以下の各例において、見出しの説明が指す発話文を「→」で示す。説明が、「→」で指した発話文の中の一部を指す場合には、さらに該当する部分に波線を引いて示す(例6、7、9、13など)。また、以下の会話例では、話者はアルファベットの「A」「B」で示す。各例文には、BTSJ独自の記号がついているところがあるが、その説明は「記号凡例」を参照されたい。

例1 1語の発話文

- 1A あの一、わたしんとき、あのちょうど丙午‘ひのえうま’の世代なんですよ。  
→2B 丙午‘ひのえうま’？。  
→3A ええ。  
4B 丙午‘ひのえうま’って、結構20、20、あ30ぐらいの方でしたっけ。

例2 文末が省略された形で言い切られた発話文

- 1A えっ、タイはどうしてそういうふう。  
2B あのね、もともと日本語学科の卒業生なんですよ、(あっ)私。  
3A え、こちらの学校？。  
4B ええ、[大学名称]なんですけど、でー、もう社会人を何年かしてるんですけど。

例3 話者が自分で発話の最後まで言い切らず言い淀んだ発話文

- 1A あの一なんも面白いことがない(＜笑い＞)っていう…。  
2B どのあた、どのあたりですか？。

例4 第1話者の発話文が完結する前に、途中に挿入される形で、第2話者の発話が始まり、結果的に終了した発話文 (7Aの発話により6Bの発話が最後まで言い切れなかったことが8B以降の発話で分かる)

- 1A 彼女…今度ね、紹介してもらおうんだよね。



- 2B あ、まじで、何人目?、紹介してもらおうの。  
 3A 高校入ってから<笑い>3人目ほど。  
 4B <笑い>いい人は見つからない?。  
 5A 見つからないね[低い声で]。  
 →6B おれねー、中学んとき、<恋の>{<} Ⅱ。  
 →7A Ⅱ <早く>{<} 付き合いたいねー。  
 8B あ、まじで。  
 9B ほんとに?。  
 10B 付き合いたいと思ってんの?、おまえ。

例5 前後に間があり、1発話文とみなされるあいづちや笑い

- 1A まー、まー自分自身がもう、学校でたら、ねー、こういう学問の世界とは<笑い><笑いながら>ちょっと関係ない身分にあります(えーえー)ので、実用の世界にいる関係もありまして(あー)、なんかそういう研究をされ続けているというのは。  
 →2B ははは<笑い>。  
 3B 研究してるのかなー<笑い>という、ちょっとなんかのほほーんとやっておりますが。  
 4A いえいえいえ。  
 5B あれですか、どういった関係のお仕事ですか?。  
 6A あ、あの一会社自体はあの一食品を製造しているということで、ところで。  
 →7B へー。

例6 構造的には文になっているが、独立した1発話文とはみなさず、その先行部・後続部とまとめて1発話文とするもの：フィラーの場合(以下の波線部)

- 1A 不景気で(はい)なんか会社もなくて…。  
 2B あはーそうですか。  
 →3A 《沈黙 4 秒》あの、あれですよね、なんか社会人が、1年目っていうのはかなり厳しいもんがありませんでした?。  
 4B 社会人…、そうですね。  
 5A うん何年目も厳しかったけど… <笑いながら>。

例7 構造的には文になっているが、独立した1発話文とはみなさず、その先行部・後続部とまとめて1発話文とするもの：直接引用を含む発話文の場合(以下の波線部)

- 1A であと一字を見ると“「姓 1」さんですか”って、さい、大体最初(はい)聞かれて、で、“「姓 1」さんですか”、(はい)“「姓 2」さんですか”、(はい)で、中には“「姓 3」さんですか”、《少し間》[息を吸い込んで] “どれも違うんだけど” (うんうんうんうん)とかって思い。

例8 1発話文になりうる発話が間を入れずに繰り返されているために、それらをまとめて

### 1 発話文とみなすもの

- 1A かといって英語でしゃべろうとしても相手が英語できなかつたり(えー)すると。
- 2A だからちよつとー、ねー、せっかくなのにね(えー)コミュニケーションが(えー)図れないなど、いうこともあってね。
- 3B まーあれですよ、ね、一番上達するのってそういう場っていう話もね。
- 4A そうなんです、そうなんです、そうなんです。

### 例 9 発話が一息に続いているため、1 発話文と認められ、結果的に倒置の形になっているもの

- 1A わたしは、あの、給与関係してるので、計算ばっかりなんですよ、事務が。
- 2B あーあー。
- 3A だから、あまりこう文章書いたり作成したりするってことが(うーん)めったにないんで…。
- 4A 時たまあるんですよ、ね、そういうもの作ってくださいって。

### 例 10 話者が一旦交替しても、同一話者によって発せられた「1 発話文」とみなすもの (2-1 と 2-2 とで 1 つの発話文とみなす)

- 1 A もう、もろ駅前商店街。
- 2-1 B 北浦とか、もっと、それよりもっと、
- 3 A そうそうそうそう。
- 2-2 B 駅前。
- 4 A あの、「店名」とかの近くです。

次に改行の原則について宇佐美 (2011 : 4-5) にしたがって、以下のようにになっている。基本的には、話者が交替するたびに改行する。しかし、話者が交替しなくとも、同一話者が複数の「発話文」を続けて発するときには、「発話文」ごとに改行する(例 11)。

### 例 11 同一話者が複数の発話文を話す場合

- 1A いや、や、や、やっぱり天気の方がいいかな。
- 2B 天気の方がいいですね。
- 3B 断然天気の方がいいですね。
- 4B 洗濯物もよく乾くし。

1 発話文の途中で相手の発話が入った場合には、その途中の句末には英語式コンマ 2 つ「,,」をつけ、その発話文が終わっていないことをマークし、改行して相手の発話を記入する。この場合、例 12 で示すように、話者が交替しても同一話者によって発せられた、2-1 と 2-2 とで 1 つの発話文とみなす。

### 例 12 1 発話文の途中で相手の発話が入った場合

- 1A もう、もろ駅前商店街。

→2-1B 北浦とか、もっと、それよりもっと,,

3A そうそうそうそう。

→2-2B 駅前。

4A あの、「店名」とかの近くです。

また、笑いは、通常、〈笑い〉のように、〈 〉の中に入れて示すが、相手の発話に重なる短い小声の笑いあいづち「うん」等は、( )に入れて、相手の発話の中の最も近いと思われる場所に挿入する(例13)。

例13 改行しないあいづちや笑い(以下の波線部)

1A 僕自身は生まれも育ちも東京なんで,,

2B はいはいはい。

→3A あのーなんも面白いことがない(〈笑い〉)っていう…。

4B どのあた、どのあたりですか?。

→5A えーと生まれたのが文京区で(はいはい)、で一幼稚園の(うん)年長の(うん)ときに板橋区高島平に,,

さらに、宇佐美(2011:15-16)にしたがって、BTSJで用いられる記号を以下にまとめる(記号凡例)。

尚、以下の記号は、「検索」などの際に漏れがないよう、但し書きのあるもの以外は、「半角」で統一することを原則とする。

#### 発話文終了に関する記号

。	[全角] 1 発話文の終わりにつける。
,,	発話文の途中で相手の発話が入った場合、前の発話文が終わっていないことをマークするためにつけ、改行して相手の発話を入力する。 なお、入力のを防ぐために、発話文が終了したラインには「*」、発話文が終了してないラインには「/」を、「発話文終了」の列に入れる。従って、「。」と「*」、「,,」と「/」の対応関係をチェックすることができるようにしてある。
*	発話文が終了するごとに、「*」を「発話文終了」セルに記入する。つまり、発話文番号と発話内容中の句点「。」と「*」の数は必ず一致する。このように、「発話文終了」と「発話内容」と2つのセルで二重に確認する。
/	発話文が終了していないラインの「発話文終了」セルに記入する。発話内容中の「,,」と「/」の数は必ず一致する。

発話内容の記述に関する記号

、	[全角] 1発話文および1ライン中で、日本語表記の慣例の通りに読点をつける。なお、慣例として表記する箇所に短い間がある場合には、「,」をつける。(次の説明を参照)
,	[全角] 発話と発話のあいだに短い間がある場合につける。
‘ ’	① [全角] 複数読み方があるものを漢字で表す場合、最も一般的な読み方ではなく、特別な読み方で発せられたことを示すために、その読み方を平仮名で‘ ’に入れて示す。
,	② [全角] 通常とは異なる発音がなされた場合など、音の表記だけでは意味が分かりにくい発話は、‘ ’の中に正式な表記をする。
『 』 “ ”	[全角] 視覚上、区別した方が分かりやすいと思われるもの、例えば、本や映画の題名のような固有名詞や、発話者がその発話の中で漢字の読み方を説明したような部分等は、『 』でくくる。 [全角] 発話中に、話者及び話者以外の者の発話・思考・判断・知覚などの内容が引用された場合、その部分を“ ”でくくる。
?	疑問文につける。疑問の終助詞がついた質問形式になっていなくても、語尾を上げるなどして、疑問の機能を持つ発話には、その部分が文末(発話文末)なら「?。」をつける。倒置疑問の機能を持つものには、発話中に「?,」をつける。
??	確認などのために語尾を上げる、いわゆる「半疑問文」につける。
[↑][→][↓]	イントネーションは、特記する必要があるものを、上昇、平板、下降の略号として、[↑][→][↓]を用いて表す。
《少し間》	話のテンポの流れの中で、少し「間」が感じられた際につける。
《沈黙 秒数》	1秒以上の「間」は、沈黙として、その秒数を左記のように記す。沈黙自体が何かの返答になっているような場合は1発話文として扱い1ライン取るが、基本的には、沈黙後に誰が発話したのかを同定できるように、沈黙を破る発話のラインの冒頭に記す。
= =	改行される発話と発話の間(ま)が、当該の会話の平均的な間(ま)の長さより相対的に短いか、まったくないことを示すためにつける。これは、2つの発話(文)について、改行していても音声的につながっていることを示すためである。その場合、最初のラインの発話の終わりに「=」をつけてから、句点「。」または英語式コンマ2つ「,,」をつける。そして、続くラインの冒頭に「=」をつける。
…	文中、文末に関係なく、音声的に言いよんだように聞こえるものにつける。

< >{<	同時発話されたものは、重なった部分双方を< >でくくり、重ねられた発話には、< >の後に、{<}をつけ、そのラインの最後に句点「。」または英語式コンマ 2 つ「,,」をつける。また重ねた方の発話には、< >の後に、{>}をつける。
【 【 】】	[全角] 第 1 話者の発話文が完結する前に、途中に挿入される形で、第 2 話者の発話が始まり、結果的に第 1 話者の発話が終了した場合は、「【 【 】】」をつける。結果的に終了した第 1 話者の発話文の終わりには、句点「。」の前に【 【 】】をつけ、第 2 話者の発話文の冒頭には【 【 】】をつける。
[ ]	文脈情報。その発話がなされた状況ができるだけわかりやすくなるように、音声上の特徴(アクセント、声の高さ、大小、速さ等)のうち、特記の必要があるものなどを[ ]に入れて記しておく。
( )	短く、特別な意味を持たない「あいづち」は、相手の発話中の最も近い部分に、( )にくくって入れる。
< >	笑いながら発話したものと笑い等は、< >の中に、<笑いながら>、<2 人で笑い>などのように説明を記す。笑い自体が何かの返答になっているような場合は 1 発話文となるが、基本的には、笑いを含む発話中か、その発話文の最後に記し、その後に句点「。」または英語式コンマ 2 つ「,,」をつける。
(< >)	相手の発話の途中で、相手の発話と重なって笑いが入っている場合は、短いあいづちと同様に扱って、(<笑い>)とする。
#	聞き取り不能であった部分につける。その部分の推測される拍数に応じて、#マークをつける。
「 」	[全角] トランスクリプトを公開する際、固有名詞等、被験者のプライバシーの保護のために明記できない単語を表すときに用いる。

3.2.3 の手順を踏まえて収集した中国人会話データは宇佐美まゆみ・肖婷婷・戴琦・高娃・李宇霞・仇晓妮(2007)の「基本的な文字化の原則 (Basic Transcription System For Japanese : BTSJ) の中国語への応用について」に従って文字化した上で分析資料としている。

発話文の認定の仕方と改行の原則は宇佐美(2011)「改訂版:基本的な文字化の原則 (Basic Transcription System For Japanese : BTSJ)」と同じである。ただし、中国語の特徴を考慮した上で、記号は宇佐美まゆみ・肖婷婷・戴琦・高娃・李宇霞・仇晓妮(2007)の「基本的な文字化の原則 (Basic Transcription System For Japanese : BTSJ) の中国語への応用について」(p98-99)を踏まえてさらに改訂(太字の部分が修正・追加したところ)し、以下のようにになっている。

尚、以下の記号は、「検索」などの際に漏れないよう、但し書きのあるもの以外は、「半角」で統一することを原則とする。

発話文終了に関する記号

*	発話文が終了するごとに、「*」を「発話文終了」セルに記入する。つまり、発話文番号と発話内容中の句点「。」と「*」の数は必ず一致する。このように、「発話文終了」と「発話内容」と2つのセルで二重に確認する。
/	発話文が終了していないラインの「発話文終了」セルに記入する。発話内容中の「,,」と「/」の数は必ず一致する。

発話内容の記述に関する記号

。	[全角] 1 発話文の終わりにつける。
,,	発話文の途中で相手の発話が入った場合、前の発話文が終わっていないことをマークするためにつけ、改行して相手の発話を入力する。 なお、入力の誤りを防ぐために、発話文が終了したラインには「*」、発話文が終了していないラインには「/」を、「発話文終了」の列に入れる。従って、「。」と「*」、「,,」と「/」の対応関係をチェックすることができるようにしてある。
,	[全角] 1 発話文および1ライン中で、中国語表記の慣例の通りに読点をつける。
.	[全角] 発話と発話のあいだに短い間がある場合につける。
‘ ’	① [全角] 複数読み方があるものを漢字で表す場合、最も一般的な読み方ではなく、特別な読み方で発せられたことを示すために、その読み方を平仮名で‘ ’に入れて示す。 ② [全角] 通常とは異なる発音がなされた場合など、漢字の表記だけでは意味が分かりにくい発話は、‘ ’の中に、ピンインで正式な表記をする。
、	文の中での一番小さなポーズを表す時に用いる。通常、並列を表す語彙、連語の間に使われる。例：我们班有学英语、德语、西班牙语等等。
:	引用された発話の前につける。例えば：“小王说：”
……	①省略文の後ろにつける。 ②発話が切れたり続いたりする時につける。 ③発話中断する場合使う。 ④文中、文末に関係なく、音声的に言いよんだように聞こえるものにつける。
《 》	書籍、文章、雑誌、劇作、歌曲などの題目は《 》でくくる。
,	② [全角] 通常とは異なる発音がなされた場合など、音の表記だけでは意味が分かりにくい発話は、‘ ’の中に正式な表記をする。
“ ”	[全角] 発話中に、話者及び話者以外の者の発話・思考・判断・知覚などの

	内容が引用された場合、その部分を“ ”でくくる。
?	疑問文につける。疑問の終助詞がついた質問形式になっていなくても、語尾を上げるなどして、疑問の機能を持つ発話には、その部分が文末(発話文末)なら「?。」をつける。倒置疑問の機能を持つものには、発話中に「?。」をつける。
??	確認などのために語尾を上げる、いわゆる「半疑問文」につける。
[↑][→][↓]	イントネーションは、特記する必要があるものを、上昇、平板、下降の略号として、[↑][→][↓]を用いて表す。
《少し間》	話のテンポの流れの中で、少し「間」が感じられた際につける。
《沈黙秒数》	1秒以上の「間」は、沈黙として、その秒数を左記のように記す。沈黙自体が何かの返答になっているような場合は1発話文として扱い1ライン取るが、基本的には、沈黙後に誰が発話したのかを同定できるように、沈黙を破る発話のラインの冒頭に記す。
= =	改行される発話と発話の間(ま)が、当該の会話の平均的な間(ま)の長さより相対的に短いか、まったくないことを示すためにつける。これは、2つの発話(文)について、改行していても音声的につながっていることを示すためである。その場合、最初のラインの発話の終わりに「=」をつけてから、句点「。」または英語式コンマ2つ「,,」をつける。そして、続くラインの冒頭に「=」をつける。
< >{<}< >{>}	同時発話されたものは、重なった部分双方を< >でくくり、重ねられた発話には、< >の後に、{<}をつけ、そのラインの最後に句点「。」または英語式コンマ2つ「,,」をつける。また重ねた方の発話には、< >の後に、{>}をつける。
【 【 】】	[全角]第1話者の発話文が完結する前に、途中で挿入される形で、第2話者の発話が始まり、結果的に第1話者の発話が終了した場合は、「【 【 】】」をつける。結果的に終了した第1話者の発話文の終わりには、句点「。」の前に【 【 】をつけ、第2話者の発話文の冒頭には【 【 】をつける。
[ ]	文脈情報。その発話がなされた状況ができるだけわかりやすくなるように、音声上の特徴(アクセント、声の高さ、大小、速さ等)のうち、特記の必要があるものなどを[ ]に入れて記しておく。例:[噴声][吸気声][舌尖吸気声][最后无声]
( )	短く、特別な意味を持たない「あいづち」は、相手の発話中の最も近い部分に、( )にくくって入れる。
< >	笑いながら発話したものや笑い等は、< >の中に、<笑いながら>、<2人で笑い>などのように説明を記す。笑い自体が何かの返答になっているような場

	合は1発話文となるが、基本的には、笑いを含む発話中か、その発話文の最後に記し、その後に句点「。」または英語式コンマ2つ「,,」をつける。
(く >)	相手の発話の途中で、相手の発話と重なって笑いが入っている場合は、短いあいづちと同様に扱って、(く笑い)とする。
#	聞き取り不能であった部分につける。その部分の推測される拍数に応じて、#マークをつける。
「 」	[全角] トランスクリプトを公開する際、固有名詞等、被験者のプライバシーの保護のために明記できない単語を表すときに用いる。
-	[全角] 言葉をのばす場合に用いる。
;	文の並列を表す時に用いる。
ピンインの表記の仕方	基本的にアルファベットで表記し、声調は数字で表す。ただし、軽声の場合は0で記す。

中国語のあいづち詞<sup>15</sup>は種類が多いため、どの漢字を使えばいいのか迷うことがしばしばある。したがって、文字化する場合、統一する必要があると思われる。よく使用されるあいづち詞は以下のように表記する。つまり、中国語の音声データに音声的に右のピンインのような発音が出てくる場合、左の漢字で表記する。

表4 中国語のあいづち詞の表記のリスト

あいづち詞	ピンイン
哎	ai 1
唉	ai 4
呃	e 1
哦	o 4
噢	o 1
嗯	ng 4
咦	yi 2
啊	a 1
呦	you1

<sup>15</sup>本研究は胡蓉(2013)を参考にして、中国語のあいづち詞を次のように操作的に定義する。①あいづち詞を行使するのは、聞き手である。②あいづち詞が出現する位置は、話し手の発話権の中である。③あいづち詞の機能は、聞いているということを伝える、分かったということを伝える、話の進行を助けるなどである。④あいづち詞を表す言語形式は短い。



### 3.2.5 日本人男性会話データ

収集条件の制限により、日本人男性会話データは集めることができなかった。中国人男性会話データと比較するために、宇佐美まゆみ監修(2013)『BTSJ による日本語会話コーパス (トランスクリプト・音声) 2013 年版』に収録されている日本人男性会話データを使用することにした。

ここで、本研究で使用する日本人男性初対面会話データについて述べる。宇佐美まゆみ監修(2013)『BTSJ による日本語会話コーパス (トランスクリプト・音声) 2013 年版』に収録されているデータの中では、登録者の会話グループ名を調べると、日本人男性初対面会話データは 13 男性ベース初対面雑談 (同性同等) と 14 初対面同性同士雑談 (男性同士) だけである。その詳細は次の表 5 に示す通りである。

表 5 日本人男性初対面会話データの概要

登録者の会話グループ名	トランスクリプトの ファイル名	話者関係	文字化時間 <sup>16</sup> (分)
13. 男性ベース初対面雑談 (同性同等)	176-13-JBM01-JSM01 男男、同等	初対面	19:52
13. 男性ベース初対面雑談 (同性同等)	182-13-JBM02-JSM01 男男、同等	初対面	14:30
13. 男性ベース初対面雑談 (同性同等)	188-13-JBM03-JSM01 男男、同等	初対面	15:00
14. 初対面同性同士雑談 (男 性同士)	199-14-JBM01-JSM02 男男、同等	初対面	15:44
14. 初対面同性同士雑談 (男 性同士)	201-14-JBM02-JSM02 男男、同等	初対面	18:23
14. 初対面同性同士雑談 (男 性同士)	203-14-JBM03-JSM02 男男、同等	初対面	15:52
14. 初対面同性同士雑談 (男 性同士)	205-14-JBM04-JSM02 男男、同等	初対面	19:57

文字化の時間は 14:30 から 19:57 までさまざまである。本研究では各会話の項目を比較する必要があるために、時間を統一した方がよいと思われる。したがって、コーディングする際、音声にしたがって、最初の 15 分間<sup>17</sup>だけを分析対象とした。182-13-JBM02-JSM01

<sup>16</sup> 文字化時間は会話データが既に文字化された時間である。以下同様である。

<sup>17</sup> 日本人男性初対面会話はほかのデータと違って、15 分間を研究対象としている。時間の影響をできるだけ排除するため、その後は出現回数ではなく、全発話分に占める割合を分析対象としている。

男男、同等という会話データは15分未満であるため、今回の研究から除外することにした。残りの6会話を日本人男性初対面会話データとして使用する。

次に、本研究で使用する日本人男性友人同士の会話データを紹介しよう。日本人男性初対面会話の音声データがないため、宇佐美まゆみ監修(2013)『BTSJによる日本語会話コーパス(トランスクリプト・音声)2013年版』「1. 親しい同性友人同士雑談(男性)」の10会話から、本研究の中国人男性会話データの20分間に時間的に比較的近い6会話を選出した。その詳細は次の表6に示す通りである。

表6 日本人男性友人同士の会話データの概要

登録者の会話グループ名	トランスクリプトのファイル名	話者関係	文字化時間(分)
1. 親しい同性友人同士雑談(男性)	1-1-JM01-JM02	親しい友人	22:44
1. 親しい同性友人同士雑談(男性)	3-1-JM05-JM06	親しい友人	24:50 <sup>18</sup>
1. 親しい同性友人同士雑談(男性)	4-1-JM07-JM08	親しい友人	23:33
1. 親しい同性友人同士雑談(男性)	5-1-JM09-JM10	親しい友人	23:41
1. 親しい同性友人同士雑談(男性)	7-1-JM13-JM14	親しい友人	22:01
1. 親しい同性友人同士雑談(男性)	10-1-JM19-JM20	親しい友人	22:44

<sup>18</sup>3-1-JM05-JM06の文字化時間は24:50であるが、会話の内容において、20分になったという話者の明示的な発話があったために、それを基準として最初の20分間を研究対象とする。

## 第四章 日本人会話のスピーチレベル

宇佐美 (1998、2001ab、2002 など)の DP 理論によると、「特定の状況で、あって当たり前で、それが現れないときに初めてそれがないことが意識され、ポライトではないと捉えられる」という類のものがある。それが談話の「基本状態」であると捉えられる。しかも、特定の談話の「基本状態」は、ポライトネス効果を相対的に捉えるために同定する必要があると指摘している。そして、「基本状態」として捉えるものとして、数多くの同じ活動の型の「失礼のない状態の談話」における「主要な言語行動の平均的な構成比率(分布)」といったものが挙げられる。ポライトネスを論じるにあたり、分析可能な要素として言語形式の丁寧度が考えられる。

言語形式の丁寧度については、「敬語レベル」(生田・井出 1983)・「スピーチレベル」(宇佐美・嶺田 1995)・「待遇レベル」(三牧 2002)・「スピーチスタイル」(伊集院 2004)・「文末スタイル」(申 2009)などの用語が使用されている。本研究では文末だけでなく、語彙や発話文全体も視野に入れて考察するために、言語形式の丁寧度を指す用語として汎用性が高いと思われる「スピーチレベル」を使用する。

本研究では宇佐美 (2001a) に倣い、「スピーチレベル」を、「発話中の語彙や文末・終助詞など、言語形式から判断される発話の丁寧度」と定義する。

日本人会話のスピーチレベルについて、宇佐美 (2001a) では「文中」に尊敬語、謙譲語などが含まれるかどうか、話者自身の言葉遣いの特徴の指標となると予測している。一方、「文末」が敬体か常体かは、対話相手への配慮、心的距離の調節、待遇の指標となると予測できると指摘された。したがって、本研究では日本人会話データのスピーチレベルについて文中と文末という二つの観点から分析する。

具体的に宇佐美研究室のスピーチレベルコーディングのマニュアル (2010 試作版・未公開) に倣い、日本人会話データをスピーチレベルに関して「文中」と「文末」の 2 項目でコーディングした。

ただし、以下の場合にはコーディングを行わない項目とする。

- ① 発話文末の「,,」は発話が終わっていないマークであるために、その発話文はコーディングの対象とせず、全てのコーディングセルに「-」と記す。
- ② 笑いのみ発話文はコーディングの対象とせず、「#」と記す。本研究の研究対象は「笑い」ではないために、除外する。
- ③ 聞き取れない箇所を示す「#」記号がある発話文は、すべてコーディングとせず、「#」と記す。その理由は、その部分がどのような内容なのか判断できない。例えば「どこに###ですか？」のような例は文末がコーディングできても、文中は判断できない。文中と文末を組み合わせて分析する必要があるために、その発話文の全体を見ることが難しくなってしまう。したがって、本研究では「#」の入った発話文をコーディングの対象から除外することになる。

## 4.1 文中スピーチレベル

本節では宇佐美（1998、2001ab、2002 など）の DP 理論に基づき、文中スピーチレベルの基本状態を同定した上で、そこから離脱する言語行動を有標行動として捉え、フォローアップアンケートを通してその有標行動がもたらした発話効果を分析する。

### 4.1.1 文中スピーチレベルのコーディングの基準

まず、文中スピーチレベルのコーディングの基準について説明する。文中のセルでは、当該発話文中で使用されているすべての文中の丁寧度をコーディングする。文中のスピーチレベルは、表 1 にある 4 項目に分類する。

表 1 文中のスピーチレベルのコーディング記号とその定義

記号	丁寧度	定義
S	Super-polite	尊敬語、謙譲語、丁寧語、美化語、丁寧語
P	Polite	特別にマークする必要のない語彙（ニュートラルな語彙）
N	Non-polite	ニックネームや「飯（めし）」など丁寧度が低く正式な場面で通常使わない語彙、音声的な変形（縮約、音便など）、動詞の縮約形など
V	Vulgar	罵り表現やいわゆる放送禁止用語など、丁寧度が極端に低い語彙。例：「馬鹿やろう」など

次に具体的な例を挙げながら、文中スピーチレベルのコーディングの基準を詳しく説明する。

#### (1) 「S」: Super-polite

- ① 「御（お／ご）」がついている名詞  
例：「お宅」「お名前」「お皿」「ご自宅」「ご子息」「ご利益」など
- ② 尊敬や謙譲の意を持つ名詞  
例：「名前+様」「方（かた）」「わたくし」「わたくしども」「どなた」「貴社」「弊社」など
- ③ 場所を表す丁寧度の高い指示詞  
例：「こちら」「そちら」「あちら」「どちら」
- ④ 「御（お／ご）」がついている形容詞・形容動詞  
例：「ご立派だ」「お美しい」など
- ⑤ 動詞の尊敬語、謙譲語  
例：「いらっしゃる」「おいでになる」「なさる」「くださる」「いただく」「申し上げる」「いたす」「お目にかかる」など
- ⑥ 「～れる」「～られる」などの尊敬の助動詞がついている動詞

例：「行かれる」「読まれる」「理解される」など

- ⑦ 「御（お／ご）～になる」という尊敬語形式

例：「お忘れになる」「ご覧になる」「おいでになる」など

- ⑧ 「御（お／ご）～する」という謙譲語形式

例：「お邪魔する」「願います」など

## (2) 「P」: Polite

- ① 特別にマークする必要のないニュートラルな語彙、名前+さん

- ② 応答詞

例：「はい」「ええ」「うん」「そう」「ですよ」など

- ③ 場所を表す指示詞

例：「こっち」、「そっち」、「あっち」、「どっち」

- ④ 「じゃない」は日本語教科書で他の文法項目と同等に取り扱われているため、ニュートラルな語彙だと考え、「P」とする。

- ⑤ 「こんにちは」や「ごめんなさい」などのような定型表現（表2を参照）

## (3) 「N」: Non polite

- ① ニックネームの使用などくだけた呼びかけ

例：「名前+ちゃん」、「名前+君」、「あんた」、「お前」「おれ」など

- ② 丁寧度が低く正式な場面で通常使わない語彙

例：「飯（めし）」、「奴（やつ）」など

- ③ 音声的な変形（縮約、音便など）、目上に対してあまり使わないと判断できる語彙。

例：「ほんと」（「ほんとう」の変形）

「そりゃ」（「それは」の変形）

「とこ」（「ところ」の変形）

「あん時」（「あの時」の変形）

「うっそ」（「うそ」の変形）

「してねえ」（「してない」の変形）

「つつう」（「という」の変形）

「どっか」（「どこか」の変形）

「そっか」（「そうか」の変形）

「やっぱ」（「やっぱり」の変形）

「ばっかり」（「ばかり」の変形）

「あんまり」（「あまり」の変形）

「じゃ」（「では」の変形）

- ④ 動詞の縮約形は基本的にNとする。

例：「食べちゃった」「行っちゃった」など

- ⑤ 述部の丁寧度がカジュアルだと判断できるもの。

- 例：「食う」「すげえ」「いてー」など
- ⑥ 「です/ます」やその活用形を含まない定型表現  
例：「おはよう」「ありがとう」「よろしく」など（表2を参照）
- ⑦ 動詞の命令形や禁止を表す形など  
例：「減らせよ」「するなよ」「もてやがったね」

(4) 「V」: Vulgar

罵り表現やいわゆる放送禁止用語など、丁寧度が極端に低い語彙  
例：「馬鹿（やろう）」「畜生」「ざま」「食らいやがれ」「死ね」など

表2 文中における定型表現のコーディング

S	よろしくお願ひいたします・申し訳ありません・申し訳ございません
P	おはようございます・こんにちは・ありがとうございます・よろしくお願ひします・ごめんなさい・すみません・おめでとうございます
N	おはよう・ありがとう・よろしく・ごめん・すまない・すまん・おめでとう

また、文中のスピーチレベルのコーディングについて以下の注意事項が挙げられる。

① 発話文中に同じ丁寧度の語彙が複数出現する場合

例：「カナダの大学の寮で寝泊りしたの。」⇒ P（記述する記号は一つとする）  
カナダ：P 大学：P 寮：P

② 一発話文中に異なる丁寧度の語彙が出現する場合、ニュートラルの P 以外の全てのレベル（S～V）を記述する。ただし、出現する順番ではなく、レベルが高いものから順に（S～Vの順に）記述する。

例：「やっぱお酒がないとね。」⇒ SN  
やっぱ：N お酒：S ないとね：P

例：「<いや>{}、毎回、会う度に、なんか、そういうお説教されて、おれ。」⇒ SN  
いや：P 毎回：P 会う度に：P なんか：P そういうお説教：S おれ：N

以下のように、文中の丁寧度のコーディングの例を示す。

例1 文中のスピーチレベルのコーディング例

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容	文中
365	337	*	JWN04	《沈黙4秒》お昼ご飯とかっていつもどこで食べられるんですか。	S
366	338	*	JWB04	なんか、結構ー、やっぱ、お弁当とか（あ）コンビニで買ったとかが多いかもしれないですね。	SN

367	339	*	JWB04	たまに、たまに、外食へに行くとか。	P
368	340	*	JWN04	うんうん。	P
369	341	*	JWB04	好きな店、<カレー屋さん>< >。	S
370	342	*	JWN04	<ああ、美味しい>{>}ですね。	P
371	343	*	JWB04	美味しいですよ。	P
372	344-1	/	JWB04	私、二週目のパンプキンカレー大好きで、	-
373	345	*	JWN04	うんうん。	P
374	344-2	*	JWB04	結構行ったりします、あそこ。	P
375	346	*	JWN04	[小さな声で]そっか。	N
376	347	*	JWB04	[小さな声で]そっか。	N

#### 4.1.2 文中スピーチレベルの基本状態

##### 4.1.2.1 日本人初対面会話の文中スピーチレベルの基本状態

この節では、日本人初対面会話の文中のスピーチレベルの基本状態を同定する。女性の会話と男性の会話という2つの部分からなっている。

まず、文字化された日本人女性初対面会話データを4.1.1小節の基準に従って、文中のスピーチレベルの観点からコーディングした。さらに、信頼性を確認するために、20%について第二評定者がコーディングし、評定者間信頼性係数<sup>19</sup>を測った結果、 $\kappa = 0.83$  という数値が得られた。

その後、宇佐美（2010）のBTSJ集計ソフトで会話ごとに、その各項目の数を集計する。さらに、6会話の各項目の割合の平均値を算出すると、表3の結果となる。

表3 日本人女性初対面会話文中のスピーチレベルの平均値

話者	S(Super-polite)			P(Polite)			N(Non-polite)			SN <sup>20</sup>		
	合計	平均	割合	合計	平均	割合	合計	平均	割合	合計	平均	割合
JWB	45	7.50	2.62%	1532	255.33	89.33%	133	22.17	7.76%	5	0.83	0.29%
JWN	21	3.50	1.31%	1500	250.00	93.40%	81	13.50	5.04%	4	0.67	0.25%
平均	66	11.0	1.99%	3032	505.33	91.30%	214	35.67	6.44%	9	1.50	0.27%

注：コーディング不能の発話（#）を含まない<sup>21</sup>

つまり、日本人女性初対面会話の文中スピーチレベルでは、S/P/N/SNの比率は1.99%

<sup>19</sup> 評定者間信頼性係数は単純な一致度から偶然の一致度を差し引いた数値であり、この数値（ $\kappa$ ）が0.75以上であれば信頼性が高いと見なしてよいとされている。以下も同様である。

<sup>20</sup> SNというのは一発話にSとコーディングする項目とNとコーディングする項目が同時にでてくる発話である。例：「一食丸々お腹いっぱいになっちゃう。」お腹：S ちゃう：N

<sup>21</sup> 以下の表では同様にコーディング不能の発話（#）を含まない。

/ 91.30% / 6.44% / 0.27%である。一番多いのはニュートラルな語彙 (P) であり、全体の91.30%を占めている。つまり、日本人女性は初対面において特別にマークする必要のない語彙 (ニュートラルな語彙) を使用する場合は全体の9割ぐらいである。残りの1割はS、SN、Nによって構成されている。尊敬語 (S+SN) は2.26%にすぎない。丁寧度が低く正式な場面で通常使わない語彙 (N) は6.44%である。日本人女性初対面会話の文中スピーチレベルの基本状態では、ニュートラルな語彙が9割であり、丁寧度が低く正式な場面で通常使わない語彙 (N) は6.44%であり、尊敬語 (S+SN) は2.26%である。

次に日本人男性初対面会話の文中のスピーチレベルをみてみよう。第三章の3.2.5で説明したように、宇佐美 (2013) に収録されている会話データから選出された6会話を、同じく4.1.1小節の基準に従って、文中のスピーチレベルの観点からコーディングした。さらに、信頼性を確認するために、20%について第二評定者がコーディングし、評定者間信頼性係数を測った結果、 $\kappa = 0.81$  という数値が得られた。

その後、宇佐美 (2010) のBTSJ集計ソフトで、会話ごとにその各項目の数を集計する。さらに、6会話の各項目の割合の平均値を算出すると、表4の結果となる。

表4 日本人男性初対面会話文中のスピーチレベルの平均値

話者	S(Super-polite)			P(Polite)			N(Non-polite)			SN		
	合計	平均	割合	合計	平均	割合	合計	平均	割合	合計	平均	割合
JBM	51	8.50	5.11%	856	142.67	85.69%	80	13.33	8.01%	12	2.00	1.20%
JSM	39	6.50	4.08%	807	134.50	84.41%	104	17.33	10.88%	6	1.00	0.63%
平均	90	15.0	4.60%	1663	277.17	85.06%	184	30.67	9.42%	18	3.00	0.92%

つまり、日本人大学生男性初対面会話の文中スピーチレベルでは、S / P / N / SN の比率は4.60% / 85.06% / 9.42% / 0.92%である。これが日本人男性初対面会話の基本状態だといえよう。日本人女性初対面会話と同じように一番多いのはニュートラルな語彙 (P) であり、全体の85.06%を占めている。つまり、日本人男性が初対面において特別にマークする必要のない語彙 (ニュートラルな語彙) を使用する場合は全体の85%ぐらいであり、女性会話の91.30%より少ない。丁寧度が低く正式な場面で通常使わない語彙 (N) は9.42%、即ち1割程度であり、女性の6.44%より高い。尊敬語 (S+SN) は5.52%であり、女性の2.26%を上回る結果となる。日本人男性大学生初対面会話の文中スピーチレベルの基本状態では、ニュートラルな語彙は85%であり、敬語 (S+SN) は5.52%であり、丁寧度が低く正式な場面で通常使わない語彙 (N) は9.42%である。

さらに、日本人初対面会話の文中スピーチレベルの全体像をみるため、表3と表4の結果 (割合) を以下の図1に示す。



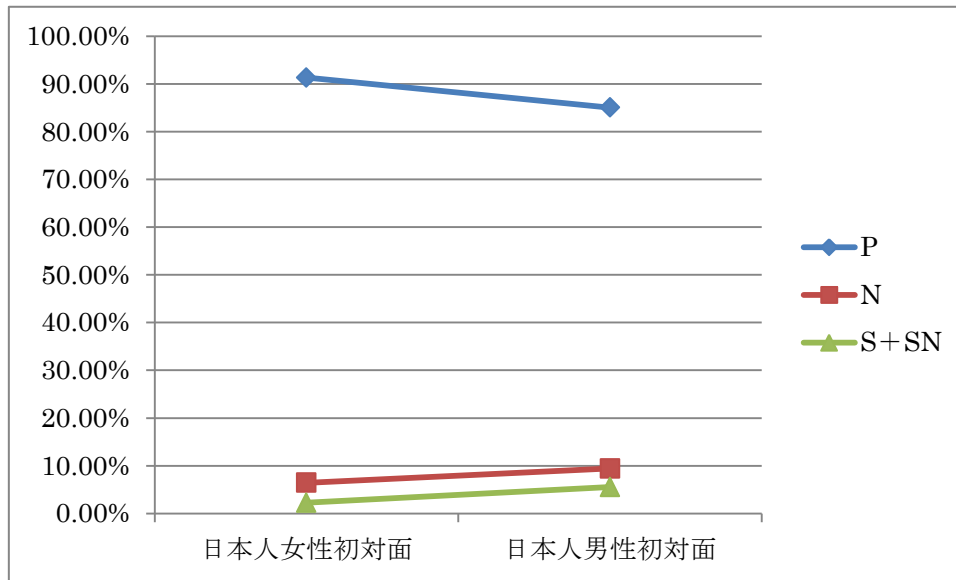


図1 日本人初対面会話の文中スピーチレベルの基本状態

グローバルな観点からみていくと、図1に示したとおり、日本人初対面会話は男女を問わず、一番多く使用される言葉は特別にマークする必要のない語彙（ニュートラルな語彙）

である。少なくとも全体の85%以上であり、日本人初対面会話の文中スピーチレベルの基本状態である。次に多く用いられるのは丁寧度が低く正式な場面で通常使わない語彙（N）であり、一番少ないのは敬語（S+SN）である。女性と比べると、日本人男性は初対面において、正式な場面で通常使わない語彙（N）と敬語（S+SN）の使用率が高い。つまり日本人男性は初対面会話においては基本であるニュートラルな語彙から離脱する語彙（NとS+SN）の使用頻度が女性より高いといえよう。

次にローカルな観点からみていくと、日本人女性初対面各会話における各項目の結果をまとめれば、表5に示すとおりである。

表5 日本人女性初対面会話の各会話における文中のスピーチレベル

会話 番号	S		P		N		SN	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	16	4.34%	326	88.35%	24	6.50%	3	0.81%
2	6	1.29%	425	91.59%	31	6.68%	2	0.43%
3	17	2.75%	571	92.39%	30	4.85%	0	0.00%
4	16	<b>3.14%</b>	447	<b>87.82%</b>	43	<b>8.45%</b>	3	0.59%
5	6	0.77%	735	94.84%	34	4.39%	0	0.00%
6	5	0.85%	528	90.10%	52	8.87%	1	0.17%
平均	66	1.99%	3032	91.30%	214	6.44%	9	0.27%

表5に示したように、会話4のニュートラルな語彙(P)の割合は87.82%で、6会話の中では最も低い数値である。これは基本状態の91.30%をかなり下回っている結果になる。具体的に会話終了後のフォローアップアンケートを調べると、「録音されていることを意識したか。」という質問に対して、ベース協力者と会話相手は二人とも「すこし意識した」と答えた。さらに「録音を意識したことが、あなたの話し方に影響を与えたと思うか。」という質問に対して、二人とも「すこし影響した」と答えた。その理由として、ベース協力者は「なるべく会話が途切れないように必死に話そうとした。」と書いてあった。一方、会話相手は「なるべく聞き取りやすいように話さなくてはと思いながら話した。」という答えであった。つまり、二人とも録音をすこし意識したために、話し方に影響があったのだと思われる。その現れとして、文中のスピーチレベルに反映したと考えられるであろう。実際の会話データをみると、ベース協力者は会話が途切れないように一生懸命に話そうとしたために、会話の内容に気がとられてしまい、自分の言葉遣いに特に気をつけてないようである。したがって、初対面にもかかわらず、「そっか(9)」「動詞+ちやう(8)」「やっぱ(3)」というような音声的な変形(縮約など)が数多く観察された。一方、会話相手は実際の会話では12箇所ほどの「あんまり」が観察された。それは聞き取りやすいように話しているという心理が反映されているといえよう。

また、日本人男性初対面各会話における各項目の結果をまとめると、表6に示すとおりである。

表6 日本人男性初対面会話の各会話における文中のスピーチレベル

会話 番号 <sup>22</sup>	S		P		N		SN	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	17	5.52%	267	86.69%	20	6.49%	4	1.30%
2	15	4.72%	276	86.79%	26	8.18%	1	0.31%
3	14	5.26%	215	80.83%	36	13.53%	1	0.38%
<b>4</b>	<b>21</b>	<b>6.31%</b>	<b>267</b>	<b>80.18%</b>	<b>37</b>	<b>11.11%</b>	<b>8</b>	<b>2.40%</b>
5	10	3.52%	246	86.62%	27	9.51%	1	0.35%
6	13	2.91%	392	87.89%	38	8.52%	3	0.67%
平均	90	4.60%	1663	85.06%	184	9.42%	18	0.92%

表6に示したように、会話4のニュートラルな語彙(P)の割合は80.18%であり、基本状態の85.06%をかなり下回ってしまった。しかし、敬語(SN)の割合は一番高く2.40%であり、基本状態の0.92%の2倍以上となっている。敬語(S)とあわせると8.71%の割合と

<sup>22</sup> 会話番号は宇佐美監修(2013)のデータのトランスクリプトの番号ではなく、改めて振り直した連続の通し番号を使用している。以下も同様である。

なっている。実際の会話 4 をみてみると、先生の研究分野や研究方法など、先生に関する話題に触れていた。そのために 29 個の敬語の中のうち 12 箇所は先生の話をする時、会話に出てくる先生に対して使われていたものである。つまり、会話 4 では、目の前にいる会話相手だけでなく、第三者への敬語使用が観察されたために、敬語の使用率が高くなったのである。敬語の割合が高くなるために、ニュートラルな語彙 (P) の割合が多少低くなる結果となったのだといえよう。

#### 4.1.2.2 日本人友人会話の文中スピーチレベルの基本状態

この節では、日本人友人会話の文中のスピーチレベルの基本状態を同定する。女性友人会話と男性友人会話という 2 つの部分から構成されている。

まず、文字化された日本人女性友人会話データを 4.1.1 小節の基準に従って、文中のスピーチレベルの観点からコーディングした。さらに、信頼性を確認するために、20%について第二評定者がコーディングし、評定者間信頼性係数を測った結果、 $\kappa = 0.79$  という数値が得られた。

その後、宇佐美 (2010) の BTSJ 集計ソフトで会話ごとに、その各項目の数を集計する。さらに、6 会話の各項目の割合の平均値を算出すると、表 7 の結果となる。

表 7 日本人女性友人会話文中のスピーチレベルの平均値

話者	S(Super-polite)			P(Polite)			N(Non-polite)			V(Vulgar)			SN		
	合計	平均	割合	合計	平均	割合	合計	平均	割合	合計	平均	割合	合計	平均	割合
JWB	17	2.83	1.01%	1289	214.83	76.41%	362	60.33	21.46%	2	0.33	0.12%	17	2.83	1.01%
JWF	25	4.17	1.49%	1242	207.00	74.24%	385	64.17	23.01%	2	0.33	0.12%	19	3.17	1.14%
平均	42	7.00	1.25%	2531	421.83	75.33%	747	124.50	22.23%	4	0.67	0.12%	36	6.00	1.07%

グローバルな観点からみれば、表 7 に示したように、日本人女性友人会話の文中スピーチレベルでは、S / P / N / SN / V の比率は 1.25% / 75.33% / 22.23% / 1.07% / 0.12% である。一番多いのはニュートラルな語彙 (P) であり、全体の 75.33% を占めている。つまり、日本人女性は友人相手の会話において特別にマークする必要のない語彙 (ニュートラルな語彙) を使用する場合が全体の 75.33% である。初対面の 91.30% と比べるとやや低いが、日本人女性友人会話ではメインとなっている。次に多いのは丁寧度が低く正式な場面で通常使わない語彙 (N) であり、全体の 22.23% を占めている。初対面会話の 6.44% を大きく上回っている。さらに、尊敬語 (S+SN) は 2.32% であり、初対面の 2.26% とほぼ同じぐらいである。最後は丁寧度が極端に低い罵り言葉 (V) が 0.12% である。

日本人女性友人会話の文中スピーチレベルの基本状態をみると、初対面会話の順番と同じである。ニュートラルな語彙は 75.33% であり、丁寧度が低く正式な場面で通常使わない

語彙 (N) は 22.23%であり、尊敬語 (S+SN) は 2.32%である。ただし、違うのは丁寧度が極端に低い罵り言葉 (V) の 0.12%が観察されたことである。

それは B&L(1987)のポライトネス理論で予測された日本人女性友人会話の基本状態が丁寧度が低く正式な場面で通常使わない語彙 (N) である結果となっていないことは明らかである。宇佐美(2001)で指摘されたように、文中のスピーチレベルは話者自身の言葉の特徴の指標となっている。従って、ニュートラルな語彙 P の使用は日本人女性の友人会話における話者自身の言葉遣いの特徴が反映されているといえよう。つまり、日本人女性は友人会話においては、正式な場面で通常使わない語彙 N ではなく、ニュートラルな語彙 P を使用するのが基本状態なのである。

次に日本人男性友人会話の文中のスピーチレベルをみてみよう。第三章の 3.2.5 で説明した宇佐美 (2013) に収録されている会話データから選出された 6 会話を同じく 4.1.1 小節の基準に従って、文中のスピーチレベルの観点からコーディングした。さらに、信頼性を確認するために、20%について第二評定者がコーディングし、評定者間信頼性係数を測った結果、 $\kappa = 0.76$  という数値が得られた。

その後、宇佐美 (2010) の BTSJ 集計ソフトで、会話ごとに、その各項目の数を集計する。さらに、6 会話の各項目の割合の平均値を算出すると、以下のような表 8 の結果となる。

表 8 日本人男性友人会話文中のスピーチレベルの平均値

話者	S(Super-polite)			P(Polite)			N(Non-polite)			SN			NV		
	合計	平均	割合	合計	平均	割合	合計	平均	割合	合計	平均	割合	合計	平均	割合
JM	6	1	0.30%	1140	190	56.46%	865	144.17	42.84%	6	1	0.30%	2	0.33	0.10%
JM	7	1.17	0.35%	1148	191.33	56.64%	857	142.83	42.28%	15	2.5	0.74%	0	0	0.00%
平均	13	2.17	0.32%	2288	381.33	56.55%	1722	287	42.56%	21	3.5	0.52%	2	0.33	0.05%

つまり、日本人大学生男性友人会話の文中スピーチレベルでは、S / P / N / SN / NV の比率は 0.32% / 56.55% / 42.56% / 0.52% / 0.05%である。これが日本人男性友人会話の基本状態だといえよう。日本人女性初対面会話と同じように一番多いのはニュートラルな語彙 (P) であり、全体の 56.55%を占めている。ただし、日本人男性は友人会話において特別にマークする必要のない語彙 (ニュートラルな語彙) を使用するのは全体の 5.5 割ぐらいにとどまり、女性友人会話の 75.24%より 2 割ほど少ない。一方、丁寧度が低く正式な場面で通常使わない語彙 (N) は 42.56%であり、4 割ほどである。女性初対面の 22.23%をかなり上回る結果となった。尊敬語 (S+SN) は 0.37%に過ぎない。女性初友人会話の 2.41%よりかなり少ない結果である。興味深いのは女性友人同士罵り言葉 (V) の出現率は 0.12%であり、男性友人会話を上回ったことである。

日本人男性友人会話の文中スピーチレベルの基本状態では、ニュートラルな語彙のみの

文は全体の半分程度であり、丁寧度が低く正式な場面で通常使わない語彙（N）を含む文は4割ほどである。尊敬語（S+SN）と罵り言葉（V）はほんのわずかであり、それぞれ0.84%と0.05%しかない。

それはB&L(1987)のポライトネス理論で予測された日本人男性友人会話の基本状態がNという結果となっていないことは明らかである。宇佐美(2001)で指摘されたように、文中のスピーチレベルは話者自身の言葉の特徴の指標となっている。従って、ニュートラルな語彙Pの使用は日本人男性が友人会話における話者自身の言葉遣いの特徴が反映されているといえよう。つまり、日本人男性は友人会話においては、正式な場面で通常使わない語彙Nではなく、ニュートラルな語彙Pの使用が基本状態である。しかし、割合からみれば、男性友人会話のニュートラルな語彙（P）のみの文の使用は全体の56.55%であり、丁寧度が低く正式な場面で通常使わない語彙（N）を含む文は42.56%ある。一方、女性のPは75.24%であり、Nは22.23%である。つまり、男性は女性と比べると、もっと丁寧度が低く正式な場面で通常使わない語彙Nの使用率が高いというのが基本状態である。

さらに、日本人友人同士会話の文中スピーチレベル全体像をみるために、表7と表8の結果を図で表すと、図2のとおりである。

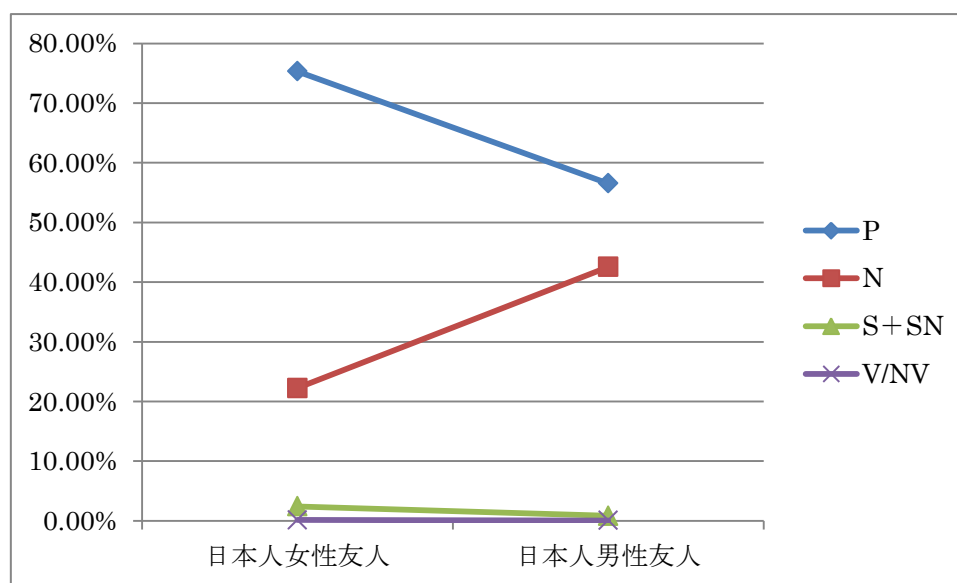


図2 日本人友人同士会話の文中スピーチレベルの基本状態

グローバルな観点からみていくと、図2に示したとおり日本人友人会話は男女を問わず、一番多く使用される言葉は特別にマークする必要のない語彙（ニュートラルな語彙）である。日本人初対面会話よりは少ないが、5割以上を占めているために、文中スピーチレベルの基本状態である。それは日本人の友人同士会話における話者自身の言葉遣いの特徴だといえよう。ただし、日本人男性友人同士会話の丁寧度が低く正式な場面で通常使わない語

彙 (N) が女性よりより多く使用される傾向がある。さらに、男女とも敬語 (S+SN) と罵り言葉 (V) もほんのわずかであるが観察された。それは基本状態から離脱する有標行動として捉え、次のローカルな観点から具体的に分析する。

次にローカルな観点からみていくと、日本人女性友人会話における文中スピーチレベルの各項目の結果をまとめれば、表 9 に示すとおりである。

表 9 日本人女性友人会話の各会話における文中のスピーチレベル

会話 番号	S		P		N		V		SN	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	9	2.41%	282	75.40%	79	21.12%	0	0.00%	4	1.07%
2	12	2.14%	387	68.86%	145	25.80%	<b>4</b>	<b>0.71%</b>	14	2.49%
3	2	0.30%	492	74.10%	168	25.30%	0	0.00%	2	0.30%
4	9	1.53%	406	68.93%	165	28.01%	0	0.00%	9	1.53%
5	1	0.16%	518	80.94%	118	18.44%	0	0.00%	3	0.47%
6	9	1.69%	446	83.99%	72	13.56%	0	0.00%	4	0.75%
平均	7.00	1.25%	421.83	75.33%	124.50	22.23%	0.67	0.12%	6	1.07%

表 9 に示したように、日本人女性友人同士の会話では丁寧度の極端に低い罵り言葉 V が観察されたのは会話 2 だけである。それは基本状態から離脱する有標行動としてとらえられる。したがって、ローカルな観点からその会話 2 に出てきた 4 つの罵り言葉について分析する。

例 2 に示したように、ライン番号 361 では丁寧度の低い言葉である「“ごまー”」が出てきた。また、ライン番号 362 では罵り言葉である「バカ」が現れた。

会話の流れからみると、二人の話者は就職活動について話し合っている。就活というのは心が重い話だと JWF02 は感じているようである。しかし、ベース協力者 JWB02 がどうでもいいと話しているところからみれば、二人は就活に対する態度のギャップが読み取れるであろう。ライン番号 343 では「へ、就活の目的のためだけに、ビッグサイトに行くのも、超いやなんだけど、まじいやでござる。」と就活に対する消極的な態度を示している。しかも、次のライン番号 345 では「新装のためだけに行きたいでござる。」と、348 では「対戦のためだけに<行きたいでござる>{<}。」と話した。それはほかの目的でビッグサイトに行くのはいいが、就職活動で行くのはいやだという態度を強調したのである。「そうね」というあいづちを打つベース協力者 JWB02 の態度に対して会話相手 JWF02 は不満を感じているようで、「そこでにこにこしだすね、まったく、<だらしないな>{<}。」(351)<sup>23</sup>と強く批判した。なぜならば、会話相手は就活はいやだが、ちゃんとやっているという態度を取っている。一方、ベース協力者は就活はどうでもいいという態度である。そこで、会話相手はベ

<sup>23</sup>( )の中の数字はライン番号を示す。以下も同様である。

ース協力者を「だらしがない」と批判した。その後、ベース協力者 JWB02 は「ここにこしてねえよ」(353) と会話相手の発話の前半を否定した。それに対して、会話相手 JWF02 は「だーらーしねえなあ。」(354) とわざわざ言葉を伸ばして、後半の批判の意味をさらに強調した。ベース協力者 JWB02 は負けないように丁寧度の低い言葉である「してねえ。」(355) で否定した。就活に対して、会話相手は急に「いや、([鼻水を吸い込む音]) 困っちゃったよ。」と本音を話すようになった。そのとき、ベース協力者 JWB02 の態度が一変して、「本当歪みないなあ。」(357) という発話で会話相手 JWF02 の一旦決めたら最後までやり遂げるという就活への迷いのない態度を評価しているようである。しかし、「私、一度だって歪みないって、誰にも言われるぞ、にこ[↑]。」(358) という会話相手の得意げな発話を聞いてから、ベース協力者 JWB02 はもし時間が他の予定と重なるといけなくなるかもしれないとあって、その熱意に水をかけるような言語行動をとった。しかも、歌を歌うように「“ざまー”」と言った。

このような丁寧度の低い言葉は挑発的な発話だと思われる。日本人女性友人同士会話の基本状態（「N」）から離脱し、有標行動としてとらえられる。それに対して、聞き手である会話相手の許容範囲を超えるか超えないかというぎりぎりのラインまできているように思われ、「君は実にバカだな。」という罵り言葉で言い返したのである。それに対してベース協力者 JWB02 は「へー[↑]」という驚いた様子である。会話相手は「私が、それに対して、なんの対策も立ててないと思ってたのか」<{}>と言って、事前に対策を考えてある事話をした。「<まさか>{}、いけないとか<言ったんじゃないな>{}」とベース協力者はそれが対策ではなくて、直接に行けないというのであろうと推測した。会話相手 JWF02 は「<なんとかって>{}言ったんじゃないよ」とそれを否定した。

この部分の会話は口げんかのようなやり取りである。それはフェイス侵害度の高い言語行動として考えられ、よりポライトな発話が必要である。しかし、親しい関係である友人であるために、二人は敬語ではなく、かえって丁寧度の低い言葉を選んだのである。しかも会話終了後のフォローアップアンケートでは互いに全く不愉快に感じないという答えであった。

宇佐美（1998、2001ab、2002 等）の DP 理論の観点からみれば、互いに不快感をもたらさないということで、話し手と聞き手の「見積もり差」が、「許容できるずれ幅（ $\pm\alpha$ ）」の範囲内に収まる行動である「適切行動」とみなされる。言い換えれば、ベース協力者は親友関係であるために、丁寧度の低い言葉（N）を使うのが適切であると見積もっている。しかし、会話相手はさらに丁寧度をさげ、罵り言葉を使うようになった。フォローアップアンケートの結果からみれば、それは見積もり（De）値の $-\alpha$ の許容範囲に収まるようである。そのため、ポライトネス効果の観点からは、プラス効果を生むか、ニュートラル効果になると解釈できる。

つまり、言語形式からみればインポライトである罵り言葉はこの日本人女性友人同士の会話では仲間言葉として使われ、ポライトな言語行動になり、プラスかニュートラルな効

果だと認められるといえよう。

例2

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容	文中
339	331	*	JWF02	でも、後期、ぐるぐるつつうったら、あー、就活。	N
340	332	*	JWF02	あー、心が重いよ。	P
341	333	*	JWF02	心が重い、〈就活では〉{ } 【 【。	P
342	334	*	JWB02	】】 [小さな声で]〈へー、就活〉{ } とかどうでもいい。	P
343	335	*	JWF02	へ、就活の目的のためだけに、ビッグサイトに行くのも、超いやなんだけど、まじいやでござる <sup>24</sup> 。	P
344	336	*	JWB02	へー、〈就活とか〉{ } 【 【。	P
345	337	*	JWF02	】】 〈ビッグサイト〉{ } はさあ、新装のためだけに行きたいでござる。	P
346	338	*	JWF02	〈でーも〉{ } 【 【。	P
347	339	*	JWB02	】】 〈あー〉{ } , そうね。	P
348	340	*	JWF02	対戦のためだけに〈行きたいでござる〉{ } 。	P
349	341	*	JWB02	〈あー〉{ } , そうね。	P
350	342	*	JWB02	うん、そうね。	P
351	343	*	JWF02	うん、そこでにこにこしだすね、まったく、〈だらしのないな〉{ } 。	P
352	344	*	JWB02	〈あ、そうね〉{ } 。	P
353	345	*	JWB02	〈笑いながら〉にこにこしてねえよ=。	N
354	346	*	JWF02	=だーらーしねえなあ。	N
355	347	*	JWB02	してねえ。	N
356	348	*	JWF02	いや、([鼻水を吸い込む音]) 困っちゃったよ=。	N
357	349	*	JWB02	=本当歪みないなあ。	P
358	350	*	JWF02	私、一度だって歪みないって、誰にも言われるぞ、にこ [↑] 。	P
359	351	*	JWB02	いや、でもまだ日程決まってないしね。	P
360	352	*	JWB02	もしかしたら、かぶっちゃったらとかしてね [わざと高い声を出して] なんて。	N
361	353	*	JWB02	[歌を歌うように] “ざまー” 。	V

<sup>24</sup> 「でござる」は「でございます」より丁寧度が低いため、「でございます」をSとコーディングし、「でござる」はPと分類する。以下も同様である。



362	354	*	JWF02	[長く息を吐き出す音]君は実にバカだな。	V
363	355	*	JWB02	へー[↑]。	P
364	356	*	JWF02	私が、それに対して、なんの対策も立ててないと思ってくたのか>{<}。	P
365	357	*	JWB02	<まさか>{>}、いけないとか<言ったんじゃないな>{<}。	P
366	358	*	JWF02	<なんとかって>{>}言ったんじゃないよ。	P

一発話文レベルでみれば、「君は実にバカだな。」という発話は丁寧度が低くインポライトであり、失礼な発話にあたるであろう。しかし、談話レベルからみれば、この言葉は漫画版ドラえもんのせりふとして有名な煽り言葉の引用であるため、仲間言葉として使用され、日本人女性友人同士の会話では相手の許容範囲内に納まっており、ニュートラルな効果となる。ここでは、一文レベル、一発話行為レベルでは捉えることのできない、より長い談話レベルにおける要素、及び、文レベルの要素も含めた諸要素が、語用論的ポライトネスに果たす機能のダイナミクスの総体であるという宇佐美 (1998、2001ab、2002 等)「ディスコース・ポライトネス」理論の重要性が改めて示されたといえよう。

次に、残りの2つの「V」とコーディングされる発話を考察しよう。以下の例3に示したように、二人の話者は洋服の話をしている。会話相手JWF02は「イーストボーイのインナーは最強だと思うんだ。」(522)と自分の好きなブランドの製品を褒めていた。それに対して、ベース協力者は違う意見を持っているようで、すぐ相手の話と同調するのではなく、「イーストボーイ[↑]イーストボーイ。」(523)と繰り返した。「イーストボーイ<はまじ学生の味方>{<}。」と会話相手JWF02はさらに強調した。しかし、ベース協力者は気持ちいいわりに値段が高いというそのブランドの製品を評価するものの、反対の意見を述べようとする。その発話が会話相手の発話と重なってオーバーラップとなっている。「<縫製とか>{>}しっかりしてるしさ,,」(528)「良心的だし、高校時代は馬鹿のように着まくってたわよ。」(531)という会話相手はその反論を完全に無視して、好きなブランドの商品を褒め続けていた。ライン番号553では「高校時代は馬鹿のように着まくってたわよ。」という発話が出てきた。その「馬鹿のように」という言い方はベース協力者を罵るのではなく、「いつも」「ずっと」に近い頻度が非常に高いことを示す副詞的表現である。「馬鹿」という言葉自体の意味から考えると、丁寧度の極端に低い罵り言葉(V)に入るが、文全体の意味からみれば、副詞的な使い方と頻度が高いことを現しているといえよう。宇佐美 (1998、2001ab、2002等)のDP理論の観点から考えると、「馬鹿」という罵り言葉の使用は日本人女性友人同士の会話の基本状態であるニュートラルな語彙 (P) から離脱する言語行動だと考えられる。しかし、会話終了後のフォローアップアンケートではそれに対してベース協力者は不愉快に感じないという答えである。つまり、その言葉の機能は相手を罵るのではなく、頻度の高いことを表すために、相手を罵る罵り言葉と比べると、フェイス侵害度がそれほど高くないのである。ベース協力者の許容範囲に納まるために、ニュートラル効果となると解釈できる。

例3

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容	文中
512	497	*	JWF02	】】 イーストボーイのインナーは最強だと思うんだ。	P
513	498	*	JWB02	イーストボーイ[↑]イーストボーイ。	P
514	499	*	JWF02	イーストボーイ<はまじ学生の味方><{>。	N
515	500	*	JWB02	<でも、イーストボーイ><{>。	P
516	501	*	JWB02	まあ、そう、ね。	P
517	502	*	JWF02	<いいよ><{>。	P
518	503-1	/	JWB02	<気持ち><{>いいわりに一,,	-
519	504-1	/	JWF02	うん、すごくて,,	-
520	503-2	*	JWB02	<値段が><{> 【 【。	P
521	504-2	/	JWF02	】】 <縫製とか><{>しっかりしてるしさ,,	-
522	505	*	JWB02	うん。	P
523	504-3	*	JWF02	良心的だし、高校時代は馬鹿のように着まくってたわよ。	V
524	506	*	JWB02	うーん。	P
525	507	*	JWF02	あれはいいものだ。	P
526	508	*	JWF02	で、後わたしはあと、クロエとかも好きだよ。	P
527	509	*	JWF02	クロエ、見るだけでお腹いっぱいだよ。	S
528	510	*	JWF02	素敵過ぎる。	P
529	511	*	JWB02	ほーら、なんだっけ[↑]。	N
530	512	*	JWF02	<なんだい><{>?。	P
531	513	*	JWB02	<いま><{>忘れたブランド、忘れたー。	P
532	514	*	JWF02	なんだい?意味?。	P
533	515	*	JWB02	なんか。	P
534	516	*	JWF02	組曲?。	P
535	517	*	JWF02	<いや、組曲はかわいい、組曲><{>。	P
536	518	*	JWB02	<[声がだんだん大きくなる]なんだか><{>、なんでさあ。	P
537	519	*	JWF02	うん[↑]。	P
538	520-1	/	JWB02	畜生、なん、なに、値段<的だから><{>,、	V
539	521	*	JWF02	<なんだよ><{>?。	P
540	520-2	*	JWB02	デパートだ。	P
541	522	*	JWF02	いいじゃん、わたし、デパート<大好きなのよ><{>。	N

542	523	*	JWB02	<ショッピング>{>} モールじゃん、<デパートよ>{<}.	N
543	524	*	JWF02	<わたし>{>} デパート大好きなのよ。	P

さらに、会話相手JWF02は価格のことを考えずに名門ファッションブランドであるクロエが好きだ（535-537）と言い出した。ベース協力者JWB02はもっと現実的な他のブランドを話そうとしたが、名前を忘れてしまったために、会話相手JWF02はオンワード樫山のファッションブランドである組曲のことに触れた。大学生にとっては値段の高いブランドばかりであるために、ベース協力者JWB02は「なんだか、なんでさあ」「畜生、なん、なに、値段のだから」という値段のことをやっとなり出した。その値段がデパートでショッピングするように高いとベース協力者JWB02が指摘したものの、会話相手JWF02は「デパート大好きなのよ」と二回ほど強調した。ベース協力者JWB02は声が大きくなるということで、かなり興奮している様子である。したがって、無意識に「畜生」という丁寧度が低い罵り言葉を使ってしまうようになった。言語形式からみれば、このような罵り言葉はインポライトネスだととらえられがちである。しかし、会話終了後のフォローアップアンケートではそれに対して会話相手は不愉快に感じないという答えであった。宇佐美（1998、2001ab、2002 等）のDP理論の観点からみれば、不快感をもたらさないということで、それが聞き手である会話相手JWF02の「許容できるずれ幅（ $\pm \alpha$ ）」の範囲内に収まる行動である「適切行動」とみなされる。ポライトネス効果の観点からは、ニュートラル効果になる。

ここでの「畜生」という丁寧度の低い罵り言葉は会話相手を罵るというわけではなくて、感動詞的に、怒りなどの気持ちを表している。「畜生」という言葉は語彙レベルからみれば、日本人女性友人同士会話の基本状態であるニュートラルな語彙（P）から離脱する有標行動だと思われる。しかし、二人は親友関係であるために、会話相手JWF02の許容範囲に納まってニュートラル効果になるといえよう。

例2と例3をみると、日本人女性友人会話2は特殊であることが分かる。なぜならば、ライン番号の345と348の発話からみれば、話者は就職活動より新装や対戦のためにビッグサイトに行く傾向がある。また、ライン番号362では「君は実にバカだな。」という漫画版ドラえもののせりふを使っている。さらにライン番号531ではベース協力者の話を無視したり、ライン番号524では声が大きくなったりしている。オタク会話の特徴は①早口②声が高い③話す音量は以外に大きい④相手の発話を無視する場合があるなど挙げられる。つまり、日本人女性友人会話2はオタク会話の特徴を備えているといえよう。これは一般的な日本人女性友人会話を代表しているとは言えない。しかし、基本状態から離脱する有標行動として分析する必要がある。そこで、宇佐美（1998、2001ab、2001等）のDP理論を用いると、フォローアップアンケートの結果では、相手はその発話に不愉快に思わないことからみれば、その発話自体はニュートラルの効果だと認められた。言い換えれば、第三者からみれば変な会話であるが、話者自身の立場から見れば、同じオタクで親友であるために、仲間言葉として用いられており、許容範囲に納まっていると思われる。そこで、ニュートラルの効果

となっている。ここでは「相対的ポライトネス」で会話を捉える必要性が伺える。

また、日本人男性友人における文中スピーチレベルの各項目の結果をまとめれば、以下の表 10 に示すとおりである。

表 10 日本人男性友人会話の各会話における文中のスピーチレベル

会話 番号 <sup>25</sup>	S		P		N		SN		NV	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	2	0.31%	345	53.99%	290	45.38%	2	0.31%	0	0.00%
2	3	0.38%	408	51.52%	377	47.60%	4	0.51%	0	0.00%
3	3	0.51%	335	56.78%	246	41.69%	6	1.02%	0	0.00%
4	2	0.25%	425	53.80%	359	45.44%	3	0.38%	1	0.13%
5	0	0.00%	383	60.41%	247	38.96%	4	0.63%	0	0.00%
<b>6</b>	<b>3</b>	<b>0.50%</b>	<b>392</b>	<b>65.22%</b>	<b>203</b>	<b>33.78%</b>	<b>2</b>	<b>0.33%</b>	<b>1</b>	<b>0.17%</b>
平均	2.17	0.32%	381.33	56.55%	287.00	42.56%	3.50	0.52%	0.33	0.05%

表 10 に示したように、会話 6 だけニュートラルな語彙 (P) の割合が 65.22%であり、平均値の 56.55%より 10%近く高いことが分かる。宇佐美 (2001a) で指摘されたように、「文中のスピーチレベル」に尊敬語、謙譲語などが含まれるかどうかは話者自身の言葉遣いの特徴の指標となると予測する。つまり、会話 6 の話者の会話スタイルは友人同士の会話でも、ニュートラルな語彙 (P) の使用の割合が高いということである。さらに会話 6 の選択された話題を調べると、「スタート、最近のこと、救急車に運ばれたこと、事故にあった経緯、恋の悩みの相談、飲み会の醜態、授業、卒論、風俗、キャバクラ」などである。その中では「恋の悩みの相談、飲み会の醜態、風俗、キャバクラ」などかなり親密な話題が選択されたといえよう。つまり、会話 6 は話者の文中のスピーチレベルをさげるのではなく、親密な話題を選択することによって親しみを表しているのであろう。

また、日本人男性友人会話 4 と会話 6 に丁寧度の極端に低い語彙罵り言葉が出てきた。具体的な会話は以下の例 4 と例 5 に示したとおりである。まず例 4 を分析すると、二人は話者 JM10 が飲み会で酔っ払ったことについて話し合っている。JM09 は JM10 が当日がらの悪い人に絡まれたことを教えてあげたが、JM10 はぜんぜん覚えてないと強調した。その後のライン番号 492 では「ちゃ、来いよ、この野郎」という罵り言葉の使用が観察された。それは JM09 が会話相手の JM10 の記憶を喚起するため、飲み会当日の JM10 の発話をそのまま引用したと考えられる。つまり、その発話自体は目の前にいる会話相手の JM10 を罵るのではなく、会話相手の JM10 の酔っ払ってからの発話の直接引用である。語彙レベルからみれば、「野郎」という言葉が罵り言葉であるため、文中スピーチレベルでは「V」とコード

<sup>25</sup>会話番号は宇佐美監修 (2013) のデータのトランスクリプトの番号ではなく、改めて振り直した連続の通し番号を使用している。以下も同様である。

イングしたのである。しかし、談話レベルからみれば、それは会話相手の JM10 自身の発話の直接引用であるため、フェイス侵害度が相手を罵るより低いわけである。しかも、フォローアップアンケートの結果からみれば、不愉快に思わないということで、ニュートラルの効果だと推測できる。この会話例 4 は談話レベルで会話を分析するというディスコース・ポライトネス理論の重要性が改めて証明されたといえよう。

#### 例 4

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
489	465	*	JM09	<軽い笑い>トイレで、なんか、ちょっと一、がら悪い人に絡まれとったよ、お前。
490	466	*	JM09	全然覚えてない<やろけど>{<}&#92;。
491	467	*	JM10	<全然>{&#92;}、覚えてない[「全然」を強調して]。
492	468	*	JM09	ちゃ、来いよ、この野郎とか言ってね<笑い>。
493	469	*	JM10	全く覚えてないよ<笑い>[「全く」を強調して]。
494	470	*	JM09	ほんとに<笑いながら>。

次に例 5 を見ると、話者 JM19 はこの言葉を今回の会話調査の依頼者に対して使っているのである。目の前の会話相手の JM20 ではないために、フェイス侵害度はそれほど高くないといえよう。会話相手の JM20 は依頼者のことを「〇〇のやつ」と呼ぶことからみればかなり親しい関係であることが推測できる。話者 JM19 はさらに言葉の丁寧度をさげて罵り言葉の「あのやろう」を使っている。つまり、三人の関係はかなり親密であることが伺える。親しい友人であるために、話題に出てくる人物をへりくだらせて呼んでも許容範囲に収まってニュートラル効果だと認められる。

#### 例 5

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
320	301	*	JM20	「人名 5」のやつ[調査者に対して]。
321	302	*	JM19	あのやろーって<2 人で笑い>[調査者に対して]。

### 4.1.3 文中スピーチレベルについての考察

#### 4.1.3.1 親疎関係による文中スピーチレベルの差異

この節では日本人会話の親疎関係による文中スピーチレベルの差異をみるため、それぞ

れ初対面と友人会話の文中スピーチレベルの結果を以下の図3に示す。

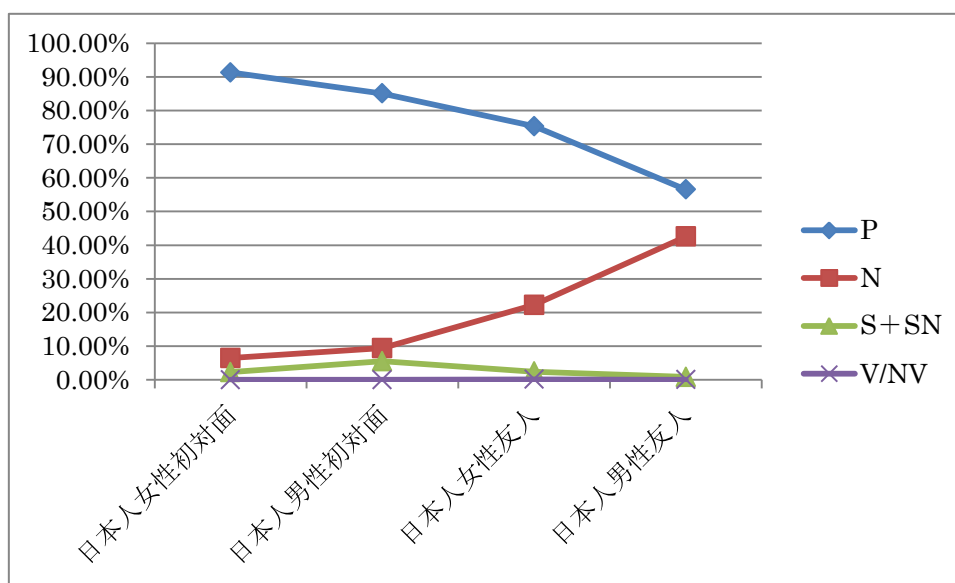


図3 日本文中スピーチレベルの基本状態

図3をみると、日本人初対面会話と友人会話の文中スピーチレベルの基本状態は特にマークする必要のない語彙（ニュートラルな語彙P）であることが明らかになった。B&L(1978)のポライトネス理論で予測されるような初対面会話の基本状態はPであるのに対して、友人同士会話の基本状態がNであるという結果とはなっていない。しかし、日本人会話は男女を問わず、初対面会話から友人会話へとみていけば、Pの割合の減少と、Nの割合の増加の傾向が観察された。

さらに、日本人初対面会話と友人同士会話の文中スピーチレベルにおける親疎関係の有意差があるかどうか確かめるために、それぞれの文中スピーチレベルの各項目を  $t$  検定にかけたことにした。

まず、日本人女性初対面会話と友人同士会話の文中スピーチレベルのニュートラルな語彙Pの差が統計的に有意か確かめるために、有意水準5%で両側検定の  $t$  検定を行ったところ、 $t(5) = 6.41, p < .01$  であり、親疎関係による文中スピーチレベルのニュートラルな語彙Pの差は有意であることがわかった。

さらに、日本人女性初対面会話と友人同士会話の文中スピーチレベルの正式な場面で通常使わない語彙Nの差が統計的に有意か確かめるために、有意水準5%で両側検定の  $t$  検定を行ったところ、 $t(5) = 6.40, p < .01$  であり、親疎関係による文中スピーチレベルの正式な場面で通常使わない語彙Nの差は有意であることがわかった。

次に、日本人男性初対面会話と友人同士会話の文中スピーチレベルのニュートラルな語彙Pの差が統計的に有意か確かめるために、有意水準5%で両側検定の  $t$  検定を行ったところ、



ろ、 $t(5) = 13.67, p < .01$  であり、親疎関係による文中スピーチレベルのニュートラルな語彙 P の差は有意であることがわかった。

同じく、日本人男性初対面会話と友人同士会話の文中スピーチレベルの正式な場面で通常使わない語彙 N の差が統計的に有意か確かめるために、有意水準 5%で両側検定の  $t$  検定を行ったところ、 $t(5) = 13.59, p < .01$  であり、親疎関係による文中スピーチレベルの正式な場面で通常使わない語彙 N の差は有意であることがわかった。また、敬語 S の差が統計的に有意か確かめるために、有意水準 5%で両側検定の  $t$  検定を行ったところ、 $t(5) = 8.35, p < .01$  であり、親疎関係による文中スピーチレベルの敬語 S の差は有意であることがわかった。

女性の結果と合わせてみると、対話者との親疎関係を顕著に反映しているのは文中スピーチレベルのニュートラルな語彙 P と正式な場面で通常使わない語彙 N であることが明らかになった。言い換えれば、話者の関係が親しくなると、ニュートラルな語彙 P の使用が有意に減少し、正式な場面で通常使わない語彙 N の使用が有意に増加する傾向があるといえよう。

B&L(1987)のポライトネス理論によると、「ストラテジーの選択に関わる要因」では、社会言語学的な3つの変数「社会的距離 (D)」、「力関係 (P)」、「相手にかかる負荷度 (R)」から計算されるFTAの負担度が説明されている。FTAの負担度を計算する公式は $W_x = D(S, H) + P(H, S) + R_x$ である。Pという力関係と $R_x$ という相手にかかる負荷度が同じである場合、Dという社会距離(親疎関係)が小さくなると、話者の文中のスピーチレベルにおける言語使用の語彙の丁寧度を有意に下げるというストラテジーが使用されていることが明らかになった。言い換えれば、親疎関係という「社会距離」をより顕著に反映しているのは文中スピーチレベルの中でのニュートラルな語彙Pの減少と正式な場面で通常使わない語彙Nの増加である。例5に示したように、日本人友人同士会話のライン番号445-447では高いという言葉のくだけた言い方の繰り返してB&L(1987)のポライトネス理論でいわれる「相手に一致を求めよ」というポジティブ・ストラテジーの機能を用いていることが確認できる。日本人友人同士の会話では正式な場面で通常使わない語彙N(太字の部分)のほとんどが親の関係である友人関係を明確にするぞんざいな言い方であることに注目する必要がある。

#### 例 6

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容	文中
445	432	*	JWF02	[小さな声で]高くねえ?。	N
446	433	*	JWB02	<b>たか</b> , <あー><{}>。	N
447	434	*	JWF02	<[小さな声で]高い‘ <b>たけえ</b> ’よ><{}>。	N
448	435	*	JWF02	なんか早稲田で本屋こんな高いんだ、“わあー”と思	P

				って、萎えた記憶がある。	
449	436	*	JWB02	そうかなあ。	P
450	437	*	JWB02	生協であんまり本買わないからそういうふうには思わないんだけど><。	N
451	438	*	JWF02	<マジで[↑]><{}、生協、本当やすいよ=。	N
452	439	*	JWF02	=言ったし、わたし、いつも生協でさあ、雑誌とか買ってるもん。	N
453	440	*	JWB02	雑誌なんだ、雑誌<買わないせいか[↓]><{}。	P
454	441	*	JWF02	<雑誌もやすく><{}なるんだよ。	P

#### 4.1.3.2 日本人初対面会話と友人同士会話の文中スピーチレベルの対称性

本研究は、三牧(2013)に倣い、文中のスピーチレベルを相手と同一の基本的なスピーチレベルに設定する対称的パターンと、異なる基本的スピーチレベルに設定する非対称的パターンに分ける。

日本人女性初対面会話の文中スピーチレベルの各項目の総計に占める話者別の割合を次の表 11 にまとめた。まず P の割合を見ると、どの会話でもベース協力者と会話相手の使用はほぼ半分ずつ占めていることが明らかになっている。次に二番目に多い N の割合を見てみると、会話 1 と会話 6 を除き、ベース協力者と会話相手の割合はほぼ半分ずつとなっている。話者自身は意識していないかもしれないが、ベース協力者と会話相手は文中のスピーチレベルの主な構成要素である P と N の使用がほぼ同じぐらいである。言い換えれば、日本人女性初対面会話の文中スピーチレベルの「基本状態」、つまり話者自身の言葉遣いの特徴については、ベース協力者は相手と同一の基本的なスピーチレベルに設定する対称的パターンである。

表 11 日本人女性初対面会話文中スピーチレベルの各項目の総計に占める話者別の割合

会話 番号	話者	S		P		N		SN	
		頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
会話 1	JWB01	14	87.50%	162	49.69%	<b>22</b>	<b>91.67%</b>	2	66.67%
	JWN01	2	12.50%	164	50.31%	<b>2</b>	<b>8.33%</b>	1	33.33%
会話 2	JWN02	3	50.00%	218	51.29%	17	54.84%	1	50.00%
	JWB02	3	50.00%	207	48.71%	14	45.16%	1	50.00%
会話 3	JWN03	9	52.94%	278	48.69%	17	56.67%	0	0.00%
	JWB03	8	47.06%	293	51.31%	13	43.33%	0	0.00%
会話 4	JWB04	12	75.00%	248	55.48%	23	53.49%	2	66.67%
	JWN04	4	25.00%	199	44.52%	20	46.51%	1	33.33%



会話 5	JWN05	4	66.67%	381	51.84%	19	55.88%	0	0.00%
	JWB05	2	33.33%	354	48.16%	15	44.12%	0	0.00%
会話 6	JWB06	3	60.00%	245	46.40%	<b>35</b>	<b>67.31%</b>	0	0.00%
	JWN06	2	40.00%	283	53.60%	<b>17</b>	<b>32.69%</b>	1	100.00%

ローカルな観点から会話 1 と会話 6 について分析する。まず、会話 1 をみると、ベース協力者 JWB01 の N という丁寧度が低く正式な場面で通常使わない語彙の使用率は 91.67% であり、会話相手の 8.33% よりずっと高い。それは文末スピーチレベルと関係があるため、次の 4.2.2.1 節で合わせて分析する。

次に、会話 6 のフォローアップアンケートを調べると、ベース協力者 JWB06 は「相手の方は、初対面の方として、話しやすかったか。」という質問に対して「話しやすい方だった」と答えた。一方、会話相手 JWN06 は同じ質問に対して「少し話しにくかった」と答えた。その理由として「相手と相性が合わない感じだった」と挙げていた。つまり、ベース協力者 JWB06 は相手と親しくなりたいために、N という丁寧度が低く正式な場面で通常使わない語彙 N をより多く使用している。しかし、会話相手 JWN06 はベース協力者と距離を置くように話しており、N の使用率はそれほど高くない結果となっている。そこで、会話 6 ではベース協力者 JWB06 と会話相手 JWN06 の丁寧度が低く正式な場面で通常使わない語彙 N の使用が非対称的パターンになった。しかし、会話 6 のような基本状態から離脱する会話の場合、会話相手 JWN06 はベース協力者の N という丁寧度が低く正式な場面で通常使わない語彙に対して不愉快に思わなかったということからみれば、それが許容範囲に収まっており、ニュートラル効果だといえよう。

一方、日本人男性初対面会話の文中スピーチレベルの各項目の総計に占める話者別の割合を次の表 12 にまとめた。まず P の割合を見ると、どの会話でもベース協力者と会話相手の使用がほぼ半分ずつを占めていることが明らかになっている。話者自身は意識していないかもしれないが、ベース協力者と会話相手に文中のスピーチレベルの主な構成要素である P の使用はほぼ同じぐらいである。さらに会話の話者について分析すると、話者 JBM01 は会話 1 と会話 3 に参加していることが分かった。会話相手は異なるが、文中のスピーチレベル N の割合は両会話とも 6 割ぐらいである。話者 JSM01 は会話 1 と会話 2 に出ており、会話相手が異なるが、文中のスピーチレベル N の割合は両方とも 4 割ぐらいであり、S の割合は両方とも 6 割ぐらいである。つまり、会話相手が変わっても話者の会話スタイルはあまり変わっていないようである。宇佐美 (2001b) で指摘されたように、「文中のスピーチレベル」は話者自身の言葉遣いの特徴の指標となることが視える。

表 12 日本人男性初対面会話文中スピーチレベルの各項目の総計に占める話者別の割合

会話 番号 <sup>26</sup>	話者	S		P		N		SN	
		頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
会話 1	JBM01	6	35.29%	146	54.68%	12	<b>60.00%</b>	2	50.00%
	JSM01	11	<b>64.71%</b>	121	45.32%	8	<b>40.00%</b>	2	50.00%
会話 2	JSM01	10	<b>66.67%</b>	138	50.00%	10	<b>38.46%</b>	1	100.00%
	JBM03	5	33.33%	138	50.00%	16	61.54%	0	0.00%
会話 3	JSM02	10	71.43%	128	59.53%	13	36.11%	1	100.00%
	JBM01	4	28.57%	87	40.47%	23	<b>63.89%</b>	0	0.00%
会話 4	JSM02	11	52.38%	132	49.44%	13	35.14%	5	62.50%
	JBM02	10	47.62%	135	50.56%	24	64.86%	3	37.50%
会話 5	JBM03	2	20.00%	109	44.31%	13	48.15%	1	100.00%
	JSM02	8	80.00%	137	55.69%	14	51.85%	0	0.00%
会話 6	JSM02	12	92.31%	203	51.79%	19	50.00%	2	66.67%
	JBM04	1	7.69%	189	48.21%	19	50.00%	1	33.33%

次に日本人女性友人同士会話の文中スピーチレベルの各項目の総計に占める話者別の割合を次の表 13 にまとめた。まず P の割合を見ると、ベース協力者と会話相手ではほぼ半分ずつを占めていることが明らかになっている。次に二番目に多い N の割合を見てみると、会話 2 を除き、ベース協力者と会話相手の割合はほぼ半分ずつとなっている。日本人女性初対面会話と同じように、話者自身は意識していないかもしれないが、ベース協力者と会話相手は文中のスピーチレベルの主な構成要素である P と N の使用がほぼ同じぐらいである。言い換えれば、日本人女性友人会話の文中スピーチレベルの「基本状態」、つまり話者自身の言葉遣いの特徴については、ベース協力者が相手と同一の基本的なスピーチレベルに設定する対称的パターンである。

表 13 日本人女性友人同士会話文中スピーチレベルの各項目の総計に占める話者別の割合

会話 番号	話者	S		P		N		V		SN	
		頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
会話 1	JWB01	6	66.67%	137	48.58%	45	56.96%	0	0.00%	3	75.00%
	JWF01	3	33.33%	145	51.42%	34	43.04%	0	0.00%	1	25.00%
会話 2	JWB02	5	35.71%	206	53.65%	53	<b>36.55%</b>	2	50.00%	1	6.67%
	JWF02	9	64.29%	178	46.35%	92	<b>63.45%</b>	2	50.00%	14	93.33%

<sup>26</sup> ただし、話者 JSM02 は会話 3、4、5、6 という 4 つの会話に参加している。その中で会話 3 と 4 で N の割合は 35% ぐらいであり、会話 5 と 6 はほぼ半分を占めている。

会話 3	JWB03	2	100.00%	250	50.81%	78	46.43%	0	0.00%	1	50.00%
	JWF03	0	0.00%	242	49.19%	90	53.57%	0	0.00%	1	50.00%
会話 4	JWB04	1	11.11%	212	52.22%	85	51.52%	0	0.00%	7	77.78%
	JWF04	8	88.89%	194	47.78%	80	48.48%	0	0.00%	2	22.22%
会話 5	JWF05	1	100.00%	264	50.97%	60	50.85%	0	0.00%	2	66.67%
	JWB05	0	0.00%	254	49.03%	58	49.15%	0	0.00%	1	33.33%
会話 6	JWB06	2	22.22%	221	49.55%	40	55.56%	0	0.00%	3	75.00%
	JWF06	7	77.78%	225	50.45%	32	44.44%	0	0.00%	1	25.00%

ローカルな観点から会話 2 について分析する。ベース協力者 JWB02 の N という丁寧度が低く正式な場面で通常使わない語彙の使用率は 36.55%であり、会話相手の 63.45%より低い結果となっている。会話終了後のフォローアップアンケートを調べると、「録音されていることを意識したか」という質問に対して、ベース協力者の JWB02 は「かなり意識した」と、会話相手の JWF02 は「少し意識した」と答えた。そして「録音を意識したことが話し方に影響を与えたと思うか」という質問に対して、ベース協力者の JWB02 は「かなり影響した」と、会話相手の JWF02 は「少し影響した」と答えた。さらに、「どのように影響したと思うか」という質問に対して、ベース協力者の JWB02 は「いつもほど盛り上がらなかった気がする」と書いてあった。一方、会話相手の JWF02 は「あまり聞き取りにくいような発音や、意味のわかりにくいスラングなどはあまり使わないように話した点に影響したと考える」と答えた。実際の言葉遣いをみると、ベース協力者の JWB02 の N という丁寧度が低く正式な場面で通常使わない語彙の使用率が低くなったのはいつもほど盛り上がらなかったためであろう。一方、会話相手の JWF02 はスラングなどはあまり使わなくてもいつも通りにくだけた言い方をしているようである。

最後に日本人男性友人同士会話の文中スピーチレベルの各項目の総計に占める話者別の割合を次の表 14 にまとめた。まず P の割合を見ると、どの会話でもベース協力者と会話相手の使用はほぼ半分ずつを占めていることが明らかになっている。話者自身は意識していないかもしれないが、ベース協力者と会話相手は文中のスピーチレベルの主な構成要素である P の使用はほぼ同じぐらいである。言い換えれば、日本人男性友人会話の文中スピーチレベルの「基本状態」、つまり話者自身の言葉遣いの特徴については、ベース協力者と相手の基本的なスピーチレベルのニュートラルな語彙 P が対称的パターンである。一方、正式な場面で通常使わない語彙 N は非対称的パターンとなっている。それは日本人男性友人会話の基本状態であり、話者自身の言葉遣いの特徴でもあるといえよう。

表 14 日本人男性友人同士会話文中スピーチレベルの各項目の総計に占める話者別の割合

会話 番号	話者	S		P		N		SN		NV	
		頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	JM01	1	50.00%	162	46.96%	162	55.86%	2	100.00%	0	0.00%
	JM02	1	50.00%	183	53.04%	128	44.14%	0	0.00%	0	0.00%
2	JM05	0	0.00%	205	50.25%	196	51.99%	1	25.00%	0	0.00%
	JM06	3	100.00%	203	49.75%	181	48.01%	3	75.00%	0	0.00%
3	JM08	1	33.33%	144	42.99%	98	39.84%	1	16.67%	0	0.00%
	JM07	2	66.67%	191	57.01%	148	60.16%	5	83.33%	0	0.00%
4	JM09	1	50.00%	230	54.12%	220	61.28%	1	33.33%	1	100.00%
	JM10	1	50.00%	195	45.88%	139	38.72%	2	66.67%	0	0.00%
5	JM14	0	0.00%	210	54.83%	76	30.77%	0	0.00%	0	0.00%
	JM13	0	0.00%	173	45.17%	171	69.23%	4	100.00%	0	0.00%
6	JM19	3	100.00%	189	48.21%	113	55.67%	1	50.00%	1	100.00%
	JM20	0	0.00%	203	51.79%	90	44.33%	1	50.00%	0	0.00%

まとめると、日本人初対面と友人会話においては男女を問わず、全ペアでベース協力者と会話相手の P の使用はほぼ半分ずつを占めていることが明らかになっている。つまり、文中スピーチレベルの P の使用に関して、ベース協力者は無意識に会話相手と同じ程度使用している。この対称的なパターンが基本状態である。

#### 4.1.3.3 日本人初対面会話と友人同士会話の文中スピーチレベルにおける性差

##### 4.1.3.3.1 日本人初対面会話の文中スピーチレベルにおける性差

この節では日本人初対面会話における性差があるかどうか確かめるために、それぞれの文中スピーチレベルの各項目を  $t$  検定にかけることにした。

まず、日本人初対面の女性会話と男性会話の文中スピーチレベルのニュートラルな語彙 P の差が統計的に有意か確かめるために、有意水準 5% で両側検定の  $t$  検定を行ったところ、 $t(5) = 3.85$ ,  $p < .05$  であり、男女による文中スピーチレベルのニュートラルな語彙 P の差は有意であることがわかった。

次に、日本人初対面の女性会話と男性会話の文中スピーチレベルの正式な場面で通常使わない語彙 N の差が統計的に有意か確かめるために、有意水準 5% で両側検定の  $t$  検定を行ったところ、 $t(5) = 2.09$ ,  $p > .05$  であり、有意差は見られなかった。

さらに、日本人初対面の女性会話と男性会話の文中スピーチレベルの敬語 S の差が統計的に有意か確かめるために、有意水準 5% で両側検定の  $t$  検定を行ったところ、 $t(5) = 7.58$ ,  $p < .01$  であり、男女による文中スピーチレベルの S の差は有意であることがわかった。

つまり、性差を顕著に反映しているのは文中スピーチレベルのニュートラルな語彙 P と

敬語 S であることが明らかになった。言い換えれば、初対面会話においては、女性は男性よりニュートラルな語彙 P をより多く使う傾向が顕著であることが明らかになった。また男性のほうが女性より敬語などを含む発話を有意に多く用いる傾向がある。ニュートラルな語彙 P の結果は今まで報告されている傾向を実証的に裏付けている。しかし、敬語 S の結果は今までの結果と違うものになっている。なぜならば、今回の初対面会話に参加する男性は社会(大学の先生)か大学院生であるため、先生の話が出てくる割合が多いようである。話題に出てくる先生つまり第三者に対して尊敬語を使う傾向があるために、全体的に敬語 S の利用率は大学三年生の女性より有意に多い結果となっているのであろう。

#### 4.1.3.3.2 日本人友人会話の文中スピーチレベルにおける性差

この節では日本人友人会話における性差があるかどうか確かめるために、それぞれの文中スピーチレベルの各項目を  $t$  検定にかけることにした。

まず、日本人友人の女性会話と男性会話の文中スピーチレベルのニュートラルな語彙 P の差が統計的に有意か確かめるために、有意水準 5%で両側検定の  $t$  検定を行ったところ、 $t(5) = 18.94, p < .01$  であり、男女による文中スピーチレベルのニュートラルな語彙 P の差は有意であることがわかった。

次に、日本人友人の女性会話と男性会話の文中スピーチレベルの正式な場面で通常使わない語彙 N の差が統計的に有意か確かめるために、有意水準 5%で両側検定の  $t$  検定を行ったところ、 $t(5) = 17.14, p < .01$  であり、男女による文中スピーチレベルのニュートラルな語彙 P の差は有意であることがわかった。

さらに、日本人友人の女性会話と男性会話の文中スピーチレベルの敬語 S の差が統計的に有意か確かめるために、有意水準 5%で両側検定の  $t$  検定を行ったところ、 $t(5) = 2.80, p < .05$  であり、男女による文中スピーチレベルの S の差は有意であることがわかった。

つまり、性差を顕著に反映しているのは文中スピーチレベルのニュートラルな語彙 P と正式な場面で通常使わない語彙 N 及び敬語 S であることが明らかになった。言い換えれば、初対面会話においては、女性は男性よりニュートラルな語彙 P と敬語 S を有意に多く使う傾向のほうが顕著であることが明らかになった。また男性のほうが女性より正式な場面で通常使わない語彙 N を有意に多く用いる傾向がある。それは今まで報告されている傾向を実証的に裏付けている。それは今回の友人会話に参加する男性は女性と同じように大学三年生であるために、条件がちゃんと統制されており、このような結果となっているのである。

#### 4.2 文末スピーチレベル

宇佐美 (2001a) では「文末」が敬体か常体か一対話相手への配慮、心的距離の調節、待遇の指標となるという予測と指摘がされている。したがって、ポライトネスを論じるにあたり、観察可能な要素として言語的な形式である文末スピーチレベルをみる必要がある。

本節では宇佐美（1998、2001ab、2002 など）の DP 理論に基づき、日本人の初対面の会話と友人同士の会話の文末スピーチレベルをコーディングし、それぞれの基本状態を同定し、その基本状態から離脱する有標行動を分析し、さらにフォローアップアンケートとインタビューを通して、ポライトネスの発話効果を探る。

#### 4.2.1 文末スピーチレベルのコーディングの基準

まず文末のスピーチレベルのコーディングの基準について説明する。文末のスピーチレベルは、言語形式に反映された話し手の相手に対する待遇態度をみるためのものである。ここでいう「文末」は、「です / ます」や「だ」のような、発話文末の最後の要素である。文末のスピーチレベルは、以下表 15 に記す 3 項目に分類する。

表 15 文末のスピーチレベルコーディングの記号とその定義

記号	スピーチレベル	定義
P	Polite form	文末が「です / ます」体やその活用形である発話文
N	Non-polite form	文末が「Polite form」を含まず、常体やその活用形である発話文
NM	No Marker	文末に丁寧度を示すマーカーがない発話文。例:「ええ」、「はい」などのあいづち詞や応答詞、中途終了型発話文など

本研究では日高・伊藤(2007)に倣い、具体的には以下のようにコーディングする。

##### (1) 丁寧体「P」: Polite form

- ① 名詞／形容詞／形容動詞語幹＋です（でした・でしょう）
- ② 動詞＋ます（ました・ましょう・ません）
- ③ ①・②＋終助詞
- ④ ①・②＋接続助詞の文末用法（＋終助詞）
- ⑤ 丁寧な依頼形「してください」（＋終助詞）

##### (2) 普通体「N」: Non Polite form

- ① 名詞／形容動詞語幹＋だ（だった・だろう・ではない）
- ② 形容詞の言い切り形（現在形・過去形）
- ③ 動詞の言い切り形（現在形・過去形・意向形・命令形）
- ④ ①・②・③＋終助詞
- ⑤ ①・②・③＋接続助詞（て・から・ので・けど・が・し）の文末用法（＋終助詞）
- ⑥ 名詞／形容動詞語幹＋終助詞／疑問符（?）
- ⑦ くだけた依頼形「して」「してくれ」（＋終助詞）

##### (3) その他「NM」: No-Marker

- ① 名詞で文が終わっているもの

- 例：「あれ、うちの学校。」「英語の先生。」「こんな感じ。」など
- ② 名詞に格助詞・取立て助詞がついて文が終わっているもの  
例：「みんなで。」「家に。」「学校が。」「～っていう感じで。」など
- ③ 感嘆詞、接続詞、副詞、終助詞などによる一語文  
例：「あら。」「しかし。」「たぶん。」「ねー。」「なんか。」
- ④ ①・②・③以外の述語が省略されている文  
例：「山田。」「一郎さん。」「お名前は?」など
- ⑤ 丁寧さのレベルが認定しにくいもの（例「なんすか」）
- ⑥ 形容動詞の語幹で終了する発話文  
（文末に「だ」が省略されているのか「です」が省略されているのか不明なため）  
例：「わあ、きれい。」など
- ⑦ あいづち詞のみの発話文  
例：「はい。」「ええ。」「いやいや。」など
- ⑧ 応答詞のみの発話文  
例：「はい。」「ええ。」「うん。」「いやいや。」「そう。」「そうか。」など
- ⑨ 中途終了型発話文  
例：「渋谷はもう全然…。」など

ただし、文字化資料では「…」の記号は、基本的に、音声的な言いよどみを表すものであり、必ずしも「NM」とコーディングするとは限らない。「…」は文末においては2つの可能性が考えられる。一つ目は「明日は行けないんです…。」のような場合、文末に「です」があるために、「P」とコーディングする。もう一つは「明日はちょっと…。」のような場合、「…」の前に文末として判断できる要素がないため、文末は「NM」とする。

また、挨拶などの定型表現については、表16のようにコーディングする。例：「こんにちは」と「ごめんなさい」は、「です / ます」はないが、「です・ます体」と同じ程度の丁寧度であるため、「P」とする。

表16 文末における定型表現のコーディング基準

P	よろしく願いいたします・よろしく願います・申し訳ございません・申し訳ありません・おはようございます・こんにちは・ありがとうございます・ごめんなさい・すみません
N	ごめん・すまない・すまん・おはよう・ありがとう・よろしく

\*「て形」について

「て形」で終了している発話文については、エクセルの文中のセルでその語彙の丁寧度をコーディングするために、文末のセルでは「て形」の前が敬体か常体かによってコーディングする。

表 17 「て形」のコーディング

発話内容	文中	文末
召しあがって	S	N
召しあがりまして	S	P
食べて	P	N
食べまして	P	P
食って	N	N
食いまして	N	P

文末をコーディングする場合、以下のことが注意点として挙げられる。

①倒置文の場合、本来の文末に来るはずの部分をコーディングの対象とする。

例：「行きます、明日。」のような場合は「行きます」をコーディングの対象とすることになる。

②発話文の最後に口癖やあいづち等のものが来た場合はその前の発話文をコーディングの対象とする。

例：「そうですか、へー。」の場合は「へー」は文末のコーディングの対象にはしない。

③「みたいな(で)」「とか」については、文末に出てくる終助詞的なものであるため、スピーチレベルは「みたいな」の前の部分で判断する。

例：体力が付いていかないみたいな[無声]。

文末：「付いていかない」⇒N

例：ないから、もう行って大丈夫かとか<軽く笑い>。

文末「大丈夫か」⇒N

以下に、文末のスピーチレベルのコーディングの例を示す。

例 7 文末のスピーチレベルのコーディング例

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容	文末
1	1	*	JWN02	こんにちは<笑い>。	P
2	2	*	JWB02	こんにちは<2人で笑い>。	P
3	3	*	JWN02	ええと。	NM
4	4	*	JWN02	《沈黙 2 秒》はい。	NM
5	5	*	JWB02	はい。	NM
6	6	*	JWN02	え、名前からですよね。	P
7	7	*	JWB02	そうで<すね><く>。	P



8	8	*	JWN02	<あ>{>, 「JWN02 姓名」です。	P
9	9	*	JWB02	あ、どうも「JWB02 姓名」と言います。	P
10	10	*	JWN02	[小さな声で]あ、そう。	NM
11	11	*	JWB02	ええと、早稲田の学生さん[小さな声で]ですよ?。	P
12	12	*	JWN02	=はい、早稲田の、ええと、文学部の3年で。	NM
13	13	*	JWB02	あ。	NM
14	14	*	JWN02	はい、[小さい声で]なるほど。	NM
15	15	*	JWB02	ええと、私は教育学部の3年です。	P
16	16	*	JWN02	[小さい声で]あ、なるほど、はい。	NM
17	17	*	JWB02	お願い<笑いながら><します><>。	P
18	18	*	JWN02	<笑いながら><お願いします><><2人で笑い>。	P
19	19	*	JWN02	えー、何だろう。	N
20	20	*	JWB02	<ちょっと笑い>。	#
21	21	*	JWB02	《沈黙3秒》え、サークルとか入ってます[↑]。	P
22	22	*	JWN02	サークル入っていないんですよ。	P
23	23	*	JWB02	=あ、そうなんですか。	P

## 4.2.2 文末スピーチレベルについての考察

### 4.2.2.1 日本人初対面会話の文末スピーチレベル

この節では、日本人初対面会話の文末のスピーチレベルの結果について分析する。女性の会話と男性の会話という2つの部分からなっている。

まず、文字化された日本人女性初対面会話データを4.2.1小節の基準に従って、文末のスピーチレベルの観点からコーディングした。さらに、信頼性を確認するために、20%について第二評定者がコーディングし、評定者間信頼性係数を測った結果、 $\kappa = 0.81$  という数値が得られた。

その後、宇佐美(2010)のBTSJ集計ソフトで会話ごとにその各項目の数を集計する。さらに、6会話の各項目の割合の平均値を算出すると、表18の結果となる。

表18 日本人女性初対面会話文末スピーチレベルの各項目の割合

会話番号	P(Polite form)		N(Non-polite form)		NM(No Marker)	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	9	2.49%	156	43.21%	196	54.29%
2	168	36.21%	90	19.40%	206	44.40%
3	316	51.13%	129	20.87%	173	27.99%
4	209	41.06%	101	19.84%	199	39.10%

5	273	35.23%	127	16.39%	375	48.39%
6	230	39.25%	127	21.67%	229	39.08%
平均	201	36.37%	122	22.04%	230	41.59%

つまり、日本人女性初対面会話の文末スピーチレベルの基本状態では、P / N / NM の比率は 36.37% / 22.04% / 41.59%である。一番多いのは文末に丁寧度を示すマーカーがない発話文 (NM) であり、全体の 41.59%を占めている。次に多いのは「です・ます」体 (P) であり、全体の 36.37%となる。一番少ないのは「だ」体 (N) であり、全体の 22.04%である。つまり、日本人女性初対面会話における文末スピーチレベルの基本状態では、文末に丁寧度を示すマーカーがない発話文 (NM) は全体の 4 割強で、「です・ます」体 (P) は 4 割弱で、「だ」体は 2 割程度である。

次に日本人男性初対面会話の文末のスピーチレベルをみてみよう。第三章の 3.2.5 で説明した宇佐美 (2013) に収録されている会話データから選出された 6 会話を同じく 4.2.1 小節の基準に従って、文末のスピーチレベルの観点からコーディングした。さらに、信頼性を確認するために、20%について第二評定者がコーディングし、評定者間信頼性係数を測った結果、 $\kappa = 0.81$  という数値が得られた。

その後、宇佐美 (2010) の BTSJ 集計ソフトで会話ごとに、その各項目の数を集計する。さらに、6 会話の各項目の割合の平均値を算出すると、表 19 の結果となる。

表 19 日本人男性初対面会話文末スピーチレベルの各項目の割合

会話番号	P(Polite form)		N(Non-polite form)		NM(No Marker)	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	159	51.62%	16	5.19%	133	43.18%
2	131	41.19%	24	7.55%	163	51.26%
3	131	49.25%	27	10.15%	108	40.60%
4	165	49.55%	37	11.11%	131	39.34%
5	155	54.58%	28	9.86%	101	35.56%
6	209	46.86%	57	12.78%	180	40.36%
平均	158	48.47%	32	9.82%	136	41.71%

表 19 に示したように、日本人男性初対面会話の文末スピーチレベルの基本状態では、P / N / NM の比率は 48.47% / 9.82% / 41.71%である。一番多いのは「です・ます」体 (P) であり、全体の 48.47%を占めていて、約半分である。日本人女性初対面の 36.37%を上回る結果となった。次に多いのは文末に丁寧度を示すマーカーがない発話文 (NM) であり、全体の 41.71%となり、日本人女性初対面の 41.59%とほぼ同じぐらいである。一番少ないのは「だ」体 (N) であり、全体の 9.82%にすぎない。日本人女性初対面の 22.04%よりかなり少ない結

果となる。つまり、日本人男性初対面会話における文末スピーチレベルの基本状態では、「です・ます」体 (P) が全体の半分を占めていて、文末に丁寧度を示すマーカがない発話文 (NM) は全体の 4 割程度で、「だ」体 (N) は 1 割弱である。三牧(2013)で指摘されたように、「中途終了文を除き、最も違いの際立つ丁寧体と普通体の 2 種類の分布に注目すれば、50%以上を占める方のスピーチレベルが基本的スピーチレベルとなる。中途終了文も含めて分布を示すのであれば、最も多い分布ということになる」。

さらに、宇佐美(2001b:14)にならい、「諸要素のダイナミックな総体としてのディスコース・ポライトネスの観点から、中途終了型発話などの丁寧度を示すマーカのない発話 (NM) の機能を探るために、各話者の総発話文数から丁寧度を示すマーカのない発話 (NM) を除いた、丁寧度を示すマーカがある発話文の総数に占める割合を算出した」という処理を行った。日本人女性初対面会話の場合、中途終了文などの NM を除けば、「です・ます」体 (P) の割合は 62.31%を占め、「だ体」N の割合は 37.69%である。一方、日本人男性初対面会話の場合、中途終了文などの NM を除けば、「です・ます」体 (P) の割合は 83.15%を占め、「だ体」N の割合は 16.85%である。それを図で示すと以下の図 4 のとおりである。

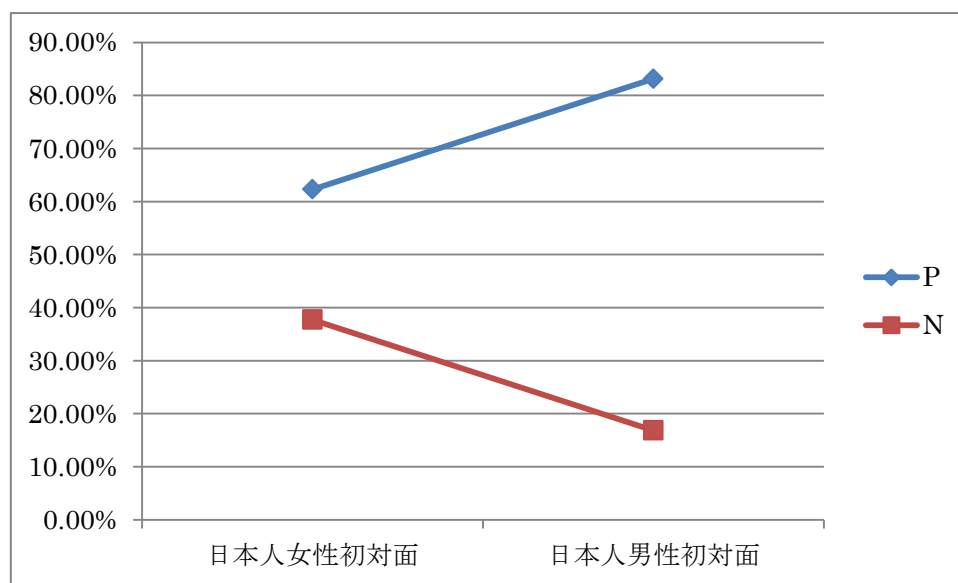


図 4 日本人初対面会話の文末スピーチレベルの基本状態 ((NM) を除いた結果)

グローバルな観点からみると、図 4 で示したように、日本人初対面会話では、男女を問わず、中途終了文などの NM を除けば、「です・ます」体 (P) の割合は 50%以上を占めているため、基本的スピーチレベル(基本状態)となっていると言えよう。

また、日本人初対面会話データは男女を問わず、「です・ます」体 (P) の割合は「だ」体 (N) より高いということである。つまり、日本人初対面会話の文末のスピーチレベルの基本状態では、「です・ます」体 (P) が「だ」体 (N) より多いということである。

次にローカルな観点から表18と表19の結果を分析すると、女性と男性合計12会話の中で女性初対面会話1だけは基本状態と違って、Nの割合43.21%はPの2.49%を大幅に上回っていることが分かる。これは基本状態から離脱する有標な行動だといえよう。

具体的に会話1の内容を分析すると、例8に示したように、会話の最初の部分ではベース協力者JWB01が会話相手JWN01の学年を聞いた際に同じ三年生だと分かったため、「タメ語で…」(ライン番号11)と提案しているのである。会話相手JWN01は最初戸惑っている様子で、ベース協力者JWB01の「えっ、何学部[↑]」(13)という質問に対して、「教育…」(14)というような中途終了型発話で答えている。これは初対面会話相手に対して、社会規範通りに「です・ます」体を使った方がいいのか、それともベース協力者JWB01の提案にのって常体を使った方がいいのか迷っている様子が伺える。一方、ベース協力者JWB01は「教育なんだ、私、政経なんだけど<笑い>。」(15)「あ、そっか。」(19)「じゃ、知り合いはいないなあ。」(20)と言って、文末では常体(だ体)を使っている。

その後、ベース協力者JWB01が遅刻したことを謝ったり(ライン番号22-26)する場合も文末においてずっと常体が使われている。次に「《沈黙1秒》えっ、中国語にいない?[↑]。」(27)と聞いたところで、会話相手は依然として「えっ、なん、あもう、友達がチュートリアル中国語取ってて、それで友達で紹介で…」(28)という中途終了型発話で使用されている。「それで2外はなに?。」(30)の質問に対して、会話相手は「2外は、ええと、二年生までしかやっていないけど、スペイン語。」と体言止め(NM)を使っている。

次にベース協力者が中国語を履修するときの体験を話す時、「アウェーすぎて、きつい。」(34)と文末のスピーチレベルは相変わらず常体である。今度はベース協力者はそれに合わせて「えっ、どう、アウェー?。」(N)と文末に常体を使うようになった。そのあとの二人の発話は文末においてほとんど「だ」体(N)で進んでいくのである。ベース協力者JWB01は文末のスピーチレベルを「だ」体(N)にさげることで相手との心的な距離を縮めようとしている。それに対して、会話相手は最初戸惑ったりしていたが、しばらくしてベース協力者の話し方にあわせて「だ」体(N)で話すようになった。三牧(2013)で指摘されたように、「普通体+て」や中途終了型発話は丁寧体の堅苦しさを緩和し、親密感を醸し出し、平衡を保つための「働きかけ」戦略であると考えられる。つまり、会話相手JWN01はベース協力者JWB01のため語の提案に対してすぐののって同じように常体「だ体」を使用するのでなく、中途終了型発話でまず丁寧体の堅苦しさを緩和し、親密感を醸し出した上で、常体「だ体」を使うようになったというプロセスが明らかになっているといえよう。

例8

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容	文末
1	1	*	JWB01	初めまして。	P

2	2	*	JWN01	初めましてよろしくお願いします。	P
3	3	*	JWB01	お名前は…。	NM
4	4	*	JWN01	「JWN01 姓名」です。	P
5	5	*	JWB01	「JWN01 姓名」, 私は「JWB01 姓名」って言います。	P
6	6	*	JWN01	「JWB01 姓名」さん、<よろしくお願ひします>{<}>。	P
7	7	*	JWB01	<お願ひします>{<}>。	P
8	8	*	JWB01	何年生ですか。	P
9	9	*	JWN01	三年です。	P
10	10	*	JWB01	あつ、じゃ、ためで、<笑いながら>###で。	#
11	11	*	JWB01	三年、<笑いながら>タメ語で…。	NM
12	12	*	JWN01	あ。	NM
13	13	*	JWB01	えっ、何学部[↑]。	N
14	14	*	JWN01	教育…。	NM
15	15	*	JWB01	教育なんだ、私、政経なんだけど<笑い>。	N
16	16	*	JWN01	あつ。	NM
17	17	*	JWB01	何専攻…。	NM
18	18	*	JWN01	えっと、こく、国語国文学科で。	NM
19	19	*	JWB01	あ、そっか。	N
20	20	*	JWB01	じゃ、知り合ひはいないなあ。	N
21	21	*	JWN01	ああ。	NM
22	22	*	JWB01	私教育心理とかだと、三・四人ぐらい、友達いるんだけど、遅れて<笑いながら>ごめんね。	N
23	23	*	JWN01	いいえ、いいえ。	NM
24	24	*	JWB01	2204 ‘にのにまるよん’ だったから、向こうの<笑いながら>二号館かな～と思って。	N
25	25	*	JWN01	ああ。	NM
26	26	*	JWB01	反対側からこうぐるって回っていた。	N
27	27	*	JWB01	《沈黙 1 秒》えっ、中国語にいない?[↑]。	N
28	28	*	JWN01	えっ、なん、あのう、友達がチュートリアル中国語取ってて(うんうんうん)、それで友達の紹介で…。	NM
29	29	*	JWB01	あつ、はいはいはい。	NM
30	30	*	JWB01	それで 2 外はなに?。	N
31	31	*	JWN01	2 外は、ええと、二年生までしかやっていないけど、スペイン語。	NM
32	32	*	JWB01	うんうんうん。	NM

33	33	*	JWB01	私も同じ二年生(あつ)までしかやっついてられない。	N
34	34	*	JWB01	なぜか、こう、中国語をやっついた方がいいかなと思って、商学部の、総合中国語っていう授業を履修したんだけど、あのう、なんか、〈笑いながら〉アウェーすぎて、きつい。	N
35	35	*	JWN01	えっ、どう、アウェー？。	N

日本人女性初対面会話1は文末スピーチレベルの基本状態から離脱しているものだといえよう。しかし、その会話1を分析すると、「だ」体 (N) で会話をするのは二人の話し合いによって決まった基本状態だと思われる。つまり、グローバルな観点からみていくと、この会話1は日本人女性初対面会話の基本状態から離脱するものである。しかし、ローカルな観点からみれば、会話1の文末スピーチレベルの基本状態は「だ」体 (N) である。

この会話1の中では「タメ語で…。」というベース協力者の提案は文末の基本状態を変える重要な発話だと思われる。その提案に従うのか、規範に従うのかにおいて最初は会話相手の中で迷いがあったが、ベース協力者 JWB01 が常に「だ」体 (N) で話しかけることにより、会話相手がそれに合わせて常体で会話を進めていくようになった。そこで、「タメ語で…。」というベース協力者の発話は会話1の中での有標行動だと捉えられる。その有標行動がもたらす発話効果を探るために、会話終了後のフォローアップアンケートを調べた結果、会話相手はそれに対して全く不愉快に感じなかったという答えであった。しかも、相手と「気が合うような感じだった」と書いている。宇佐美 (1998、2001ab、2002 等) の DP 理論の観点からみて、不快感をもたらさないということで、話し手と聞き手の「見積もり差」が、「許容できるずれ幅 ( $\pm \alpha$ )」の範囲内に収まる行動である「適切行動」とみなされる例である。ポライトネス効果の観点からは、プラス効果を生むか、ニュートラル効果になる。会話相手のフォローアップアンケートの答えから判断して、基本状態から離脱する有標行動はここではプラス効果となっているといえよう。

その有標行動は文末スピーチレベルだけでなく、4.1.3.2 で指摘されたように文中スピーチレベルにも影響を与えたのである。提案者であるベース協力者 JWB01 は文中スピーチレベルにおいて、丁寧度の低く正式な場面で通常使わない語彙の使用率は 91.67%であり、会話相手 JWN01 の 8.33%を大きく上回っていることが明らかになった。宇佐美(2001b)で指摘されたように「文中のスピーチレベルは話者自身の言葉遣いの特徴の指標となる」。つまり、親密関係を表すタメ語を提案したベース協力者 JWB01 は文末だけでなく、自身の言葉遣いの丁寧度を下げている傾向がある。一方、宇佐美(2001b)で指摘されたように、「文末スピーチレベルは対話相手への配慮、心的距離の調節、待遇の指標となる」。会話相手 JWN01 は相手への配慮を考えたいうえで、文末スピーチレベルを下げることを選んだといえよう。しかし、二人の会話が初対面会話であるために、会話相手 JWN01 は社会規範に従い、自分自身の言葉遣いの丁寧度は上げていないようである。言い換えれば、会話相手 JWN01 の場合は文中スピーチレベルで社会規範を守りつつ、文末スピーチレベルで心的距離を縮め、

相手への配慮をするのであろう。

#### 4.2.2.2 日本人友人同士会話の文末スピーチレベル

この節では、日本人友人会話の文末のスピーチレベルの結果について分析する。女性の会話と男性の会話という2つの部分からなっている。

まず、文字化された日本人女性友人話データを4.2.1小節の基準に従って、文末のスピーチレベルの観点からコーディングした。さらに、信頼性を確認するために、20%について第二評定者がコーディングし、評定者間信頼性係数を測った結果、 $\kappa = 0.78$  という数値が得られた。

その後、宇佐美(2010)のBTSJ集計ソフトで会話ごとに、その各項目の数を集計する。さらに、6会話の各項目の割合の平均値を算出すると、表20の結果となる。

表20 日本人女性友人会話文末スピーチレベルの各項目の割合

会話番号	P		N		NM	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	7	1.87%	256	68.45%	111	29.68%
2	22	3.93%	375	66.96%	163	29.11%
3	12	1.80%	430	64.66%	223	33.53%
4	9	1.53%	390	66.21%	190	32.26%
5	5	<b>1.60%</b>	<b>162</b>	<b>51.76%</b>	<b>146</b>	<b>46.65%</b>
6	22	4.14%	345	64.97%	164	30.89%
平均	13.33	2.38%	359.33	<b>64.19%</b>	187.17	33.43%

表20に示したように、日本人女性友人会話の文末スピーチレベルの基本状態では、P/N/NMの比率は2.38%/64.19%/33.43%である。日本人女性初対面会話と違って一番多いのは「だ」体(N)であり、全体の64.19%を占めている。初対面女性会話(22.04%)の3倍ほどある。次に多いのは文末に丁寧度を示すマーカがない発話文(NM)であり、全体の33.43%となる。初対面女性会話の41.59%を下回った結果となる。一番少ないのは「です・ます」体(P)であり、全体の2.38%にすぎない。初対面女性会話(36.37%)を大きく下回る結果となった。

つまり、日本人女性友人会話における文末スピーチレベルの基本状態は「だ」体(N)であり、全体の6割強を占めている。文末に丁寧度を示すマーカがない発話文(NM)は全体の3割強で、「です・ます」体(P)は2.38%しかない。

次に日本人男性友人会話の文末のスピーチレベルをみてみよう。第三章の3.2.5で説明した宇佐美(2013)に収録されている会話データから選出された6会話を、同じく4.2.1小節の基準に従って、文末のスピーチレベルの観点からコーディングする。さらに、信頼

性を確認するために、20%について第二評定者がコーディングし、評定者間信頼性係数を測った結果、 $\kappa=0.76$  という数値が得られた。

その後、宇佐美（2010）の BTSJ 集計ソフトで、会話ごとにその各項目の数を集計する。さらに、6 会話の各項目の割合の平均値を算出すると、表 21 の結果となる。

表 21 日本人男性友人会話文末スピーチレベルの各項目の割合

会話番号	P		N		NM	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	30	4.70%	348	54.55%	260	40.75%
2	16	2.02%	582	73.48%	194	24.49%
3	11	1.86%	371	62.88%	208	35.25%
4	28	3.54%	465	58.86%	297	37.59%
5	20	3.15%	386	60.88%	228	35.96%
6	12	2.00%	362	60.23%	227	37.77%
平均	19.50	2.89%	419.00	<b>62.15%</b>	235.67	34.96%

表 21 に示したように、日本人男性友人会話の文末スピーチレベルの基本状態では、P/N/NM の比率は 2.89% / 62.15% / 34.96% である。日本人女性友人会話（64.19%）と同じく一番多いのは「だ」体（N）であり、全体の 62.15% を占めている。次に多いのは文末に丁寧度を示すマーカがない発話文（NM）であり、全体の 34.96% となる。日本人女性友人会話の 33.43% とほぼ同じぐらいである。一番少ないのは「です・ます」体（P）であり、全体の 2.89% にすぎない。日本人女性友人会話の 2.38% と大体同じである。

日本人男性友人会話における文末スピーチレベルの基本状態は、「だ」体（N）であり、全体の 6 割強を占めている。文末に丁寧度を示すマーカがない発話文（NM）は全体の 3 割強で、「です・ます」体（P）は 2.89% しかない。

また、日本人友人同士会話の文末スピーチレベルの全体像をみるため、表 20 と表 21 の結果を図 5 に示す。



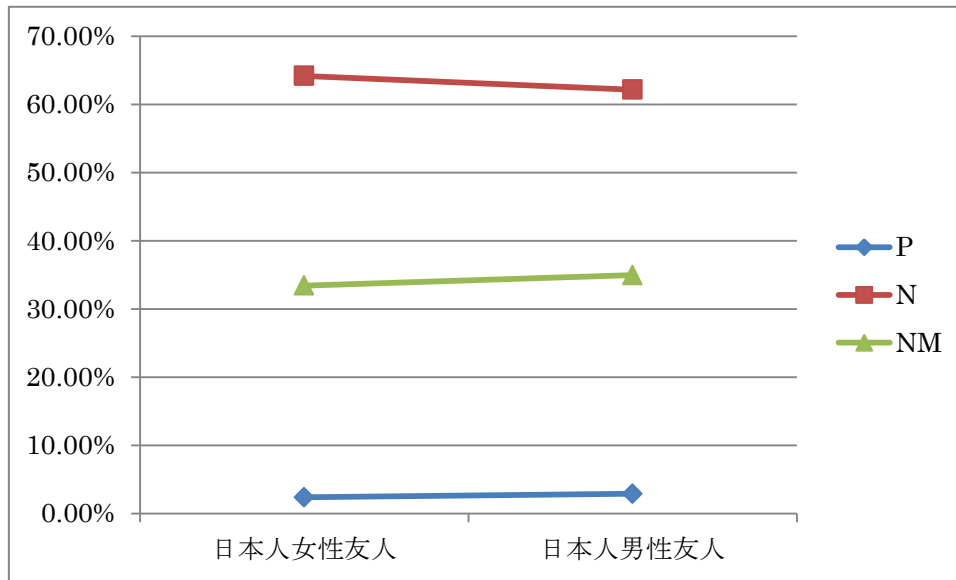


図5 日本人友人同士の文末スピーチレベルの基本状態

グローバルな観点からみていくと、図5に示したように、日本人友人同士会話データは男女を問わず、一番高いのは「だ」体(N)であることが明らかになった。つまり、日本人友人同士会話の基本状態は「だ」体(N)であり、全体の6割強を占めている。文末に丁寧度を示すマーカがない発話文(NM)は全体の3割強であり、「です・ます」体(P)はほんのわずか(3%未満)である。

次にローカルな観点から、日本人女性友人会話のスピーチレベルの表21の結果を分析すると、会話5の「だ」体(N)の割合は51.76%であり、基本状態の64.19%より10%以上低いことが観察される。協力者のフェイスシートを調べると、他の会話では二人の親疎関係への評価は「親友」か「最親友」であるのに対して、会話5だけは相手との関係が「いわゆる友達」と判断された。つまり、会話5の親疎関係は初対面から親友(最親友)までの間にあるために、文末のスピーチレベルも初対面と親友の間になっていると解釈できる。言い換えれば、文末のスピーチレベルはある程度、相手との距離を反映しているといえよう。

#### 4.2.2.3 文末スピーチレベルの各項目の差異

##### 4.2.2.3.1 文末スピーチレベルの各項目の性差

文末スピーチレベルの性差を調べるために、両側検定の $t$ 検定を行った。日本人初対面の女性会話と男性会話の各項目が統計的に有意か確かめるために、有意水準5%で両側検定の $t$ 検定を行ったところ、 $t(5) = 2.92, p < .05$ であり、男女による文末スピーチレベルの常体Nの差は有意であることがわかった。初対面会話においては、女性がより多く敬体Pを使うのではなく、より多く常体Nを使うという傾向のほうが顕著であることが明らかになった。つまり、性差を顕著に反映しているのは敬体「です体」の使用ではなく、女性の常

体「だ体」の使用であることが分かる。B&L(1987)のポライトネスが予測するような、初対面会話において女性は男性より敬体「です・ます体」が多用されるという結果にはなっていないことが明らかである。しかし、初対面女性会話は男性より常体 N を使用する割合の多さが有意であることが分かった。つまり、女性は初対面会話において相手との共感を重視する(Tannen1986)ために、言語形式では男性と比較して親しみを表す常体 N が多用される傾向があるといえよう。一方、男性は社会規範をより重視するために、初対面会話において女性と比較して敬体 P の多用が観察された。

一方、友人同士の女性会話と男性会話の各項目が統計的に有意か確かめるために、有意水準 5%で両側検定の  $t$  検定を行ったところ、性による有意差は見られなかった。従って日本人友人同士会話の性差を探るために、日本人男性友人同士で選択された話題を以下の表 22 にまとめた。

表 22 日本人男性友人同士で選択された話題

1 (17)	キャンパス、学食、朝食、ジム、サークルの練習、試合、ドラマ、予備の話題、サークルの部員、知り合いの女の子、アニメ、自分の性格、進路、野球部、サッカー部の殴り合いのけんかのこと、部員への不満、飲み会
2 (16)	写真、プリクラ、彼女の話、サークル、話者の元彼女、デート、通学、会話相手の元の彼女、元彼女との奇遇、会話時間、予備の話題、学会、好きな子、好きなタイプ、サークルの部員、マネージャー
3 (15)	朝食、旅の計画、予算、絶叫マシン、彼女の作り方、旅行の準備、リュック、腹巻、『あいのり』、予備の話題、相手がもてもての話、尾行されたこと、電車での痴漢、共通の知人、うわさ話（〇〇君が〇〇子を狙っている）
4 (20)	バイト、お菓子の食べ方、予備の話題、レポート、進級できないこと、出席率、ダイエット、英語の授業、成績、試験、飲酒、飲み会、酔っ払いの時の醜態、金のネックレスをなくしたこと、二日酔い、飲み代、飲み屋、小説、勉強、共通の知人
5 (17)	調査について、留学の説明会、トイフル、会話時間、留学の場所、留学の同伴者、チャットと bbs の区別、メル友の自殺の話、（体の関係があるかどうかの確認）、予備の話題、共通の知人、好きなタイプ、彼女の作り方、恋の好み、プリクラ、サークル、ラジオ放送、この大学の学生の特徴
6 (20)	スタート、最近のこと、救急車に運ばれたこと、事故にあった経緯、恋の悩みの相談、飲み会の醜態、研究会、先生、アンケート、予備の話題、ライブ、授業、カラオケ、学園祭、サークルの仲間、試合、彼女との関係、風俗、キャバクラ、バイト

表 22 に示したように、会話 4 以外の日本人男性友人会話に女子の話が出てきた。例えば「知り合いの女の子、元彼女、彼女の作り方、好きなタイプ、恋の悩みの相談」など非常に親密な話題が選択されている。会話 4 の場合、進級できないという悩みの相談や酔っ払い

の時の醜態など親密度の高い話題が選択されている。表 22 では各会話における親密度のより高い話題を太字で表記した。会話 1 ではサッカー部の殴り合いのけんかというわき話や、部員への不満などの悩み事が選ばれている。会話 2 では元彼女や今好きなタイプという話題を中心に会話を進めているのである。会話 3 では彼女の作り方や、自分がもてもての自慢話や、電車での痴漢の話や、〇〇君が〇〇子を狙っているといううわき話などが選択された。会話 5 ではメル友の自殺の話をしたとき、すぐ会話相手に体の関係があるかどうかと聞かれている。あとは好きなタイプとか恋の悩みなどの話題に触れた。会話 6 では恋の悩みの相談、飲み会の醜態だけでなく、風俗、キャバクラの話まで出てきた。つまり、日本人男性友人会話では親密な話題が選択される傾向があるといえよう。一方、日本人女性友人同士で選択された話題を以下の表 23 にまとめた。

表 23 日本人女性友人同士で選択された話題

会話 1 (15)	<b>年齢</b> 、就活、共通の友人、イギリス、サラリーマンと結婚したい女の子、 <b>自分の理想的な家庭生活</b> 、結婚、姪っ子、 <b>将来の子どものこと</b> 、十年後の自分（授業の宿題）、母親の出産、母親の育児経験、同級生の話、従兄弟の話、兄の話
会話 2 (18)	天気、早慶戦、サークル、青春、夢、理想の年収、食事、お土産、家庭の食習慣（孤食）、 <b>甘党の父親への不満</b> 、 <b>海外でモテモテなこと</b> 、介護、就活、 <b>性格</b> 、授業での遅刻のこと、本屋、雑誌、洋服
会話 3 (18)	<b>授業をサボること</b> 、発表、アイスランド、地学、物理、ゲーム（モンハン）、公務員試験、進路、区役所の内定、新宿の区役所のこと、公務員宿舍、地震、共通の友人、カラオケ、誕生日プレゼント、日本未来科学館、ギネス、ネイル
会話 4 (18)	秘書検定、職業、マイナビ診断、 <b>性格</b> 、 <b>女友達間のギクシャク</b> 、 <b>愚痴</b> 、人間関係、将来の仕事、 <b>想像する社内恋愛</b> 、噂、ゼミ、飲み会、教員食堂、キャンパスツアーのガイドの面接、研修、実践、学校のマーク、モーニング娘
会話 5 (19)	会話時間の確認、コピー、イベントの教室、コピーカード、レジュメ、課題、レポート、ゼミ、イベントのメニュー、イベントの担当、ハセガワ弁当、メール、イベントのポスター、イベントの宣伝、イベントの資料を置くこと、イベントの分担、イベントの代表の候補、就活、サークル
会話 6 (20)	トイック、家族三人が受けること、 <b>JWB06 の父親が大学生である話</b> 、弟、映画、韓国と日本の古代史、JWB06 の母親の仕事、JWF06 の父親の仕事、兄弟、部屋の配分、父親の単身赴任、家族旅行、祖父の話、一人旅、修学旅行、合宿、国内旅行、沖縄、相手の家族旅行、デスノート

表 23 に示したように、日本人女性友人会話では太字で表記する親密な話題が男性より少ないことは明らかである。しかも、会話 1 では自分の理想的な家庭生活、結婚、将来の子どものことなど今現在の現実的な話ではなくて、想像した将来の話である。会話 4 の想像する社内恋愛も非現実的な話である。そうすると、会話 2 と会話 4 だけが現実的な親密な話題に触れているのである。しかし、日本人男性友人会話と違って彼氏など親密度の高い恋愛話は一つも観察されなかった。

つまり、日本人男性は女性と違って、彼女など親密な話題を選択することによって親しみを表しているといえよう。

まとめてみれば、日本人女性は文末スピーチレベルの敬体「です・ます体」P から常体「だ体」N へのシフトという言語形式の語彙の丁寧度をさげることで親しみを表すのである。それに対して、日本人男性は彼女など親密な話題を選択することによって親しみを表しているといえよう。親しみを表す方法は違うが、親疎関係によって、それぞれのストラテジーを使用することが認められた。

B&L(1987)のポライトネス理論によると、「ストラテジーの選択に関わる要因」では、社会言語学的な3つの変数「社会的距離 (D)」、「力関係 (P)」、「相手にかかる負荷度 (R)」とその3つの変数から計算されるFTAの負担度が説明されている。FTAの負担度を計算する公式は $W_x = D(S, H) + P(H, S) + R_x$ である。Pという力関係と $R_x$ という相手にかかる負荷度が同じである場合、Dという社会距離(親疎関係)が小さくなると、話者はそれぞれ親しみを表すストラテジーが使用されていることが明らかになった。

#### 4. 2. 2. 3. 2 親疎関係による文末スピーチレベルの各項目の差

この節では親疎関係による文末スピーチレベルの差異を考察するために、宇佐美(2001b)と同じように、丁寧度を示すマーカーのない発話を除外して考えることにした。それによって、丁寧度を示すマーカーのある発話の本来の機能が、より明確に見えてくると同時に、中途終了発話などの丁寧度を示すマーカーのない発話(NM)がディスコース・ポライトネスの中で果たす役割も探ることができるのである。したがって、NMを除いた結果を以下の図6に示す。

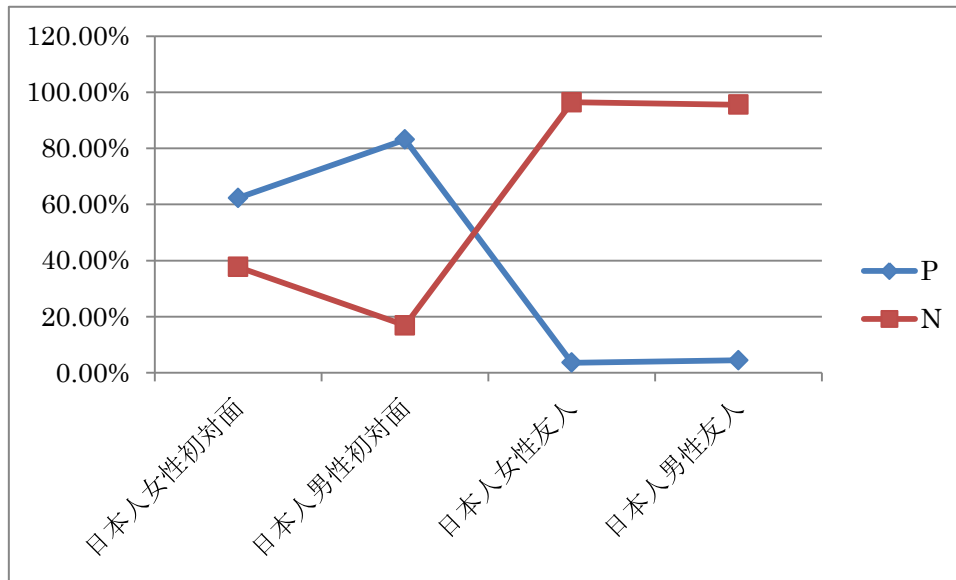


図6 NMを除いた日本人会話における文末スピーチレベル基本状態

図6をみると、日本人初対面会話の基本状態は男女を問わず、「です・ます」体Pである。一方、日本人友人同士会話の基本状態は男女を問わず、「だ」体Nであることが明らかになった。B&L(1978)のポライトネス理論では予測される結果と一致しているといえよう。また、日本人会話の話者関係は初対面から友人同士へとみていけば、敬体「です・ます」体Pの減少と、「だ」体Nの増加が観察された。

さらに、親疎関係による文末スピーチレベルの差を調べるために、両側検定の  $t$  検定を行った。日本人女性初対面会話と友人同士会話の文末スピーチレベル敬体「です・ます」体Pの差が統計的に有意か確かめるために、有意水準 5%で両側検定の  $t$  検定を行ったところ、 $t(5) = 4.73, p < .01$  であり、親疎関係による文末スピーチレベルのPの差は有意であることがわかった。

同じく、日本人女性初対面会話と友人同士会話の文末スピーチレベル常体「だ」体Nの差が統計的に有意か確かめるために、有意水準 5%で両側検定の  $t$  検定を行ったところ、 $t(5) = 4.19, p < .01$  であり、親疎関係による文末スピーチレベルのNの差は有意であることがわかった。

また、日本人男性初対面会話と友人同士会話の文末スピーチレベル敬体「です・ます」体Pの差が統計的に有意か確かめるために、有意水準 5%で両側検定の  $t$  検定を行ったところ、 $t(5) = 28.11, p < .01$  であり、親疎関係による文末スピーチレベルのPの差は有意であることがわかった。

同じく、日本人男性初対面会話と友人同士会話の文末スピーチレベル常体「だ」体Nの差が統計的に有意か確かめるために、有意水準 5%で両側検定の  $t$  検定を行ったところ、 $t(5) = 18.50, p < .01$  であり、親疎関係による文末スピーチレベルのNの差は有意であることがわ

かった。

日本人女性の結果と合わせてみると、対話者との親疎関係を顕著に反映しているのは初対面会話と比較して友人会話での文末スピーチレベルの敬体「です・ます体」Pの減少と常体「だ体」Nの増加であることが明らかになった。言い換えれば、日本人は文末スピーチレベルの敬体「です・ます体」Pから常体「だ体」Nへのシフトという言語形式の文末スピーチレベルをさげることで親しみを表すのである。

B&L(1987)のポライトネス理論によると、「ストラテジーの選択に関わる要因」では、社会言語学的な3つの変数「社会的距離 (D)」、「力関係 (P)」、「相手にかかる負荷度 (R)」とその3つの変数から計算されるFTAの負担度が説明されている。FTAの負担度を計算する公式は $W_x = D(S, H) + P(H, S) + R_x$ である。Pという力関係と $R_x$ という相手にかかる負荷度が同じである場合、Dという社会距離(親疎関係)が小さくなると、話者は文末スピーチレベルの敬体「です・ます体」Pの減少と常体「だ体」Nの増加で親しみを表すことが明らかになった。

### 4.3 スピーチレベルシフト

B&L(1987)ではスピーチレベルに直接に関係していると考えているのはネガティブ・ポライトネス・ストラテジーとしての敬語の使用だけである。一方、宇佐美(1995)では心的な距離の短縮などポジティブ・ポライトネスとしての機能があると指摘されている。ポライトネスは決して特定の言語形式と一対一に対応するわけではなく、発話のコンテキストを抜きにして言語形式単独でポライトネスは語れないということには、常に留意すべきである(三牧 2013)。そこで、本章では初対面会話と友人会話という親疎関係の異なる2つの場面に絞って、それぞれのスピーチレベルの「動き」に注目して、実際の会話データに基づき、そのポライトネス・ストラテジーを探る。

「スピーチレベル・シフト」は、「です・ます」体のような「敬体(P)」のスピーチレベルから「だ・である」体のような「常体(N)」のスピーチレベルへ、あるいはその逆の切り替え、及び語彙の丁寧度の変化を指す。「スピーチレベル・シフト」は、文末のスピーチレベルで判断する。宇佐美(1998, 2001ab, 2002など)のDP理論に従って、談話における文末のスピーチレベルの基本状態を同定した後、その基本状態から離脱した、有標行動となるスピーチレベルに着目してコーディングを行う。

例えば、社会人初対面会話のように、スピーチレベルにおいて「敬体(P)」が基本状態である場合(Usami 1999)、有標行動であると見なされる「常体(N)」が文末に表れたところに着目し、その前後の発話文をみて、「敬体(P)」から「常体(N)」へのシフトはD(down-shift)として、「常体(N)」から「敬体(P)」へのシフトはU(up-shift)としてコーディングを行う。また、「常体(N)」から「常体(N)」のように有標行動が連続して行われるものはNS(No-shift)とコーディングする。

一方、親しい友人同士の会話のように、スピーチレベルにおいて「常体(N)」が無標行動である場合(宮武 2007)には、有標行動であると見なされる「敬体(P)」が文末に表れたと

ころに着目し、その前後の発話文をみてコーディングをすることになる。その際は、「敬体 (P)」から「敬体 (P)」へのものを NS (No-shift) としてコーディングを行う。

#### 4.3.1 スピーチレベルシフトのコーディングの基準<sup>27</sup>

「スピーチレベル・シフト」のコーディングをする際、有標行動となるスピーチレベルの前後のスピーチレベルが「敬体 (P)」や「常体 (N)」ではなく、「丁寧度を示すマーカのない発話 (NM)」が出る場合がある。「丁寧度を示すマーカのない発話 (NM)」は、文字通り丁寧度を示すマーカがなく、その発話文のスピーチレベルが分からないため、コーディングの対象とせず、「×」で表記する。その有標行動となるスピーチレベルからもっとも近い「敬体 (P)」や「常体 (N)」を参照してコーディングを行う。

なお、実際のコーディングの際には、その前後のシフト関係について、シフトされた発話が「相手 (Interlocutor)」の発話からのシフトか「自分 (Self)」の発話からのシフトかという観点も取り入れる。よって、「スピーチレベル・シフト」のコーディングの記号は二つの部分の組み合わせによりなされる：シフトの方向性を表す「U (Up shift)、D (Down shift)」または有標行動の継続を表す「NS (No-shift)」に加え、シフトが自分の発話に対して行われたか、相手の発話に対して行われたかを示す「I (Interlocutor)、S (Self)」である。表 24 はこれらを組み合わせた 6 つの記号を示している。例 1~7 に実際のコーディングの例を挙げる。

表 24 スピーチレベル・シフトの記号と基準

番号	基準	記号
1	相手の P 発話に続く、N 発話へのダウンシフト Down-shift from Interlocutor	DI
2	自分の P 発話に続く、N 発話へのダウンシフト Down-shift from Self	DS
3	相手の N 発話に続く、P 発話へのアップシフト Up-shift from Interlocutor	UI
4	自分の N 発話に続く、P 発話へのアップシフト Up-shift from Self	US
5	相手の発話に続く、シフトなしの発話 No-shift from Interlocutor	NSI
6	自分の発話に続く、シフトなしの発話 No-shift from Self	NSS

例 9 DI : Down-shift from Interlocutor → 「敬体 (P)」から「常体 (N)」へのシフトで、

<sup>27</sup>スピーチレベルシフトのコーディングの基準は宇佐美研究室のスピーチレベルコーディングのマニュアル (2010 試作版・未公開) に倣い、作成したものである。

当該のシフトが相手の発話からのシフト

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容	文末	文末のシフト
35	35	*	YF01	<ああ、>{>}そうなんですか。	P	×
36	36	*	JBM02	ええ。	NM	×
37	37	*	YF01	ふーん。	NM	×
38	38	*	YF01	はい。	NM	×
39	39	*	JBM02	実家は、あのー、実家はっていうか、吉祥寺、と いうか三鷹市、育ちなので<笑い>。	N	DI

例 10 DS : Down-shift from Self → 「敬体 (P)」 から 「常体 (N)」 へのシフトで、当該のシフトが自分の発話からのシフト

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容	文末	文末のシフト
65	60	*	JBM02	そうですね、昔は畑ばかりだったんですけどね (あそうなんですか)、今は家ばかりですよ。	P	×
66	61	*	YF01	<あー>{>}。	NM	×
67	62	*	JBM02	<畑>{>}ばかりっていうこともないかな。	N	DS

例 11 UI : Up-shift from Interlocutor → 「常体 (N)」 から 「敬体 (P)」 へのシフトで、当該のシフトが相手の発話からのシフト

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容	文末	文末のシフト
14	13	*	JBM02	私は初めて聞くお名前だな、「OF01 姓」さんていうと。	N	DI
15	14	*	OF01	あくそうですか>{>}。	P	UI

例 12 US : Up-shift from Self → 「常体 (N)」 から 「敬体 (P)」 へのシフトで、当該のシフトが自分の発話からのシフト

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容	文末	文末のシフト
-------	-------	-------	----	------	----	--------



63	61	*	JBF03	私の時に、も、ちょっとぎりぎりかなと思ったんですけど、その下からもうすっごく多くて、2クラス分ぐらい（はあ）いるような人数で大変みたい。	NM	×
64	62	*	JSF02	ああ、そうなんだ。	N	DI
65	63	*	JSF02	へー、すごいですよね。	P	US

例 13 NSI : No-shift from Interlocutor → 話者が相手の有標行動に続いてまた有標行動を行う場合

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容	文末	文末のシフト
103	97	*	YF01	<あーいいですね>{>}。	P	×
104	98	*	YF01	はい。	NM	×
105	99-1	/	YF01	え?降るよりは降らない、え?=,,	-	-
106	100	*	JBM03	ええ。	NM	×
107	99-2	*	YF01	=降らない、<降るよりは降らない>{>}。	N	DS
108	101	*	JBM03	<いや、や、や、やっぱり>{>}天気の方がいいかな。	N	NSI
109	102	*	YF01	あ天気の方がいいですね。	P	UI

例 14 NSS : No-shift from Self → 話者が自分の有標行動に続いてまた有標行動を行う場合

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容	文末	文末のシフト
45	40	*	JBM03	まあ私の場合はとりあえずそんなに字自体間違えられることは、《沈黙2秒》こないだあったな。	N	NSI
46	41	*	OF01	<笑い>。	#	×
47	42	*	JBM03	あの一、雨が「漢字1訓読み」なんですけど（えー）なんか、えーとたまにですね、あの一、雨が「漢字1訓読み」のはずなのに一、（えー）なんかこのさ、肝心なところがなんか「漢字3訓読み」になってて、（ほ一）あ、あの「姓」じゃないんだけど<笑いながら>。	N	NSS

48	43	*	OF01	あ、たか、あー、<「人名」の「漢字 4」ですか>{<}。	P	UI
49	44	*	JBM03	<あの「人名」の、ええ、ええ>{>}。	NM	×

例 15 有標行動となる発話の直前の発話が「NM」の場合 (Nが有標)

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容	文末	文末のシフト
35	35	*	YF01	<あああ、>{>}そうなんですか。	P	×
36	36	*	JBM02	ええ。	NM	×
37	37	*	YF01	ふーん。	NM	×
38	38	*	YF01	はい。	NM	×
39	39	*	JBM02	実家は、あの一、実家はっていうか、吉祥寺、 というか三鷹市、育ちなので<笑い>。	N	DI
40	40	*	YF01	あそうなんですか。	P	UI

#### 4.3.2 スピーチレベルシフトの結果について

この節では、日本人会話のスピーチレベルシフトの結果について分析する。初対面会話と友人会話という2つの部分からなっている。

まず、文字化された日本人女性初対面会話データと男性初対面会話データを 4.3.1 小節の基準に従って、スピーチレベルシフトの観点からコーディングする。その後、宇佐美 (2010) の BTSJ 集計ソフトで会話ごとに、その各項目の数を集計する。さらに、6 会話の各項目の割合の平均値を算出すると、表 25 と表 26 の結果となる。

表 25 日本人女性初対面会話スピーチレベルシフトの各項目の平均

項目	話者	JWB	JWN	合計
US	合計	85	53	138
	平均	14.17	8.83	23
	割合	4.90%	3.24%	4.09%
UI	合計	109	126	235
	平均	18.17	21	39.17
	割合	6.28%	7.70%	6.97%
DS	合計	87	58	145
	平均	14.5	9.67	24.17
	割合	5.01%	3.54%	4.30%

DI	合計	129	101	230
	平均	21.5	16.83	38.33
	割合	7.44%	6.17%	6.82%
NSS	合計	304	148	452
	平均	50.67	24.67	75.33
	割合	17.52%	9.04%	13.40%
NSI	合計	357	372	729
	平均	59.5	62	121.5
	割合	20.58%	22.72%	21.62%

表 25 に示したように、女性初対面会話では UI の割合は 6.97% であり、DI の割合は 6.82% である。一方、US の割合は 4.09% であり、DS の割合は 4.30% である。つまり、UI と DI の割合は US と DS の割合より高いということが分かる。言い換えれば、女性初対面会話のスピーチレベルシフトの基本状態は、会話相手からのダウンシフトとアップシフトが話者自らのダウンシフトとアップシフトより多いということが明らかとなった。

表 26 日本人男性初対面会話スピーチレベルシフトの各項目の平均

項目	話者	JMB	JMN	合計
US	合計	24	38	62
	平均	4	6.33	10.33
	割合	2.35%	3.81%	3.07%
UI	合計	51	40	91
	平均	8.5	6.67	15.17
	割合	5.00%	4.01%	4.51%
DS	合計	35	40	75
	平均	5.83	6.67	12.5
	割合	3.43%	4.01%	3.72%
DI	合計	29	49	78
	平均	4.83	8.17	13
	割合	2.84%	4.91%	3.87%
NSS	合計	184	168	352
	平均	30.67	28	58.67
	割合	18.04%	16.83%	17.44%
NSI	合計	244	240	484
	平均	40.67	40.00	80.67
	割合	23.92%	24.05%	23.98%

表 26 に示したように、男性初対面会話では UI の割合は 4.51% であり、DI の割合は 3.87% である。一方、US の割合は 3.07% であり、DS の割合は 3.72% である。つまり、UI と DI の割合は US と DS の割合より高いということが分かる。言い換えれば、男性初対面会話のスピーチレベルシフトの基本状態は、会話相手からのダウンシフトとアップシフトは話者自らのダウンシフトとアップシフトより多いということが明らかとなった。

日本人初対面会話のスピーチレベルシフトの全体像をつかむために、表 25 と表 26 の結果を以下の図 7 に示す。

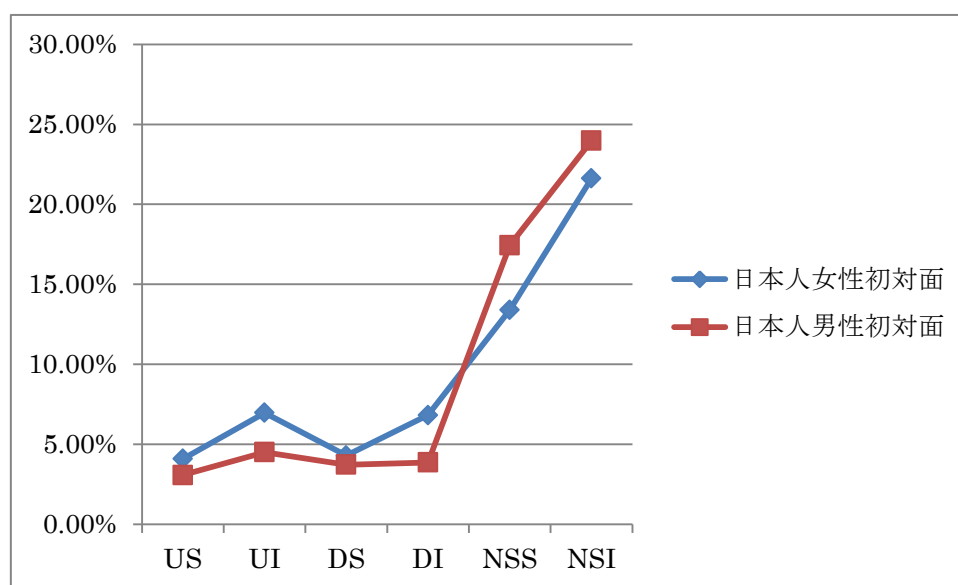


図 7 日本人初対面会話のスピーチレベルシフトの割合

図 7 をみると、日本人初対面会話では男女を問わず、会話相手からのダウンシフト (DI) とアップシフト (UI) が話者自らのダウンシフト (DS) とアップシフト (US) より多いという傾向があることが観察された。つまり、初対面会話では相手からダウンシフトされたスピーチレベルをまた基本状態に戻しているという言語行動の傾向が読み取れる。しかも、男性と比べると、日本人女性初対面会話にその傾向が強く出てくることが明らかになった。

次に、日本人女性友人同士と男性友人同士の会話を同じく 4.3.1 小節の基準に従って、スピーチレベルシフトの観点からコーディングする。その後、宇佐美 (2010) の BTSJ 集計ソフトで会話ごとに、その各項目の数を集計する。さらに、6 会話の各項目の割合の平均値を算出すると、表 27 と表 28 の結果となる。

表 27 日本人女性友人会話スピーチレベルシフトの各項目の平均

項目	話者	JWB	JWF	合計
US	合計	7	12	19
	平均	1.17	2	3.17
	割合	0.41%	0.70%	0.55%
UI	合計	27	21	48
	平均	4.5	3.5	8
	割合	1.57%	1.22%	1.39%
DS	合計	9	10	19
	平均	1.5	1.67	3.17
	割合	0.52%	0.58%	0.55%
DI	合計	20	28	48
	平均	3.33	4.67	8
	割合	1.16%	1.63%	1.39%
NSS	合計	371	320	691
	平均	61.83	53.33	115.17
	割合	21.52%	18.58%	20.05%
NSI	合計	703	702	1405
	平均	117.17	117	234.17
	割合	40.78%	40.77%	40.77%

表 27 に示したように、女性友人会話では UI の割合は 1.39% であり、DI の割合も 1.39% である。一方、US の割合は 0.55% であり、DS の割合も 0.55% である。つまり、UI と DI の割合は US と DS の割合より高いということが分かる。言い換えれば、女性友人会話のスピーチレベルシフトの基本状態は、初対面会話と同じように、会話相手からのダウンシフトとアップシフトが話者自らのダウンシフトとアップシフトより多いということが明らかとなっている。

表 28 日本人男性友人会話スピーチレベルシフトの各項目の平均

項目	話者	JMB	JMF	合計
US	合計	24	20	44
	平均	4	3.33	7.33
	割合	1.15%	0.96%	1.05%
UI	合計	17	41	58
	平均	2.83	6.83	9.67
	割合	0.81%	1.96%	1.39%

DS	合計	15	23	38
	平均	2.5	3.83	6.33
	割合	0.72%	1.10%	0.91%
DI	合計	36	28	64
	平均	6	4.67	10.67
	割合	1.72%	1.34%	1.53%
NSS	合計	479	533	1012
	平均	79.83	88.83	168.67
	割合	22.90%	25.48%	24.19%
NSI	合計	713	697	1410
	平均	118.83	116.17	235.00
	割合	34.08%	33.32%	33.70%

表 28 に示したように、男性友人会話では UI の割合は 1.39% であり、DI の割合は 1.53% である。一方、US の割合は 1.05% であり、DS の割合は 0.91% である。つまり、UI と DI の割合は US と DS の割合より高いということが分かる。言い換えれば、男性友人会話のスピーチレベルシフトの基本状態は、初対面会話と同じように、会話相手からのダウンシフトとアップシフトは話者自らのダウンシフトとアップシフトより多いということが明らかとなっている。

日本人友人同士会話のスピーチレベルシフトの全体像をつかむために、表 27 と表 28 の結果を以下の図 8 に示す。

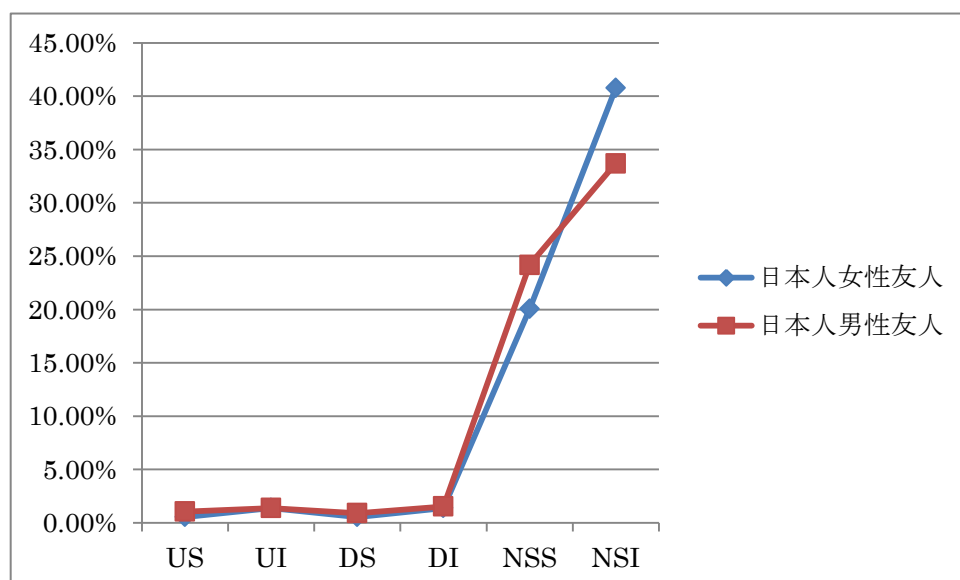


図 8 日本人友人会話のスピーチレベルシフトの割合

図8をみると、日本人友人会話では男女を問わず、会話相手からのダウンシフト（DI）とアップシフト（UI）が話者自らのダウンシフト（DS）とアップシフト（US）よりやや多いという傾向があることが観察された。つまり、友人会話では初対面会話と同じように、相手からダウンシフトされたスピーチレベルをまた基本状態に戻しているという言語行動の傾向が読み取れる。まとめてみれば、日本人会話では親疎（初対面か友人か）を問わず、相手からダウンシフト（アップシフト）されたスピーチレベルをまた、基本状態に戻しているという言語行動の傾向が読み取れる。

さらに、日本人女性初対面と友人同士各会話におけるそれぞれのスピーチレベルシフトの結果を以下の表29と表30にまとめてみた。

表29 日本人女性初対面各会話におけるスピーチレベルシフトの結果

会話 番号	US		UI		DS		DI		NSS		NSI	
	頻 度	割 合	頻 度	割 合	頻 度	割 合	頻 度	割 合	頻 度	割 合	頻 度	割 合
1	0	0.00%	1	0.27%	1	0.27%	1	0.27%	99	27.12%	62	16.99%
2	24	5.13%	33	7.05%	30	6.41%	28	5.98%	56	11.97%	86	18.38%
3	29	4.63%	55	8.77%	17	2.71%	67	10.69%	82	13.08%	194	30.94%
4	23	4.34%	41	7.74%	25	4.72%	39	7.36%	70	13.21%	111	20.94%
5	37	4.70%	49	6.22%	36	4.57%	49	6.22%	83	10.53%	145	18.40%
6	25	4.21%	56	9.43%	36	6.06%	46	7.74%	62	10.44%	131	22.05%

表30 日本人女性友人同士各会話におけるスピーチレベルの結果

会話 番号	US		UI		DS		DI		NSS		NSI	
	頻 度	割 合	頻 度	割 合	頻 度	割 合	頻 度	割 合	頻 度	割 合	頻 度	割 合
1	0	0.00%	6	1.49%	3	0.74%	3	0.74%	93	23.08%	157	38.96%
2	6	1.05%	11	1.93%	5	0.88%	12	2.11%	103	18.07%	259	45.44%
3	0	0.00%	10	1.48%	2	0.30%	8	1.19%	122	18.10%	299	44.36%
4	3	0.50%	5	0.84%	4	0.67%	4	0.67%	134	22.45%	248	41.54%
5	4	0.60%	3	0.45%	2	0.30%	5	0.75%	150	22.56%	203	30.53%
6	6	1.12%	13	2.42%	3	0.56%	16	2.98%	89	16.57%	239	44.51%

日本人女性初対面と友人同士会話（親疎関係）でUSに差があるかどうか  $t$  検定を行ったところ、5%の有意差が見られた ( $t=4.77, df=5, p<.01$ )。同じくUIに差があるかどうか  $t$  検定を行ったところ、5%の有意差が見られた ( $t=3.91, df=5, p<.05$ )。

さらに、日本人女性初対面と友人同士会話（親疎関係）で DS に差があるかどうか  $t$  検定を行ったところ、5%の有意差が見られた ( $t=3.82, df=5, p<.05$ )。同じく DI に差があるかどうか  $t$  検定を行ったところ、5%の有意差が見られた ( $t=3.68, df=5, p<.05$ )。

また、日本人女性初対面と友人同士会話（親疎関係）で NSS に差があるかどうか  $t$  検定を行ったところ、5%の有意差が見られた ( $t=2.59, df=5, p<.05$ )。同じく NSI に差があるかどうか  $t$  検定を行ったところ、5%の有意差が見られた ( $t=8.37, df=5, p<.01$ )。

この結果と平均値を見ると、日本人女性初対面会話は友人より US、UI、DS、DI が有意に多いことが分かる。一方、日本人女性初対面会話は友人より NSS と NSI が有意に少ないことが明らかになった。つまり、日本人女性会話では、ダウンシフトとアップシフトは両方とも親密度の高さ（親疎関係）と反比例している。このことから対話者との親疎関係を顕著に反映しているのは、日本人女性初対面会話と比べると、友人同士の会話のスピーチレベルシフト（ダウンとアップ）が有意に少ないということである。つまり、日本人女性友人同士の会話は初対面よりスピーチレベルシフトという「動き」が少ないと解釈できる。

同じように、日本人男性初対面と友人同士各会話におけるそれぞれのスピーチレベルシフトの結果を以下の表 31 と表 32 にまとめてみた。

表 31 日本人男性初対面各会話におけるスピーチレベルシフトの結果

会話 番号	US		UI		DS		DI		NSS		NSI	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	8	2.56%	7	2.24%	5	1.60%	10	3.21%	58	18.59%	86	27.56%
2	14	4.26%	5	1.52%	13	3.95%	6	1.82%	50	15.20%	66	20.06%
3	7	2.57%	12	4.41%	9	3.31%	10	3.68%	48	17.65%	71	26.10%
4	7	2.05%	23	6.73%	14	4.09%	16	4.68%	63	18.42%	78	22.81%
5	9	3.07%	15	5.12%	10	3.41%	14	4.78%	71	24.23%	63	21.50%
6	17	3.62%	29	6.17%	24	5.11%	22	4.68%	62	13.19%	120	25.53%

表 32 日本人男性友人同士各会話におけるスピーチレベルの結果

会話 番号	US		UI		DS		DI		NSS		NSI	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	10	1.52%	16	2.44%	10	1.52%	16	2.44%	148	22.53%	178	27.09%
2	7	0.86%	8	0.98%	4	0.49%	11	1.35%	197	24.14%	370	45.34%
3	4	0.66%	7	1.16%	5	0.83%	6	0.99%	165	27.27%	194	32.07%
4	9	1.08%	15	1.81%	8	0.96%	16	1.93%	199	23.95%	245	29.48%
5	7	1.07%	10	1.53%	8	1.22%	9	1.38%	151	23.09%	220	33.64%
6	7	1.13%	2	0.32%	3	0.48%	6	0.97%	152	24.48%	203	32.69%



日本人男性初対面と友人同士会話（親疎関係）で US に差があるかどうか  $t$  検定を行ったところ、5%の有意差が見られた ( $t=5.27, df=5, p<.01$ )。同じく日本人男性初対面と友人同士会話（親疎関係）で UI に差があるかどうか  $t$  検定を行ったところ、5%の有意差が見られた ( $t=3.07, df=5, p<.05$ )。

さらに、日本人男性初対面と友人同士会話（親疎関係）で DS に差があるかどうか  $t$  検定を行ったところ、5%の有意差が見られた ( $t=4.27, df=5, p<.01$ )。同じく DI に差があるかどうか  $t$  検定を行ったところ、5%の有意差が見られた ( $t=4.14, df=5, p<.01$ )。

また、日本人男性初対面と友人同士会話（親疎関係）で NSS に差があるかどうか  $t$  検定を行ったところ、5%の有意差が見られた ( $t=3.41, df=5, p<.05$ )。同じく NSI に差があるかどうか  $t$  検定を行ったところ、5%の有意差が見られた ( $t=2.65, df=5, p<.05$ )。

この結果と平均値を見ると、日本人男性初対面会話は友人より US、UI、DS、DI が有意に多いことが分かる。一方、日本人男性初対面会話は友人より NSS と NSI が有意に少ないことが明らかになった。つまり、日本人男性会話では、社会的距離が近くなると、ダウンシフトとアップシフトの出現率が低くなる傾向があるといえよう。言い換えれば、シフトの出現率は親密度（親疎関係）と比例していると考えられる。

女性の結果と合わせてみれば、対話者との親疎関係を顕著に反映しているのは、日本人初対面会話と比べると、友人同士の会話のスピーチレベルシフトが有意に少ないということである。言い換えれば、シフトの出現率は相手との親疎関係と、ほぼ比例しており、相手との社会距離を顕著に反映していると思われる。要するに、日本人友人同士の会話は初対面よりスピーチレベルシフトが少なく基本状態を維持しながら会話を進めていく傾向があると解釈できる。

#### 4.3.3 スピーチレベルシフトについての考察

宇佐美(2001b)では「Brown & Levinson のポライトネスの普遍理論は、まさに、そうした人間の社会的相互作用の根本にある心理の原則を追求しようとしたものであると言えよう。しかし、それを実現するためには、ポライトネス行動に寄与する要因を、各言語に固有の、スピーチレベルの丁寧度などの静的・固定的な要因のみに着目するのではなく、『ディスコース・ポライトネス』という概念を導入し、その基本状態を同定した上で、諸要素の『動き』が生み出す機能を探求していく必要がある」と述べている。したがって、本研究ではただ文末スピーチレベルの基本状態を同定するだけでなく、その「動き」としてのスピーチレベルシフトを言語形式と機能という二つの観点から考察するのである。

##### 4.3.3.1 日本人初対面会話におけるスピーチレベルシフトについて

三牧(2013)で指摘されたように、「中途終了文を除き、最も違いの際立つ丁寧体と普通体の2種類の分布に注目すれば、50%以上を占める方のスピーチレベルが基本的スピーチレ

ベルとなる。中途終了文も含めて分布を示すのであれば、最も多い分布ということになるう」。4.2.2.1の日本人文末スピーチレベルの結果からみれば、男女を問わず、中途終了文などのNMを除けば、「です・ます」体(P)の割合が50%以上を占めているために、基本的スピーチレベル(基本状態)となっているとえいよう。

本節では宇佐美(1998、2001ab、2002など)のDP理論に基づき、基本状態の敬体「です・ます体」(P)から離脱する常体「だ体」(N)へのダウンシフトという有標行動に注目し、分析する。

#### 4.3.3.1.1 日本人初対面会話におけるダウンシフトの分類

まず、言語形式からみて、基本状態の敬体「です・ます体」(P)から常体「だ体」(N)へのダウンシフトを以下のような9つの種類に分ける。

- ① 名詞／形容動词语幹+だ(だった・だろう・ではない)
- ② 形容詞の言い切り形(現在形・過去形)
- ③ 動詞の言い切り形(現在形・過去形・意向形・命令形)
- ④ ①・②・③+終助詞
- ⑤ ①・②・③+接続助詞(て・から・ので・けど・が・し)の文末用法(+終助詞)
- ⑥ 名詞／形容動词语幹+終助詞
- ⑦ とか
- ⑧ っていう(みたいな)
- ⑨ というか

次に、日本人女性初対面会話のダウンシフトを言語形式の観点から分類した。信頼性を確認するために、20%について第二評定者がコーディングし、評定者間信頼性係数を測った結果、 $\kappa=0.89$ という数値が得られた。

さらにそれぞれの種類の数を集計し全体の割合を算出した結果は、以下の表33に示すとおりである。

表33 日本人女性初対面会話におけるダウンシフトの種類

会話 番号 <sup>28</sup>	①名詞／ 形容動詞 語幹+だ	②形容詞 の言い切 り形	③動詞 の言い 切り形	④(①②③ +終助詞)	⑤(①②③ +接続助 詞)	⑥名詞／ 形容動詞 語幹+終 助詞	⑦とか	⑧って いう	⑨とい うか
2	10.71%	7.14%	0.00%	14.29%	<b>46.43%</b>	7.14%	0.00%	14.29%	0.00%
3	15.00%	16.25%	3.75%	12.50%	<b>42.50%</b>	5.00%	0.00%	5.00%	0.00%
4	17.74%	0.00%	8.06%	14.52%	<b>33.87%</b>	17.74%	3.23%	4.84%	0.00%

<sup>28</sup> 日本人女性初対面会話1の基本状態はほかの会話と違って、敬体「です・ます体」ではなくて、常体「だ体」であるために、個別に分析することにした。

5	14.81%	14.81%	13.58%	8.64%	<b>29.63%</b>	11.11%	1.23%	6.17%	0.00%
6	24.05%	11.39%	10.13%	7.59%	<b>27.85%</b>	10.13%	0.00%	8.86%	0.00%
平均	16.46%	9.92%	7.10%	11.51%	<b>36.06%</b>	10.22%	0.89%	7.83%	0.00%

平均からみれば日本人女性初対面会話におけるダウンシフトで一番多いのは「⑤(①②③+接続助詞)」という形であり、全体の36.06%を占めている。二番目に多いのは「①名詞/形容動詞語幹+だ」という形で、全体の16.46%である。三番目に多いのは「④(①②③+終助詞)」であり、全体の11.51%を占めている。

それから、日本人男性初対面会話のダウンシフトを言語形式の観点から分類した。信頼性を確認するために、20%について第二評定者がコーディングし、評定者間信頼性係数を測った結果、 $\kappa=0.87$ という数値が得られた。

さらにそれぞれの種類の数を集計し全体の割合を算出した結果は、以下の表34に示すとおりである。

表34 日本人男性初対面会話におけるダウンシフトの種類

会話 番号	①名詞/形容動詞語幹+だ	②形容詞の言い切り形	③動詞の言い切り形	④(①②③+終助詞)	⑤(①②③+接続助詞)	⑥名詞/形容動詞語幹+終助詞	⑦とか	⑧っていう	⑨というか
1	0.00%	6.67%	20.00%	13.33%	<b>20.00%</b>	26.67%	6.67%	0.00%	6.67%
2	0.00%	0.00%	0.00%	5.26%	<b>52.63%</b>	5.26%	15.79%	15.79%	5.26%
3	5.26%	5.26%	15.79%	5.26%	<b>21.05%</b>	31.58%	0.00%	5.26%	10.53%
4	3.33%	6.67%	6.67%	0.00%	<b>70.00%</b>	6.67%	0.00%	6.67%	0.00%
5	12.50%	12.50%	16.67%	8.33%	<b>25.00%</b>	8.33%	4.17%	8.33%	4.17%
6	0.00%	18.60%	18.60%	2.33%	<b>55.81%</b>	2.33%	0.00%	2.33%	0.00%
平均	3.52%	8.28%	12.95%	5.75%	<b>40.75%</b>	13.47%	4.44%	6.40%	4.44%

平均からみれば日本人男性初対面会話におけるダウンシフトで一番多いのは「⑤(①②③+接続助詞)」という形であり、全体の40.75%を占めている。二番目に多いのは「⑥名詞/形容動詞語幹+終助詞」という形で、全体の13.47%である。三番目に多いのは「③動詞の言い切り形」であり、全体の12.95%を占めている。

まとめれば、日本人初対面会話におけるダウンシフトで一番多いのは「⑤(①②③+接続助詞)」という形であり、女性で二番目に多いのは「①名詞/形容動詞語幹+だ」という形であり、男性で二番目に多いのは「⑥名詞/形容動詞語幹+終助詞」という形である。両者の違いは終助詞が付いているかどうかというところである。つまり二番目に多いのは名詞/形容動詞によるダウンシフトである。女性で三番目に多いのは「④(①②③+終助詞)」で

あり、男性は「③動詞の言い切り形」である。

#### 4.3.3.1.2 日本人初対面会話におけるダウンシフトの機能

日本人初対面会話のスピーチレベルシフトの機能についての研究は数多く挙げられる(生田・井出 1983、宇佐美 1995、佐藤 2000、三牧 2013 など)。生田・井出(1983)ではスピーチレベルシフトの機能が「話者の心的態度：相手や話題となっている事柄に対する話者の心的距離の調節の機能」「談話の展開：談話内の話題の流れや論理の展開を明確にする機能」という二つがあると指摘された。佐藤(2000)はデータから、「定型的省略」「反復回避」「中途終了」「中断」「呼応」「確認」「独話」「適語探索」の8種類のスピーチレベルシフトの要因を認めた。三牧(2013)では、談話レベルにおける概念であるスピーチレベル・シフトの機能として、主に①対人機能：心的距離の調整②談話展開標識機能③指標的機能④ポライトネス・ストラテジー機能(FTA 補償/強化)という4点が指摘された。

本研究は先行研究を踏まえながら、宇佐美(1995)を参考にして、日本人初対面会話におけるスピーチレベルシフトの機能の観点から言語的要因と心理的要因に着目して以下のよう

- に分類した。
- 〈心理的要因〉(1)心的距離の短縮(2)相手への共感(7)<sup>29</sup> 感嘆・感動(8)言葉探し  
〈言語的要因〉(3)ひとりごとの発話(4)確認(5)中途終了型発話(6)新しい話題の導入  
(9)先取り・推測(10)説明

以下でそれぞれの機能について例を挙げながら論じていく。

##### (1) 心的距離の短縮

日本人初対面会話の基本状態は敬体「です・ます体」である。その敬体「です・ます体」から「だ体」へのダウンシフトは心的距離の短縮を行う機能がある。例16ではJBM04の専攻は歴史学である。主に中国明朝について研究している。従って、JSM02はライン番号84から日本と中国の貿易、つまり日明貿易の話をし始めた。しかし、専攻として勉強しているJBM04が勘合貿易などの専門用語を言い始めると、JSM02はぼろが出ないように、「あー、なんか、中学校の時に>{<}(<笑い>)覚えたかもしれない。」というダウンシフトで冗談っぽく言ったのである。冗談を言うことで相手との心的距離を縮めていると考える。スピーチレベルを巧みに切り替えることによって、笑いを誘うことができ、円滑にコミュニケーションを進めることもできる。この場合のダウンシフトを心的距離の短縮と分類する。

---

<sup>29</sup> (1)から(6)までは宇佐美(1995)で提唱されたスピーチレベルシフトの機能である。(7)から(10)まではデータを踏まえて、本研究で新しく出したスピーチレベルシフトの機能である。そのために、番号が連続していないのである。

例 16

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
84	79	*	JSM02	っと、にち…日本って貿易してませんでしたっけ?、明と。
85	80	*	JBM04	あっ、やってました(はいはい)ね、日明貿易。
86	81	*	JSM02	あ、ですよ。
87	82	*	JBM04	はい。
88	83	*	JSM02	あー。
89	84	*	JBM04	あの、勘合貿易とかって。
90	85	*	JSM02	あー、なんか、中学校<の時に>{< <笑い>>}覚えたかもしれない。
91	86	*	JBM04	<中学校>{>}<笑い>。

(2) 相手への共感

例 17 では、JSM02 の実家暮らしから通学への話題に切り替える場面である。ライン番号 71 では実家暮らしだと分かって、「あー、そっかそっか。」というあいづちを打った後、通学の話に移ったと思われる。石川(2008)で指摘されたように、あいづちの「あ(あ)」は、情報の“受容”(情報の獲得)をあらわす。相手の発話・自分自身のひらめきなどから発話者は情報を“受容”(し、その結果驚いたり感心したり)する、というのがあいづちにおける「あ(あ)」の機能である。“受容”という機能の性質上、“理解”をあらわす「そう(か)」と共起しやすい。ライン番号 72 での「あー、そっかそっか。」というダウンシフトは相手の話を理解した上で、共感を表しているといえよう。このようにスピーチレベルを切り替えて相手への共感を表した場合を「相手への共感」と分類する。

例 17

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
70	67	*	JBM01	あ、実家なんですか?。
71	68	*	JSM02	実家です(ああ)、はい。
72	69	*	JBM01	あー、そっかそっか。
73	70	*	JBM01	じゃあ、もう移動が、かなり…。
74	71	*	JSM02	移動…まあ、そうなんですね。
75	72	*	JSM02	=こう、けっ、…いや、割と時間かかりますよね、ええ、うーん。

### (3)ひとりごとの発話

カヴァナ (2010) は「自分の感情を表したり、欲求する時（いわゆる心情文）にはひとりごと様式、いわゆる独話的な文として普通体を使うのは当然である」（p. 91）と述べている。

例 18 は通学についての会話である。JBM01 の所属の大学は都内から東京の西のほうへ移転したために、通学の時間が長くなった。移転直後は実家から通っていたが、大変だったために、一人暮らしを始めたのである。ライン番号 119 では辛いという感情からスピーチレベルシフトが生じていると考えられる。独話的に発話しているが、自分の感情を表すために、普通体が使われているといえよう。このような場合のダウンシフトをひとりごとの発話と分類する。

#### 例 18

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
115	109-2	*	JBM01	ふーん、最初は通ってたんですけどもね。
116	110	*	JSM02	ええ。
117	111	*	JBM01	移転直後は。
118	112	*	JSM02	あー。
119	113	*	JBM01	ちょっと辛いなー〈笑い〉。
120	114	*	JSM02	あー。
121	115-1	/	JBM01	まあラッシュとは反対なんで、
122	116	*	JSM02	ですよ。
123	115-2	*	JBM01	そういう意味では、（ふーん）ま、いいんですけど。
124	117	*	JSM02	ふーん。

### (4)確認

ベース協力者 JWB05 は会話相手 JWN05 に中国語を習う理由について聞いた。それは旅行で中国に行ったとき、そのごちゃごちゃな所が好きになったということであった。そこで、ライン番号 414 でベース協力者 JWB05 の「へー、そうなの?。」という発話でダウンシフトが観察された。それは改めて会話相手 JWN05 へ確認したものであるため、この場合のダウンシフトを「確認」と分類する。

例 19

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
409	370-3	/	JWN05	なんか、わけの分からないおじさんがいたり,,
410	373	*	JWB05	うん。
411	370-4	*	JWN05	なんかそういうー、ごちゃごちゃな所に惚れたんですよ。
412	374	*	JWB05	へ<————>[↑]{<}
413	375	*	JWN05	<はいはいはいはい>{>}。
414	376	*	JWB05	へー、そうなの?[最後は無声]。
415	377	*	JWN05	そうなんですよー。

(5) 中途終了型発話

例 20 は研究についての会話である。JSM02 の指導教官と今授業を受けている「先生 1」とで見解が異なる部分が若干あると話した。そして、話者 JBM02 はライン番号 175 では「何となく違うかなって…」という中途終了型発話でスピーチレベルを切り替えることで、相手の発話に合わせながらも明言を避けているのである。このようなダウンシフトを「中途終了型発話」と分類する。

例 20

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
169	158	*	JBM02	ふーうん、なんか「先生 1 姓」先生と(はい)違ったりします?、そういうの。
170	159	*	JSM02	えっ?、あ。
171	160	*	JBM02	見解が違うんじゃないかみたいなの、そういうの。
172	161	*	JSM02	あ、うーん…若干はありますよ<笑い>。
173	162	*	JBM02	若干はありますか?<笑い>。
174	163	*	JSM02	正直はちょっとはっきり言えないですけど。
175	164	*	JBM02	えええ、(うーん)何となく違うかなって…。

(6) 新しい話題の導入

二人は話者 JWN05 のサークル活動について話し合っている。JWN05 は一緒に入った仲間がみんなやめたので、自分もサークルをやめたことを話した。その後自分の申し訳ない気持ちを表した。この話題はさらに展開するのが難しいと見当をつけて、ベース協力者 JWB05

は「私は、でも文ジャーだとやっぱ、小説家希望の人<多い、ぼくて>{<}>。」とスピーチレベルを切り替えることによって新しい話題を導入したのである。このようなタイプのダウンシフトを「新しい話題の導入」と分類する。

例 21

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
347	315	*	JWN05	えっ、それでも、たまーに行ってたんですけど。
348	316	*	JWB05	うん。
349	317-1	/	JWN05	なんか一緒に入った子もみんなやめちゃったから、もういいやと思って、,
350	318	*	JWB05	あー。
351	317-2	*	JWN05	やめました。
352	319	*	JWB05	へ<ー>{<}[↑]。
353	320	*	JWN05	<[一人ごとみたいな感じで]申し訳ない>{<}、申し訳ないです[無声]。
354	321	*	JWB05	<b>私は、でも文ジャーだとやっぱ、小説家希望の人&lt;多い、ぼくて&gt;{&lt;}。</b>
355	322	*	JWN05	<あっ、多いん>{<}ですか。
356	323	*	JWB05	うーん。

(7) 感嘆・感動

例 22 は日本人男性初対面会話である。JBM03 が NHK で主催されるロボットコンテストに出たことがあると話したら、JSM02 が思わず「あっ、すごい<笑い>。」と言って JBM03 を褒めたのである。このライン番号 75 のようなダウンシフトの機能は感嘆・感動と分類する。

例 22

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
70	70	*	JBM03	あの一、NHK とかでロボットコンテスト<やってる…>{<}。
71	71	*	JSM02	<はいはいはい、あります>{<}。
72	72	*	JBM03	ああいうのにも。
73	73	*	JSM02	あー。
74	74	*	JBM03	ええ、出たことがあります。



75	75	*	JSM02	あっ、すごい<笑い>。
76	76	*	JSM02	あれ好きですよ、あの番組=。
77	77	*	JBM03	=あ、そうですか[↑]。

(8) 言葉探し

例 23 では話者が大学の建物について話し合っている。話者が会話をしている教室の上になどどのような部屋があるのかと聞いたところ、「研究室というか」と話者 JSM01 が言葉を捜しながら答えているようなダウンシフトの場合、「言葉探し」と分類する。

例 23

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発 話 内 容
336	301	*	JSM01	う、上のほうに、お部屋があるんですか?。
337	302	*	JBM03	ええ、<そうです>{<}。
338	303	*	JSM01	<研究室>{>}<というか>{<}。
339	304	*	JBM03	<ええ、>{>}ええ。
340	305	*	JSM01	はあー。

(9) 先取り・推測

例 24 は大学教師の職階上の順位についての会話である。この大学では准教授であるが、他の大学に行くと違うかもしれないと推測して発話する場合、スピーチレベルは「です・ます体」から「だ体」へのダウンシフトが観察された。このような場合のダウンシフトを「先取り・推測」とみなす。

例 24

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発 話 内 容
201	186	*	JBM01	であると、次が 10 本書くと、教授っていうふうに、あがっていくんですよね、だいたい。
202	187	*	JSM01	あの、この大学の助教授ということになるんですか?。
203	188	*	JBM01	そうですね。
204	189	*	JBM01	だからこの大学ので、他の大学に行くと、違うかもしれない。
205	190	*	JSM01	ああ、講師になるかもしれない。
206	191	*	JSM01	<笑い>あ、それはいいですか。

207	192	*	JBM01	まあ、ふつう助教授になれば、助教授でとってはくれると思うんですけどね。
-----	-----	---	-------	-------------------------------------

(10)説明

例 25 では話者が会話データの収集について話し合っている。ライン番号 304 と 306 では話者 JBM02 は会話データを収集する際の大変さを話している。さらにライン番号 308 では会話相手にイメージしやすいように、具体的な例を挙げながらを説明しているのである。このような場合のダウンシフトを「説明」と分類する。

例 25

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発 話 内 容
304	281	*	JBM02	なんか、宗教とかサークルの勧誘かと思われるくんですよー、なんか>{<}。
305	282	*	JSM02	<あー、あー>{>}。
306	283	*	JBM02	なんかすごい切ない気持ちになりくますよね>{<}。
307	284	*	JSM02	<あー>{>}、はい。
308	285	*	JBM02	ものすごいゆっくりタバコすって歩いてる人に“すみません、今ちょっといいですか?” (<笑い>)って言うのとー、“いや、ちょっと今急いでるんで” とか<言っ→>{<}。
309	286	*	JSM02	<いや、急いでない>{>}。

次に、日本人女性友人初対面会話のダウンシフトを以上の分類基準に基づき、機能の観点から分類した。信頼性を確認するために、20%について第二評定者がコーディングし、評定者間信頼性係数を測った結果、 $\kappa = 0.76$  という数値が得られた。

さらにそれぞれの種類の数を集計し、全体の割合を算出した結果は、以下の表 35 に示すとおりである。

表 35 日本人女性初対面会話におけるダウンシフトの機能について

会話文番号 <sup>30</sup>	会話 2	会話 3	会話 4	会話 5	会話 6	平均
1 心的距離の短縮	3.57%	7.50%	14.52%	8.64%	11.39%	9.12%
2 相手への共感	0.00%	6.25%	4.84%	6.17%	5.06%	4.46%
3 ひとりごとの発話	17.86%	12.50%	20.97%	18.52%	27.85%	<b>19.54%</b>

<sup>30</sup> 日本人女性初対面会話 1 の文末スピーチレベルの基本状態は N であるため、他の会話と違ってアップシフトは有標行動だと思われる。従って、特例として分析することにした。

4 確認	0.00%	5.00%	9.68%	8.64%	7.59%	6.18%
5 中途終了型発話	28.57%	8.75%	11.29%	11.11%	12.66%	<b>14.48%</b>
6 新話題の導入	7.14%	6.25%	4.84%	11.11%	6.33%	7.13%
7 感嘆・感動	21.43%	31.25%	9.68%	18.52%	20.25%	<b>20.23%</b>
8 言葉探し	10.71%	6.25%	4.84%	7.41%	0.00%	5.84%
9 先取り・推測	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
10 説明	10.71%	16.25%	19.35%	9.88%	8.86%	13.01%
合計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

平均からみて一番多いのは「感嘆・感動」という機能であり、全体の 20.23%を占めている。二番目多いのは「ひとりごとの発話」であり、一番目とほぼ同じぐらいで、全体の 19.54%を占めている。三番目に多いのは「中途終了型発話」という機能であり、全体の 14.48%である。宇佐美(2001b)で指摘されたように、「従来、ローカルな観点からの分析において、ダウンシフトは、心的距離の短縮など、ポジティブ・ポライトネスとして用いられることが多い」。本研究の日本人女性初対面会話データのダウンシフトでは、「感嘆・感動」というポジティブ・ポライトネスが一番多く出てきた。そのほかに、「ひとりごとの発話」、「中途終了型発話」というネガティブ・ポライトネスの多用も観察された。

さらに、他の会話と異なる日本人女性初対面会話 1 について分析する。その会話の文末スピーチレベルは、常体 N が一番多く全体の 88.35%を占めている。二番目は敬体 P が全体の 6.50%である。つまり、他の会話と違って、文末スピーチレベルの基本状態は常体 N である。そこで、基本状態の常体「だ体」(N)から離脱する敬体「です・ます体」(P)へのアップシフトという有標行動に注目し、分析する必要がある。具体的に会話をみると、アップシフトは一箇所しかない。それはライン番号 339 で、「<そう>{}、メデューサのメデューっていうんだけど、日本、日本語的にナザール・ボンジュウって言って、お守りでしょう、たぶん[最後無声]。>」という発話である。この発話文は倒置文であり、文末スピーチレベルは「でしょう」で判断するのである。基本状態 N から離脱する敬体 P「でしょう」は機能からみれば、確認とみなされる。

それから、日本人男性初対面会話のダウンシフトを以上の分類基準に基づき、機能の観点から分類した。信頼性を確認するために、20%について第二評定者がコーディングし、評定者間信頼性係数を測った結果、 $\kappa = 0.75$  という数値が得られた。

さらにそれぞれの種類の数を集計し全体の割合を算出した結果は、以下の表 36 に示すとおりである。

表 36 日本人男性初対面会話におけるダウンシフトの機能について

会話文番号	1	2	3	4	5	6	平均
1 心的距離の短縮	0.00%	0.00%	10.53%	10.00%	8.33%	23.26%	8.69%
2 相手への共感	6.67%	0.00%	26.32%	6.67%	16.67%	4.65%	<b>10.16%</b>
3 ひとりごとの発話	20.00%	0.00%	10.53%	3.33%	8.33%	2.33%	7.42%
4 確認	6.67%	0.00%	0.00%	10.00%	8.33%	0.00%	4.17%
5 中途終了型発話	6.67%	36.84%	0.00%	46.67%	16.67%	18.60%	<b>20.91%</b>
6 新話題の導入	0.00%	31.58%	10.53%	6.67%	4.17%	6.98%	9.99%
7 感嘆・感動	6.67%	0.00%	5.26%	6.67%	12.50%	23.26%	9.06%
8 言葉探し	26.67%	5.26%	5.26%	0.00%	4.17%	0.00%	6.89%
9 先取り・推測	13.33%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	2.22%
10 説明	13.33%	26.32%	31.58%	10.00%	20.83%	20.93%	<b>20.50%</b>
合計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

平均からみて一番多いのは「中途終了型発話」という機能であり、全体の 20.91%を占めている。二番目多いのは「説明」であり、一番目とほぼ同じぐらいで、全体の 20.50%を占めている。三番目に多いのは「相手への共感」という機能であり、全体の 10.16%である。

宇佐美(1994)では、日本人初対面二者間の会話において、目下の話者から話題を導入する際、その目下の話者の発話に「中途終了型発話」が多いことから、「中途終了型発話」は、相手にかかる負担の度合い(FT 度)が大きい際や、心的距離が大きい相手に話しかける際に、発話を緩和するための一つのストラテジーとして用いられると指摘している。本研究での初対面会話は友人同士会話より相手にかかる負担の度合い(FT 度)が大きいと思われる。従って、「中途終了型発話」というダウンシフトの多用で発話を緩和するための一つのストラテジーとして使用しているといえよう。また、相手に何か説明する場合は、自分の知識が相手より多いということで、相手にかかる負担の度合い(FT 度)が比較的大きいと考えられる。そこで、ダウンシフトというストラテジーでその発話を緩和するのではないかと推測できる。

三番目の「相手への共感」というダウンシフトは B&L(1987)の「共通の基盤を想定・喚起・主張せよ」というポジティブ・ポライトネス・ストラテジーとして用いられているといえよう。

つまり、日本人男性初対面会話は友人会話より相手との距離が大きいため、その相手にかかる負担の度合い(FT 度)が大きく、心的距離が大きいと思われる。したがって、相手に話しかける際に、一つのストラテジーとして「中途終了型」「説明」「相手への共感」というダウンシフトが用いられるといえよう。

#### 4.3.3.2 日本人友人同士会話のスピーチレベルシフト

4.2.2.2で示したように、日本人友人同士会話における文末スピーチレベルの基本状態は常体「だ体」(N)であり、全体の6割強を占めている。本節では宇佐美(1998、2001ab、2002など)に基づき、基本状態の常体「だ体」(N)から離脱する敬体「です・ます体」(P)へのアップシフトという有標行動に注目し、分析する。

##### 4.3.3.2.1 日本人友人同士会話におけるアップシフトの分類

まず、言語形式からみれば、基本状態の常体「だ体」(N)から敬体「です・ます体」(P)へのアップシフトを以下のような6つの種類に分ける。

1. でしょう：「でしょ(う)」と「でしょう」の変形  
 例1：普通の「でしょう」文 「現役で入ったんでしょ?。」  
 例2：倒置文 「ちやう、だって、本人は別に走っても一、本人多分、走るより、その走ってんのじっと見てる方が辛いでしょ?、精神的に。」  
 例3：「でしょう」の変形 「やばいっしょ」「あるっしょ」など
2. 直接引用：第三者の発話をそのまま引用する場合。文字化の時「 “ ”」で表記する発話である。  
 例「 “これ困ってるんならわたしちょっと調べてきますね”、みたいなの。」など
3. ～てください：例「<軽く笑いながら>しないでください」など
4. です：「です」と「です」の変形  
 例1：「あーあー、だるだるですよ」など  
 例2：「です」の変形 「まじっすか?」など
5. ～ます：動詞+ます/ました  
 例：「やっちゃいました」
6. ～みたいなの：「～みたいなの」、「～っていう感じ」のような擬似引用のようなもの  
 例：「無理です、みたいなの」「頭が痛いんですけどーみたいなの」など

次に、日本人女性友人同士のアップシフトを言語形式の観点から分類した。信頼性を確認するために、20%について第二評定者がコーディングし、評定者間信頼性係数を測った結果、 $\kappa=0.87$ という数値が得られた。

さらにそれぞれの種類の数を集計し全体の割合を算出した結果は、以下の表37に示すとおりである。

表37 日本人女性友人同士会話におけるアップシフトの種類

会話番号	1 でしょう	2 直接引用	3 てください	4 です	5 ます	6～みたいなの
1	33.3%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	16.7%
2	17.6%	0.0%	0.0%	52.9%	29.4%	0.0%
3	80.0%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%	10.0%

4	62.5%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%
5	71.4%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	14.3%
6	21.1%	5.3%	0.0%	57.9%	15.8%	0.0%
平均	47.7%	3.0%	2.4%	28.5%	7.5%	11.0%

平均からみて一番多いのは「でしょう」という形であり、全体の47.7%を占めている。二番目に多いのは「です」という形で、全体の28.5%である。三番目に多いのは「みたいな」であり、全体の11.0%を占めている。

それから、日本人男性友人同士のアップシフトを言語形式の観点から分類した。信頼性を確認するために、20%について第二評定者がコーディングし、評定者間信頼性係数を測った結果、 $\kappa=0.88$ という数値が得られた。

さらにそれぞれの種類の数を集計し全体の割合を算出した結果は、以下の表38に示すとおりである。

表38 日本人男性友人同士会話におけるアップシフトの種類

会話番号	1 でしょう	2 直接引用	3 てください	4 です	5 ます	6~みたいな
1	84.6%	7.7%	3.8%	3.8%	0.0%	0.0%
2	92.9%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%	0.0%
3	91.7%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
4	66.7%	4.2%	0.0%	20.8%	0.0%	8.3%
5	52.9%	29.4%	0.0%	17.6%	0.0%	0.0%
6	33.3%	11.1%	0.0%	33.3%	22.2%	0.0%
平均	70.3%	10.1%	0.6%	13.8%	3.7%	1.4%

平均からみて一番多いのは「でしょう」という形であり、全体の70.3%を占めている。女性の47.7%より20%以上高い。二番目に多いのは「です」という形で、全体の13.8%であり、女性の28.5%の半分よりも低い。三番目に多いのは直接引用であり、全体の10.1%を占めている。女性友人同士会話の場合、三番目に多いのは「みたいな」であり、全体の11.0%である。つまり、日本人友人同士の会話では男女両方とも1割程度で引用と関係のあるアップシフトが観察された。日本人男性友人同士の会話では直接引用の形でのアップシフトが見られたが、女性は直接引用より擬似引用の「みたいな」(泉子・メイナード 2004)という形でのアップシフトが観察された。星野(2008)で指摘されたように、厳密性を問わない「みたいな」の性質が発話提示に関する精神的な負担の軽減につながるのではないかと考えられる。言い換えれば、友人同士の会話では女性は男性の直接引用より相手の負担を軽減する発話である擬似引用の「みたいな」を多く使用する傾向があるといえよう。

まとめれば、日本人友人同士会話におけるアップシフトで一番多いのは「でしょう」とい

う形であり、二番目に多いのは「です」という形である。三番目に多いのは引用と関係のあるアップシフトである。

#### 4.3.3.2.2 日本人友人同士会話におけるアップシフトの機能

4.3.3.1.2 で述べた先行研究の研究対象は全て初対面会話データである。しかし、本研究は初対面会話だけでなく、友人同士会話にも焦点を当てて分析する。したがって、宇佐美(1995)を参考にして、日本人友人同士の会話におけるスピーチレベルシフトの機能の観点から言語的要因と心理的要因に着目して以下のように分類した。

〈心理的要因〉(1)心的距離の拡大(2)相手への共感(6)<sup>31</sup>文句を言うとき

(7)第三者に対する待遇表現

〈言語的要因〉(3)自問自答(4)確認(5)新しい話題の導入

以下ではそれぞれの機能について論じていく。

##### (1) 心的距離の拡大

###### ① FTA 侵害行為を避けるため

初対面会話では心的距離の短縮を行い、友人同士の会話では心的距離を拡大する機能が観察された。次の会話は日本人女性友人同士の会話である。二人は大学間で行われている野球の試合について話し合っている。ベース協力者 JWB02 が試合の背景について説明するため、基本状態の常体「だ体」から敬体「です・ます」体へのアップシフトが使用されている。今年は(はにかみ王子の裕ちゃんが卒業したために)、面白い試合になるとはあまり思えないとベース協力者 JWB02 が言っていた。一方、会話相手はぼろ負けの予感しかしないというもっとひどい結果を予測している。しかし、ベース協力者 JWB02 はそこまで悪くないのではないかと主張し、東大に勝ったことを話した。それに対して「東大には勝って当然だろう。」と会話相手が反論した。その後、ベース協力者 JWB02 は二回ほど東大には勝ったと繰り返した。会話相手が反論しようとしているとき、相手との心的距離をいったん置いたかのように、ベース協力者 JWB02 はアップシフトをし、試合の背景を説明し始めた。それは相手との意見の食い違いを論争するのを避けるための戦略ではないかと思われる。このようなやり取りをこのまま続けると、口争いになってしまう恐れがある。それがフェイス侵害度の高い発話行為になってしまう。したがって、FTA 侵害行為を避けるために、ベース協力者 JWB02 はアップシフトという戦略を使用したと考えられる。このような場合は心的距離を拡大する機能があるとみなす。

<sup>31</sup> (1)から(5)までは宇佐美(1995)で提唱されたスピーチレベルシフトの機能である。(6)から(7)まではデータを踏まえて、本研究で新しく提案したスピーチレベルシフトの機能である。そのために、番号が連続していない。

例 26

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
64	62	*	JWB02	でも、今年は面白い試合になるとはあまり思えないけどな。
65	63	*	JWF02	正直にもぼろ負け予感しかないよね。
66	64	*	JWB02	うん、東大には勝った。
67	65	*	JWF02	<笑いながら>東大には勝って当然だろう。
68	66	*	JWB02	東大には勝った。
69	67	*	JWF02	<東大には>{<}</td>
70	68	*	JWB02	<東大には勝った>{>}</td>
71	69	*	JWF02	<やー###>{<}</td>
72	70	*	JWB02	<でも>{>}</td>、でも、どこの試合も三日間やってるんです。
73	71	*	JWB02	ほとんどどこの試合も三日間やっている、一回はどこにしも、どこにも勝ってて、一回勝ってでも二回は負けるんじゃない。
74	72	*	JWF02	だめじゃん、全然だめじゃん。

② 冗談を言うとき

また、友人同士の会話では冗談を言う場合、わざとアップシフトをすることがある。次の会話は日本人女性友人同士の会話である。二人は秘書という仕事について話し合っている。ベース協力者 JWB04 は秘書というのは上司の許可がないと何もできないと言っていた。それに対して、会話相手は上司の居場所を簡単に他人に教えることができないと言って、自らその場面を演じるのである。それは演技という形での引用の一種による文体変更となっているといえよう。したがって、ライン番号 158 ではアップシフトが観察された。それは丁寧な言葉使いをすることによって笑いを取る効果があると思われる。

例 27

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
155	154	*	JWB04	でも秘書の心構えとしては、なんか基本的に秘書って上司の許可がないと何もできないの。
156	155	*	JWF04	けど、なんかさ、ちょっとさ、取り繕ったりしなきゃいけないんだよね、(そーそー)電話でどこ行ってるかとかいえないんだよね。
157	156	*	JWB04	そうそうそうそう。
158	157	*	JWF04	“ちょっと只今席をはずしておりますので、のちほどご連絡こちらからさせていただきます”。



159	158	*	JWB04	<笑いながら>そんな感じ。
160	159	*	JWB04	ほんとそんな感じ、“超不自由”とか思った。

### (2) 相手への共感

例 28 は日本人女性友人同士の会話である。二人は将来の仕事について話し合っている。ベース協力者 JWB04 は会話相手の JWF04 には百貨店などでの接客の仕事が向いていると話した。会話相手の JWF04 は「あ、なんか人に、知ってる知識は教えてあげたいかも>{<}。」(206)と「<あ、それはあるかも>{>}うん。」(208)では納得した様子である。さらに、ライン番号 209 では疑似引用による演技のようなものであり、「確かに、情報<提供しますみたいな>{<}。」と例を挙げながら、ベース協力者 JWB04 へ共感を表している。このような場合のアップシフトを相手への共感と分類する。

#### 例 28

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
206	205	*	JWF04	あ、なんか人に、知ってる知識は教えてあげたいかも>{<}。
207	206	*	JWB04	<そう>{>}そうそうそう、<そのほうが向いてる>{<}。
208	207	*	JWF04	<あ、それはあるかも>{>}うん。
209	208	*	JWB04	何か、なんか物とか服とか売よりもそっちのが向いてそう。
210	209	*	JWF04	<b>確かに、情報&lt;提供しますみたいな&gt;{&lt;}。</b>

### (3) 自問自答

ひとりごとの発話、自問するような発話をする時に出てくるアップシフトである。次の例は日本人女性友人同士の会話である。二人は明後日の野球の早慶戦について話し合っている。ライン番号 18 ではベース協力者 JWB02 は会話相手の質問に対して自問自答の形で答えるのである。決意表明のような形で、わざと正式な感じで言っている表現方法で行っているために、文末でスピーチレベルのアップシフトが観察された。このような場合は自問自答と分類する。

#### 例 29

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
13	12	*	JWF02	あさって、早慶戦困っちゃった。
14	13	*	JWB02	ほんと<困っちゃった、雨降り出して>{<}。

15	14	*	JWF02	<ねね、「JWB02 の名前」さん>{>、「JWB02 の名前」さん行くつもりなんだよね。
16	15	*	JWB02	え。
17	16	*	JWF02	あれで行くの?、サークルで行くの?。
18	17	*	JWB02	あ、そう、どうしようかと思ったんだけど、サークルで、行きます。
19	18	*	JWF02	あ、そうか、そうかー。

#### (4)確認

同じく日本人女性友人同士の会話である。二人はゼミが終わってからの飲み会について話し合っている。ベース協力者 JWB04 は先生がおごってくれることをうれしく思っているようである。それに対して、会話相手 JWF04 は「毎回じゃないでしょ」と確認するとき、アップシフトが用いられた。この場合のアップシフトを確認の機能と分類する。

#### 例 30

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
435	426	*	JWB04	でも先生がおごってくれるのはうれしい。
436	427	*	JWF04	<b>毎回じゃ&lt;ないでしょ&gt;{&lt;}?。</b>
437	428	*	JWB04	<毎回じゃ>{>}ないけど、たまに気が向いたときとか<笑い>。

#### (5)新しい話題の導入

ライン番号 237 では会話相手の JWF02 がこの間ベース協力者 JWB02 からもらったお菓子という新しい話題を導入する場合に、アップシフトが観察された。このようなアップシフトの場合は新しい話題の導入とみなされる。

#### 例 31

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
237	235	*	JWF02	<b>】】</b> せば、あれもらってるやつ、あれおいしかったです。
238	236	*	JWB02	<ああ>{<}。
239	237	*	JWF02	<もらったおかし>{>}。

そのほかに以下のような機能を追加する。

(6) 文句を言うとき

例 32 は日本人女性友人同士の会話である。二人は明後日の早慶戦について話し合っている。ライン番号 31 でアップシフトが観察された。それは 2011 年 3 月 11 日の大地震の影響で新学期が一ヶ月ほど遅れた。そのために、いろいろなイベントの準備をする時間が短くなって、その中のひとつは早慶戦であった。会話相手の JWF02 は三年生として一年生と交流したい気持ちがあつて早慶戦を見に行くことにした。しかし、一年生が一人も来ないという最悪な事態となっていた。そういうことに文句をつけるために、相手との心的距離を置いた感じでのアップシフトが観察された。それは会話相手を責めるのではなくて、友人同士であるために、自分の一年生への不満を漏らしたのである。このような場合のアップシフトを文句を言うときのシフトに分類する。

例 32

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
25	24	*	JWF02	あのね、今回すごい、ほら、一ヶ月遅れちゃったじゃない[↑]。
26	25	*	JWB02	うん。
27	26	*	JWF02	そのせいで、あの、いろいろともう用事きつきつでさ、もう一週間に一回絶対なんらかのイベントあるわけよ、だからね、新入生も食傷気味らしくて。
28	27	*	JWB02	なんでそうやってくるんだろう、<減らせよ>{<}。
29	28	*	JWF02	<元々>{>}、え、だって、楽しいじゃないか。
30	29	*	JWB02	ええ、<それは>{<}【【。
31	30	*	JWF02	】】<メールとかで>{>}きつきつですよ。
32	31	*	JWF02	三年生も楽しみたいしさ、一年生とね(うん)触れ合いたいし、延ばしてなるものかという気持ちがあるから(うんうん)、早慶戦来るんだな、早慶戦に一年生 1 人も来ないの。
33	32	*	JWB02	あ、そうなんだ。
34	33	*	JWF02	うん、早慶戦だから、見に来ると思ったら来ないのね、祐ちゃんとかそういうさ。
35	34	*	JWB02	いないもんね。

(7) 驚き・意外

例 33 は日本人女性友人同士の会話である。ベース協力者 JWB01 は自分の兄に早く結婚してほしいという話になった。しかし、残念ながらお兄さんはまだ彼女さえいないのである。「そういう環境にいないから、しょうがない」(423)とベース協力者 JWB01 はあきらめていた

ようである。会話相手の JWF01 はお兄さんがどのような環境にいるのか推測したように、「でも、それで、院とかですか。」(424)というさらに彼女ができなさそうな大学院に進むお兄さんのことについて聞いた。その場合、アップシフトが観察された。それは話者が驚きと意外を表すために使われているといえよう。このような場合のアップシフトを驚き・意外と分類する。

例 33

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
417	392	*	JWB01	いいなあ、いいなあ、うちのお兄ちゃんも早くどうにかすればいいのに。
418	393	*	JWF01	<笑い>。
419	394	*	JWB01	彼女の一人も作ればいいのに。
420	395	*	JWF01	いないのか。
421	396	*	JWB01	いない, いない, いない, いない。
422	397	*	JWB01	《少し間》普通にいない。
423	398	*	JWB01	そういう環境にいないから、しょうがないくちゅう、しょうがないんだよね>{<}
424	399	*	JWF01	<あーー>{<}>、でも、それで、院とかですか。
425	400	*	JWB01	そうそうそうそうそう。
426	401	*	JWB01	女性がいらないからね、そもそもね。
427	402	*	JWB01	《沈黙 3 秒》ありえないー。
428	403	*	JWF01	<笑い>。

次に、日本人女性友人同士のアップシフトを以上の分類基準に基づき、機能の観点から分類した。信頼性を確認するために、20%について第二評定者がコーディングし、評定者間信頼性係数を測った結果、 $\kappa = 0.77$  という数値が得られた。

さらにそれぞれの種類の数を集計し全体の割合を算出した結果は、以下の表 39 に示すとおりである。

表 39 日本人女性友人同士会話におけるアップシフトの機能

会話文番号	会話 1	会話 2	会話 3	会話 4	会話 5	会話 6	平均
1 心的距離の拡大	0.00%	41.18%	20.00%	25.00%	14.29%	57.89%	26.39%
2 相手への共感	16.67%	5.88%	0.00%	12.50%	14.29%	5.26%	9.10%
3 自問自答	33.33%	5.88%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	6.54%

<b>4 確認</b>	<b>33.33%</b>	<b>17.65%</b>	<b>80.00%</b>	<b>62.50%</b>	<b>71.43%</b>	<b>31.58%</b>	<b>49.41%</b>
5 新話題の導入	0.00%	11.76%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1.96%
6 文句を言うとき	0.00%	17.65%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	2.94%
7 驚き・意外	16.67%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	5.26%	3.65%

平均からみて一番多いのは「確認」という機能であり、全体の49.41%を占めている。およそ半分ぐらいである。二番目に多いのは「心的距離の拡大」であり、全体の26.39%を占めている。

それから、日本人男性友人同士のアップシフトを以上の分類基準に基づき、機能の観点から分類した。信頼性を確認するために、20%について第二評定者がコーディングし、評定者間信頼性係数を測った結果、 $\kappa=0.76$  という数値が得られた。

さらにそれぞれの種類の数を集計し全体の割合を算出した結果は、以下の表40に示すとおりである。

表40 日本人男性友人同士会話におけるアップシフトの機能

会話文番号	1	2	3	4	5	6	平均
1 心的距離の拡大	7.69%	6.67%	9.09%	20.83%	23.53%	44.44%	18.71%
2 相手への共感	3.85%	0.00%	0.00%	4.17%	0.00%	0.00%	1.34%
3 自問自答	3.85%	6.67%	0.00%	0.00%	17.65%	0.00%	4.69%
<b>4 確認</b>	<b>84.62%</b>	<b>86.67%</b>	<b>90.91%</b>	<b>75.00%</b>	<b>58.82%</b>	<b>55.56%</b>	<b>75.26%</b>
5 新話題の導入	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
6 文句を言うとき	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
7 第三者に対する待遇表現	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

平均からみて一番多いのは「確認」という機能であり、全体の75.26%を占めている。女性の49.41%より高いのである。二番目に多いのは「心的距離の拡大」であり、全体の18.71%を占めている。女性の26.39%より低いのである。

まとめれば、日本人友人同士会話におけるアップシフトの機能で一番多いのは「確認」であり、二番目に多いのは「心的距離の拡大」である。言語形式の結果では、日本人友人同士会話におけるアップシフトで一番多いのは「でしょう」という形であり、二番目に多いのは「です」という形である。

庵(2009)では「でしょう」には推量と確認の2つの用法があるという。しかし、実際の会話データを分析した結果では確認が多数派である。特に推量の「でしょう」の言い切りの用法は極めて少ない。「でしょう」で言い切ることができるのは発話者が専門家である(天気予

報はその典型である)場合など一部の場合に限られると指摘されている。本研究でのアップシフトの「でしょう」の用法はすべて「確認」の機能を果たしていると認められる。アップシフト「でしょう」の出現率が高いことにより全体的にアップシフトの「確認」という機能が高くなるわけである。

B&L(1987)では日本語のポライトネス・ストラテジーとして直接的に明言していると考えられるのは敬語の使用、ヘッジ表現、間接的な表現など、基本的には距離を置くような性格を持つネガティブ・ポライトネス・ストラテジーだといえよう。以上の表 39 と表 40 で示したように、実際の日本人友人同士の会話では、心的距離を置くような機能は女性が 26.39%であり、男性は 18.71%に過ぎない。一番多く使われている機能は「確認」であり、女性が 49.41%を、男性が 75.26%を占めている。したがって、日本人友人同士の会話では距離を置くような性格を持つネガティブ・ポライトネス・ストラテジーとしての機能はほんの一部分に過ぎない。

本章の 4.3.3.2.1 節での調査結果によれば、言語形式からみると、日本人男性友人会話におけるアップシフトが一番多いのは「でしょう」という形であり、全体の 70.3%を占めている。一方、日本人女性友人会話におけるアップシフトが一番多いのも「でしょう」という形であり、47.7%を占めている。しかも、「でしょう」の機能はすべて「確認」であることがコーディングした結果で分かった。したがって、次は「でしょう」というアップシフトについて具体的な例を踏まえながら、論じていく。

次の例 34 は日本人男性友人同士の会話である。JM19 が一年前の飲み会で酔っ払ったことを話している。一緒に行く友達はみんな酔っ払って救急車を呼んだほうが楽しいと冗談半分に JM19 を煽っていたが、結局救急車は呼ばなかった。それにも関わらず 1 万 5 千円もかかった。一方、JM20 は酔っ払って歯を二本折ったことで、救急車を呼んだことがある。二人は救急車を呼ぶときの費用について話し合っている。ライン番号 52 では JM19 は救急車を呼んだ経験のある JM20 にその値段を確認したところ、「あー、救急車は 1 回 5,000 円でしょ?」というアップシフトが観察された。さらにライン番号 58 と 59 では「多分、それ行ったらさ、よ、もっと取られるでしょ?」「1 万円以上取られたでしょ?」と確認したところでまたアップシフトが見られた。それは救急車を呼ばなかった JM19 の救急車を呼んだ経験のある JM20 に対する確認である。三枝(2003)で述べられたように、「でしょう」は話し手の主観的な想像を表すものである。JM19 はそういう経験がないので、想像したことを相手に確認したのであろう。

例 34

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
49	46	*	JM19	おれ、あれ、救急車代って、取られるん、だっけ…。

50	47	*	JM20	取られなかったわ。
51	48	*	JM19	5,000 円ぐらい取られるんだよね。
52	49	*	JM20	あー、救急車は 1 回 5,000 円でしょ?。
53	50	*	JM19	ね。
54	51	*	JM20	たか、1 万 5,000 円ぐらい(うん)、いくら、結局いくらだ?[↓]。
55	52	*	JM19	1 万 5,000 円だった。
56	53	*	JM19	いや、行ってない、それから<軽く笑いながら>。
57	54	*	JM20	そっか、あ?。
58	55	*	JM19	多分、それ行ったらさ、よ、もっと取られるでしょ?。
59	56	*	JM19	=1 万円以上取られたでしょ?。
60	57	*	JM20	うん、そら、行ったら取られたんだ、なくんか>{<}。
61	58	*	JM19	<ねー>{>}。
62	59	*	JM20	結構払ったのにー、さらにプラスされた。

これまで「でしょう」についての研究が数多く行われてきた(三上 1963、奥田 1984、安達 1997、三枝 2003 など)。三上(1963)は、「でしょう」は確信度が弱く、相手に同調の余地を残すと考えた。一方、奥田(1984)は、森田(『基礎日本語辞典』)が「でしょう」を「断定を保留するとき用いる言い方」とみなしたことについて、「想像とか判断とかが確実な、じゅうぶんな根拠にもとづいて、正当な論理的な手づぎによってくみだてられていけば、その対象的な内容としての出来事は、たしかなものとしてあらわれる。」と指摘した。「でしょう」の使い方について研究者の間では揺れが見られる。本研究で観察されたライン番号 52 のアップシフトである「でしょう」の確信度はかなり高いと思われる。なぜならば、話者 W20 は前に救急車を呼んだことがあるから、その価格を知っているはずである。

奥田(1985)にも指摘されるように「でしょう」には「きき手、よみ手のことを配慮しながら、主張のきつさをやわらげるため、事実をぼかしてしまう」働きもある。話者 W20 は救急車の価格を知っているが、偉そうに相手に教えるのではなく、「でしょう」を使うことによって相手への配慮が感じられる。それは自分の意見に賛同してもらいたいという話し手の望みに応えることができるという B&L(1987)の「一致を求めよ」というポジティブ・ストラテジーになっているといえよう。

また、安達(1997)は「でしょう」による言い切りが可能になる場合として次の 2 つの場合を挙げている。

- 1) 自分の述べる意見や情報が聞き手にとっても受け入れやすいと考えられる場合
- 2) 相手に対する配慮を犠牲にしても、強く主張するということを意図する場合

ライン番号 58 と 59 では「多分、それ行ったらさ、よ、もっと取られるでしょ?」「1 万円以上取られたでしょ?」という話者 M19 の M20 への確認である。話者 M19 が自分の想像に基づき、出した金額は 10 万円以上ではなく、1 万円以上である。それは妥当な価格であり、聞

き手にとっては受け入れやすいと考えられる。

さらに三枝(2003)は「だろう」は話し手の主観的な想像を表すものだが、それが第三者ではなく現に目の前の聞き手に向かって発話されると、新たな意味が加わる。すなわち、一方では、言い切れることがらに「想像」の形を使うことで話し手の遠慮を示すことができる。また、一方では、文末の語気の強さ、イントネーションをともなって「話し手の主観的な想像」であることが強調され、聞き手に確かめたり話し手の想像を押しつけることになる。そして、ある事態への話し手の判断を聞き手に確認したり、押しついたりするこの「だろ・でしょ」は、話し手の縄張りを聞き手の縄張りにまで押し広げようとする働きをしていると考えられると指摘した。つまり「だろう」の使用は話し手が聞き手に押し付けていると話し手に受け取られる恐れがある。したがって、「だろう」から「でしょう」へのアップシフトは話し手の聞き手に対する相手の他人に邪魔されたくないというネガティブ・フェイスを侵害する言語行動を軽減するためのストラテジーではないかと推測できるのである。

#### 4.4 まとめ

本章では、日本人初対面と友人同士会話のデータに基づき、文中、文末スピーチレベル及びスピーチレベルシフトという3つの観点から実証的に分析した。

まず、日本人初対面会話の文中スピーチレベルの基本状態は特別にマークする必要のない語彙（ニュートラルな語彙）Pである。少なくとも全体の85%以上である。一方、日本人友人会話の文中スピーチレベルの基本状態は同じくニュートラルな語彙Pである。日本人初対面会話よりは少ないが、5割以上を占めている。統計的に有意か確かめるために、有意水準5%で両側検定の $t$ 検定を行ったところ、話者の関係が親しくなると、ニュートラルな語彙Pの使用が有意に減少し、正式な場面で通常使わない語彙Nの使用が有意に増加する傾向があるということが分かった。日本人会話のスピーチレベルについて、宇佐美(2001a)では「文中」に尊敬語、謙譲語などが含まれるかどうか、話者自身の言葉遣いの特徴の指標となると予測している。要するに、日本人初対面会話と友人会話の文中スピーチレベルの基本状態は同じく特別にマークする必要のない語彙（ニュートラルな語彙）Pである。ただし、関係が親しくなると、Pの使用が減少し、Nの使用が増加する傾向があるという話者自身の会話の特徴を窺うことができる。

日本人初対面会話と友人同士会話のPの割合を見ると、どの会話でもベース協力者と会話相手の使用がほぼ半分ずつを占めていることが明らかになっている。話者自身は意識していないかもしれないが、ベース協力者と会話相手に文中のスピーチレベルの主な構成要素であるPの使用はほぼ同じぐらいである。相互の情報を共有しない初対面会話だけでなく、友人同士の会話でも、対等的な関係を示すように、ベース協力者自身の発話の特徴としてのPの出現率は会話相手とほぼ同じぐらいを維持していることが証明された。それは対人コミュニケーションをする場合、自分のフェイスを守りつつ、相手のフェイスを侵害



しないように配慮しているのではないかとと思われる。

次に、本研究では日本人初対面会話の文末スピーチレベルの基本状態は、「です・ます」体 (P) であるということが明らかになった。先行研究では日本語母語話者は同等の相手との初対面会話の基本状態が丁寧体 (「です・ます」体) であるという報告が多い (宇佐美 1995 など)。一方、三牧 (2013) では日本人大学生の初対面会話の基本状態が普通体 (「だ・である」体) であると報告された。その差は、三牧 (2013) の研究対象 (関東以外の地域の出身) の大部分が関西の出身の学生であるのに対して、本研究の研究対象がすべて関東出身の学生であることによると考えられる。つまり、基本状態の同定は協力者の出身の影響が大きく、一概に大学生初対面会話の基本状態は常体であると断じることは適切ではない。

一方、日本人友人同士会話の文末スピーチレベルの基本状態は、初対面会話と違って、「だ」体 (N) である。さらに、統計的に有意か確かめるために、有意水準 5% で両側検定の  $t$  検定を行ったところ、対話者との親疎関係を顕著に反映しているのは初対面会話と比較して友人会話での文末スピーチレベルの敬体「です・ます」P の減少と常体「だ」N の増加であることが明らかになった。その結果は B&L (1987) ポライトネス理論の予測と同じである。

最後に文末スピーチレベルを動的に捉えるために、スピーチレベルシフトの観点から分析した結果、日本人初対面会話と比べると、友人同士の会話のスピーチレベルシフトが有意に少ないということである。言い換えれば、スピーチレベルシフトの出現率は相手との親疎関係と、ほぼ比例しており、相手との社会距離を顕著に反映していると思われる。

## 第五章 中国人会話の語彙の丁寧度

宇佐美(2001a、2002 など)では敬語を有する言語と日本語のような敬語体系のない言語等の、各言語に固有の特性を超えた共通の枠組みでポライトネスを比較・検討する必要があると指摘された。第四章では日本語の文中スピーチレベル、文末スピーチレベル、スピーチレベルシフトという観点から敬語のある日本語の語彙の丁寧度を検討した。この章では日本語のような敬語体系のない言語の中国語の語彙の丁寧度を分析する。さらに、中日の語彙の丁寧度でのポライトネスの共通点と相違点を探る。

唐麗燕・易紅艷(2011)は「日本語には「体系性、規則性を持った敬意を表す言語手段」という意味での敬語があるのに対して、現代中国語にも「ある対象に対して気配りを示す言語手段」という意味での敬語表現がある」と指摘した。しかし、具体的に中国語においてどのような敬語表現があるのかについては示されていない。

中国には方言のバラエティがあるため、中国語の敬語を考える前に、まず、中国語の共通語（普通話）の定義を明らかにする必要がある。現代中国語の共通語は“普通話”と言うが、「普通話，即现代标准汉语。普通話是以北方话为基础，以北京语音为基础音，以典范的现代白话文著作作为语法规范的现代汉语标准。（普通話は現代標準中国語である。普通話は中国の北方の方言をベースに、北京語音を標準音とし、模範的な現代口語文の著作を文法規範とした漢民族の共通語であり、中国の標準語とされている）」(中国国务院 1956 より)。したがって、本研究では協力者の選定は日常生活で中国語の共通語を使用している<sup>32</sup>北方の学生（河北省と東北地方の出身<sup>33</sup>）に限定する。その会話に出てくる語彙の丁寧度(敬語を含める)を分析する。本章では宇佐美(1998、2001ab、2001 など)のDP理論に基づき、中国人初対面会話と友人会話の語彙の丁寧度の基本状態を同定した上で、その基本状態から離脱する有標行動を分析し、フォローアップアンケートを通して、その発話効果を探る。

### 5.1 中国人会話の語彙の丁寧度のコーディング基準

中国語には、日本語のような文末における敬体と常体の区別はないが、語彙レベルの丁寧度が存在する。しかし、従来の研究において、中国人会話の語彙の丁寧度についての分類は、小説などの書き言葉が中心となっている(馬慶株 1997、周筱娟 2008 等)。また、話し言葉の研究では、丁寧度の極端に低い罵り言葉についての研究など数多く見られる(胡士云 1997a、1997b、大河内 1997)。本研究では劉全花(2011)などを参考にして、中国語の話し言葉の特徴を反映するべく、語彙の丁寧度を表1の4項目に分類する。

<sup>32</sup> 河北省にある燕山大学の学生同士は出身が異なるため、学生同士が共通語で話すことが多く、収集した会話データは基本的に共通語で話されるものである。

<sup>33</sup> 本研究の中国語会話データは中国の河北省にある燕山大学で収集した。協力者は特に河北省と東北地方の出身に限定したわけではないが、燕山大学で北方の出身の協力者を選出すると、結果的にこの二つの地域になってしまうためである。

表1 語彙の丁寧度のコーディング記号とその定義<sup>34</sup>

記号	丁寧度	定義
S	Super-polite	対目上動詞、対目下動詞、尊敬語、謙讓語(馬慶株 1997)及び「您」, 「各位」, 「诸位」など(周筱娟 2008)
P	Polite	特別にマークする必要のない語彙(ニュートラルな語彙)
N	Non-polite	ニックネームや「恶心, 变态」など丁寧度が低く正式な場面で通常使わない語彙
V	Vulgar	罵り表現やいわゆる放送禁止用語など、丁寧度が極端に低い語彙、禁忌語、罵り言葉など。胡士云(1997a, 1997b)、大河内(1997)の分類を踏まえて、7つの種類に下位分類する。

次に具体的な例を挙げながら、中国語の語彙の丁寧度のコーディングの基準を説明する。

(1) 「S」: Super-polite

王鉄橋(1989) 馬慶株(1997) 羅国忠(1998) 周筱娟(2008) 徐輝(2012) 曾小燕(2013) 吳文洁(2015) 等を参考にして以下の言葉を「S」と分類する。

① 目上動詞(对上动词)

例: 拜(拝), 报(報告する), 请(どうぞ), 拜见(お会いする), 健在(健在する)等

② 目下動詞(对下动词)

例: 赐(賜), 赏赐(くだされもの), 恩赐(おかげ)等

③ 尊敬語: 尊敬の意味を表す言葉とフレーズ

例: 「您(あなたの敬称)」 「各位(各位)」 「诸位(皆様)」 「您贵姓?(お名前は?)」 等

④ 謙讓語: 謙讓の意味を表す言葉とフレーズ

例: 「犬子(せがれ)」 「寒舍(拙宅)」 「敝人(自分の謙讓語)」 「贱内(女房)」 「老夫(古語、自分の謙讓語)」 「免贵姓... (名前は...)」 等

⑤ 呼称: 名字+肩書き

例: 「张教授(張教授)」 「李经理(李社長)」 「王董事长(王取締役)」 等

⑥ 丁寧語、丁寧語

例: 「你好」「谢谢」「对不起」「再见」「不客气」「不好意思」「让您久等了」「请慢走」等

⑦ 接辞的な手段による尊敬語

贵— 贵国(貴国) 贵校(貴校) 贵公司(貴社) 贵方(そちら側)

高一 高见(ご高見) 高寿(お年—お年寄りに尋ねる場合) 高徒(お弟子)

大一 大作(貴著) 大名(ご高名) 大驾(貴方)

令— 令尊(お父上) 令堂(お母上) 令郎(ご令息) 令爱(ご令嬢)

贤— 贤弟(自分より年下の友人や自分の弟に対する敬称) 贤妻(他人の妻に対する敬

<sup>34</sup> 本研究では宇佐美研究室共同プロジェクト(2010)の日本語スピーチレベルコーディングのマニュアルを参考にして中国人会話の語彙の丁寧度を定義した。

称) 贤侄(甥に対する敬称)

尊— 尊夫人(奥様)

宝— 宝地(御地)

雅— 雅兴(ご興味)

赏— 赏光(おいでくださる) 赏脸(おいでくださる)

光— 光临(お越しになる) 光顾(ご愛顧くださる)

惠— 惠贈(お贈りになる) 惠顾(ご愛顧になる)等

⑧接辞的な手段による謙讓語

家— 家父(私の父) 家母(私の母)

舍— 舍弟(私の弟) 舍妹(私の妹)

拙— 拙見(愚見) 拙作(拙作) 拙著(拙著)

小— 小弟(私一同輩に対して) 小女(私の娘)

拜— 拜托(お願いする) 拜访(ご訪問する) 拜会(ご面会する) 拜读(拝読する)

奉— 奉陪(お供する) 奉还(お返しする) 奉劝(お勧めする) 奉告(お知らせする)

奉送 (差し上げる)等

(2) 「P」: Polite

特別にマークする必要のないニュートラルな語彙

例: 人名、地名、一般的な品詞(名詞、動詞、形容詞、数詞、量詞、代詞、副詞、介詞、接続詞、助詞、感嘆詞、擬音語『現代汉语词典』より)等

(3) 「N」: Non polite

①ニックネームの使用などくだけた呼びかけ

例: 「小王」、「老刘」、「大李」、「名字抜きの名前」「外星人」「强哥」「老大」等

②丁寧度が低く正式な場面で通常使わない語彙

例: 「恶心(きもい)」「变态(変態)」「破烂儿(ごみ)」「讨厌(いやだ)」「瞎笑(馬鹿笑い)」「咱们(われわれ)」「咕嚕(車輪)」「哎呀(あつ)」「废话(無駄話)」「你俩(あんたたち)」「没准(かもしれない)」「爽(気持ちいい)」「完了(そのあと)」「整个(まるごと)」「别扭(意見が合わない)」「弄(やる)」等

③音声的な変形(縮約、音便など)、目上に対してあまり使わないと判断できる語彙。

例: 「特- (特に・非常に)」「装啥(-ぶる)」「啥(何)」「咋(どうして・なぜ)」「咱(われ)」等

④言葉の縮約形

例: 「北大」(「北京大学(北京大学)」の変形)

「大一」(「大学一年级(大学一年生)」の変形)

「邮编」(「邮政编码(郵便番号)」の変形)

「环保」(「环境保护(環境保護)」の変形)等

⑤ 東北方言<sup>35</sup>: 唐聿文(2012)『東北方言大詞典』に収録されたぞんざいな言葉である。

例:「哪噶(あそこ/どこ)」「糊弄人(人をだます)」「哎呀妈(驚く時に使う)」「哏地(どのように処置すればいいのか)」「那样式的(そのような)」「搁那儿(あそこに置く)」「那前儿(あの時)」「那阵儿(その時)」「对象(付き合っている相手)」「寻思(考える)」「瞅着(見る)」「腾‘teng4’(ぐずぐずする)」「老-(常に)」「爱-(という傾向がある)」「可-(とても)」等

⑥ 河北方言<sup>36</sup>: 李行健(1995)『河北方言词汇编』に収録されたぞんざいな言葉である。

例:「待见(好き)」「不赖(いい・悪くはない)」「疙瘩(餃子)」「俺(私)」「拾掇(片付ける)」「窝囊(汚い)」「早起(朝)」「真好看(ほんとうに美しい)」等

⑦ 感嘆・感動を表す言葉など

例:「-呀(ね)」「-啊(ああ)」「是啊(そうね)」「是呀(そうよね)」等

⑧ 流行り言葉

例:「棒(すばらしい)」「酷(クール)」等

#### (4) 「V」: Vulgar

罵り表現やいわゆる放送禁止用語など、丁寧度が極端に低い語彙である。本研究では胡士云(1997a、1997b)、大河内(1997)の分類を踏まえて、以下のように7つの種類に下位分類する。

① 性にかかわるもの

例:「我靠, 靠, 我操, 操, 操你妈, 他妈的, 你妈的, 傻 bi1, 我去, 去(ばかやろう)」等

② 動物や虫になぞらえ、相手の出自をいうもの

例:「王八, 王八蛋, 王八羔子(畜生)」、「猪(豚)」、「狗(犬)」、「癞皮狗(卑怯なやつ)」、「兔崽子(畜生め)」、「杂种(畜生)」等

③ 死や死亡者、病気などにかかわるもの

例:「该死的, 该杀的(くたばれ)」、「老不死(くそじじ/くそばば)」、「神经病(精神病)」、「有病(厄病者)」等

④ (性格、品性、能力に関係がある) 下賤あるいは無能をいうもの

例:「傻子, 傻瓜(ばか)」、「废物(ろくでなし)」、「懦夫(臆病者)」、「贱, 贱货, 婊子, 骚货(水商売の女)」、「不要脸(恥知らず)」、「放屁, 屁(くそ)」等

⑤ 身体障害や欠陥をいうもの

例:「秃子, 秃驴(はげ)」、「丑八怪(ブス)」、「瘸子(足の不自由な人)」、「矬子, 二等残

<sup>35</sup> 東北方言と河北方言に敬語がなく、その中に含まれているぞんざいな言い方は基本的に「N」とコーディングする。

<sup>36</sup> 今回の協力者の一部分は河北省の出身であるため、河北の方言のぞんざいな語彙が使われている可能性がある。その場合は「N」とコーディングする。

废(背が低い人)」、「电线杆子(電信柱のように背が高い人)」、「三角眼(三角目)」等

⑥家族、親戚などの長幼の順序にかかわるもの。実際の長幼と関係なく自分のことを目上や年長者の立場に立てて、相手のことを貶めて目下扱いする。

例：「老子(おやじ)」、「孙子(孫)」、「大爷(おじさん)」、「儿子(息子)」等

⑦その他

例：「滚(出て行け)」

以下のように中国語の語彙の丁寧度のコーディングの例を示す。

例1 中国語の語彙の丁寧度のコーディングの例

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容	語彙
189	186	*	CMN04	你们不断电不断网多长时间了?。(電気もあって、ネットもつながっているのはどのぐらいか。)	P
190	187	*	CMB04	一两天。(一日二日ぐらい。)	P
191	188	*	CMN04	<b>我的个去</b> , 这让 <b>老夫</b> 很郁闷啊, 我们那边知道么, 我们那边那个 <b>十一组</b> 不是也刚盖的么。 ( <b>畜生</b> 、それで <b>わし</b> は気分が悪くなったんだ。俺らのところ知ってるか。俺らの <b>第11地区</b> も新築だろ。)	SNV
192	189	*	CMN04	嗯。(うん。)	P
193	190	*	CMB04	<b>十一组</b> 刚盖的, 电力系统还是完好无损的。 ( <b>第11地区</b> は新築だから、電力のシステムが完璧だ。)	N
194	191	*	CMB04	嗯。(うん。)	P
195	192	*	CMN04	所以说它不是手工控制的, 你们那儿都是手工控制的?。 (だから手動じゃないんだ。君のところは手動だろ?。)	P
196	193	*	CMB04	我们那个刚开始一楼不是 <b>大四</b> 。 (俺らのところは最初一階に <b>四年生</b> が。)	N
197	194	*	CMN04	嗯。(うん。)	P
189	186	*	CMB04	<b>大四</b> 在那儿住时间长了, 对那个特别 <b>熟儿</b> , 所以他就是每次学校不是去那儿修, 修完他就给改了。 ( <b>四年生</b> は長く住んでいて、そのあたりにすごく詳しいよ。だから、学校はさ、いつも修理してるだろ。修理が終わったら、すぐシステムをなおすんだ。)	N
190	187	*	CMN04	对。(そうなんだ。)	P

## 5.2 中国人初対面会話の語彙の丁寧度について

本節では、5.1の基準に従い、中国人会話データをコーディングした。さらに、信頼性を確認するために、20%について第二評定者がコーディングし、評定者間信頼性係数を測った結果、 $\kappa=0.79$  という数値が得られた。

### 5.2.1 中国人女性初対面会話の語彙の丁寧度について

中国人女性初対面 6 会話を語彙の丁寧度の観点からコーディングすると、各項目の割合の平均値は表 2 の結果となった。

表 2 中国人女性初対面会話における語彙の丁寧度の各項目の平均値

話者	P(Polite)			N(Non-polite)		
	合計	平均	割合	合計	平均	割合
CWN	1113	185.50	78.00%	314	52.33	22.00%
CWB	1091	181.83	82.40%	233	38.83	17.60%
平均	2204	367.33	80.12%	547	91.17	19.88%

中国人女性初対面会話の語彙の丁寧度の比率は P / N=80.12%対 19.88%である。つまり、グローバルな観点からみれば、中国人女性初対面会話の語彙の丁寧度の基本状態は P / N の比率はおよそ 8 対 2 である。言い換えれば、中国人女性初対面会話では特別にマークする必要のないニュートラルな語彙(P)がおおよそ全体の 8 割を占めている。残りの 2 割程度は丁寧度が低く正式な場面で通常使わない語彙(N)である。次に具体的に各会話における各項目の割合を見てみよう。

表 3 中国人女性初対面各会話における語彙の丁寧度の各項目の割合

話者	P(Polite)		N(Non-polite)	
	頻度	割合	頻度	割合
会話 1	371	85.68%	62	14.32%
会話 2	327	85.83%	54	14.17%
会話 3	385	81.40%	88	18.60%
会話 4	349	78.25%	97	21.75%
会話 5	430	82.38%	92	17.62%
<b>会話 6</b>	342	<b>68.95%</b>	154	<b>31.05%</b>
平均	367.33	80.12%	91.17	19.88%

表 3 に示したように、会話 6 だけは他の会話と違って、語彙の丁寧度の比率が P /

N=68.95%対 31.05%である。約 7 対 3 であり、基本状態の 8 対 2 から離脱しているといえる。つまり、丁寧度が低く正式な場面で通常使わない語彙 (N) が多く出てきたといえよう。具体的に会話をみると、ベース協力者 CWN06 は中国東北地方の出身であるために、くだけた言い方だけでなく、東北地方の方言が多用される傾向がある。また、会話相手の CWB06 がベース協力者 CWN06 に影響されて河北省の方言を使ったりするようにもなっている。互いに方言を使うことによって、語彙の丁寧度が低くなっているのである。したがって、N の割合が高くなったのであろう。宇佐美 (1998、2001ab、2002 等) の DP 理論の観点から考えると、会話終了後のフォローアップアンケートでは、それに対して不愉快に思わないということで、ニュートラル効果だと認められた。

### 5.2.2 中国人男性初対面会話の語彙の丁寧度について

中国人男性初対面会話 6 会話を語彙の丁寧度の観点からコーディングし、各項目の割合の平均値は表 4 の結果となった。

表 4 中国人男性初対面会話における語彙の丁寧度の各項目の割合の平均値

話者	P(Polite)			N(Non-polite)			SNV			NV		
	合計	平均	割合	合計	平均	割合	合計	平均	割合	合計	平均	割合
CMN	753	125.50	61.12%	474	79.00	38.39 %	1	0.17	0.08%	5	0.84	0.40%
CMB	859	143.17	78.74%	232	38.67	21.26%	0	0.00	0.00%	0	0.00	0.00%
平均	1612	268.67	69.93%	706	117.67	29.83%	1	0.17	0.04%	5	0.84	0.20%

中国人男性初対面会話の語彙の丁寧度の基本状態は P / N の比率が 69.39%対 30.39%であり、およそ 7 対 3 である。中国人女性初対面会話の語彙の丁寧度の基本状態は P / N の比率が 8 対 2 である。2 つの結果を比べると、男性の方が丁寧度が低く正式な場面で通常使わない語彙 (N) の割合が高いことがうかがえる。また、中国人男性初対面会話では丁寧度の低い罵り言葉 (SNV と NV) が合計 6 箇所出てきた。一方、中国人女性初対面会話ではそのような罵り言葉は一つも現れなかった。つまり、言語形式においては中国人男性初対面会話は女性よりくだけた言い方が多いといえよう。

中国人初対面会話の語彙の丁寧度の全体像をつかむために、表 2 と表 4 の結果を以下の図 1 に示す。



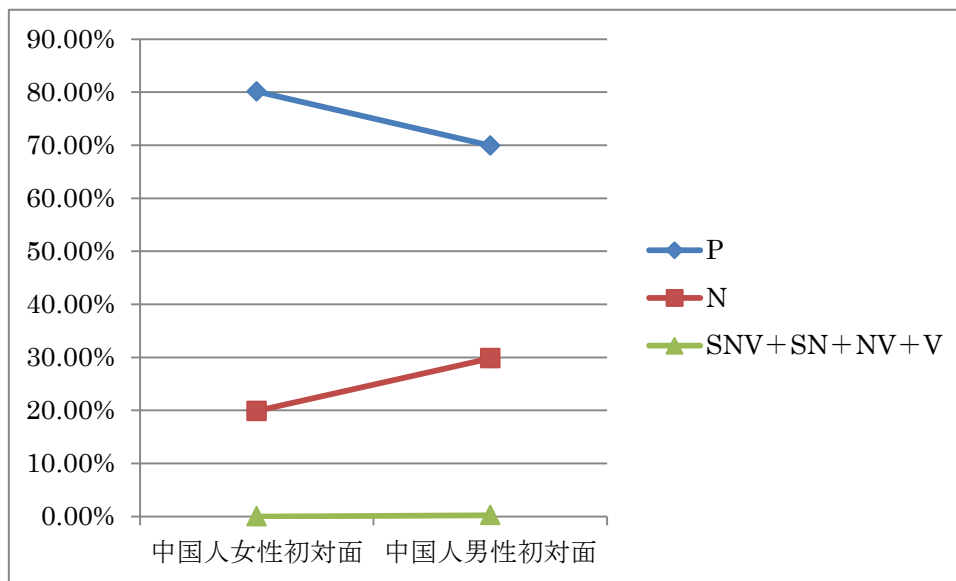


図1 中国人初対面会話の語彙の丁寧度の基本状態

グローバルな観点からみれば、図1に示したように、中国人初対面会話の語彙の丁寧度の基本状態は特別にマークする必要のないニュートラルな語彙(P)である。ただし、中国人初対面会話においては、女性と比べると、男性の方が丁寧度が低く正式な場面で通常使わない語彙(N)の割合が高いことが明らかになった。

次に具体的に中国人男性初対面各会話における語彙の丁寧度の各項目の割合を見てみよう。

表5 中国人男性初対面各会話における語彙の丁寧度の各項目の割合

話者	P(Polite)		N(Non-polite)		SNV		NV	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
会話1	307	79.33%	80	20.67%	0	0.00%	0	0.00%
会話2	186	60.98%	119	39.02%	0	0.00%	0	0.00%
会話3	208	71.23%	84	28.46%	0	0.00%	1	0.31%
<b>会話4</b>	<b>180</b>	<b>56.60%</b>	<b>135</b>	<b>42.45%</b>	<b>1</b>	<b>0.31%</b>	<b>2</b>	<b>0.63%</b>
会話5	433	70.18%	184	29.82%	0	0.00%	0	0.00%
会話6	298	73.76%	104	25.74%	0	0.00%	2	0.50%

グローバルな観点からみれば、6会話中3会話に丁寧度の低い罵り言葉(SNVとNV)が観察された。中国人男性会話では女性と違って、初対面であるにも関わらず、半分の会話で罵り言葉が出てきた。具体的に使用された罵り言葉は次の表6に示すとおりである。

表 6 中国人男性初対面会話における罵り言葉の使用実態

会話番号	使用回数	使用された罵り言葉（カッコの中の数字はライン番号である）
会話 1	0	なし
会話 2	0	なし
会話 3	1	我去 (110)
会話 4	3	我那个去 (127) 我的个去 (179) 我的个去 (191)
会話 5	0	なし
会話 6	2	靠 (93) 我去 (146)

「我去」と「我的个去」は二回ずつで、「我那个去」と「靠」は一回ずつである。四つとも性に関わる表現である。

次に、ローカルな観点から具体的な発話を分析する。表 5 に示したように、会話 4 は他の会話と違って SNV があり、つまり丁寧度の高い敬語と丁寧度の低い罵り言葉が同時に出てくる発話が観察された。そこで、会話 4 の文字化資料を調べてみると、その発話は例 2 のライン番号 191 に出てきたものである。中国の大学では夜 11 時を過ぎると、学生寮では消灯になったり、ネットが切れたりするのが普通である。しかし、ベース協力者 CMB04 の寮では、だれかが電気のシステムをこっそりといじったりしたために、夜は消灯時間が過ぎても電気もあるし、ネットもつながっているのである。それを聞いて会話相手 CMN04 は「俺らのところ知ってるか。俺らの第 11 地区も新築だろ。」という発話が出てきたのである。それは同じ大学の寮であるが、自分の新しい地区では夜消灯している。しかし、古い地区では消灯してないことに不満を感じているようである。そこで初対面にもかかわらず、罵り言葉である「我的个去（畜生）」を使って、感嘆・感動を表しているのであろう。それは会話相手に向かって罵るのではなく、ひとりごとに近い表現で感嘆を表しているのである。したがって、会話終了後のフォローアップアンケートではそれに対して、ベース協力者 CMB04 が不愉快に思わないという結果が出た。初対面会話では罵り言葉を使うと、疎の関係であるために、フェイス侵害度の高い行為だととらえられがちであるが、会話相手の許容度に収まって、ニュートラルの発話効果を生み出す場合がある。言語形式からみれば丁寧度の最も低い罵り言葉はインポライトネスだと捉えられるのが普通である。しかし、宇佐美（1998、2001ab、2002 など）の DP 理論の談話レベルで分析すると、発話効果の観点からみればそれが  $-\alpha$  という相手の許容範囲に収まってニュートラル効果となっていることがある。

一方、同じ発話では、「老夫」という言い方が出てきた。それは老人男性が自分を指す謙譲語である。中国語の敬語の範疇に入っているといえよう。したがって、コーディングす

る場合、「S」と判断された。このような言い方は若い男性にはほとんど使われていないようである。しかし、なぜ、大学三年生の会話に出てきたのか非常に興味深い。会話終了後のフォローアップアンケートを調べると、会話相手 CMN04 がそれを使用する理由が分かった。なぜかという、会話相手 CMN04 は中国では有名な若手作家韓寒<sup>37</sup>のファンであるために、言葉遣いが普通の若者と違うと書いてあった。韓寒の作風といえ、大げさな表現や様々な比喩表現を駆使して、ユーモアに富んだ表現で社会を諷刺している。その作者のファンであるために、話者はわざわざ「老夫」という昔風の謙譲語で、自分の学校に対する不満を表しているといえよう。会話終了後のフォローアップアンケートではそれに対して、ベース協力者 CMB04 は特に評価されなかった。つまり、言語形式である謙譲語の使用は必ずしもプラスの発話効果をもたらすとは限らないのである。

例2 (例1の再掲)

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容	語彙
189	186	*	CMN04	你们不断电不断网多长时间了?。(電気もあって、ネットもつながっているのはどのぐらいか。)	P
190	187	*	CMB04	一两天。(一日二日ぐらい。)	P
191	188	*	CMN04	<b>我的个去</b> , 这让 <b>老夫</b> 很郁闷啊, 我们那边知道么, 我们那边那个 <b>十一组</b> 不是也刚盖的么。 ( <b>畜生</b> 、それで <b>わし</b> は気分が悪くなったんだ。俺らのところ知ってるか。俺らの <b>第11地区</b> も新築だろ。)	SNV
192	189	*	CMN04	嗯。(うん。)	P
193	190	*	CMB04	<b>十一组</b> 刚盖的, 电力系统还是完好无损的。 ( <b>第11地区</b> は新築だから、電力のシステムが完璧だ。)	N
194	191	*	CMB04	嗯。(うん。)	P
195	192	*	CMN04	所以说它不是手工控制的, 你们那儿都是手工控制的?。 (だから手動じゃないんだ。君のところは手動だろ?。)	P
196	193	*	CMB04	我们那个刚开始一楼不是 <b>大四</b> 。 (俺らのところは最初一階に <b>四年生</b> が。)	N
197	194	*	CMN04	嗯。(うん。)	P
189	186	*	CMB04	<b>大四</b> 在那儿住时间长了, 对那个特别 <b>熟儿</b> , 所以他就是每次	N

<sup>37</sup> 韓寒 (かん かん、ハン・ハン、1982年9月23日 - ) は、上海市生まれの作家。中国の若者に絶大な人気を誇る。中国の社会問題に対し批判的態度を取っている。鋭い言葉で自分を表現する。

				学校不是去那儿修，修完他就给改了。 (四年生は長く住んでいて、そのあたりにすごく詳しいよ。だから、学校はさ、いつも修理してるだろ。修理が終わったら、すぐシステムをなおすんだ。)	
190	187	*	CMN04	对。(そうなんだ。)	P

また、表4からみれば、中国人男性初対面会話の語彙の基本状態はP/N=7/3である。表5に示したように、会話4のP/Nの比率はおよそ6対4であり、Nの割合が高いことがうかがえる。つまり、会話4の語彙の丁寧度は基本状態から離脱しているといえよう。

そこで、中国人男性初対面会話4の語彙の丁寧度の各項目における話者の使用の割合を見てみよう。表7に示したように、ベース協力者CMB04はNの使用率が全体の32.59%に過ぎない。一方、会話相手CMN04はNの使用率が全体の67.41%を占めている。しかも丁寧度の低い罵り言葉を使用したのは3か所とも会話相手CMN04である。それは会話相手CMN04は韓寒のファンであるために、初対面のベース協力者との会話でもくだけた言い方が多く使用される傾向があるためである。

表7 中国人男性初対面会話4の語彙の丁寧度の各話者の各項目における割合

話者	P		N		SNV		NV	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
CMN04	76	42.22%	91	67.41%	1	100.00%	2	100.00%
CMB04	104	57.78%	44	32.59%	0	0.00%	0	0.00%
合計	180	100.00%	135	100.00%	1	100.00%	2	100.00%

さらに、中国人男性初対面会話4における残りの二つの罵り言葉について分析する。一つはライン番号127に出てきたものである。一発話レベルで見ると、学校を罵っているように思われる。しかし談話レベルから見ると、二人は学校の食堂の料理に不満を持っているようである。ご飯とおかずが衛生的じゃないし、値段も高いとベース協力者CMB04が言っていた。それに対して学校の食堂は利聯の嬌子であれ、燕園レストランであれ、私営である以上、値下げはしないだろうと会話相手CMN04が推測している。会話相手CMN04が自分の意見を話す前に、とっさに出てきたのは「学校、畜生」である。その次にすぐ「学校、何と言ったらいいのかわからない」と言葉探しが始まった。つまり、直接に学校を罵るというよりは、私営となっている食堂の制度に不満を持っているが、どのような言葉で表現すればいいのか迷っているようである。会話終了後のフォローアップアンケートでは会話相手CMN04が「自分は中国若手作家韓寒のファンであるために、言葉遣いがちょっと荒いかもしれない。録音する場合、自分の言葉遣いのおかしいところはかなり気を付けていた」とコメントした。言い換えれば、ライン番号127では会話相手CMN04は自分自身が罵り言葉を使ったこ

とに気づき、そのあと、相手へのフェイス侵害度を軽減するために、言葉探しが始まったのである。したがって、ライン番号 128 では繰り返しや、聞き取れない部分が出てきた。一方、会話終了後のフォローアップアンケートではベース協力者はそれに対して不愉快に思わないことからみれば、そのストラテジーには効果があり、それによって罵り言葉が相手の許容範囲に収まっており、ニュートラル効果となっているといえよう。

### 例 3

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
126	124	*	CMB04	我们的, 就是, 饭菜不是不太干净, 而且他们价格涨得特别贵。 (僕らの、あの、ご飯とおかずはあんまり衛生的じゃない、しかも値段がすごく上がって高くなっちゃった。)
127	125	*	CMN04	学校啊, 我我那个去。(学校、畜生。)
128	126	*	CMN04	学校, 怎么说啊, 学校###就###吧, 学校就是属于那种, 学校你看哦, 咱们学校里边好多, 好多人都是说把这个价格调下去。 (学校、何と言ったらいいいのか、学校###あの###ね、学校はさ、ほら見て、うちの学校にたくさんの、たくさんの人が言ってた、値段をさげろって。)
129	127	*	CMB04	对呀。(そうだね。)
130	128	*	CMN04	我感觉, 学校既然说把这些, 像那个, 利联的利联的那个娇, 燕园, 燕园餐厅。(僕の感じだと、学校はさ、これら、あの、利聯の利聯の、あのう嬌, 燕園、燕園レストランさ。)
131	129	*	CMB04	燕园和<娇子>{<>}。(燕園と<嬌子>{<>})
132	130	*	CMN04	<燕园餐厅>{>}既然是私人的, 他就不会把价格降下去你就放心这个吧, 他买菜就贵着呢。 (<燕園レストラン>{>}は私営だし、値下げなんか絶対しない、安心して、だって買ってきた野菜が高いもん。)
133	131	*	CMN04	嗯。(うん。)

中国人男性初対面会話 4 におけるもう一つの罵り言葉はライン番号 179 に出てきたものである。例 2 と同じ話題である。中国の大学では夜 11 時を過ぎると、学生寮では消灯したり、ネットが切れたりするのが普通である。しかし、ベース協力者 CMB04 の寮では夜は消灯時間が過ぎても電気もあるし、ネットもつながっているのである。それに対して会話相手 CMN04 が羨ましがっていて、無意識的に「我的个去」という罵り言葉で自分の気持ちを

表しているのであろう。フォローアップインタビューではそれについてベース協力者 CMB04 に聞いたが、友達の間でよく使うし、まったく気にしないと答えた。言語形式からみれば丁寧程度の最も低い罵り言葉はインポライトだと捉えがちである。しかし、会話終了後のフォローアップアンケートではベース協力者はそれに対して不愉快に思っていないのである。つまり発話効果からみればそれが $\alpha$ という相手の許容範囲に収まっておりニュートラル効果となっているといえよう。

#### 例 4

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
175	173	*	CMB04	就是我们那儿就是不断电，结果那个网它也不断，然后<他们宿舍就疯了>{<}>。(僕ら、僕らのところは消灯しないし、ネットも繋がっているよ、で、<彼らの寮はもう狂っちゃった>{<}>。)
176	172-2	*	CMN04	<网也不断啊！>{<}>。(＜ネットも繋がっているのか！>{<}>。)
177	174	*	CMB04	对啊。(そうだよ。)
178	175	*	CMB04	每天晚上就,玩到什么两三点、四五点。(毎晩夜中二三時、四五時まで遊んでいるよ。)
179	176	*	CMN04	<b>我的个去！</b> 我们这儿断电断网都受不了呢！。(畜生、こちらは消灯しちゃうし、ネットも繋がらないし、たまらない！。)
180	177	*	CMB04	<笑>。( <笑い> )。

それから、中国人男性初対面会話 3 における罵り言葉を分析する。一か所だけであり、ライン番号 110 に出てきた。談話レベルからみれば、話者二人は居住地について話し合っている。大学の所在地である秦皇島は住みやすいところだと二人とも納得している様子である。しかし、北京については二人の意見が分かれているようである。ベース協力者 CMB03 は空気が悪いし、特に夏になると毎日スモッグで車の排気ガスやほこりなどでとても汚いのであまり好きではないと述べている。一方、会話相手の CMN03 は北京では緑化事業をずっとやっているが、都市規模が大きすぎるから行き届かないところがあるのだと主張している。中国人男性会話ではよく見られる競合型(楊虹 2015)の発話が観察された。ベース協力者 CMB03 は自分の主張を述べる前に、強い口調で強調するために、「我去」を使ったように思われる。会話相手 CMN03 を罵るのではなく、自分の強い気持ちを表すために使われていたといえよう。したがって会話終了後のフォローアップアンケートでは、会話相手 CMN03 は不愉快に思わないことからみれば、初対面会話にも関わらず、許容範囲に収まって

おり、ニュートラル効果となっている。

例 5

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
108	107	*	CMB03	如果，居居住的话觉得这儿还行。（もし、す、住むなら、ここはまあまあいいと思う。）
109	108	*	CMN03	居住是挺不错的。（住むには悪くはない。）
110	109	*	CMB03	<b>我去</b> ，在北京哪儿都呆过，然后感觉，尤其是在北京，然后那空气特别差，里边到夏天的时候那，就是，每天都是一片雾气腾腾的，也都是汽车尾气啥的呀，尘土啊，特别脏。 （ <b>畜生</b> 、北京とか行ったことがあるけど、なんか、感じたのは、特に北京さ、で、空気がとっても悪いし、夏になると、なんか、毎日スモッグで曇っていて、車の排気ガスやほこりなどすげえ汚い。）
111	110	*	CMB03	感觉就，特别不舒服，出去转一圈回去之后，身上感觉特别脏。（とっても気持ち悪い、出かけて戻ったら体中汚く感じる。）
112	111	*	CMN03	现在北京还是不错了，因为绿化建设一直在，一直在做一直在做，但是城市规模太大了。（今北京はよくなってきた、緑化事業をずっと、ずっとやっているけど、都市の規模が大きすぎる。）
113	112	*	CMB03	就是。（そうだね。）
114	113	*	CMN03	然后汽车尾气还有各种工业废气什么的，也是挺大一个问题，这就算改进吧。（で、車の排気ガスやいろんな工業の排気など大きな問題を抱えてる、でも今はよくなってる。）
115	114	*	CMB03	不行，毕竟那人太多车太多了，改进，感觉那儿特特别特别环境特别不好。（でも、あそこは人も多いし車も多い、よくなってるって、あそこさ、す、すげえ、すげえ環境がすげえ悪いっていう感じ。）

次に中国人男性初対面会話 6 の罵り言葉 (NV) について分析する。会話全てで 2 箇所出てきた。両方とも会話相手の CMN06 が使用したものである。最初の一ヶ所は声がとても小さくて、ベース協力者 CMB06 ははっきりと聞こえなかったのかもしれない。二人は映画の



話題を巡って話し合っている。会話相手の CMN06 はどんなジャンルの映画を見ているかと聞くと、ベース協力者はSFがわりと好きだと答えた。それはまさか自分と同じだとは思ってもよらなかったのかもしれない。そのために、畜生という罵り言葉で感嘆を表しているのであろう。さらに『インセプション』という新しいSF映画をベース協力者に勧めたのである。その罵り言葉はベース協力者を罵るという意味ではなくて、感嘆・感動を表すために使われたといえよう。会話終了後のフォローアップアンケートではそれに対して、ベース協力者は不愉快に思わないことからみれば、それが相手の許容範囲に収まっており、ニュートラル効果だと推測できる。

例 6

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
91	90	*	CMN06	电影?现在电影挺多的,你看哪一类的?。(映画?今は映画が多いな、どんなジャンルの映画を見えていますか?)
92	91	*	CMB06	我比较喜欢科幻的那种。 (僕はSFのほうが好きです。)
93	92	*	CMN06	[声音比较小]靠,现在有一个叫《盗梦空间》看过没? [小さな声で] (畜生、今『インセプション』っていう映画がありますが、見ましたか。)
94	93	*	CMB06	没那“nei4”。 (まだですけど。)
95	94	*	CMN06	据说相当好,我,我就看了一个开头。 (すげえ面白って、僕は、僕は最初のところだけ見ました。)

もう一ヶ所は次の例 7 に示す通りである。出身地である磁県<sup>38</sup>の同郷会の話をしている。会話相手の CMN06 は今まで一回しか参加したことがないが、先輩が卒業して後継者がいないために、途切れてしまった。その理由として会話相手 CMN06 の出身地は大学所在地と同じ省であるために、同郷が多すぎてその集まりが大変だということが推測できる。磁県の範囲はむろん、それより面積の小さい村でもかなりの人数が集まるんだという話をしている。そのとき、会話相手の CMN06 は磁県より上の行政区画である邯鄲市のことを思い出した。磁県より面積がずっと広い邯鄲市の同郷会だったら、信じられないほどの人が集まるだろうと推測して「邯鄲だったら、まあ、うそ、信じられない<笑>。」と発話したのである。そのとき、感嘆・感動を表す感動詞として罵り言葉が使われていた。会話終了後のフォロ

<sup>38</sup>中国の県は日本の町に当たる。



ーアップアンケートではベース協力者の CMB06 は不愉快に思わないことからみれば、その発話は許容範囲以内であるために、ニュートラル効果をもたらしたといえよう。罵り言葉はフェイス侵害度の高い発話行為であるために、会話相手 CMN06 の発話が終わったら、無意識的に笑ったりしたことで、それを軽減するのである。したがってベース協力者 CMB06 にとって、それに対して許容範囲以内に納まったのであろう。

例 7

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容	語彙
141	140	*	CMN06	因为在本省，人太多了。 (大学所在地の省だから、人が多すぎるね。)	P
142	141	*	CMB06	对。(ええ。)	P
143	142	*	CMN06	弄一次，别说磁县了，就，别的什么村什么镇弄一次也得一群人可能就。(同郷会は一回で、磁県はもちろん、何か村、村でも一回は大勢集まるかもしれない。)	N
144	143	*	CMB06	嗯。(うん。)	P
145	144	*	CMB06	磁县的，按县吧，还行，你说。(磁県はさ、県ぐらひはまあね。)	P
146	145	*	CMN06	邯郸，哦，我去<笑>。(邯郸だったら、まあ、うそ、信じられない<笑>。)	NV
147	146	*	CMB06	对，不行，河北人太多太多了。 (そうだよ。だめ。河北省は人が多い、多すぎる。)	P
148	147	*	CMN06	这主要是咱们这太多了。 (この大学は多すぎるからね。)	N
149	148	*	CMB06	主要是在，这学校在咱们省招的人多。 (この学校は我々の省での募集人数が多いからね。)	N

以上、中国人男性初対面会話に出てくる罵り言葉について分析した。6 会話中 3 会話に合計 6 か所の罵り言葉が観察された。言語形式からみれば、丁寧度の最も低い罵り言葉はインポライトととらえるのが普通である。しかし、会話終了後のフォローアップアンケートとインタビューの結果からみれば、会話相手がその罵り言葉に対して不愉快に思ったというグループは一つもない。

宇佐美 (1998、2001ab、2002 など) DP 理論によると、話し手の罵り言葉の使用が聞き手の許容できる幅  $\alpha$  の範囲内に収まっておりニュートラル効果となっているといえよう。話し手と聞き手の見積もり差 (De 値) によって引き起こされる聞き手側からの認知というポ

ライトネス効果の観点からみれば、罵り言葉はインポライトではなく、プラスかニュートラルの効果をもたらしているといえよう。

さらに、中国人女性と男性の初対面会話における語彙の丁寧度をまとめると、一つの共通点がある。それは中国人初対面会話は男女を問わず、Pの割合が50%以上を超えて、Nより高いということである。つまり、中国人初対面会話の基本状態は、特別にマークする必要のない語彙であるPがメインである。

### 5.3 中国人友人同士会話の語彙の丁寧度について

#### 5.3.1 中国人女性友人同士会話の語彙の丁寧度について

中国人女性友人同士 6 会話を語彙の丁寧度の観点からコーディングすると、各項目の割合の平均値は表 8 の結果となった。

表 8 中国人女性友人同士会話における語彙の丁寧度の各項目の割合の平均値

話者	SN			P(Polite)			N(Non-polite)			NV		
	合計	平均	割合	合計	平均	割合	合計	平均	割合	合計	平均	割合
CWF	0	0.00	0.00%	684	114.0	71.03%	277	46.17	28.76%	2	0.33	0.21%
CWB	1	0.17	0.11%	596	99.33	64.71%	324	54.00	35.18%	0	0.00	0.00%
平均	1	0.17	0.05%	1280	213.3	67.94%	601	100.17	31.90%	2	0.33	0.11%

グローバルな観点からみれば、中国人女性友人同士の基本状態は P / N の比率が 67.94% 対 31.90% であり、およそ 7 / 3 である。中国人女性初対面の P / N の比率の 8 対 2 と比べると、N の比率がやや高いことが分かった。また、それは中国人男性初対面会話の基本状態 (P / N=7 対 3) とほぼ同じである。つまり、中国人女性友人同士の会話の語彙の丁寧度は中国人男性初対面会話と近いようである。言い換えれば、中国人男性は初対面である疎の場面において、言葉の丁寧度をかなりさげており、女性の友人同士会話の語彙の丁寧度と同程度になっている。

次に各会話における中国人女性友人同士会話の語彙の丁寧度の各項目の割合を見てみよう。

表 9 各会話における中国人女性友人同士会話の語彙の丁寧度の各項目の割合

話者	SN		P		N		NV	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
会話 1	1	0.40%	180	72.29%	68	27.31%	0	0.00%
会話 2	0	0.00%	191	67.73%	90	31.91%	1	0.35%
会話 3	0	0.00%	239	78.62%	65	21.38%	0	0.00%
会話 4	0	0.00%	261	72.70%	97	27.02%	1	0.28%

会話 5	0	0.00%	182	63.64%	104	36.36%	0	0.00%
会話 6	0	0.00%	227	56.19%	177	43.81%	0	0.00%
平均	1	0.40%	180	72.29%	68	27.31%	0	0.00%

表 8 と表 9 に示したように、中国人女性友人同士の会話は初対面会話の語彙の丁寧度と比べると、SN と NV という 2 つの項目が存在するということが一目瞭然である。まず SN を分析する。それは会話の中で敬語 (S) と丁寧度が低く正式な場面で通常使わない語彙 (N) が同時に現れたのである。その会話を調べると、例 8 のようなものである。

例 8

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
219	218	*	CWB01	<p>你知道我，就跟我爸说了，我说我：“您那闺女没那能耐”，我还不说，说以这种口气让人，“哎呀，你也没生那优秀的闺女”，就是连笑再什么的就说了，然后“我也不能给您挣多少钱了”，你知道我爸咋说，我爸老说：“我把你送那儿是让你念书，没让你给我挣钱”。</p> <p>(お父さんに「あなた (S) の娘 (N) はそういう能力はないです。」って話したんだよ。そのときの口調は「優秀な娘が生まれなかった」っていうんじゃなくて、笑いながら「お父さん (S) にたくさんのお金を稼いであげることができなくて(ごめんなさい)」という感じで、そのとき、お父さんがなんと答えたか (N) 分かる？「大学に行かせるのは知識を勉強するためだ。お金を稼いでもらうためじゃない」って言ったんだよ。)</p>

CWB01 は家が貧乏で、両親が大学の学費を出すためにずいぶん苦勞したという話をしていた。同級生の〇〇さんは成績が優秀で学校の一等の奨学金だけでなく、国家助成金や国家奨学金など多額の奨学金をもらったために、親はほとんど学費を払わずにすんだということである。

それを踏まえて、CWB01 は父親に「あなた (S) の娘 (N) はそういう能力はないです。」と話した。ここでは父親に対して尊敬語の「您」が使われていた。一方、自分のことを言うのに娘という言葉のぞんざいな言い方が使われているので、「N」とコーディングする。さらにそのときの口調について説明した。それは「優秀な娘が生まれなかった」っていうんじゃなくて、笑いながら「お父さん (S) にたくさんのお金を稼いであげることができなくて (ごめ

んなさい)」という感じであった。

この 2 箇所会話文は中国人女性会話データの中では唯一尊敬語が使われるところである。しかも、この尊敬語が使われるのは初対面会話ではなくて友人同士の会話である。ただし、尊敬語の使用対象は会話の相手ではなくて、話者が父親に直接話した言葉の引用である。つまり、第三者への尊敬語である。

この長い発話文の中で 2 箇所の尊敬語が出てきた。まず最初は「あなた (S) の娘 (N) にそういう能力はないです。」と話者が自分の能力が足りないということで悔やんでいることが伺える。次の「お父さん (S) にたくさんのお金を稼いであげることができなくて (ごめんなさい)」という言葉がさらにその悔しさを表しているといえよう。

つまり、父親に対して申し訳ない気持ちが含まれているのであろう。貧乏な家庭にとっては学費を支払ってくれる親の大変さがつくづく感じられ、奨学金をもらえたらどれほど救われるのか話者は百も承知である。しかし、なかなか思う通りにいい成績が取れなかったために、悔しい気持ちが自然に現れてきた。ところが、そういう気持ちを父親に伝えることはフェイス侵害行為になる。それを軽減するために、よりポライトな言語行動が求められたのである。したがって、話者は父親に対して尊敬語を使ったのではないかと考えられる。一方、自分のことを話す場合、娘という言葉のぞんざいな言い方を使うことによって、話者の自虐的な心理が反映されているのではないかと思われる。

さらに、この会話文の後半の部分では「そのとき、お父さんがなんと答えたか (N) 分かる？」というところではくだけた言い方が使われていた。なぜならば、今度の会話の対象は話者の父親ではなくて、友達だからである。その親しさを表すために、尊敬語ではなくて、くだけた言い方が無意識的に使用されていたのである。つまり目の前にいる会話相手と話題に出てくる相手に対して使い分けているのである。

次に NV について分析してみよう。中国人女性友人同士の 6 会話の中では 2 箇所の NV が出てきた。一つは例 9 に示すように、会話 2 の最初の部分である。もう一つは例 10 に示すように、会話 4 の会話の最中に出てきたものである。

ベース協力者 CWB02 と会話相手 CWF02 の会話 2 を見てみよう。会話の最初から笑ったり拍手したりしているベース協力者 CWB02 は興奮している状態だとうかがえる。リラックスした雰囲気の中で会話を始めようとしているために、かえって「あんた出て行け」というような丁寧度の極端に低い罵り言葉が出てきたと考えられる。会話後のフォローアップアンケートでは会話相手 CWF02 はそういう会話に対して不愉快に思うという答えであった。二人の関係についてベース協力者 CWB02 と会話相手 CWF02 は両方とも「最親友」を選んだ。

宇佐美 (1998、2001ab、2002 等) の DP 理論から考えると、二人は最親友であるために、会話相手 CWF02 は一般的に丁寧度の低い言葉 (N) を使うのが適切だと見積もっている。しかし、ベース協力者 CWB02 は最親友だからこそ、最も丁寧度の低い罵り言葉を使ったのである。それが聞き手である会話相手の見積もりより低すぎて、見積もり差 (De) 値が  $-\alpha$  の許容範囲を超えてしまったと考えられる。したがって、会話相手に「失礼だ」と感じさせ

ることになると解釈できる。つまり、いくら親しくても会話相手の許容範囲を超える発話が出る場合、マイナスの発話効果をもたらすことがあるのである。特に丁寧度の低い罵り言葉は中国人女性友人同士の会話 2 では許容範囲を超える発話だと判断できる。会話の最初の段階では親しい友人でも、罵り言葉は会話相手にとってはフェイス侵害度の高い言語行動であり、相手の許容範囲を超える発話となるために、マイナスの発話効果をもたらしたのだといえよう。

例 9 (第一章例 1 の再掲)

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
1	1	*	CWB02	开始啦<笑>。 (始めよう<笑い>。)
2	2	*	CWB02	哎, 「CWF02 姓名」<边笑边说>你知道<笑>[拍手声]。 (ねえ, 「CWF02 の姓名」さん<笑いながら>知っているの<笑い>[拍手]。)
3	3	*	CWB02	<b>你滚</b> , 这熟 ‘shou2’ 人就是跟这生人不一样。 ( <b>あんた出て行け</b> 。知り合いとの会話はやっぱり全く知らない人と違うよね。)

一方、ベース協力者 CWB04 と会話相手 CWF04 の会話 4 では会話の最初の段階ではなくて、会話の最中に丁寧度の低い罵り言葉 (V) が出てきた。その会話の流れは次の例 10 のとおりである。

ベース協力者 CWB04 が会話相手 CWF04 に「今夜何をするの」と聞いたところ、会話相手 CWF04 の答えは「電子版の小説を読む」ということであった。自習する場合、テキストや専門書や参考書を読むのが普通である。しかし、会話相手 CWF04 が娯楽小説を読むというのは自習するには相応しくない行動だと捉えられて、そのギャップがジョークになるとベース協力者の CWB04 は考えた。それに対して、会話相手の CWF04 は「そのジョーク寒い。本当に寒いね」と反論した。したがって、ベース協力者が「あれも、あれも本だよ」と一歩譲ったように見える。会話相手の CWF04 は「そうだよ。あれも本じゃないの。」と反問の形で電子版の小説を読むことの正当性を強調した。「あれも、あれも本だよ」というワンセンテンスをみると、ベース協力者は会話相手 CWF04 に同調しているようにも思える。

しかし、グローバルな観点からみれば、違うようである。ベース協力者は「寮に帰って読めばいいじゃん。」と改めてその娯楽小説は教室ではなくて寮で読んだほうが良いと主張した。しかし、会話相手の CWF04 は「寮か、寮は暑いからそこで読みたくないよ。それに、あの環境はね、なかなかいづらいよ」といって自分が寮で小説を読みたくない理由を述べた。

それを聞いてベース協力者 CWB04 がかなり驚いて「我去」という罵り言葉を使ったのであろう。それが相手を罵るという意味ではなくて、驚きや意外性を表現する感動詞として用いられたのである。

さらに「電子版の小説を読むのに環境を選ぶの？」と会話相手を問い詰めたのである。それには会話相手は「そうそう。」「それはそうだよ。」と素直に認めた。会話終了後のフォローアップアンケートでは二人の関係についてベース協力者 CWB04 が最親友と選んだのに対して、会話相手 CWF04 は親友と選んだ。つまり、ベース協力者 CWB04 は会話相手 CWF04 との心的な距離がより近いように感じられるために、罵り言葉というフェイス侵害行為が高い言葉が無意識的に使われたといえよう。その会話に対して不愉快に思わないという会話相手 CWF04 の答えからみれば、親友という関係で罵り言葉に対して許容範囲内だと捉えられ、その罵り言葉はニュートラル効果をもたらしたと推測できる。

例 10

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
293	287	*	CWB04	今天晚上干嘛呀?。(今夜何をするの?)
294	288	*	CWF04	今天晚上上自习。(今夜は自習する。)
295	289	*	CWB04	上自习,看什么呀?。(自習って何を読むの?)
296	290	*	CWF04	看电子书。(電子版の小説を読むの。)
297	291	*	CWB04	<笑>,天底下最大的最大的最好笑的笑话<笑>。 (<笑い>、最高に面白い笑い話だね<笑い>。)
298	292	*	CWB04	你今天晚上干嘛啊,今天晚上上自习,<上自习干嘛呀,上自习看电子书>{<><笑>。 (今夜何をするの?今夜は自習する。<自習って何をするの?電子版の小説を読むの>{<><笑い>。)
299	293	*	CWF04	<好冷,好冷呀>{>}。 (<(このジョーク)寒い、本当に寒いね>{>}。)
300	294	*	CWB04	那也,那也是书哈<笑>。 (あれも、あれも本だよね<笑い>。)
301	295	*	CWF04	对啊,那不是书么。 (そうだよ。あれも本じゃないの。)
302	296	*	CWB04	那你直接在宿舍看不就行了。 (寮に帰って読めばいいじゃん。)
303	297	*	CWF04	在宿舍,我不想在宿舍,特别热,而且那个,<那个环境吧,我就不想呆>{<>。

				(寮か、寮は暑いからそこで読みたくないよ。それに、<あの環境はね、なかなかいづらいよ>{<}&lt;/td>
304	298	*	CWB04	<我去，哦，>{<}&lt;/td>看电子书还得选择环境啊。 (<まじ?>{<}&lt;/td>電子版の小説を読むのに環境を選ぶの?)
305	299	*	CWF04	嗯嗯。(そうそう。)
306	300	*	CWB04	<笑>。(笑。)
307	301	*	CWF04	那是。(それはそうだよ。)

2つの罵り言葉を比べると分かるように、会話2の罵り言葉は会話相手に対して使うものである。しかし、会話4の罵り言葉は会話相手に対するものではなくて、驚きや意外性を表現する感動詞として用いられたものである。2つの罵り言葉は性質が異なるものであることがうかがえる。会話2の罵り言葉は目の前にいる会話相手に対して使うものであるために、会話4の罵り言葉よりフェイス侵害度が高いということである。したがって、会話2では互いに最親友だと認め合いながら、会話相手の許容度を超えて不愉快にとらえられ、マイナスの発話効果をもたらしてしまった。一方、会話4では最親友ではなくて、親友の関係だと会話相手に感じられていても、不愉快に思われないということで、ニュートラルの発話効果をもたらしたのである。対人関係におけるコミュニケーションでは罵り言葉を使う相手が目の前にいる会話相手の場合、フェイス侵害度の高い言語行動だと捉えられ、マイナスの発話効果をもたらすおそれがある。しかし、罵り言葉は驚きや意外性を表現する感動詞として用いられる場合、相手へのフェイス侵害度がそれほど高くないためにニュートラル効果をもたらすのである。

### 5.3.2 中国人男性友人同士会話の語彙の丁寧度について

中国人男性友人同士6会話を語彙の丁寧度の観点からコーディングすると、各項目の割合の平均値は表10の結果となった。

表10 中国人男性友人同士会話における語彙の丁寧度の各項目の割合の平均値

話者	P(Polite)			N(Non-polite)			NV			V(Vulgar)		
	合計	平均	割合	合計	平均	割合	合計	平均	割合	合計	平均	割合
CMB	384	64.00	35.56%	678	113.00	62.78%	13	2.17	1.20%	5	0.83	0.46%
CMF	449	74.83	48.96%	461	76.83	50.27%	4	0.67	0.44%	3	0.50	0.33%
平均	833	138.83	41.71%	1139	189.83	57.04%	17	2.83	0.85%	8	1.33	0.40%

グローバルな観点からみれば、中国人男性友人同士の基本状態はP/Nの比率は41.71%/57.04%であり、およそ4対6である。丁寧度が低く正式な場面で通常使わない語彙(N)の割合はニュートラルの語彙(P)を上回った。中国人女性友人同士の基本状態はP/Nの比

率の7対3と比べると、Nの比率は明らかに高いことが分かった。つまり、中国人男性友人同士の会話は女性友人会話より丁寧度の低い言葉がより多く使われる傾向があるといえよう。

また、中国人友人同士会話の語彙の丁寧度の全体像をつかむために、表8と表10の結果を図2に示す。

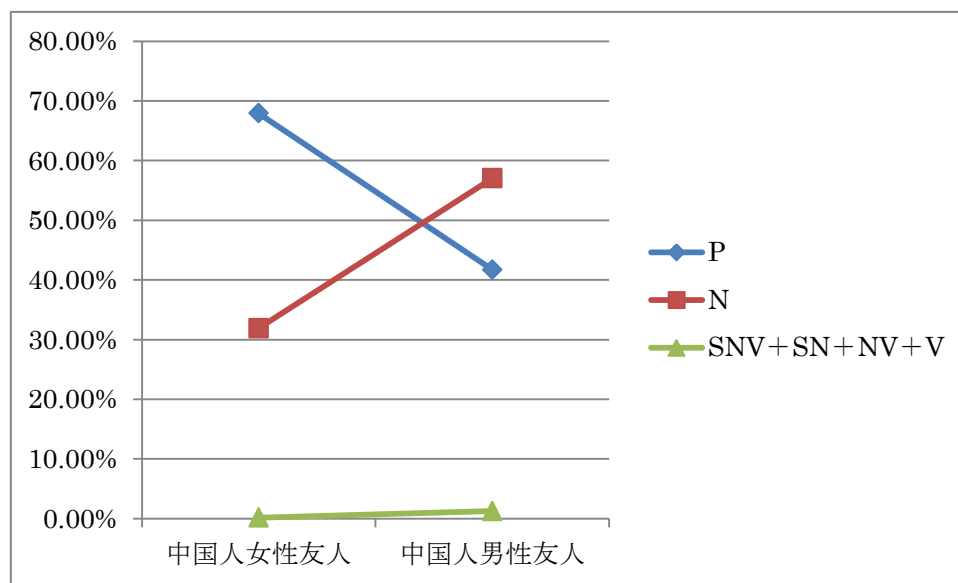


図2 中国人友人同士会話の語彙の丁寧度の基本状態

図2をみると、中国人女性友人同士の語彙の丁寧度の基本状態はニュートラルの語彙(P)であるのに対して、中国人男性友人同士の語彙の丁寧度の基本状態は丁寧度が低く正式な場面で通常使わない語彙(N)であることが分かった。中国人男性は友人同士の会話において女性より語彙の丁寧度が低いということが伺える。

次に各会話における中国人男性友人同士会話の語彙の丁寧度の各項目の割合を見てみよう。

表11 各会話における中国人男性友人同士会話の語彙の丁寧度の各項目の割合

話者	P		N		NV		V	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
会話1	210	55.56%	165	43.65%	1	0.26%	2	0.53%
会話2	145	38.36%	231	61.11%	2	0.53%	0	0.00%
会話3	104	41.43%	142	56.57%	5	1.99%	0	0.00%
会話4	114	40.28%	164	57.95%	2	0.71%	3	1.06%
会話5	148	33.64%	285	64.77%	4	0.91%	3	0.68%



会話 6	112	41.95%	152	56.93%	3	1.12%	0	0.00%
平均	833	41.71%	1139	57.04%	17	0.85%	8	0.40%

会話 1 は他の会話と違って、P の割合の 55.56% は N の 43.65% より高いことが観察された。N が P より高いという中国人男性友人同士会話の基本状態から離脱してしまっている。具体的な発話内容を分析すると、例 11 におけるライン番号 273 に示したように、ベース協力者 CMB01 は重点大学（一流大学）で勉強しているのに対して、会話相手 CMF01 は三流大学に入っている。二人は友人関係であるが、会話相手 CMF01 はそれに対して劣等感を感じているようである。したがって、二人の心的な距離が普通の友人同士と比べると、ちょっと遠くなってしまったように思われる。そのために、二人の会話は友人同士の会話より、初対面の会話に近い状態であり、P の割合が N より高い結果となったのであろう。

#### 例 11

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容	語彙
271	269	*	CMF01	跟你讲，现在就以我这个呀，屁嘛嘛要嘛嘛没有，现在，你说我在这儿，前两年这两年不都玩了么我，什么证也没考，连奖学金都没拿一回<笑>。 (あのさ、お前だけに話すけど、今俺はね。何もないよ。今はここでさ、ここ 2 年間は遊んでばかりいたんで、資格なんか何も取ってないよ。奨学金でさえ一回ももらってない<笑い>)	NV
272	270	*	CMB01	我也没拿过啊<笑>。 (俺ももらったことはないぞ<笑い>)	N
273	271	*	CMF01	你这，你那不一样，你那是，你那是 <b>一本</b> 我这是 <b>三本</b> 不一样，你知道嘛。 (お前はさ、お前は俺と違うよ。お前は重点大学でさ、俺は三流大学だよ。わかっているのか。)	N

次に、丁寧度の低い罵り言葉について分析する。言語形式からみれば、罵り言葉はインポライトととらえられるものである。B&L(1987)ではインポライトネスという言葉が数箇所に出現しているものの、発話或いは間接発話行為の効果として言及している程度にとどまって、インポライトネスを正面から取り上げて論じてはいない。本研究の中国人男性友人同士の会話では罵り言葉（NV+V）の比率は 1.25% であり、女性同士の 0.11% より高い。中国人女性友人同士の会話と比べると、男性友人同士の会話では罵り言葉の出現率が高いので

ある。以下の表 12 に示したように、出現の頻度にはばらつきがあるものの、6 会話にはすべて罵り言葉 (NV+V) が出てきた。つまり、罵り言葉を使用することが中国人男性友人同士会話の基本状態だといえよう。ただし、その使用率はかなり低いのである。20 分間の会話で、平均で 4 回ぐらいである。その罵り言葉がインポライトなのかどうかを調べるために、6 会話のフォローアップアンケートを確認した結果、それに対して不愉快に思うデータは一つもないのである。宇佐美 (1998、2001ab、2002 等) の DP 理論から考えると、親の関係である中国人男性友人同士の会話においては罵り言葉が会話相手にとって仲間言葉だと思われて、ニュートラル効果となると判断できる。言語形式から見れば、罵り言葉は丁寧度が低くて、インポライトネスとしてとらえるのが一般的である。その言葉の使用がフェイス侵害度の高い言語行動だと思われる。しかし、機能からみれば、中国人男性友人同士の会話では仲間言葉として使用されていて会話相手にとって許容範囲に納まっているために、ニュートラル効果となる。

具体的に中国人男性友人同士会話に出現する罵り言葉を見てみると、次の表 12 に示すとおりである。一番多いのは「我靠」であり、20 個出てきた。「我去」は 2 回であり、「我操」「屁」「真操蛋」はそれぞれ 1 個ずつである。その中では、「我靠」「我去」「我操」「真操蛋」は罵り言葉の①性に関わるもの (5.1 中国人会話の語彙の丁寧度の分類を参照に) であり、「屁」は④ (性格、品性、能力に関係がある) 下賤あるいは無能をいうもの (5.1 中国人会話の語彙の丁寧度の分類を参照に) である。特に性に関わる罵り言葉が丁寧度が低くて文レベルから見れば、インポライトである。しかし、宇佐美 (1998、2001ab、2002 等) の DP 理論から考えると、談話レベルを見る必要がある。

表 12 中国人男性友人会話における罵り言葉の使用実態

会話番号	出現回数	使用された罵り言葉 (ライン番号)
1	3	我靠 (97), 我操 (183), 屁 (271)
2	2	我靠 (87), 我去 (324)
3	5	我靠 (1), 我靠 (14), 我靠 (96), 我靠 (98), 我去 (221)
4	5	我靠 (3), 我靠 (9), 我靠 (26), 我靠 (35), 我靠 (103)
5	7	我靠 (62), 我靠 (269), 我靠 (309), 我靠 (313), 真操蛋 (337), 我靠 (393), 靠 (438)
6	3	靠 (3), 我靠 (214), 靠 (273)
合計	25	我靠 20, 我去 2, 我操 1, 屁 1, 真操蛋 1

具体的な例 12 をみながら、談話レベルから分析をする。会話を収録したのは9月であり、新学期が既に始まっていて、ベース協力者と会話相手はもう三年生になっている。二人は進路について話し合っている。ライン番号 305 では月日が経つのは速いとベース協力者 CMB05 が嘆いていた。就職活動しないなら、次の年から大学院の入試を準備しなければならないと言っている。それに対して会話相手は「次の年?」「次の年って」という二回ほど時間について聞いた。なぜなら、次の年からではなくて、今学期から準備しないと間に合わないという緊迫感があるように思われるからである。

一方、ベース協力者は大学生生活の月日が経つのは速いものだと嘆いただけである(ライン番号 309)。ここでの「我靠」(畜生)という罵り言葉が会話相手を罵るのではなく、感嘆・感動を表していたのではないかと推測できる。なぜ二人は大学院の入試の準備期間にギャップを感じたのであろうか。それは大学院を受験する会話相手の CMF05 と違ってベース協力者は大学院を受験するつもりはない(311)からである。入試の参加者である会話相手の CMF05 と比べると、入試に対しての緊迫感が薄いようである。さらに、ライン番号 312 から自分が大学院の入試に参加したくない理由を述べている。理系の専攻の学生なのに数学の問題でさえ頭に入らないために、英語と政治などの文系の問題はなおさらである。ライン番号 313 の沈黙 1 秒の後の「我靠」(畜生)は相手に向かっていてではなく、自分の無能を嘆いたのだと考えられる。それに対して、会話相手も英語は駄目だと納得している様子である。ここでの罵り言葉の使用は空白の時間を埋めるための会話を促進する機能があると考えられる。その後、ベース協力者 CMB05 は大学院の入試では英語の点数が 60 点でも高いほうだという情報を受験する予定の会話相手に教えたのである。

言語形式からみれば、罵り言葉がインポライトネスとしてとらえられるのは一般的である。しかし、会話終了後のフォローアップアンケートを調べると、会話相手の CMF05 はベース協力者 CMB05 の罵り言葉に対して不愉快に思わないのである。宇佐美(1998、2001ab、2002 等)の DP 理論で分析すると、二人は親の関係である友人であるために、話し手であるベース協力者 CMB05 と聞き手である会話相手の CMF05 の「見積もりの差」が許容できる範囲に収まる「適切行動」とみなされ、不快感をもたらさない。ポライトネス効果の観点からニュートラル効果となっているといえよう。ここでの罵り言葉は、友人であるからこそ使える仲間ことばであり、ポジティブ・ポライトネス・ストラテジーとして使用されており、ニュートラルな発話効果があると考えられる。

#### 例 12

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容	語彙
305	305	*	CMB05	大学过得挺快的，两年过去了，然后，你看今年呢忙忙碌碌过去了，下一年准备考研，该准备考	N

				研的准备考研, 不找工作考研的【【。(大学生生活の月日が経つのは本当に早いもんね、2年ももう過ぎてしまった、で、今年はさ、いろいろバタバタしててそろそろ終わりなんだ、次の年は大学院の入試の準備でさ、就職活動しないと、大学院の入試でさ【【。)	
306	306	*	CMF05	】】下一年?。(【】次の年?。)	P
307	307	*	CMB05	对啊。(そうだよ。)	N
308	308	*	CMF05	还下一年?。(次の年って?。)	N
309	309	*	CMB05	大学过的真快, 我靠。 (畜生、大学生生活の月日が経つのはまじに早いもん。)	NV
310	310	*	CMF05	这学期你都不准备啦。 (今学期は準備しないのか。)	N
311	311	*	CMB05	准备啥啊, 真是, 我不想考研其实。 (何を準備するんだよ、まったく、実は大学院なんか受験したくねえよ。)	N
312	312	*	CMB05	看那一, 高数题, 你能看进去嘛, 还有那英语, 政治。(ほら、数学問題が頭に入るもんか、さらに英語と政治なんか。)	N
313	313	*	CMB05	《沉默1秒》我靠。(畜生。)	V
314	314	*	CMF05	英语是不敢说, 英语是不敢说。 (英語はだめだ、英語はだめだ。)	P
315	315	*	CMB05	因为你看因为你看, 他高分不是, 考60分不就是高分嘛英语。(ほらみて、高い点数ってさ、60点だってけっこう高いじゃん、英語さ)	N
316	316	*	CMF05	嗯?。(へー?。)	N
317	317	*	CMB05	考研考英语呀。(大学院の入試に英語があるんだ。)	N
318	318	*	CMF05	英语呀。(英語さ。)	N
319	319	*	CMB05	60分是高分了不是都。 (60点だって高いほうじゃん。)	N
320	320	*	CMF05	不知道。(知らない。)	P

#### 5.4 中国人会話の語彙の丁寧度の差異

##### 5.4.1 親疎関係による中国人会話の語彙の丁寧度の差

親疎関係による中国人会話の語彙の丁寧度の差を調べるために、中国人の語彙の丁寧度の結果を図で表すと、以下の図4で示すとおりである。

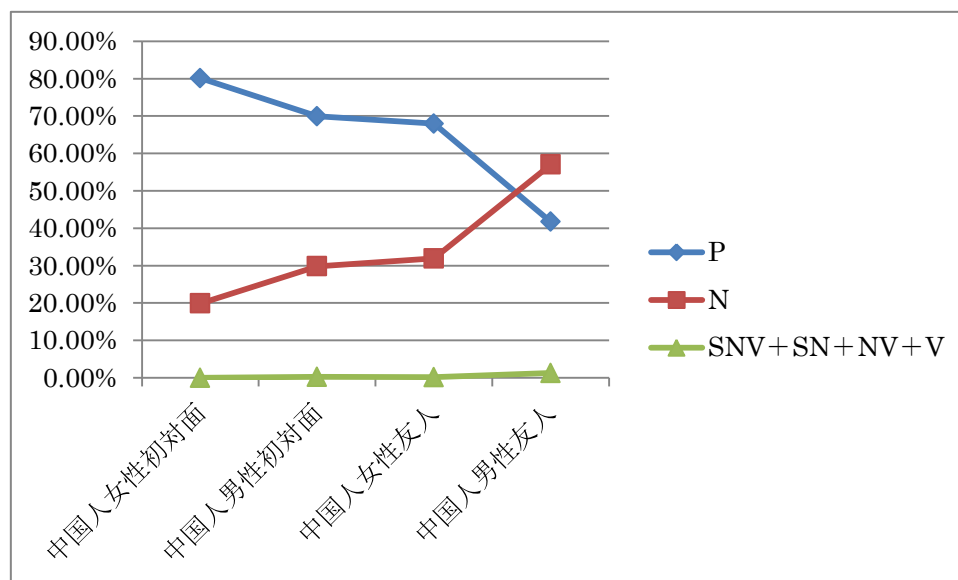


図3 中国人会話における語彙の丁寧度の基本状態

図4をみると、中国人初対面会話の基本状態は男女を問わず、特にマークする必要のない語彙（ニュートラルな語彙P）であることが明らかになった。一方、中国人女性友人同士会話の基本状態は特にマークする必要のない語彙（ニュートラルな語彙P）であるのに対して、中国人男性友人同士会話の基本状態は丁寧度が低く正式な場面で通常使わない語彙（N）であることが分かった。B&L(1978)のポライトネス理論では予測されるような初対面会話の基本状態はPであるのに対して、友人同士会話の基本状態はNであるという結果となっていない。しかし、中国人会話は男女を問わず、初対面会話から友人会話にかけて、Pの割合の減少と、Nの割合の増加の傾向が観察された。

さらに、両側検定の  $t$  検定を行った。中国人女性初対面会話と友人同士会話のニュートラルな語彙Pの差が統計的に有意か確かめるために、有意水準5%で両側検定の  $t$  検定を行ったところ、 $t(5) = 4.47, p < .01$  であり、親疎関係によるニュートラルな語彙Pの差は有意であることがわかった。

同じく、中国人女性初対面会話と友人同士会話の丁寧度が低くて正式な場面で通常使わないNの差が統計的に有意か確かめるために、有意水準5%で両側検定の  $t$  検定を行ったところ、 $t(5) = 4.43, p < .01$  であり、親疎関係による丁寧度が低くて正式な場面で通常使わないNの差は有意であることがわかった。

また、中国人男性初対面会話と友人同士会話のニュートラルな語彙Pの差が統計的に有意か確かめるために、有意水準5%で両側検定の  $t$  検定を行ったところ、 $t(5) = 9.01, p < .01$

であり、親疎関係によるニュートラルな語彙 P の差は有意であることがわかった。

同じく、中国人男性初対面会話と友人同士会話の丁寧度が低くて正式な場面で通常使わない N の差が統計的に有意か確かめるために、有意水準 5%で両側検定の  $t$  検定を行ったところ、 $t(5) = 9.02, p < .01$  であり、親疎関係による丁寧度が低くて正式な場面で通常使わない N の差は有意であることがわかった。

さらに、中国人男性初対面会話 (SNV+NV) と友人同士会話の (NV+V) の差が統計的に有意か確かめるために、有意水準 5%で両側検定の  $t$  検定を行ったところ、 $t(5) = 4.39, p < .01$  であり、親疎関係による丁寧度が極端に低い罵り言葉 V の含まれる発話の差は有意であることがわかった。

中国人女性会話の結果と合わせてみると、対話者との親疎関係を顕著に反映しているのは中国人初対面会話と比較して友人会話でのニュートラルな語彙 P の減少と丁寧度が低くて正式な場面で通常使わない N の増加であることが明らかになった。言い換えれば、中国人はニュートラルな語彙 P の減少と丁寧度が低くて正式な場面で通常使わない N の増加という言語形式をさげることで親しみを表すのである。

B&L(1987)のポライトネス理論によると、「ストラテジーの選択に関わる要因」では、社会言語学的な3つの変数「社会的距離 (D)」、「力関係 (P)」、「相手にかかる負荷度 (R)」とその3つの変数から計算されるFTAの負担度が説明されている。FTAの負担度を計算する公式は  $W_x = D(S, H) + P(H, S) + R_x$  である。Pという力関係と  $R_x$  という相手にかかる負荷度が同じである場合、Dという社会距離(親疎関係)が小さくなると、中国人はニュートラルな語彙 P の減少と丁寧度が低くて正式な場面で通常使わない N の増加で親しみを表すことが明らかになった。日本人は文末スピーチレベルの敬体「です・ます体」Pの減少と常体「だ体」Nの増加で親しみを表すことと同じような傾向であるといえよう。

#### 5.4.2 中国人会話の語彙の丁寧度の性差

中国人会話の語彙の丁寧度の性差を調べるために、両側検定の  $t$  検定を行った。中国人女性初対面会話と男性初対面会話のニュートラルな語彙 P の差が統計的に有意か確かめるために、有意水準 5%で両側検定の  $t$  検定を行ったところ、 $t(5) = 2.68, p < .05$  であり、親疎関係によるニュートラルな語彙 P の差は有意であることがわかった。

同じく、中国人女性初対面会話と男性初対面会話の丁寧度が低くて正式な場面で通常使わない N の差が統計的に有意か確かめるために、有意水準 5%で両側検定の  $t$  検定を行ったところ、 $t(5) = 2.63, p < .05$  であり、親疎関係による丁寧度が低くて正式な場面で通常使わない N の差は有意であることがわかった。

また、中国人女性友人会話と男性友人会話のニュートラルな語彙 P の差が統計的に有意か確かめるために、有意水準 5%で両側検定の  $t$  検定を行ったところ、 $t(5) = 7.16, p < .01$  であり、親疎関係によるニュートラルな語彙 P の差は有意であることがわかった。

同じく、中国人女性友人会話と男性友人会話の丁寧度が低くて正式な場面で通常使わな

いNの差が統計的に有意か確かめるために、有意水準5%で両側検定のt検定を行ったところ、 $t(5) = 7.15, p < .01$ であり、親疎関係による丁寧度が低くて正式な場面で通常使わないNの差は有意であることがわかった。

中国人初対面会話の結果と合わせてみると、対話者との性差を顕著に反映しているのは女性会話と比較して男性会話でのニュートラルな語彙Pの減少と丁寧度が低くて正式な場面で通常使わないNの増加であることが明らかになった。言い換えれば、中国人男性は女性と比べると、初対面会話と友人会話の両方とも、ニュートラルな語彙Pが有意に少なく、一方、丁寧度が低くて正式な場面で通常使わないNが有意に増加する傾向が観察された。

#### 5.4.2.1 対人コミュニケーションの観点からみる中国人会話の語彙の丁寧度の性差

また、中国人男性友人会話をみると、全6会話では罵り言葉の使用が観察された。一方、中国人女性友人会話にも2か所の罵り言葉が現れてきた。言語形式からみれば、罵り言葉がインポライトネスとして捉えるのが一般的である。しかし、機能の観点からみれば、男女を問わず、中国人会話に出てくるすべての罵り言葉は「感嘆」という気持ちを表している。男女の罵り言葉使用の違いを探るため、対人コミュニケーションの観点から以下のように分類する。

##### ① 相手に対する罵り言葉

例 13

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
1	1	*	CMB03	开始了, 开始了, 随便说吧, <b>我靠</b> , 快点儿。(始めよう、始めよう、何でもいいから話せ、くそ、早くしろよ。)

ライン番号1の発話のように、話者CMB03は会話相手の発話を催促するとき、使われた「くそ」という罵り言葉を①に分類する。

##### ② 自分に対する罵り言葉

例 14

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
97	96	*	CMF01	<b>我靠</b> , 这回, 我。(くそ、今回こそ、俺は。)
98	97	*	CMB01	关键你四级, 你不是说这次不这次的, 你要不过你们让毕业吗?。

				(肝心なのは四級、今回かどうか関係なく、パスしないと卒業できないだろう?。)
99	98	*	CMF01	嗯?。(え?。)
100	99	*	CMB01	你们那边有没有要求,我们这边。(そっちはそういうことはないのか、こっちはあるよ。)
101	100	*	CMF01	没有学位证书。(学位もらえない。)
102	101	*	CMB01	还是的呢,那你不过四级还行啊。(やっば、四級にパスしないとだめじゃん。)
103	102	*	CMF01	我,我,我现在看,我再过不了四级,我直接-跳楼得了。(俺、俺、俺は今から復習するんで、四級にパスしなかったら、ビルから飛び降りたほうがいいじゃん。)

二人は英語の四級試験について話し合っている。燕山大学の規定によると、英語の四級試験に合格しないと、学位を取得できないということである。二人は学部が異なるが、燕山大学の学生である以上、このルールに従わなければならない。話者 CMF01 はまだ合格していないが、早めに復習しているから、今回こそきっとパスするだろうと思っているようである。その意気込みを述べる場合、「くそ」という罵り言葉を使用したのである。この場合は自分のことを言及するため、②に分類する。

### ③ 第三者に対する罵り言葉

#### 例 15

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
337	336	*	CMB05	「CMB05 室友」真操蛋,开学时候说不买电脑了,把电脑桌卖了,这又买电脑。(「CMB05 のルームメート」ってたらくそたれ、新学期のときパソコンを買わないって、パソコン用の机を売ったら買いたいつ言い出した。)

会話相手が親友であるため、CMB05 は自分のルームメートへの不満を漏らしたのである。そのルームメートはパソコンを買わないと言ったので、パソコン用の机を売ってしまった。しかし、その後、気が変わって買いたいつ言い出したということである。この発話ではルームメートのことに対して罵り言葉を使ったのである。この場合は③第三者のことに対する罵り言葉と分類する。



④ 周りに対する罵り言葉

例 16

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
9	9	*	CMB04	哎， <b>我靠</b> ，咱们这儿暑假太热了。（え、くそ、こっちの夏休みはすごい暑いね。）
10	10	*	CMF04	邯郸往南都比较热。（邯郸より南のほうはみんなわりと暑い。）

話者 CMB04 は大学所在地の夏休みの気候を話す場合、「くそ」という罵り言葉で感嘆の気持ちを表している。この場合、目の前にいる会話相手や自分、第三者ではなく、周りの環境に対して使うため、④とみなす。

以上の分類基準に従い、中国人会話に出てくる罵り言葉を分類し、中国人男性友人同士会話に出てくる罵り言葉は以下の結果となっている。

表 13 中国人男性友人同士会話に出てくる罵り言葉の分類結果

会話番号	①相手に対する罵り言葉	②自分に対する罵り言葉	③第三者に対する罵り言葉	④周りに対する罵り言葉
1	1	2	0	0
2	0	1	0	1
3	1	4	0	0
4	0	0	0	5
5	1	0	1	5
6	0	0	0	3
合計	3	7	1	14
平均	0.5	1.2	0.2	<b>2.3</b>

平均からみれば、一番高いのは周りに対する罵り言葉である。次に多いのは自分に対する罵り言葉である。フェイス侵害度からみれば、目の前にいる会話相手より、周りのことや、自分に対して罵り言葉で感嘆を表すのが低いことが分かる。したがって、フォローアップアンケートの結果を見ても相手はその罵り言葉に対して不愉快に思う会話は一つもない。

一方、中国人女性友人同士会話に出てくる罵り言葉は以下の結果となっている。

表 14 中国人女性友人同士会話に出てくる罵り言葉の分類結果

会話番号	①相手に対する罵り言葉	②自分に対する罵り言葉	③第三者に対する罵り言葉	④周りに対する罵り言葉
1	0	0	0	0
2	1	0	0	0
3	0	0	0	0
4	0	0	0	1
5	0	0	0	0
6	0	0	0	0
合計	1	0	0	1
平均	0.2	0.0	0.0	0.2

罵り言葉の出現回数は男性と比べるとかなり少ない。2か所しかないが、それぞれ①相手に対する罵り言葉と④周りに対する罵り言葉である。しかも、会話 2 の相手に対する罵り言葉は相手に不愉快を感じさせてしまうため、マイナスの発話効果となっている。一方、中国人男性友人会話に出てくる罵り言葉の中では 3 か所は相手に対するものであるが、フォローアップアンケートによると、不愉快に思う会話は一つもない。

要するに、罵り言葉に対する許容範囲は中国人男性のほうが女性より広いといえよう。それは宇佐美(2006)で指摘されたように、「礼儀正しさの規範からの逸脱への社会の許容度が、女性は男性より遥かに低いとしている」と同じである。本研究は実際の中国人会話データでそれを証明したのである。

#### 5.4.2.2 話題選択の観点からみる中国人会話の語彙の丁寧度の性差

5.2 と 5.3 では、中国人の初対面会話と友人同士の会話を見てみたが、語彙の丁寧度の高い順番で並べると、女性初対面会話 (P / N = 8 / 2) > 女性友人会話 = 男性初対面会話 (P / N = 7 / 3) > 男性友人会話 (P / N = 4 / 6) となる。つまり、中国人男性は女性より丁寧度の低い語彙を使う割合が高いのである。女性友人同士の会話は初対面より語彙の丁寧度が下がったが、その幅は大きくはない。依然としてニュートラルな語彙 (P) は丁寧度が低く正式な場面で通常使わない語彙 (N) より高いのである。一方、中国人男性友人同士の会話の場合は初対面と比べると、丁寧度の低い語彙 (N) がニュートラルな語彙 (P) を上回る結果となった。言い換えれば、中国人男性は言語形式における語彙の丁寧度をさげることによって親しみを表しているといえよう。

それに対して、中国人女性の親しみを表す要因を探るために、中国人女性友人同士が選択した話題を以下の表 15 にまとめた。

表 15 中国人女性友人同士で選択された主な話題

会話 1	悩み事の相談
会話 2	大学院への進学の悩み
会話 3	別れた彼氏とよりを戻した経緯
会話 4	彼氏と別れようとしてもなかなか別れられない悩み
会話 5	ルームメイトが彼氏と別れた理由を推測した。会話相手は自分の彼氏の長所を、ベース協力者は自分の彼氏の短所を話した。
会話 6	飲み物の話、大学院への進学の話、会話相手の昔の同級生をどのように招待すればいいのかという悩み事の相談

以上の表 15 に示したように、中国人女性友人同士の会話では 6 会話中 4 会話は彼氏の話が出てきた。残りの 2 会話は悩み事の相談となっている。つまり、中国人女性友人同士の会話では、悩み事の相談や彼氏の話などすなわち親密な話をする傾向があるといえよう。一方、男性友人同士の会話の話題を次の表 16 にまとめた。

表 16 中国人男性友人同士で選択された主な話題

会話 1	大学院への進学のこと、英語四級試験のこと、夏休みのアルバイトのこと
会話 2	最初から最後までゲームの話
会話 3	ベース協力者のふるさとの話、汽車に間に合わなかった経緯、ゲームの話
会話 4	ふるさとで鉱山の採石のために環境が悪化している問題、卒業論文の指導教官の選択の手順、田舎にあるふるさとの田植えのこと
会話 5	同級生のパソコンの修理のこと、ゲームの話、弟の見合いのこと、就職活動
会話 6	会話相手の高校のこと、進路、ベース協力者の渡米したお兄さんのこと

表 16 に示したように、中国人男性友人同士の会話では悩み事や彼女の話には全く触れなかった。その代わりにゲームの話（6 会話中 3 会話）とか進路とかアルバイトとかといった一般的な話題が多いのである。

つまり、中国人女性は男性と違って言語形式の語彙の丁寧度をさげることで親しみを表すのではなくて、その親密な話題を選択することによって親しみを表しているのであろう。

## 5.5 まとめ

宇佐美(2001a、2001bなど)はポライトネス理論をより普遍的なものへと発展させていくためには、DP理論を導入する必要があると指摘した。本研究は宇佐美(1998、2001ab、2002など)のDP理論に基づき、第四章では日本人のスピーチレベルについて論じてきた。この章では中国人の語彙の丁寧度を分析した。研究設問3、「日本人と中国人は、それぞれ初対面の会話と友人同士の会話とでは、スピーチレベルの基本状態と語彙の丁寧度の基本状態において如何なる共通点が認められるか」を解決するために、敬語を有する日本語とそうでない中国語について、同じ枠組みでポライトネスを比較する必要がある。したがって、本研究は条件統制された日本人と中国人の初対面と友人会話データに基づき、実証的にその親疎関係によるポライトネスの共通点を探ったが、まとめてみれば、以下のことが明らかになった。

第四章の日本人文中スピーチレベルの結果では、対話者との親疎関係を顕著に反映しているのは文中スピーチレベルのニュートラルな語彙 P の減少と正式な場面で通常使わない語彙 N の増加であることが明らかになった。言い換えれば、話者の関係が親しくなると、ニュートラルな語彙 P の使用が有意に減少し、正式な場面で通常使わない語彙 N の使用が有意に増加する傾向があるといえよう。

一方、日本人文末スピーチレベルの結果では対話者との親疎関係を顕著に反映しているのは初対面会話と比較して友人会話での文末スピーチレベルの敬体「です・ます体」P の減少と常体「だ体」N の増加であることが明らかになった。言い換えれば、日本人の会話の基本状態は敬体「です・ます体」P から常体「だ体」N へという言語形式の文末スピーチレベルをさげることで親しみを表すのである。

この第五章の結果では、対話者との親疎関係を顕著に反映しているのは中国人初対面会話と比較して友人会話でのニュートラルな語彙Pの減少と丁寧度が低く正式な場面で通常使わないNの増加であることが明らかになった。言い換えれば、中国人はニュートラルな語彙Pの減少と丁寧度が低く正式な場面で通常使わないNの増加という言語形式をさげることで親しみを表すのである。

まとめてみれば、日本人と中国人と両方とも、ニュートラルな語彙(「です・ます体」)Pが有意に減少し、丁寧度が低くて正式な場面で通常使わない(「だ体」)Nが増加するということが親しみを表しているといえよう。それこそ日本人のスピーチレベルと中国人の語彙の丁寧度の共通点だと思われる。

B&L(1987)のポライトネス理論によると、「ストラテジーの選択に関わる要因」では、社会言語学的な3つの変数「社会的距離 (D)」、「力関係 (P)」、「相手にかかる負荷度 (R)」とその3つの変数から計算されるFTAの負担度が説明されている。FTAの負担度を計算する公式は $W_x = D(S, H) + P(H, S) + R_x$ である。Pという力関係と $R_x$ という相手にかかる負荷度が同じである場合、Dという社会距離(親疎関係)が小さくなると、日本人であれ中国人であれ、語

彙の丁寧度をさげることで親しみを表しているといえよう。ニュートラルな語彙(「です・ます体」)Pが有意に減少し、丁寧度が低くて正式な場面で通常使わない(「だ体」)Nが増加する傾向がある。B&L(1987)の予測するポライトネスの傾向を実際の会話データで実証的に裏付けているといえよう。

さらに、宇佐美(2001b)で指摘されたように、「より普遍的なポライトネスの理論を構築するためには、このように、まず、特定の談話における無標ポライトネスとしてのディスコース・ポライトネスを同定した後に、その基本状態からの離脱と回帰というような『動き』を捉え、その動きが、談話内の諸要素のダイナミクスの総体としてのディスコース・ポライトネスの中で、いかなる働きをしているのかということ明らかにしていく必要がある。有標行動という『動き』が生み出す機能という観点からポライトネスを分析することによって、構造の異なる諸言語のポライトネスを、単なる言語形式の丁寧度の問題としてや、間接的な表現方法か否かというような言語表現の仕方の問題として比較対照するだけではなく、その背後にある人間の心理や動機の共通性を見出すという観点から、比較対照することが可能になるからである」(2001b:22-23)。本研究の第四章と第五章では日本語のスピーチレベルと中国語の語彙の丁寧度の観点からそれぞれの基本状態を同定した後に、その基本状態からの離脱と回帰というような『動き』である有標行動を捉え、さらにフォローアップアンケートを通して、その有標行動の発話効果を分析した。日中の言語使用の共通点として挙げたのは社会距離(親疎関係)が近くなるにつれて、ニュートラルな語彙(「です・ます体」)Pが有意に減少し、丁寧度が低くて正式な場面で通常使わない(「だ体」)Nが増加するということが明らかになった。日本人であれ中国人であれ、円滑なコミュニケーションを維持する場合、会話相手との社会距離を測りながら、言語行動を調整するのである。逆にいえば、社会距離が遠くなると、よりポライトな言語行動をとる傾向があると思われる。ただし、社会距離が近くても、罵り言葉のような丁寧度の極端に低い言葉を使ってもいいというわけではなく、相手の許容範囲と関係がある。その許容範囲内に収まる場合、使ってもいいしニュートラル効果になる。しかし、許容範囲を超えると、相手に不愉快に思わせてしまうため、マイナス効果になるのである。人間は常に相手との社会距離だけでなく、心的な距離も測りながら、不愉快にならないように言語行動をとっていると考えられる。

## 第六章 話題選択と展開に関する日中対照

第四章では日本語のスピーチレベルを、第五章では中国語の語彙の丁寧度を取り上げた。それらは「どのように話すか」に注目していたが、「何を話すか、どのような流れで会話を進めるのか」という話題の選択と展開についてはまだ触れていなかった。

本章では、日本人と中国人は話題選択と展開の基本状態を同定するために、それぞれどのような話題が選択され、典型的な展開パターンは何かについて具体的に分析する。さらに、B&L(1987)のポライトネス理論の普遍性を追及するために、日中会話の話題選択と展開パターンの共通点を見つけ出すことを目指す。基本的に宇佐美(1998、2001ab、2002など)のDP理論に基づき、一発話レベルではなく、談話レベルにおけるポライトネスを考察するのである。

### 6.1 話題の定義と先行研究

#### 6.1.1 「話題」の定義について

「話題」は談話レベルにおける概念である。テーマ、トピック、話題という用語および定義は研究者によって異なる(南 1981、Brown&Yule1983、Coulthard1985、メイナード 1993、村上・熊取谷 1995 他)。本研究では三牧(1999)に倣い、会話の中で導入、展開された内容に結束性を有する事柄の集合体を認定し、その集合体に共通した概念を「話題」とする。さらに、メイナード(1993)と同じように、会話参加者の相互協力によって話題の枠組みが設定され、話題が選択され、展開すると考える。以下の例1のライン番号19に示したように、話者 JWN02 が独り言のように話して、相手はその内容をそれ以上取り上げなければ、単なる情報提供とし、「話題」としては認定しない。ライン番号21の《沈黙3秒》後のJWB02の発話「え、サークルとか入ってます[↑]」から新しい話題として認めるのである。

例1

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容	話題導入
19	19	*	JWN02	えー、何だろう。	N
20	20	*	JWB02	<ちょっと笑い>。	N
21	21	*	JWB02	《沈黙3秒》え、サークルとか入ってます[↑]。	I
22	22	*	JWN02	サークル入っていないんですよ=。	N
23	23	*	JWB02	=あ、そうなんですか。	N
24	24	*	JWN02	はい、ぜんぜん、なんかぼんやりしてて<笑い>。	N
25	25	*	JWB02	いやいやいやいや。	N

話題はさらに展開され、下位話題を持つことがある。特定の話題を大話題、その下位話題を小話題と称する。また、ある話題が他の話題の挿入後にまた取り上げられる場合には同一話題とみなす。以下に一例として、日本人女性初対面会話2の20分間の会話中に出現し展開した話題（大話題・小話題）の一覧を示す。

表1 話題一覧例（日本人女性初対面会話2）

ベース協力者：JWB02 会話相手：JWN02

	大話題	小話題
1	自己紹介	名前
		所属（学校・学年・学部）
2	サークル	会話相手のサークル
		ベース協力者のサークル
3	バイト	ベース協力者のバイト
		会話相手のバイト
4	出身	地元
5	通学	会話相手の通学
		ベース協力者の通学
		ベース協力者の友達の通学
6	共通の体験	会話相手の会話協力の経緯
		ベース協力者の会話協力の経緯
7	授業	チュートリアル授業
		司書の授業
		履修の科目
		土曜一限の授業
		文学部の授業
		必修科目
		教育学部の授業
		授業の時間割
		一限の授業
		授業への参加の態度
		先生の授業に対する評価
		授業の出席の取り方
8	試験	レポート
		試験
9	勉強	勉強
10	留学	中国への留学

11	旅行	台湾への旅行
		台湾の物価

### 6.1.2 初対面会話における話題選択の先行研究

初対面会話は人間関係を構築するための第一歩だと言われている。Berg&Clark(1986)では友人関係を構築できるか否かは初対面である程度決まると指摘されている。また、小川(2000)は対人関係の発展過程を考える際、最も初期の段階から相手に対する認知というのが非常に重要になっており、会話者や会話に対して好印象を抱くことと、相手の会話者との将来の関係性に対する肯定的な認知に関連があると述べている。従って、人間関係の第一歩である初対面でどのような話題が選択されるか、どのように話すか、初対面の会話として何がポライトで、相手に好印象を与えるかなどについて考えることが非常に重要だと思われる。

三牧(1999)は、日本人大学生の初対面会話の話題を「大学生活」、「所属」、「居住」、「共通点」、「出身」、「専門」、「進路」、「受験」の8カテゴリーに分け、極めて共通性の高い話題項目が実証的に明らかになったことから、「初対面会話話題選択スキーマ」の存在が確認されたと指摘した。

奥山(2000)では、日韓女子大学生による初対面会話を分析対象としている。話題を属性に関する話題、つまり、「年齢、学年、居住地域、専攻などの大学生としての一人の人間に付帯する基本的な指標に関する話題」、属性から派生する話題、つまり、「属性の話題が出た後でそれに派生して出てくる話題、例えば居住地から現在地まで来た方法や所属学部の男女比などの話題」、そして非属性の話題、つまり、「属性および属性に派生する話題ではないもの、すなわち、ボーイフレンド、就職に関するいわゆる私的な話題など」という3種類に分けている。その結果、質問による属性に関する話題は日韓において相違が見られなかったが、自己開示による属性に関する話題は韓国が日本より2倍弱多かったと指摘された。

謝(2005)は中日女子大学生の初対面会話の最初の5分間に出てくる話題について、分析した結果、中日両グループとも、会話参加者の名前、所属、研究テーマ、住まいなどに関する「身上的情報」の話題がそれ以外の話題を上回って取り上げられる傾向が見られたと指摘している。しかし、中日の身上的情報の具体的な違いについては詳しい分析は行われていない。

張(2006)は中日会話の開始から5分間の内容を考察した結果、中国語場面では、すべての身上的情報が現れるが、日本語場面の「自己紹介」では氏名の交換のみであったこと、そして、他の情報は、会話の展開にともなって自ら提供するか、相手の質問によって引き出されるかということである。また、日本人女子大学生の初対面会話は、まず「あいさつ」などの定型表現で始められ、次いで、自分自身の身上的情報を述べて相手にも情報提供を求めるというやり取りで会話を進めていくという特徴があると指摘している。一方、台湾人



女子大学生は定型表現の使用はまったく見られず、直ちに相手に質問して、相手から身上的情報を獲得することによって会話が展開されるということが報告されている。

張(2007)は中日女性 20 分間会話の話題の種類を考察し、両グループともに「相手に関するトピック」、「百科事典的トピック」、「自己に関するトピック」、「その場に関するトピック」、「第三者に関するトピック」という順で現れたとしている。しかし、5 分後の具体的な話題の内容に触れられていない。

蔡(2011)は日中台の社会人を対象に、母語場面ごとの話題選択の傾向を比較し、共通点として個人情報及び仕事関係の話題が多く選択される傾向があると指摘した。日本語母語場面は名前、居住地以外の個人情報の開示が少なく、仕事内容や専門、趣味に関する話題から派生した話題が多いこと、一方、中国語母語話者は話題選択の範囲が広くて多様であるということを報告している。

話題選択と展開に関する日中対照研究は、会話開始から 5 分間の内容に注目するものが多い。それは初対面会話で個人情報の交換が集中していることが分かっているからである。しかし、その後、どのような話題が選択され、展開していくのかも分析する必要がある。そこで、本研究は 20 分間を研究対象とした。さらに、ポライトネスストラテジーの観点からの分析が少なかったため、この章では具体的な会話を踏まえてさらに分析していく。

三牧・難波(2009)は社会人初対面会話データ(うち女性)を米語・中国語・韓国語母語話者間の社会人初対面会話データと対照した結果、共通性の高い話題選択項目として「仕事」「自己紹介」「共通体験(本会話調査参加)」「居住地」「出身」があり、言語社会によって差が大きい話題項目として「年齢」「恋愛・異性」「結婚」「趣味」があることを明らかにした。ただし、いずれのグループからも 60%以上の高率で選択されたのは「仕事」「自己紹介」「共通体験(本会話調査参加)」の 3 話題で、その他の話題項目は母語ごとに選択率に差が見られた。特に目立ったのは「年齢」「恋愛・異性」「結婚」に関する 4 言語社会の違いで、日本語および米語母語話者にとってはこれらの話題を回避する傾向があるのに対して、「年齢」は中韓母語話者には 6、7 割の高率で選択され、「恋愛・恋人・異性」は韓国語母語話者が 7 割の高率で目立って選択する話題となっていることである。

このように、話題選択は各文化に共通性と相違性が存在する興味深い様相を見せている。本章では日本人と中国人の大学生初対面会話データの分析に基づき、話題選択カテゴリーとして共有されている話題選択の基本状態を同定することを目指す。

## 6.2 初対面会話における話題選択の基本状態

### 6.2.1 日本人初対面会話における話題選択の基本状態

日本人初対面会話における話題選択の基本状態を探るために、話題を指定せず、「自由に話してください」という手続きで会話データを収集した。これらの話題を集計し、会話参加者の個別性に関わらず、選択される話題にある程度の共通性を見つけ出す必要がある。

なお、本研究では女性の初対面会話データは条件統制された上で収集したものである。

一方、男性の初対面会話データは宇佐美監修(2013)『BTSによる日本語会話コーパス』を使用したため、6会話中2会話は社会人のものとなっている。したがって、この節で分析する対象は、日本人女性大学生会話のみとした。

日本人女性大学生初対面会話データを大話題、小話題に分類した上で、大話題として取り上げられた話題を集計した。話題の区分の認定について、筆者と第二評定者(男性、言語学博士)がそれぞれ行い、評定者間信頼数係数をとったところ、カッパ係数 0.76 が得られたので分類は妥当なものともみなすことができる。不一致の部分は二人で協議した上、話題の区分を決定した。その結果、全6会話の話題数を集計すると、158の話題(延べ)が抽出されたが、各ペアに共通して選択された話題が多く見られた。同様の話題に共通して付加するラベルを「話題項目」と名付けることにした。158の話題を以下の表2に示すように21の話題項目にまとめた。

表2 日本人女性大学生初対面会話における話題項目の一覧

番号	話題項目	話題 (数字はその話題を選択するペア数である)	合計のペア数
1	自己紹介	名前5、所属(学校1 学部6 学年6)、専攻4	22
2	授業	チュートリアル4、二外4、授業2、ゼミ2、中国語の授業1、中文の授業1、文学部の授業1、教育学部の授業1、一限の授業1、出席の取り方1、SILS1 合宿2	21
3	サークル	サークル5、サークル加入理由1、トルコデー1、フリーペーパー1、フラダンスをやめる理由1、着物の着付け1、茶道1	11
4	留学	留学3、台湾への留学2、中国への留学2、イタリアへの旅行1、韓国への旅行1、ベリーダンス1、ホームステイ1	11
5	食べ物	トルコ料理1、韓国料理1、イタリア料理1、中華料理1、紅葉饅頭1、ちんすこう1、食事1、スイパラ1、カレー屋1、ラーメン屋1、レストラン1	11
6	共通点	共通の友人5、会話協力の経緯4、共通の授業1	10
7	出身	出身5、家1、方言1、山梨(故郷)のフルーツ1、富士山(故郷)1、	9
9	試験	中国語検定1、秘書検定1、トイック1、大学入試1、簿記1、単位2	7
10	進路	進路3、就活2、大学院1、結婚後の仕事1	7
11	休暇	夏休みの過ごし方1、余暇の過ごし方1、健康祭り1、夏の予定1、カフェ1、トレーニングセンター1、ダイエット1	7
12	趣味	下北沢1、知り合いの演劇1、買い物1、かるた1、ちはやふる1、お勧めの小説1	6
13	旅行	旅行2、台湾の物価1、海外旅行1、修学旅行1、イギリス人1	6

8	その他	地震当日のこと 2、遅刻の理由 1、トルコ村 1、ペット 1	5
14	あいさつ	あいさつ 5	5
15	バイト	バイト 3、バイト代の使い道 1、塾講 1	5
16	勉強	語学の勉強 1、中国語の選択理由 1、経済学者 1、英語 1	4
17	通学	通学 3	3
18	専攻	政経の女子 1、留学生 1、専攻の人数 1	3
19	友達	友達 2	2
20	家族	父親の仕事 1、弟 1	2
21	遊び	飲み会 1	1

さらに、その話題項目(あいさつ抜き)を内容の関連性から検討すると、以下の表 3 の通り 7 種類にカテゴリー化された。158 話題の 95.57%は以下の話題選択リストに集約されていることが分かった。残りの 4.43%はその他(5)と家族(2)である。このように共通性の高い項目が実証的に明らかになった。これが日本人女性大学生初対面会話の話題選択の基本状態だといえよう。表 3 に示したように、共通性が一番高い話題カテゴリーは勉強以外の大学生活で、全体の 30.14%を占めている。二番目多いのは勉強に関する項目であり、一番目と同じぐらいで、29.45%を占めている。二つの項目を合計すると、大学生活に関する話題は全体の 6 割ぐらいである。次は自己紹介であり全体の 15.07%である。食べ物というのは各国料理や日本各地の名物についての話題である。それは天気のように相手のプライベートに関係なく、いつでも話せる話題であるため、初対面の会話では気軽に選ばれると解釈できる。共通点は B&L(1987)の共通基盤を想定・喚起・主張せよというポジティブ・ポライトネス・ストラテジーとして日本人女性初対面会話で用いられるといえよう。出身は B&L(1987)の H への関心を強調せよというポジティブ・ポライトネス・ストラテジーとして用いられるであろう。進路は大学三年生にとって関心の高い話題だと考えられる。

表 3 日本人女性大学生初対面会話における話題選択リスト

番号	話題カテゴリー	話題項目(数字はその話題項目を選択するペア数である)	合計のペア数	割合
1	勉強以外の大学生活	サークル 11、休暇 7、趣味 6、旅行 6、バイト 5、通学 3、専攻 3、友達 2、遊び 1	44	30.14%
2	勉強に関する項目	授業 21、留学 11、試験 7、勉強 4	43	29.45%
3	自己紹介	名前 5、所属 13、専攻 4	22	15.07%
4	食べもの	トルコ料理 1、韓国料理 1、イタリア料理 1、中華料理 1、紅葉饅頭 1、ちんすこう 1、食事 1、スイパラ 1、カレー屋 1、ラーメン屋 1、レストラン 1	11	7.53%

5	共通点	共通の友人 5、会話協力の経緯、4 共通の授業 1	10	6.85%
6	出身	出身 5、家 1、方言 1、山梨(故郷)のフルーツ 1、富士山(故郷)1	9	6.16%
7	進路	進路 3、就活 2、大学院 1、結婚後の仕事 1	7	4.79%

なお、3 ペア以上の会話で選択された話題は以下の表 4 に示すとおりである。すべての会話で選択されたのは「学年」と「学部」である。「名前」と「専攻」の選択率はそれぞれ 83%と 67%である。「名前」、「学年」、「学部」、「専攻」は初対面会話の自己紹介の一部になっている。また、「共通の友人」と「会話協力の経緯」という項目は共通点とした。なお、「チュートリアル」「二外」は授業という話題項目となっている。つまり、5 割以上の会話で選択された話題項目(あいさつ以外)は「自己紹介」、「共通点」、「授業」、「サークル」、「出身」、「バイト」、「通学」、「留学」という 8 つの話題項目である。

表 4 日本人女性初対面会話における 3 組以上のペアが選択した話題

番号	話題	出現会話数	割合
1	学年	6	100%
2	学部	6	100%
3	あいさつ	5	83%
4	名前	5	83%
5	サークル	5	83%
6	共通の友人	5	83%
7	出身	5	83%
8	専攻	4	67%
9	会話協力の経緯	4	67%
10	チュートリアル	4	67%
11	二外	3	50%
12	バイト	3	50%
13	通学	3	50%
14	留学	3	50%

### 6.2.2 中国人初対面会話における話題選択の基本状態

この節では中国人大学生初対面会話における話題選択の基本状態を同定することを目指す。まず中国人初対面会話データを大話題、小話題に分類した上で、大話題として取り上げられた話題を集計した。話題の区分の認定について、筆者と第二評定者(男性、言語学博士)がそれぞれ行い、評定者間信頼数係数をとったところ、カッパ係数 0.78 が得られたの

で分類は妥当なもののみなすことができる。不一致の部分は二人で協議した上、話題の区分を決定した。日本人女性会話の結果と比較するため、中国人女性初対面会話の話題選択に限定して分析する。

中国人女性初対面の全6会話の話題数を集計すると、105の大話題(延べ)が抽出されたが、各ペアに共通して選択された話題が多く見られた。同様の話題に共通して付加するラベルを「話題項目」と名付け、105の話題を以下の表5に示すように22の話題項目にまとめた。

表5 中国人女性大学生初対面会話における話題項目の一覧

番号	話題項目	話題 (数字はその話題を選択するペア数である)	合計のペア数
1	自己紹介	名前3、専攻6、学部5、学年5	19
2	試験	試験4、英語の試験2、大学入試1、大学入試の志望校1、コンピュータ試験1、会計検定試験1	10
3	授業	授業6、出席の取り方1	7
4	進路	進路5、大学院の学校の選択1、先輩の進路1	7
5	学校	学校の政策1、二級学院1、キャンパスバス1、カリキュラム1、女子大生の人数2、クラスの数1	7
6	出身	出身6	6
7	実習	実習5、実験1	6
8	共通点	会話協力の経緯4、共通の知人1	5
9	大学生活での利害関係	人間関係1、奨学金1、貧困学生の選出方法1、学生会1、寝室への検査1	5
10	同級生	同級生3、学級委員1	4
11	高校	出身高校1、高校生活1、浪人生になった経緯2	4
12	サークル	サークル3	3
13	先生	先生2、学部長1	3
14	勉強	英語の勉強方法1、受験勉強1、期末レポート1	3
15	うわさ	宿舎での盗難事件1、宿舎での変態事件1、機械専攻の女子1	3
16	その他	会話時間1、ヘアスタイル1、携帯電話1	3
17	ルームメート	ルームメート2	2
18	電話番号の交換	電話番号の交換2	2
19	家族	従妹1、姉1	2
20	休暇	同郷会1、実家に帰る汽車1	2
21	バイト	バイト1	1
22	年齢	年齢1	1

さらに、その話題項目を内容の関連性から検討すると、以下の表 6 の通り 8 種類にカテゴリー化された。105 話題の 91%は以下の話題選択リストの話題カテゴリーに集約されていることが分かった。残りの 9%はその他(3)、家族(2)、電話番号の交換(2)、年齢(1)である。このように共通性の高い項目が実証的に明らかになった。これが中国人女性大学生初対面会話の話題選択の基本状態だといえよう。表 6 に示したように、共通性が一番高い話題カテゴリーは勉強に関する項目であり、全体の 25%を占めている。二番目に多いのは勉強以外の大学生活であり、22%を占めている。二つの項目を合計すると、大学生活に関する話題は全体の 45%である。日本人女性大学生初対面の 6 割よりは低い、大学生活に関する話題が一番多く選択されるという傾向は同じである。次は日本人女性大学生初対面と同じく自己紹介であり、全体の 18%である。

表 6 中国人女性大学生初対面会話における話題選択リスト

番号	話題カテゴリー	話題項目(数字はその話題項目を選択するペア数である)	合計のペア数	割合
1	勉強に関する項目	試験 10、授業 7、勉強 3、実習 6	26	25%
2	勉強以外の大学生活	大学生活での利害関係 5、同級生 4、サークル 3、先生 3、うわさ 3、ルームメイト 2、休暇 2、バイト 1	23	22%
3	自己紹介	名前 3、専攻 6、学部 5、学年 5	19	18%
4	進路	進路 5、大学院の学校の選択 1、先輩の進路 1	7	7%
5	学校	学校の政策 1、二級学院 1、キャンパスバス 1、カリキュラム 1、女子大生の人数 2、クラスの数 1	7	7%
6	出身	出身 6	6	6%
7	共通点	会話協力の経緯 4、共通の知人 1	5	5%
8	高校	出身高校 1、高校生活 1、浪人生になった経緯 2	4	4%

ただし、表 3 と表 6 を比べると、勉強に関する項目では日本人女性初対面の場合、留学という話題が選択されるが、中国人の場合の一つも見当たらないことが分かった。中国教育部の統計によると、会話データを収集した 2010 年の海外への留学人数は 28.47 万人である。当時の中国人口は 13.41 億人であったため、留学人数が総人口に占める割合はわずか 0.21%に過ぎない。その中の 90%以上は私費留学である。授業料の問題があるため、中国人大学生にとっては留学は身近な話ではないようである。

なお、勉強以外の大学生活という話題のカテゴリーでは中国人女性の場合、同級生(4)うわさ(3)ルームメート(1)のような周りの人のことを初対面の相手と話す傾向がある。一方、日本人女性初対面会話では休暇(7)、趣味(6)、旅行(6)という余暇の楽しみ方のような話題が選択される傾向がある。さらに、中国人女性初対面会話の話題項目の大学生活での利害関係では人間関係(1)、奨学金(1)、貧困学生の選出方法(1)、学生会(1)、寝室への検査(1)というような学生の利益、特に金銭的なことに関係のある話題が選択される傾向がある。それは日本人初対面会話ではまったく選択されていない話題である。「進路」「出身」「共通点」という3つの話題カテゴリーは中日女性初対面会話では両方とも選択されたものである。異なる点では日本人女性の場合は「食べ物」を選択し、中国人女性の場合は「学校」と「高校」を選んでいることである。それは日本の場合、中国と違って全寮制でなく、同じ学科でなければ共通の話題が少ないため、食べ物のような一般的な話題を選んだのであろう。一方、中国の大学は全寮制であるため、中国人女性の場合は学校の政策(1)、二級学院(1)、キャンパスバス(1)、カリキュラム(1)、女子大生の人数(2)、クラスの数(1)という学校の設備や規則に関心を持っているようである。

なお、3ペア以上の会話で選択された話題は以下の表7に示すとおりである。すべての会話で選択されたのは「出身」、「専攻」、「授業」である。中国は広いため、地域によって風習がまったく違う場合がある。したがって、初対面のすべての会話で出身が選択されている。「学部」「学年」「実習」「進路」の選択率は83%である。「名前」、「学年」、「学部」、「専攻」は初対面会話の自己紹介の一部になっている。しかし、日本人女性初対面会話と違って、「名前」は自己紹介の一部として会話の最初の段階に出てくるのではなく、3箇所の中の2箇所は会話の後半の電話番号を交換しようと思ったとき、名前が必要になって初めてその話題が選択されたのである。そのため、話題項目の数をみるだけでは話題選択の全体像を掴むことができないように思われる。したがって、談話レベルから話題の流れを考察する必要がある。この章の6.5節では初対面会話の流れについてさらに分析する。

大学三年生であるため中国人女性初対面会話では日本人と同じように「進路」という話題が選択された。中国の燕山大学では三年生は「実習」があるために、その話題が自然に選ばれたのである。また、「会話協力の経緯」という項目は共通点となっている。日本人女性初対面会話と違って、「共通の友人」の話題は出てこなかった。

表7 中国人女性初対面会話における3組以上のペアが選択した話題

番号	話題	出現会話数	割合
1	専攻	6	100%
2	出身	6	100%
3	授業	6	100%
4	学部	5	83%
5	学年	5	83%

6	実習	5	83%
7	進路	5	83%
8	会話協力の経緯	4	67%
9	試験	4	67%
10	名前	3	50%
11	サークル	3	50%
12	同級生	3	50%

まとめてみると、中国人女性初対面会話では5割以上の会話で選択された話題項目は「自己紹介」、「共通点」、「授業」、「試験」、「サークル」、「出身」、「進路」、「実習」、「同級生」という9つの話題項目である。日本人女性初対面会話で選択された「バイト」「通学」「留学」は出てこなかった。中国では大部分の大学は全寮制で通学することは少ない。授業が忙しくて普段アルバイトする時間はあまりないと思われる。また、上記に述べたように、留学というものは中国の国内の大学では一般的ではないようである。したがって、話題選択の違いは中国国内と日本国内の高等教育のシステムや学生の生活環境の差が反映されているといえよう。

### 6.3 初対面会話における話題選択のストラテジー

以上、日本人と中国人の大学生初対面会話の話題選択の基本状態を論じてきた。この節では、それらの話題がどのように選択されるかを考察する。フォローアップアンケートとインタビューでは「会話が切れないように、新しい話題を見つけようとした」「無難な話題を選択した」「共通の話題で盛り上がった」と話題選択が意識された例が多いと示された。したがって、この節では話題選択ストラテジーの観点から中日の会話データを分析する。

B&L(1987)はストラテジーの選択においては、話し手はFTAの度合いを見積もり、以下の1~5のうち最も適切と思われる行動をとる。番号順に、相手のフェイスを脅かす危険性が少なくなる。

- (1) FTの軽減行為を行わず、直接的な言語行動をとる(without redressive action, baldly)
- (2) ポジティブ・ポライトネス(ポジティブ・フェイスへの配慮)(positive politeness)
- (3) ネガティブ・ポライトネス(ネガティブ・フェイスへの配慮)(negative politeness)
- (4) オフレコード=ほのめかし(off record)
- (5) FTAを行わない(Don't do the FTA)

宇佐美(2001a)で「B&Lは相手に敬意を表すと同時に、社会における話者間の関係を指標することにもなる敬語を有する言語においては、「敬語使用の原則を守っている」ということは、『その社会の規範に基づいた敬語使用を守ることによって、相手の立場を侵さない』と



いう意味で、基本的には、相手のネガティブ・フェイスを尊重するネガティブ・ポライトネスになっていると捉えている。しかし、『敬語使用の原則を守っている』ということをはじめとまとめにして、『ネガティブ・ポライトネス・ストラテジー』と片付けてしまうのは、少し大雑把に過ぎると言えるかもしれない」と指摘された。

したがって、本節では宇佐美（1998、2001ab、2002 など）の DP 理論に基づき、一文レベル、一発話行為レベルでは捉えることのできない、より長い談話レベルにおける要素、及び、文レベルの要素も含めた諸要素が、語用論的ポライトネスに果たす機能のダイナミックスの総体である「ディスコース・ポライトネス」の観点から日本人と中国人初対面会話における話題選択のストラテジーを分析する。

### 6.3.1 初対面会話における話題選択のストラテジーの分類

初対面会話における話題選択のストラテジーは B&L(1987)に基づき、以下のように分類する。

(1) FT の軽減行為を行わず、直接的な言語行動をとる (without redressive action, baldly)

緊急の場合等、簡潔に物事を述べることである。例えば、道を渡るとき、車が急にきて「気を付けて!」と言って相手に注意する場合の発話である。FT の軽減行為をまったく行わず、直接的な言語行動をとるものである。

(2) ポジティブ・ポライトネス (ポジティブ・フェイスへの配慮) (positive politeness)

相手の他者から認められたいというポジティブ・フェイスを満たすように、相手を褒めたり、共通の興味を強調したり、相手を楽しくさせるような冗談を言ったりすることである。具体的に以下のような 10 のストラテジーが挙げられる。

P1<sup>39</sup> : 共通基盤を想定・喚起・主張せよ

B&L(1987)では H<sup>40</sup>と共通の興味などあれこれ話すうちに、S<sup>41</sup>が 2 人の共通基盤について強調する場合である。

表 4 に示したように 3 ペア以上の会話で選択された話題の中では、共通の友人と会話協力の経緯という話題がある。それは B&L(1987)のポライトネスの中で共通基盤を想定・喚起・主張せよというポジティブ・ポライトネス・ストラテジーの機能を果たしているといえよう。初対面会話では相手との共通の知り合いを探したり、共通の体験である今回の会話協力のことを話したりすることで、心的な距離が縮まって会話を促進させていると考えられる。

<sup>39</sup> P はポジティブ・ポライトネスを表す。

<sup>40</sup> H は聞き手を指す。

<sup>41</sup> S は話し手を指す。

P2：申し出よ、約束せよ

B&L(1987)によると、何らかの FTA の潜在的脅威を和らげるため、S は H との協力関係を強調する別の方法を選ぶこともある。すなわち、S は H の欲するものが何であれ、自らそれを望み、手に入れるために手助けしようとする。申し出や約束はこうしたストラテジーを選択した際に自然に導き出されるものである。

例 2 に示したように、ベース協力者 JWB01 はサークル活動でトルコデーというイベントを企画している。それは聞き手である会話相手 JWN01 が参加したいイベントかもしれないと思って、ライン番号 120 では会話相手の JWN01 を誘った。それに対して会話相手の JWN01 はあまり乗り気ではないようである。しかし、ベース協力者 JWB01 はそのイベントに参加してほしいという気持ちがあるために、イベントの目玉の一つであるケバブ弁当(124)を紹介してさらに会話相手の JWN01 を誘った。この二回の誘いでは B&L(1987)のポライトネスの申し出よ、約束せよというポジティブ・ポライトネス・ストラテジーの使用が認められるといえよう。

## 例 2

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発 話 内 容
120	104	*	JWB01	もし時間あったら、ぜひ来てね。
121	105-1	/	JWN01	=あ、3 限が、2 限が休講になったら(うんうん)、今ちょっと分からなくて、
122	106	*	JWB01	うんうんうん。
123	105-2	*	JWN01	休講になったら行こうかなって思って。
124	107	*	JWB01	うんー、なんか、全然ケバブ弁当が、なんか最初五百円って言ってたんだけど、学割を、やろうって話になって(うん)、多分三百円か四百円になって(うん)、結構大きくてね、どんぶりっていうか、弁当箱は。

P3：助け舟をだす

次の例 3 に示したようにベース協力者 JWB01 は話題に困っているようである。そのとき、会話相手の JWN01 は「どうしてトルコ、トルコフリック(サークル)に入ろうと思ったの?」という新しい話題を提供することで、ベース協力者 JWB01 へ助け舟をだすというポジティブ・ポライトネス・ストラテジーの使用が観察された。

例 3

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発 話 内 容
221	191	*	JWB01	《沈黙 2 秒》 [小さな声で] こういうふうに…。
222	192	*	JWB01	《沈黙 2 秒》 話題が尽きてきてしまったく二人で笑い。
223	193	*	JWB01	《沈黙 1 秒》 こんな感じ【【。
224	194-1	/	JWN01	】】 へー、どうしてトルコ、トルコフリック[↑],,
225	195	*	JWB01	うんうん<うんうん>{<}
226	194-2	*	JWN01	<に入ろうと>{>}思ったの?。

P4: 仲間うちであることを示す指標を用いよ

B&L(1987)によると、同じ集団の一員であることを伝える数多くの表現がある。その標識には、仲間ウチの呼びかけ表現、仲間言葉や方言、言葉の省略などが含まれる。

例 4 の会話番号 343 と 345 に出てくる文キャンとは文化構想学部と文学部の学生が学ぶ戸山キャンパスのことである。それは早稲田の学生の間で使われている仲間言葉であるため、ポジティブ・ポライトネス・ストラテジーとして用いられているといえよう。また、ライン番号 349 と 351 に出てくる文カフェは戸山キャンパスにある喫茶店を指すのである。同じく早稲田の学生同士の使われている仲間言葉である。それは B&L(1987)の仲間うちであることを示す指標を用いよというポジティブ・ポライトネス・ストラテジーが機能していると思われる。

例 4

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発 話 内 容
343	315	*	JWN04	でも、あのう、 <b>文キャン</b> なので、あんまり、そうだなあ。
344	316	*	JWB04	ああ。
345	317	*	JWN04	<b>文キャン</b> だと、あんまりー、こっち側来ないんですけど。
346	318	*	JWB04	うんうんうんうんうん。
347	319	*	JWB04	そうなんですね。
348	320	*	JWN04	うん。
349	321	*	JWB04	<b>文カフェ</b> 、に行っちゃう感じですか。
350	322	*	JWN04	あああ、なんか、みんなお金ないときはそこみたいな<笑い>。

351	323	*	JWB04	<笑いながら>確かに、文カフェなら安くていい、そうか。
352	324	*	JWN04	うんうん。
353	325	*	JWB04	確かに、確かに。

P5: プライベートに関わる話題を選択する

ライン番号 98 では話者 JWN05 がベース協力者 JWB05 にバイト代の使い方について聞いた。この話題自体は初対面会話においてプライベートに関わる話題であり、相手のネガティブ・フェイスを侵害する言語行動として捉えられるのが一般的である。ベース協力者 JWB05 はお金を貯めているはずであるが、いつの間になくなると真面目に答えた。話者 JWN05 はあきらめずに具体的に何に使うかさらに聞いた(101)。定期や携帯代などでなくなるとベース協力者 JWB05 は回答した。それに対して、話者 JWN05 はそれが親持ちだと言った。さすがにここまで聞いて、相手のバイト代は定期や携帯代などでなくなるのに、自分の方は親持ちであることに申し訳ない気持ちが沸いて謝ったのである(110)。バイト代の使い方という話題は相手のネガティブ・フェイスを侵害する発話行為だと思われる。しかし、宇佐美 (1998、2001ab、2002 など) の DP 理論に基づき、フォローアップアンケートの結果を調べると、それに対してベース協力者は不愉快に思っていないことからみれば、許容範囲に収まってニュートラル効果になっていると認められる。このようにプライベートにかかわる話題を選択する場合、相手に関心を持ち、自己開示をしてもらうため、ポジティブ・ポライトネス・ストラテジーと分類する。

例 5

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
98	91	*	JWN05	バイトで稼いだお金で何に使ってます[↑]。
99	92	*	JWB05	えっ、なんか。
100	93	*	JWB05	《少し間》ためっ、なんか、貯めてるはずなんですけど、(＜笑い＞)実はなんかどっかに、＜二人で笑う＞いつの間になくなっちゃうっていう感じで、あんまり貯まらないですね。
101	94	*	JWN05	ええ、一番思いあたる節は、何に使ってます[↑]。
102	95	*	JWB05	えっ、＜なんだろう＞{<}。
103	96	*	JWN05	<普通>{>}。
104	97	*	JWB05	でも結構定期とかでなくなってませんか。
105	98	*	JWN05	定期?[↑]。
106	99	*	JWB05	何か携帯代とか…[↑]。

107	100	*	JWN05	いや、親持ちですね<笑いながら>。
108	101	*	JWB05	あっ、親持ち、(<笑い>)あ、いいですね。
109	102	*	JWB05	私<全部払えって言われて>{<>}。
110	103	*	JWN05	<いや、申し訳ない>{<>}, いや、あらあら。

また、以下の例 6 に示したように、二人は進路について話し合っている。ベース協力者 JWB05 の両親は公務員であるため、将来公務員になりたがっているようである。したがって、ライン番号 234 では話者 JWN05 はベース協力者 JWB05 に結婚後仕事を続けるかどうか聞いた。それに対してベース協力者 JWB05 は沈黙 1 秒の後、あー、<うん、全然>{<>}と答えた。後半は話者 JWN05 との会話が重なっている。公務員だったら、仕事を続けることができると話者 JWN05 は言いたがっているようである(236)。しかし、結婚後の仕事という話題はプライベートに関わる話題であり、相手のネガティブ・フェイスを侵害する恐れがある。今回はベース協力者はすぐに答えるのではなく、躊躇が見られた。話者 JWN05 がそれに気付いて、慌しく話そうとしたために、ベース協力者との会話が重なってしまった。しかも、さらに展開せず、なるほど、公務員かというふうにな得した様子でこの話題を終らせた。例 5 と同じように、プライベートにかかわる話題を選択すること自体は、相手に関心を持ち、自己開示をしてもらうため、ポジティブ・ポライトネス・ストラテジーと分類する。

#### 例 6

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発 話 内 容
234	214	*	JWN05	何歳かで結婚しても仕事は続けたいですか。
235	215	*	JWB05	《沈黙 1 秒》あー、<うん、全然>{<>}【 【。
236	216	*	JWN05	】】<公務員>{<>}だったらできますよね、<普通に>{<>}…。
237	217	*	JWB05	<うん>{<>}。
238	218	*	JWN05	ああ、なるほど=。
239	219	*	JWN05	=そっか、公務員か、公務員…。

#### P6: 冗談を言え

B&L(1987)によれば、冗談は、相互の背景知識や価値観に基づいているものであるから、その共通の背景や価値観を強調するために使うことができる。冗談を言うことは基本的なポジティブ・ポライトネスの技術であり、例 7 に示したように、それは中国人女性初対面会話である。二人は大学受験のことで話し合っている。受験当日はいろいろなチラシを配る人がいるが、その中でまさか浪人の補習科のチラシを配る人がいるなんてと冗談半分に言っている。二人とも大学入試の経験があるために、同じ背景知識を持っている。したが

ってその受験当日の意地の悪いチラシを配る人の話を笑い話として捉えることができるのであろう。

例 7

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
332	327	*	CWB03	那会还有一件特别缺德的事是什么事, 就是, 在考试, 就是考场外面。 (あの時、とっても意地悪いことがあってね、それはね、それは試験、試験の教室の外でね。)
333	328	*	CWN03	啊。(あー。)
334	329	*	CWB03	不是有好多, 有发传单的嘛。(たくさんの、チラシを配る人がいるよね。)
335	330	*	CWN03	对对对。(そうそうそう。)
336	331-1	/	CWB03	他有发传单就是, 又什么药品啊, <保健啊>{<>, , (あのちらしって、薬とか<健康食品とか>{<>, ,)
337	332	*	CWN03	<啊——>{<>}。( <あ——>{<>}。)
338	331-2	*	CWB03	啊, 保健药什么的。(そう、健康食品なんか。)
339	333	*	CWN03	嗯。(うん。)
340	334	*	CWB03	还有就是那个复习班的。(それに浪人の補習科もあるのよ。)
341	335	*	CWN03	啊。(あ。)
342	336	*	CWB03	复习班的那个广告<两个人一起笑>。(浪人の補習科のチラシもあるのよ<二人で一緒に笑う>。)
343	337	*	CWB03	我们当时就说那个人损不损啊, 还没考试呢<就给发复习班>{<>}。 (あの時、そのチラシを配る人は意地悪いでしょ、試験もまだなのに、<浪人の補習科のチラシを配るなんて>{<>}。)
344	338	*	CWN03	<就给你发复习班>{<>}。( <浪人の補習科のチラシを配るのか>{<>}。)

P7:理由を述べよ(もしくは尋ねよ)

B&L(1987)では、H を行動に取り込むもう一つの側面は、S がなぜ自分がその欲求を持つのかについて理由を述べることである。それだけでなく、相手に理由を尋ねる形でなされる間接的提案は、ポジティブ・ポライトネスの慣用的表現である。

例 8 のライン番号 107 ではベース協力者 CWB01 は相手の指輪の付け方に疑問を感じて、その理由を聞いたのである。ライン番号 113 では会話相手はそのわけを教えてくれた。ガイドの実習の時、お客さんからのセクハラを防止するためにつけた指輪である。この場合の理由を尋ねる発話はポジティブ・ポライトネス・ストラテジーとみなされる。

例 8

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
107	106	*	CWB01	你这个也不太对劲呀，这戒指戴的呀。(あなた、あなたのこれは違うんじゃないですか、この指輪はね。)
108	107	*	CWN01	<笑>。
109	108	*	CWB01	是吧。(そうですね。)
110	109	*	CWN01	对。(そうですね。)
111	110	*	CWN01	这个吧，我跟你说。(これはね、実はね。)
112	111	*	CWB01	嗯。(うん。)
113	112	*	CWN01	就是我们刚实习的时候，我们班老导游就跟我们说，女生不管你有没有男朋友一定要戴上一个戒指，这叫防狼戒<笑>。(実習したばかりの時、うちのグループの先輩のガイドから聞いたんです、女の子は彼氏がいるかどうか関係なく、必ずこの指輪をつけなければならないって、これはいわゆる男避けの指輪だって<笑い>)

P8:一致を求めよ

B&L(1987)によると、H との共通基盤を主張する特徴的手段の一つは、相手との一致していることを強調できる方法を探すことである。「無難な話題」を持ち出すことで、S は H との一致を強調できるし、またそれにより H の、「正しい」と認めてもらいたい気持ちや、自分の意見に賛同してもらいたい、という望みに応えることができる。

例 9 に示したように、ベース協力者 CWB03 は学年という無難な話題を選んで相手に聞いた。さらに、ライン番号 17 では同じ学年だと分かって H との共通基盤を主張することができるため、ポジティブ・ポライトネス・ストラテジーとみなされる。

例 9

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
15	15	*	CWB03	你大几的?。(何年生ですか。)
16	16	*	CWN03	我大三。(三年生です。)
17	17	*	CWB03	噢，我也大三啊<笑>。(あ、私も三年生ですよ<笑い>)

P9:H(の興味、賛意、共感を)誇張せよ

B&L(1987)によると、誇張的、強意的表現はポジティブ・ポライトネスの言語表現の一つ

の特徴である。ライン番号 80 ではベース協力者は会話相手の勉強ぶりを高く評価している。それはH(の興味、賛意、共感を)誇張せよというポジティブ・ポライトネス・ストラテジーとみなされる。

例 10

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
80	80	*	CWB04	【】我感觉你们特别用功<笑>。(【】皆さんはすごく努力していると思います<笑い>。)
81	81	*	CWN04	逼得<笑>。(むりやり勉強させられるんです<笑い>。)
82	82	*	CWB04	上的挺好的, 我这个人就喜欢被逼着, 要不逼我, 现在感觉自己可堕落了<笑>。(自習するのがいいと思います、私はね、無理やり勉強させられるのが好きです、そうしないと、自分はただだらして何もできないと思います<笑い>。)
83	83	*	CWN04	确实有那么一点。(確か、そういうのがあるかもしれないですね。)
84	84	*	CWB04	嗯。(うん。)

P10:H への関心を強調せよ

B&L(1987)ではこのストラテジーの特徴の一つとして間接話法より直接話法の使用が多いことが指摘されている。話題導入においてはライン番号 34 のように、質問の形で直接に相手のことを聞くことである。相手の他者から認められたいというポジティブ・フェイスを満たすように、相手への関心を示す質問の形で会話を進めていくのである。

例 11

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
34	34	*	JWN02	えー、どこでバイトしているんですか。
35	35	*	JWB02	あの、塾講やっているんですよ。
36	36	*	JWN02	塾講、やっぱ多いですね。
37	37	*	JWN02	塾講、みんな塾講やってていいなあ<笑い>。

(3) ネガティブ・ポライトネス (ネガティブ・フェイスへの配慮) (negative politeness)



他者の邪魔されたくないという相手のネガティブ・フェイスを保つために、直接的ではなく、間接的な言語行動である。どうしても相手のフェイスを脅かす行為を行わなくてはならないときに、その度合いを少しでも軽減するように、押し付けがましくない、相手に余地を与えるような、間接的な表現をするということである。具体的に以下のような3つのストラテジーが挙げられる。

N1<sup>42</sup>:間接的であれ

一発話レベルからみれば、ライン番号 18 では、会話相手の JWN04 はベース協力者 JWB04 に「中国語やってるんですか」という質問をしているのである。しかし、談話レベルからみれば、それは中国語をやっているかどうかではなく、今回の会話の協力の経緯について聞いているのである。ベース協力者 JWB04 はそれを承知した上で、中国語やっている友達から聞いて今回の会話に協力したのであると答えた。つまり、この質問は間接的であるため、B&L(1987)のネガティブ・ポライトネス・ストラテジーとして用いられているといえよう。

例 12

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
18	18	*	JWN04	ええと、中国語やってるんですか。
19	19	*	JWB04	あ、いいえ、違うんですけど、友達、中国語やっている友達から聞いて“やらないか”みたいな。
20	20	*	JWN04	そう。
21	21	*	JWB04	中国語の授業で言われた感じですか。
22	22-1	/	JWN04	ああ、なんか、私の友達なんですけど、(うんうん)、あのう、中国文学科なので、
23	23	*	JWB04	うーん。
24	22-2	*	JWN04	そうなんです、その友達が教えてくれて。

N2:悲観的であれ

B&L(1987)で指摘されたように、このストラテジーは、Sの発話行為が適切であるための諸条件が満たされていないのではないかという疑いをはっきりと表現することにより、Hのネガティブ・フェイスに対して補償を与えるものである。このストラテジーを実現するため、主に否定の使用、仮定法の使用、可能がわずかであることを示すマーカーが使用される。ライン番号 81 では将来の就職活動に不安を感じていることが分かる。しかも、どのような専攻でも就職難という悲観的な考え方を持っている。この場合はB&L(1987)の悲観的であれというネガティブ・ポライトネス・ストラテジーとみなされる。

<sup>42</sup> Nはネガティブ・ポライトネスを表す。

例 13

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
81	78	*	CWN06	反正，哎呀，现在学什么都找不着工作。（どうせ、あのね、今は何を勉強しても仕事が見つからないんです。）
82	79	*	CWB06	对。（そうですね。）

N3：敬意を表せ

B&L(1987)では敬意の表明には、正反対の方向性を持つ2つの方法がある。1つはSが自分自身を低めて謙遜することであり、もう1つはSがHを高めることである。敬意現象は、おそらく、社会的要因が言語構造に影響を及ぼす最も顕著な例であり、それは敬語という形で現れると指摘された。例14に示したように、ライン番号654ではベース協力者JWB03が犬についての話題を導入する場合、「あ、犬、飼っていらっしゃるんですか?。」というように尊敬語が使われている。この場合は敬意を表せというネガティブ・ポライトネス・ストラテジーとみなす。

例 14

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
654	595	*	JWB03	あ、犬、飼っていらっしゃるんですか?。
655	596	*	JWN03	ああ、私の家じゃないですけど(はい)、周りの犬は(あー)かなり吠えてて。
656	597	*	JWB03	<笑いながら>犬、賢いですね。
657	598	*	JWN03	犬賢いけど。

(4) オフレコード＝ほのめかし(off record)

伝達意図を明示的に示さないことである。中途終了型発話や相手の非に言及するときのひとりごとの発話などが挙げられる。

01<sup>43</sup>：最後まで言うな、省略せよ(中途終了型発話)

ライン番号9では話者JWN05はベース協力者の学年を聞いた時、中途終了型発話が観察された。この場合は相手のネガティブ・フェイスを侵害する恐れがあるために、話者JWN05は中途終了型発話というB&L(1987)の最後まで言うな、省略せよというオフレコードの使用

<sup>43</sup> 0はオフレコードを表す。

が確認される。

例 15

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
9	9	*	JWN05	[声が小さくなる]文構の何年生…?[↓]。
10	10	*	JWB05	三年生で=。
11	11	*	JWN05	=あっ、同じ年なんですね。
12	12	*	JWB05	あっ、そうなんですか[最後は無声]。

02: (相手の非に言及するときなどの)ひとりごとの発話

宇佐美(2001)で指摘されたように、「相手の非に言及する」というような行為をポライトネス理論で解釈すると、行為自体は、フェイス侵害度(FT 度)が非常に高く、絶対的な意味では、ポライトではあり得ないが、しかし、だからこそ、B&Lの理論で言うFTAを行わない、すなわち、相手の非には触れないという戦略を取るのが、相手のフェイスを最も配慮した最もポライトな戦略となるのである。しかし、様々な状況から、どうしても、「相手の非に言及する」という発話行為を行わざるを得ない場合、或いは、行いたい場合にはどうするか。相手との力関係(P)、社会的距離(D)などに応じて、相手の非を「ほのめかす(オフレコード)」を始め、いくつかある戦略の中から、適当と判断した戦略を選択するというのが、B&Lの理論である。

例 16 は日本人女性初対面同士の会話である。話者二人は同じ授業を取っているため、それについて話し合っている。しかし、ライン番号 135 では、話者 JWN02 は急にその授業の時間は土曜日一限ではなくて、二限だと相手の間違いを指摘しようとしている。そのとき、ひとりごとの小さな声で「あっそうか、土曜、あれ土曜日一限?。」さらに沈黙 1 秒の後、「一限じゃない、二限かな」と言った。それは直接に相手の間違いを指摘すると、フェイス侵害度が高い言語行動となるために、ひとりごとの発話で、相手に気付いてもらおうと考えているのであろう。それは B&L(1987)のオフレコードだと思われる。

例 16

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
135	130	*	JWN02	うん、土曜一限、土曜一限は一、[小さな声で]あっそうか、土曜、あれ土曜日一限?。
136	131	*	JWN02	《沈黙 1 秒》一限じゃない、二限かな。

137	132	*	JWB02	まあ、<二限ですか>{<[↓]}。
138	133	*	JWN02	<二限の方だ>{>}、たぶん。
139	134	*	JWB02	わたし、うーん。
140	135	*	JWN02	ただ二限の方だ、一限は別の科目とってるんだ<笑い>。
141	136	*	JWB02	あっ、そうなんですか。
142	137	*	JWN02	あーー。
143	138	*	JWN02	でもたぶん同じ先生なのかな。
144	139	*	JWB02	そうですね。
145	140-1	/	JWN02	はい、なんか二限と一限たぶん連続で、(うん)その先生が、二限の時にすごい人多くて(おー)、だから一限の方少ないから、一限の方行ける人行ってみたいな(あー)、<笑いながら>最初に言われて、この時限は、一限は何とってたかな、あのパソコンの[↑]、メディアネット<ワークセンター>{>,,
146	141	*	JWB02	<メディアネット>{>}ワークセンター[無声]。
147	140-2	*	JWN02	なにかで、(おー)とってたかなあ。
148	142	*	JWN02	《沈黙 1 秒》そんな感じで。

(6) FTA を行わない (Don't do the FTA)

相手のフェイスを脅かすような発話行為を行わないことである。例 16 のライン番号 135 と 136 では話者 JWN02 に授業の時間は月曜日の一限ではなく、二限だと指摘された。それに対してライン番号 137 では「まあ、二限ですか」とベース協力者 JWB02 は自分の記憶で確かめているようである。「<二限の方だ>{>}、たぶん。」話者 JWN02 はさらに二限と指摘したが、ベース協力者 JWB02 は「わたし、うーん。」(139)と考えているようであるが、自分の記憶が正しければ、一限のはずだと弁解することはしなかった。それは話者 JWN02 の勘違いを指摘すると、フェイス侵害度が非常に高い言語行動であるために、ベース協力者 JWB02 はその発話行為を行わないことを選んだ。一方、話者 JWN02 はライン番号 145 では一限と二限は同じ先生の授業であるため、どの時間帯に出ても同じということで、ベース協力者 JWB02 は一限に出て、自分は二限に出ている。それはベース協力者 JWB02 の間違いではなく、自分の勘違いだったことに気付いたようである。ライン番号 139 ではベース協力者 JWB02 が話者 JWN02 の勘違いを指摘しないということは B&L (1987) のフェイス侵害行為を行わないということである。

宇佐美 (2001) で指摘されたように、「相手の非に言及する」というような行為をポライトネス理論で解釈すると、行為自体は、フェイス侵害度 (FT 度) が非常に高く、絶対的な意味では、ポライトではあり得ない。だからこそ、ベース協力者 JWB02 は B&L の理論で言う相手のフェイスを最も配慮した最もポライトな戦略である FTA を行わない、すなわ

ち、相手の非には触れないという戦略を取るのである。

### 6.3.2 日本人初対面会話における話題選択の戦略の結果

まず、6.3.1の分類基準に従い、日本人初対面会話における話題選択戦略を分類し、それから全データの20%を第二評定者(男性、言語学博士)にコーディングしてもらい、評定者間信頼数係数をとったところ、カッパ係数0.79が得られたので分類は妥当なものと思なすことができる。

日本人初対面会話における話題選択戦略は女性と男性という2つの部分からなっている。女性の場合は以下のような結果となっている。

表8 日本人女性初対面会話における話題選択の下位戦略の各項目の割合

戦略	会話1	会話2	会話3	会話4	会話5	会話6
P1	17.39%	5.41%	9.46%	6.67%	10.34%	14.06%
P2	13.04%	2.70%	1.35%	3.33%	2.30%	1.56%
P3	2.17%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
P4	0.00%	0.00%	0.00%	10.00%	0.00%	1.56%
P5	2.17%	2.70%	0.00%	3.33%	3.45%	4.69%
P6	0.00%	0.00%	0.00%	1.67%	0.00%	3.13%
P7	0.00%	5.41%	1.35%	0.00%	3.45%	1.56%
P8	0.00%	2.70%	0.00%	0.00%	1.15%	1.56%
P9	0.00%	2.70%	14.86%	1.67%	2.30%	3.13%
P10	26.09%	<b>37.84%</b>	<b>35.14%</b>	<b>43.33%</b>	<b>44.83%</b>	<b>45.31%</b>
N1	4.35%	8.11%	2.70%	6.67%	1.15%	3.13%
N2	0.00%	2.70%	4.05%	3.33%	1.15%	1.56%
N3	0.00%	2.70%	5.41%	8.33%	3.45%	1.56%
O1	<b>28.26%</b>	24.32%	24.32%	8.33%	24.14%	15.63%
O2	6.52%	2.70%	1.35%	3.33%	2.30%	1.56%

表8において各会話で一番割合の高い戦略を太字で示している。6会話の中で5会話はP10、Hへの関心を強調せよというポジティブ・ポライトネス・戦略が一番多く現れたことが明らかになった。つまり、日本人女性初対面会話は、ポジティブ・ポライトネス・戦略で話題を導入する傾向がある。それは初対面の相手に対して、相手への関心を持ちながら、身上情報を聞き出すというような形で新しい会話を導入しているのであろう。

さらに、ポジティブ・ポライトネス・ストラテジーP、ネガティブ・ポライトネス・ストラテジーN、オフレコード0というように上位概念でまとめると、以下のような表9の結果となっている。

表9 日本人女性初対面会話における話題選択ストラテジーの各項目の割合

ストラテジー	会話1	会話2	会話3	会話4	会話5	会話6	平均
P	<b>60.87%</b>	<b>59.46%</b>	<b>62.16%</b>	<b>70.00%</b>	<b>67.82%</b>	<b>76.56%</b>	<b>66.14%</b>
N	4.35%	13.51%	12.16%	18.33%	5.75%	6.25%	10.06%
0	34.78%	27.03%	25.68%	11.67%	26.44%	17.19%	23.80%

平均をみると、一番高いのはポジティブ・ポライトネス・ストラテジーPであり、全体の66.14%を占めている。二番目に高いのはオフレコード0であり、23.80%である。残りの10.06%はネガティブ・ポライトネス・ストラテジーNである。つまり、日本人女性初対面会話における話題選択ストラテジーの基本状態はポジティブ・ポライトネス・ストラテジーPは66%であり、オフレコード0は24%であり、ネガティブ・ポライトネス・ストラテジーNは1割程度である。

B&L(1987)では日本語の敬語について、ネガティブ・ポライトネス・ストラテジーNとして取り上げられている。この節では、宇佐美(1998、2001ab、2002など)のDP理論に基づき、談話レベルから話題選択のストラテジーについて分析した結果、日本人女性会話ではネガティブ・ポライトネス・ストラテジーNでなく、ポジティブ・ポライトネス・ストラテジーPとオフレコード0の使用が顕著であることが明らかになった。日本人女性初対面会話の協力者は大学三年生であるため、敬語があまり使われていない。一方、日本人男性初対面会話の協力者は社会人か大学院生であるため、敬語が使われている傾向がある。

次に、日本人男性初対面会話における話題選択ストラテジーを見てみると、以下のような結果となっている。

表10 日本人男性初対面会話における話題選択の下位ストラテジーの各項目の割合

ストラテジー	会話1	会話2	会話3	会話4	会話5	会話6
P1	0.00%	10.53%	6.67%	7.69%	0.00%	0.00%
P2	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
P3	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
P4	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
P5	4.17%	10.53%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
P6	8.33%	5.26%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
P7	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

P8	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	4.35%
P9	8.33%	10.53%	0.00%	7.69%	<b>44.44%</b>	21.74%
P10	4.17%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
N1	0.00%	5.26%	6.67%	11.54%	0.00%	0.00%
N2	4.17%	0.00%	20.00%	7.69%	0.00%	0.00%
N3	<b>58.33%</b>	<b>52.63%</b>	<b>46.67%</b>	<b>50.00%</b>	33.33%	17.39%
O1	12.50%	0.00%	20.00%	15.38%	22.22%	<b>56.52%</b>
O2	0.00%	5.26%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

表 10 において各会話で一番割合の高いストラテジーを太字で示している。6 会話の中で 4 会話は N3、敬意を表せというネガティブ・ポライトネス・ストラテジーが一番多く現れたことが明らかになった。つまり、日本人男性初対面会話は、女性と違ってネガティブ・ポライトネス・ストラテジーで話題を導入する傾向がある。

さらに、ポジティブ・ポライトネス・ストラテジーP、ネガティブ・ポライトネス・ストラテジーN、オフレコード 0 というように上位概念でまとめると、以下のような表 11 の結果となっている。

表 11 日本人男性初対面会話における話題選択ストラテジーの各項目の割合

ストラテジー	会話 1	会話 2	会話 3	会話 4	会話 5	会話 6	平均
P	25.00%	36.84%	6.67%	15.38%	44.44%	26.09%	25.74%
N	<b>62.50%</b>	<b>57.89%</b>	<b>73.33%</b>	<b>69.23%</b>	<b>33.33%</b>	<b>17.39%</b>	<b>52.28%</b>
O	12.50%	5.26%	20.00%	15.38%	22.22%	56.52%	21.98%

平均からみれば、一番高いのはネガティブ・ポライトネス・ストラテジーNであり、全体の 52.28%を占めている。ポジティブ・ポライトネス・ストラテジーP とオフレコード 0 は同じぐらいで、それぞれ 25.74%と 21.98%である。つまり、日本人男性初対面会話における話題選択ストラテジーの基本状態ではネガティブ・ポライトネス・ストラテジーNは 5 割強であり、ポジティブ・ポライトネス・ストラテジーPは 2.5 割程度である。オフレコード 0 は 2 割強である。B&L(1987)で指摘された日本語の敬語というネガティブ・ポライトネス・ストラテジーNは日本人男性初対面会話データで裏付けられたのである。

ただし、日本人女性初対面会話の協力者は全員大学 3 年生である。一方、日本人男性初対面会話の協力者の中で 2 組は 36 歳の社会人であり、4 組は大学院生同士の会話である。そのため日本人男性は女性より社会規範のストラテジーを守っているとは言い切れないのである。したがって、この結果では性別の影響なのか年齢の影響なのか今回のデータだと判断しかねるといえよう。

### 6.3.3 中国人初対面会話における話題選択のストラテジーの結果

まず、6.3.1の分類基準に従い、中国人初対面会話における話題選択ストラテジーを分類し、それから全データの20%を第二評定者(男性、言語学博士)にコーディングしてもらい、評定者間信頼数係数をとったところ、カッパ係数0.78が得られたので分類は妥当なものといえる。

中国人初対面会話における話題選択ストラテジーは女性と男性という2つの部分からなっている。女性の場合は以下のような結果となっている。

表12 中国人女性初対面会話における話題選択の下位ストラテジーの各項目の割合

ストラテジー	会話1	会話2	会話3	会話4	会話5	会話6
P1	<b>38.71%</b>	10.53%	27.59%	24.56%	20.93%	23.08%
P2	0.00%	2.63%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
P3	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
P4	3.23%	0.00%	6.90%	0.00%	4.65%	7.69%
P5	0.00%	2.63%	0.00%	10.53%	2.33%	2.56%
P6	9.68%	5.26%	6.90%	5.26%	4.65%	10.26%
P7	9.68%	18.42%	3.45%	0.00%	0.00%	0.00%
P8	6.45%	2.63%	6.90%	1.75%	0.00%	2.56%
P9	0.00%	2.63%	6.90%	5.26%	11.63%	12.82%
P10	32.26%	<b>42.11%</b>	<b>37.93%</b>	<b>42.11%</b>	<b>34.88%</b>	<b>33.33%</b>
N1	0.00%	2.63%	0.00%	0.00%	6.98%	2.56%
N2	0.00%	2.63%	3.45%	10.53%	11.63%	2.56%
<b>N3</b>	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
O1	0.00%	7.89%	0.00%	0.00%	2.33%	2.56%
<b>O2</b>	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

表12において各会話で一番割合の高いストラテジーを太字で示している。6会話の中で5会話はP10、Hへの関心を強調せよというポジティブ・ポライトネス・ストラテジーが一番多く現れたことが明らかになった。つまり、中国人女性初対面会話は、ポジティブ・ポライトネス・ストラテジーで話題を導入する傾向がある。それは日本人女性初対面会話と同じ傾向である。中日女性会話では初対面の相手に対して、相手への関心を持ちながら、身上情報を聞き出すというような形で新しい会話を導入しているのであろう。ただし、表8と比べると、中国人女性と日本人女性のネガティブ・ポライトネス・ストラテジーN3の違いが明らかになった。日本人女性会話の場合、会話1を除き、5会話に現れてきた。しかし、



中国人女性会話の場合の一つも見当たらない。つまり、話題導入におけるストラテジーでは、中国人女性は敬意を表せという敬語での導入はまったくないということである。また、中国人女性と日本人女性のオフレコード 02 にも異なるのである。日本人女性会話の場合、すべての会話に現れていた。しかし、中国人女性会話の場合の一つも見当たらない。つまり、話題導入におけるストラテジーでは、中国人女性は(相手の非に言及するときなどの)ひとりごとの発話というオフレコードでの導入はまったくないということである。

さらに、ポジティブ・ポライトネス・ストラテジーP、ネガティブ・ポライトネス・ストラテジーN、オフレコード 0 というように上位概念でまとめると、以下のような表 13 の結果となっている。

表 13 中国人女性初対面会話における話題選択ストラテジーの各項目の割合

ストラテジー	会話 1	会話 2	会話 3	会話 4	会話 5	会話 6	平均
P	100.00%	86.84%	96.55%	89.47%	79.07%	92.31%	90.71%
N	0.00%	5.26%	3.45%	10.53%	18.60%	5.13%	7.16%
0	0.00%	7.89%	0.00%	0.00%	2.33%	2.56%	2.13%

平均をみると、一番高いのはポジティブ・ポライトネス・ストラテジーPであり、全体の90.71%を占めている。日本人女性の66%を大幅に上回っている。ネガティブ・ポライトネス・ストラテジーNとオフレコード0はとても少なく、それぞれ7.16%と2.13%である。つまり、中国人女性初対面会話における話題選択ストラテジーの基本状態はポジティブ・ポライトネス・ストラテジーPが9割を占めている。ネガティブ・ポライトネス・ストラテジーNとオフレコード0はほんのわずかである。

次に、中国人男性初対面会話における話題選択ストラテジーを見てみると、以下のような結果となっている。

表 14 中国人男性初対面会話における話題選択の下位ストラテジーの各項目の割合

ストラテジー	会話 1	会話 2	会話 3	会話 4	会話 5	会話 6
P1	18.42%	16.00%	13.79%	39.29%	8.51%	25.71%
P2	0.00%	0.00%	0.00%	3.57%	0.00%	0.00%
P3	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
P4	10.53%	4.00%	6.90%	0.00%	2.13%	8.57%
P5	2.63%	0.00%	0.00%	3.57%	8.51%	2.86%
P6	2.63%	0.00%	0.00%	3.57%	2.13%	5.71%
P7	2.63%	0.00%	0.00%	3.57%	0.00%	5.71%
P8	0.00%	4.00%	0.00%	0.00%	4.26%	0.00%

P9	13.16%	0.00%	6.90%	0.00%	6.38%	0.00%
P10	<b>23.68%</b>	<b>56.00%</b>	<b>58.62%</b>	<b>39.29%</b>	<b>61.70%</b>	<b>28.57%</b>
N1	18.42%	8.00%	3.45%	0.00%	2.13%	0.00%
N2	0.00%	8.00%	6.90%	7.14%	2.13%	22.86%
N3	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
O1	7.89%	4.00%	3.45%	0.00%	2.13%	0.00%
O2	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

表 14 において各会話で一番割合の高いストラテジーを太字で示している。6 会話すべては P10、H への関心を強調せよというポジティブ・ポライトネス・ストラテジーが一番多く現れたことが明らかになった。つまり、中国人男性初対面会話は、女性と同じようにポジティブ・ポライトネス・ストラテジーで話題を導入する傾向がある。つまり、中国人会話では男女を問わず、初対面の相手に対して、相手への関心を持ちながら、身上情報を聞き出すというような形で新しい会話を導入しているのであろう。

ただし、表 10 と比べると、中国人男性と日本人男性のネガティブ・ポライトネス・ストラテジー-N3 の違いが明らかになった。日本人男性会話の場合、すべての会話に現れていた。しかも、4 会話で一番高い割合を占めている。しかし、中国人男性会話の場合一つも見当たらない。つまり、話題導入におけるストラテジーでは、日本人男性は敬意を表せという敬語での導入が一番多く使っているのに対して、中国人男性はまったく使用していないということである。

さらに、ポジティブ・ポライトネス・ストラテジー-P、ネガティブ・ポライトネス・ストラテジー-N、オフレコード 0 というように上位概念でまとめると、以下のような表 15 の結果となっている。

表 15 中国人男性初対面会話における話題選択ストラテジーの各項目の割合

ストラテジー	会話 1	会話 2	会話 3	会話 4	会話 5	会話 6	平均
P	<b>73.68%</b>	<b>80.00%</b>	<b>86.21%</b>	<b>92.86%</b>	<b>93.62%</b>	<b>77.14%</b>	<b>83.92%</b>
N	18.42%	16.00%	10.34%	7.14%	4.26%	22.86%	13.17%
O	7.89%	4.00%	3.45%	0.00%	2.13%	0.00%	2.91%

平均をみると、一番高いのはポジティブ・ポライトネス・ストラテジー-P であり、全体の 83.92% を占めている。中国人女性の 90.71% よりやや低い。二番目に高いのはネガティブ・ポライトネス・ストラテジー-N であり、13.17% である。オフレコード 0 はとても少なく、2.91% に過ぎない。つまり、中国人男性初対面会話における話題選択ストラテジーの基本状態はポジティブ・ポライトネス・ストラテジー-P が 8 割強を占めるというものである。ネガティ

ブ・ポライトネス・ストラテジーNは1割強であり、オフレコード0はほんのわずかである。

まとめてみれば、中国人初対面会話は男女をとわず、話題選択においては、ポジティブ・ポライトネス・ストラテジーPの多用が観察された。母(2001)は中国人会話ではポジティブ・ポライトネス・ストラテジーが使用される傾向があると指摘した。今回の中国人初対面会話データでの結果はそれを裏付けたものである。

#### 6.4 初対面会話における典型的な話題展開パターン

宇佐美(2008b)では「基本状態」には以下の2種類がある。1つは「特定の「活動の型」における談話の「典型的な状態」を指し、「談話の基本状態」と呼ぶ。また、もう1つは「その談話の基本状態を構成する要素としての「特定の言語行動や言語項目それぞれの典型的な状態」を指し、「談話要素の基本状態」と呼ぶ」と指摘した。第四章と第五章は、後者について具体的な数字で示してきた。この章では初対面会話の典型的な話題展開パターンの観点から前者について分析する。

西田(1998)はアンケート調査で日米大学生計393名に初対面の同性の相手と30分間の会話の各時間帯に話す／話さない話題を、91話題項目から選んでもらった。その結果、最初の5分間は日米で共通性が高く、天候、名前、大学、周りの景色、出身地など「表面的な話題」が多く、6～30分の時間帯では、サークル活動、音楽、大学生活、アルバイト、住所など、より「親密な話題」が選択される。質問紙に基づく調査では、ある程度の量的な傾向を把握することができるが、実際の言語行動と意識調査の結果は必ずしも一致するとは限らない。そこで、本研究では、実際の会話データに基づき、その会話の流れを見る。

この節では具体的には日本人女性初対面会話、日本人男性初対面会話、中国人女性初対面会話、中国人男性初対面会話の典型的な話題展開パターンという4つの面から考察する。

##### 6.4.1 日本人初対面会話における典型的な話題展開パターン

###### 6.4.1.1 日本人女性初対面会話における典型的な話題展開パターン

まず、日本人女性初対面会話をみてみよう。各会話について時間軸に沿ってその話題の流れを表16にまとめた。

表16 日本人女性初対面会話における話題の流れ

会話番号	話題の流れ
会話1	あいさつ⇒名前⇒学年⇒学部⇒専攻⇒遅刻の理由⇒会話協力の経緯⇒二外⇒サークル⇒父親の仕事⇒ <b>共通の友人</b> ⇒トルコデー⇒旅行⇒地震当時のこと⇒サークル加入理由⇒余暇の過ごし方⇒トルコ料理⇒トルコ村⇒ベリーダンス⇒ <b>出身</b> ⇒合宿

会話 2	あいさつ⇒名前⇒学校⇒学部⇒学年⇒サークル⇒バイト⇒出身⇒通学⇒友達のこと⇒会話協力の経緯⇒チュートリアル⇒共通の授業⇒文学部の授業⇒教育学部の授業⇒一限の授業⇒出席の取り方⇒試験⇒語学の勉強⇒台湾での短期留学⇒台湾の物価
会話 3	あいさつ⇒名前⇒学部⇒共通の友人⇒学年⇒チュートリアル中国語⇒中国への留学⇒留学期間⇒授業⇒旅行⇒中国語の選択理由⇒中文の授業⇒進路⇒台湾への留学⇒中国語検定⇒ゼミ⇒政経の女子⇒単位⇒簿記⇒秘書検定⇒トイック⇒春休みの過ごし方⇒出身⇒イタリアへの旅行⇒韓国への旅行⇒韓国料理⇒イタリア料理⇒友達のこと⇒地震当時のこと⇒ペット
会話 4	あいさつ⇒名前⇒学部⇒専攻⇒学年⇒会話協力の経緯⇒サークル⇒共通の友人⇒フリーペーパー⇒フラダンスをやめる理由⇒家⇒出身⇒通学⇒買い物⇒方言⇒山梨のフルーツ⇒富士山⇒下北沢⇒知り合いの演劇⇒カフェ⇒カレー屋⇒食事⇒単位⇒ゼミ⇒飲み会
会話 5	名前⇒学部⇒学年⇒専攻⇒会話協力の経緯⇒共通の友人⇒バイト⇒出身(住まい)⇒通学⇒バイト代の使い道⇒留学⇒二外⇒チュートリアル⇒進路⇒大学院⇒結婚後の仕事⇒就活⇒サークル⇒中国語の選択理由⇒海外旅行⇒修学旅行⇒紅葉饅頭⇒ちんすこう⇒健康祭り⇒ダイエット⇒スイパラ⇒トレーニングセンター⇒中国への留学⇒中華料理⇒レストラン⇒ラーメン屋
会話 6	あいさつ⇒学年⇒学部⇒専攻⇒人数⇒共通の友人を捜す⇒弟⇒サークル⇒就活⇒進路⇒英語⇒お勧めの小説⇒留学⇒ホームステイ⇒イギリス人⇒夏の予定⇒二外⇒経済学者⇒合宿⇒バイト⇒塾講⇒大学入試⇒授業⇒チュートリアル⇒留学生⇒中国語の授業⇒SILS⇒着物の着付け⇒茶道⇒カルタ⇒『ちはやふる』

表 16 に示したように、ほぼ全部の会話において、まずあいさつをし、次の段階では「名前、学部、専攻、学年」という話題が選択されている。このように基本的な情報を交換した上で、会話を進めていくのである。また、6 会話中 4 会話で今回の調査に協力してくれた経緯を話していた。その後、共通の友人(5)<sup>44</sup>を捜したりして、相手との心的な距離を縮めようとしている。次に「サークル(5)通学(3)バイト(3)旅行(3)、料理(3)」という日本人大学生の生活に密接な関係がある話題が選択された。また、「二外(3)、中国語(3)、留学(4)、授業(3)、チュートリアル(4)、進路(3)」という日本人大学生の勉強に密接な関係がある話題が選択されたのである。「出身」(5)という話題の出現する位置は会話の最初(会話 2 と 5)、真ん中(会話 3 と 4)、最後(会話 1)というようにばらばらであるが、6 会話中 5 会話に出てきた。

まとめてみれば、日本人女性初対面会話の流れは、まず、あいさつをし、次の段階では「あ

44( ) の中の数字というのは 6 会話中、選択される会話数を表している。以下も同様である。

いさつ、名前、学部、専攻、学年」という個人情報の交換であり、次に今回の調査に協力してくれる経緯を話し、その後、日本人の大学の生活に関わる話題と勉強に関わる話題が選択される傾向がある。日本人女性初対面会話の流れの基本状態はあいさつ ⇒ 「名前、学部、専攻、学年」という個人情報の交換 ⇒ 今回の会話協力の経緯 ⇒ 日本人大学生の生活に関わる話題 + 日本人大学生の勉強に関わる話題 + 出身である。

#### 6.4.1.2 日本人男性初対面会話における典型的な話題展開パターン

次に、日本人男性初対面会話をみてみよう。各会話について時間軸に沿ってその話題の流れを表 17 にまとめた。

表 17 日本人男性初対面会話における話題の流れ

会話番号	話題の流れ
1	あいさつ⇒名前⇒仕事⇒仕事の内容⇒住まい⇒通勤⇒職歴⇒仕事の内容⇒所属⇒出身大学⇒講師の将来⇒非常勤⇒勉強⇒職業⇒人事という仕事⇒キャンパス⇒学生の特徴⇒学生の進路
2	あいさつ⇒名前⇒仕事⇒研究⇒ <u>会話協力の経緯</u> ⇒仕事の内容⇒商品業界⇒マスコミ論⇒ニュース⇒マスコミの信頼性⇒料理⇒賞味期限⇒商品表示法の変化⇒製造日のない食品⇒喫煙者⇒喫煙の場所⇒喫煙の量⇒新居での喫煙⇒大学での喫煙⇒大学の建物⇒夏休み⇒研究室⇒会話終了の確認
3	あいさつ⇒名前⇒ <u>所属</u> ⇒ <u>専攻</u> ⇒授業⇒先生の研究内容⇒先生⇒話者1の通学⇒ <u>専攻</u> ⇒住まい⇒大学所在地⇒話者2の通学⇒実家暮らし⇒出身地⇒話者1の通学⇒下宿⇒通学の経験⇒通学の遠い人の話⇒電車での時間利用法⇒話者の研究内容⇒生成文法の授業⇒生成文法への批判⇒用例の集め方⇒研究方法⇒談話分析⇒文字化の大変さ⇒文字化の方法⇒話し言葉の特徴
4	あいさつ⇒名前⇒ <u>所属</u> ⇒ <u>名前の確認</u> ⇒ <u>会話協力の経緯</u> ⇒授業⇒ <u>専攻</u> ⇒話者1の研究内容⇒話者1の学年⇒研究方法⇒データの収集法⇒話者2の学年⇒話者2の研究内容⇒ゼミの様子⇒先生1の研究方法⇒先生2の名前⇒研究方法の違い⇒研究テーマ⇒研究の流れ⇒知り合い⇒学生の構成⇒1人暮らし⇒通学⇒会話データ収集の大変さ⇒進路⇒先生⇒海外での教育実習
5	あいさつ⇒名前⇒ <u>所属</u> ⇒ <u>名前の確認</u> ⇒先生⇒ <u>専攻</u> ⇒ <u>会話協力の経緯</u> ⇒先生の研究室⇒TOEFL⇒専攻の内容⇒ロボットコンテスト⇒番組の裏事情⇒経歴⇒研究生⇒授業⇒パソコン⇒話者の大学の研究室⇒理系の研究室⇒レポートの作成法⇒地震⇒高専⇒機械分解⇒読書⇒面接

6	あいさつ⇒名前⇒所属⇒名前の確認⇒出身⇒ <u>会話協力の経緯</u> ⇒話者1の専攻⇒先生⇒話者2の専攻⇒研究の内容⇒明代⇒話者1の進路⇒授業⇒話者2の進路⇒NGO⇒単位交換制⇒大学1と大学2の距離⇒大学1の様子⇒講演会⇒文化祭⇒大学2の様子⇒大学1の学食⇒周辺の状況⇒生協⇒実家⇒通学⇒住まい⇒大学の移転⇒移転前の住まい
---	--

日本人男性会話データは宇佐美監修(2013)に収録されているデータを使用したため、同じ日本人男性初対面の会話ではあるが、協力者の属性が異なっている。その会話データの協力者の属性を次の表 18 にまとめた。

表 18 日本人男性初対面会話データの協力者の属性

会話番号	協力者の属性
1	35 歳の男性と 35 歳の男性
2	35 歳の男性と 36 歳の男性
3	大学院生同士
4	大学院生同士
5	大学院生と研究生
6	大学院生同士

会話 1 と会話 2 は 35 歳の社会人の会話であり、会話 3、4、5、6 は大学院生(研究生)の会話である。したがって、まず、会話 1 と会話 2 の共通部分をまとめ、次に会話 3、4、5、6 の共通部分をまとめ、最後に、両方の会話話題展開パターンをまとめることにする。

まず、会話 1 と会話 2 の話題の流れを見てみると、両方ともあいさつをし、名前を話してから、仕事という話題に入る。会話 1 の場合、その後の会話では通勤と住まいという話題以外は全部仕事に関する話題である。会話 2 の場合は会話協力の経緯を話してから、ほとんど仕事関連の話題になる。ただし、話者は二人とも喫煙者であるため、「喫煙者⇒喫煙の場所⇒喫煙の量⇒新居での喫煙⇒大学での喫煙」という一連のたばこに関する話題が出てきた。つまり、日本人男性 35 歳の社会人の初対面会話の流れは、あいさつ⇒名前⇒仕事 +  $\alpha$  ということである。 $\alpha$  には生活に密接する通勤や住まいの話題や共通の話題(たばこ)などが挙げられる。

次に、大学院(研究生)の会話を見てみよう。会話 3、4、5、6 ではほぼ全部の会話において、まずあいさつをし、次の段階では「名前、所属、専攻」という話題が選択されている。このように基本的な情報を交換した上で、会話を進めていくのである。また、4 会話中 3 会話で今回の調査に協力してくれた経緯を話した。会話 4 と 5 はその後、ほとんど勉強に関する話題が選択されている。会話 3 ではその後、「住まい⇒大学所在地⇒話者 2 の通学⇒実家暮らし⇒出身地⇒話者 1 の通学⇒下宿⇒通学の経験⇒通学の遠い人の話⇒電車での時間利用法」というふうに生活に関する話題について話し合っている。次に勉強に関する話題が

選択される。会話6の場合、その後すぐ勉強に関する話題について話している。その次に「大学1と大学2の距離⇒大学1の様子⇒講演会⇒文化祭⇒大学2の様子⇒大学1の学食⇒周辺の状況⇒生協⇒実家⇒通学⇒住まい⇒大学の移転⇒移転前の住まい」というふうに大学に関する話題や「通学、住まい」など大学の生活に関連する話題に触れている。まとめてみると、日本人男性(大学院生)初対面会話の流れの基本状態は、あいさつ⇒「名前、所属、専攻」という個人情報の交換⇒今回の会話協力の経緯 ⇒勉強に関わる話題(メイン)+大学の生活に関わる話題である。日本人男性初対面会話の話者は大学院生(研究生)であるため、日本人女性の会話データと比べると、勉強に関する話題の出現が多くなる傾向がある。

最後に、社会人男性初対面会話と大学院生(研究生)会話の流れをまとめてみると、日本人男性初対面会話の流れの基本状態はあいさつ⇒「名前(所属、専攻)」という個人情報の交換⇒今回の会話協力の経緯⇒勉強や仕事に関わる話題+生活に関わる話題である。

#### 6.4.2 中国人初対面会話における典型的な話題展開パターン

##### 6.4.2.1 中国人女性初対面会話における典型的な話題展開パターン

まず、中国人女性初対面会話をみてみよう。各会話について時間軸に沿ってその話題の流れを表19にまとめた。

表19 中国人女性初対面会話における話題の流れ

会話番号	話題の流れ
会話1	名前⇒専攻⇒学部⇒学年⇒会話時間⇒出身⇒キャンパスバス⇒会話協力の経緯⇒アルバイト⇒実習⇒ルームメイト⇒サークル⇒進路(大学院への進学)⇒人間関係⇒同級生⇒授業⇒試験
会話2	学部⇒学年⇒専攻⇒進路(大学院への進学)⇒大学院の学校の選択⇒親の意見)⇒出身⇒実習⇒英語四・六級試験⇒授業⇒英語の勉強方法
会話3	学部⇒協力の経緯⇒学年⇒専攻⇒実習⇒学年論文⇒授業⇒従妹⇒大学入試⇒出身⇒サークル⇒大学入試の志望校⇒浪人生になった経緯⇒ヘアスタイル⇒出身高校⇒高校生活⇒受験勉強
会話4	学部⇒専攻⇒学年⇒出身⇒同郷会⇒授業⇒実習⇒進路(大学院への進学)⇒コンピュータ試験⇒英語四級試験⇒年齢⇒実家に帰る汽車⇒電話番号の交換⇒名前⇒携帯電話⇒先生⇒ルームメイト⇒姉⇒試験⇒学級委員

会話 5	学部⇒専攻⇒会話協力の経緯⇒共通の知人⇒試験⇒進路(大学院への進学)⇒先輩の大学院への進学⇒女子大学生の人数⇒機械専攻の女子⇒授業⇒カリキュラムへのアドバイス⇒実験⇒電話番号の交換⇒名前⇒出身⇒二級学院(里仁学院)⇒(大学入試で高い点数を取った)同級生⇒試験⇒奨学金
会話 6	会話協力のこと⇒名前⇒出身⇒浪人⇒専攻⇒会計検定試験⇒クラスの数⇒進路⇒学年⇒授業⇒大学院への進学⇒女子大学生の人数⇒退学した同級生⇒貧困学生の選出法⇒学生会⇒サークル⇒会話協力の経緯⇒学部⇒先生⇒出席の取り方⇒学部長⇒学校の政策⇒実習⇒寝室への検査⇒宿舎での盗難事件⇒宿舎での変態事件

表 19 に示したように、最初の段階ではほぼ全部の会話において「学部、学年、専攻、出身」という話題が選択された。このように基本的な情報を交換した上で、会話を進めていくのである。ただし、日本人女性初対面会話と違って、名前を交換したのは会話 4、5、6 であり、全体の半分しかない。しかも、会話 4 と会話 5 では電話番号を交換する際、名前が必要であるために、名前という話題が出てきたのである。あと、日本人女性初対面会話の最初に出てくるあいさつは全く現れなかった。また 6 会話中 4 会話で今回の調査に協力してくれた経緯を話した。さらに、会話を進めるにつれて、互いに興味のある話題について話し合ったが、6 会話中 5 会話に出てくるのは進路という話題である。しかもその進路は全て大学院への進学に関わっている。会話データを収集した 2010 年 2 月までの大学生の就職の比率を調べると、中国人女性大学生の就職率は 61% であり、男性の 73% より 12% ほど低い。その上、中国人女性大学卒業生の給料は平均で毎月 1884 元であり、男性の毎月 2245 元より、毎月 361 元ほど低いのである。中国では就職活動する場合、女性と比べると、男性の方が有利であるという現実がまだ存在しているといえよう。その社会背景のもとで、2010 年の中国女性大学生の大学院への進学率は 50.36% であり、史上初めて、男性を上回る結果となった。中国人女子大学生にとって普通の会社での就職より大学院への進学を選ぶ人が多くなったといえよう。したがって、進路という話題を選択する場合、大学院への進学ということを話し合うのが中国人女性初対面会話では基本状態となっている。そのほかに授業、試験、ルームメート、サークル、アルバイト、実習など大学生活に関係深い話題が選択されたのである。興味深いのは表現のし方は多少違うものの、会話を進めるに従って、互いに親しみを表す言語行動が観察されたことである。会話 1 では人間関係というのは大学は社会と同じように人間関係が複雑であるということである。ベース協力者は伝統的な家庭教育を受けたために、大学まで男性と話したことがあまりない。したがって、大学で男性の先生とどうやって接すればいいのか分からないのである。同級生の中で男性の先生とのコミュニケーションがうまく取れる女の子がいるので、先生に可愛がられている。それをうらやましく思っているという話である。会話 3 ではベース協力者が自己開示をして、普段触れてほしくないであろう浪人した経緯について話した。また、ヘアスタイルという女性同士が親しくなるとよく触れる話題を選んだ。会話 4 と会話 5 は電話番号を交換



することによって、一回きりの会話ではなく、これからも長く付き合う可能性を示している。会話 6 は宿舎での盗難事件や変態事件のような女子が好きな噂話をしていた。

つまり、中国人女性初対面会話の流れでは、最初の段階では「学部、学年、専攻、出身」という個人情報の交換であり、次に今回の調査に協力してくれる経緯を話し、その後、大学生活に関わる話題が選択される傾向がある。さらに、人間関係の悩みや電話番号の交換や噂話など女性同士の親しみを表す話題に触れるのである。中国人女性初対面会話の流れの基本状態は、「学部、学年、専攻、出身」という個人情報の交換 ⇒ 今回の会話協力の経緯 ⇒ 大学生活に関わる話題 + 女性同士の親しみを表す話題である。

#### 6.4.2.2 中国人男性初対面会話における典型的な話題展開パターン

次に、中国人男性初対面会話をみてみよう。各会話について時間軸に沿ってその話題の流れを表 20 にまとめた。

表 20 中国人男性初対面会話における話題の流れ

会話番号	話題の流れ
会話 1	専攻⇒学部⇒授業⇒学年⇒教室⇒西キャンパス⇒自習室(第 5 教棟)⇒先輩の就職先⇒ <b>富士康という会社</b> ⇒クラスの分け方⇒寮⇒食堂⇒アルバイト⇒共通の知り合い⇒実家に帰る頻度⇒国慶節の休み期間⇒国慶節の予定⇒余暇の過ごし方⇒ <b>進路</b> ⇒スポーツ⇒寮の部屋割り⇒ <b>出身</b> ⇒ふるさと⇒同級生の汽車に間に合わなかった経緯⇒天津财经大学
会話 2	会話時間の確認⇒学部⇒ <b>会話協力の経緯</b> ⇒専攻⇒授業⇒学年⇒専攻の下位分類⇒新入生の担当⇒ <b>進路</b> ⇒先輩の大学院進学⇒ <b>中国と米国の教育の差異</b> ⇒成績⇒ルームメイト⇒余暇の過ごし方(ゲーム)⇒今学期の授業の時間割⇒英語の四・六級試験⇒専攻変更
会話 3	<b>会話協力の経緯</b> ⇒学部⇒専攻⇒学年⇒ <b>名前</b> ⇒ <b>出身</b> ⇒ <b>進路</b> ⇒ふるさと⇒大学所在地(秦皇島)⇒ <b>北京の環境問題</b> ⇒ <b>北京の住宅価格</b> ⇒クラスの分け方⇒専攻の下位分類⇒二級学院(里仁学院)⇒授業
会話 4	学年⇒専攻⇒学部⇒ <b>名前</b> ⇒ <b>会話協力の経緯</b> ⇒期末レポート⇒ <b>進路</b> (大学院への進学)⇒大学の過ごし方⇒ <b>政治と歴史</b> ⇒ <b>出身</b> ⇒大学院受験科目⇒食堂⇒ルームメイト⇒寮の設備⇒天気⇒ふるさと⇒方言⇒友達アルバイト⇒学費⇒身分証明書⇒車の免許⇒戸籍⇒国慶節の過ごし方

会話 5	あいさつ⇒名前⇒学部⇒出身⇒ふるさと⇒学年⇒専攻⇒授業⇒寮⇒ルームメイト⇒サークル⇒パソコン⇒成績⇒教室⇒天気⇒スポーツ⇒夏休みの過ごし方⇒妹⇒大学入試⇒二級学院(里仁学院)⇒知り合いの話⇒専攻の人数⇒今の専攻を選んだ経緯⇒進路⇒コンピュータ3級試験⇒英語四級試験⇒天気⇒ホームシック
会話 6	学部⇒出身⇒専攻⇒会話協力の経緯⇒寮⇒会話協力の意義⇒日本の社会保障制度⇒成績⇒余暇の過ごし方⇒キャンパス⇒マナー⇒政治⇒経済⇒進路⇒アメリカの子ども教育の方法⇒酒文化⇒中国の自然災害⇒低炭素社会⇒公務員

表 20 に示したように、会話の最初の段階ではほぼ全部の会話において「学部、学年、専攻、出身」という話題に触れた。このように基本的な情報を交換した上で、会話を進めていくのである。ただし、日本人男性初対面会話と違って、名前を教えあったのは会話 3、4、5 だけであり、全体の半分しかない。また 6 会話中 4 会話は今回の調査に協力してくれた経緯を話した。さらに、会話を進めるにつれて、互いに興味のある話題について話し合ったが、全会話に出てくるのは進路という話題である。協力者は全員大学三年生であるため、後一年間で卒業するという事で、将来への不安を抱えながら、進路について話し合ったのであろう。そのほかに授業、試験、成績、教室、キャンパス、寮、ルームメイト、食堂など大学生活に関係深い話題が選択された。興味深いのは、話題はそれぞれ多少異なるが、大学生活と全く関係のない話が会話 5 以外の会話データに出てきたことである。会話 1 の「富士康という会社」の話というのは、社員が自殺するケースが多くて当時社会問題となっていた話題である。会話 2 の中国と米国の教育の差異というのは中国とアメリカの初等教育や高等教育の違いを話し合っていた。会話 3 では北京の環境問題や住宅価格高騰の話題に触れていた。会話 4 では歴史と政治の関係を議論していた。会話 6 では政治(役人の収賄問題)、経済、アメリカの子ども教育方法、中国の自然災害、低炭素社会などの話題に触れていた。つまり、中国人男性初対面会話の流れは、最初の段階では「学部、学年、専攻、出身」という個人情報の交換である。次に今回の調査に協力してくれた経緯を話し、そのあと大学生活に関わる話題が選択される傾向があった。さらに、政治、経済、社会問題など大学生活に全く関係のない話題にも触れるのである。それは天気と同じようにプライベートに関係のない無難な話題だといえよう。したがって、初対面会話ではそれが相応しい話題だと思われ、中国人男性が選択したのであろう。つまり、中国人男性初対面会話の流れの基本状態は、「学部、学年、専攻、出身」という個人情報の交換 ⇒ 今回の会話協力の経緯 ⇒ 大学生活に関わる話題 + 政治、経済、社会問題など大学生活に全く関係のない話題、というものであった。

以上をまとめてみれば、初対面会話における典型的な話題展開パターンは表 21 に示すとおりである。

表 21 初対面会話における典型的な話題展開パターンの一覧表

	典型的な話題展開パターン(基本状態)
日本人女性 初対面会話	あいさつ ⇒ 「名前、学部、専攻、学年」という個人情報の交換 ⇒ 今回の会話協力の経緯 ⇒ 大学生活に関わる話題 + 大学生の勉強に関わる話題 + 出身
日本人男性 初対面会話	あいさつ ⇒ 「名前(所属、専攻)」という個人情報の交換 ⇒ 今回の会話協力の経緯 ⇒ 勉強や仕事に関わる話題 + 生活に関わる話題
中国人女性 初対面会話	「学部、学年、専攻、出身」という個人情報の交換 ⇒ 今回の会話協力の経緯 ⇒ 大学生活に関わる話題 + 女性同士の親しみを表す話題
中国人男性 初対面会話	「学部、学年、専攻、出身」という個人情報の交換 ⇒ 今回の会話協力の経緯 ⇒ 大学生活に関わる話題 + 政治、経済、社会問題など大学生活に全く関係のない話題

つまり、日本人初対面会話の典型的な話題展開パターンは、あいさつの後、「名前、学部、専攻、学年」という個人情報を交換し、今回の会話協力の経緯を話してから、実質的な会話に入る傾向がある。実質的な会話というと、日本人女性の場合は「大学生活に関わる話題 + 大学生の勉強に関わる話題 + 出身」という話題が選択され、日本人男性の場合は「勉強や仕事に関わる話題 + 生活に関わる話題」が選択されるのである。

一方、中国人初対面会話の典型的な話題展開パターンは、あいさつ抜きで、直接「学部、学年、専攻、出身」という個人情報を交換し、今回の会話協力の経緯を話してから、実質的な会話に入る傾向がある。日本人会話と違って、あいさつ抜きであるだけでなく、名前すら聞かずに会話を進めるのが普通である。実質的な会話というと、中国人女性では「大学生活に関わる話題 + 女性同士の親しみを表す話題」が選択され、中国人男性では「大学生活に関わる話題 + 政治、経済、社会問題など大学生活に全く関係のない話題」が選択される傾向がある。

西田(1998)では「表面的な話題」とは、身上調査的な基本情報であり、「親密な話題」とは、より個人的な話題を指す。本研究の「名前、学部、専攻、学年」という個人情報は「表面的な話題」にあたり、「大学の勉強や仕事に関わる話題」「大学生活に関わる話題」は「親密な話題」にあたるといえよう。そこで、日本人初対面会話の典型的な話題展開パターンはあいさつ→「表面的な話題」→「親密な話題」である。これは実際の会話データで西田(1998)のアンケート調査の結果を証明しているといえよう。

一方、中国人初対面会話の典型的な話題展開パターンはあいさつ抜きに直接に「表面的な話題」に入り、その後、実質的な会話となる。この結果は張(2006)の台湾人大学生の初対面

会話と同じ傾向が見られた。ただし、実質的な会話の内容をみると、中国人女性は「大学生活に関わる話題」という一般的な「親密な話題」のみならず、人間関係の悩みや電話番号の交換や噂話などさらに自己開示の度合いの高い話題が選択される傾向がある。それに対して、中国人男性は「親密な話題」だけでなく、「政治、経済、社会問題など大学生活に全く関係のない話題」が選択される傾向がある。つまり、中国人初対面会話の典型的な話題展開パターンは「表面的な話題」→「親密な話題」 +  $\alpha$ である。

## 6.5 まとめ

本章では初対面会話における話題選択、話題選択の戦略および典型的な話題展開パターンという3つの観点から初対面会話の話題選択についての分析を進めてきた。

まず、6.2.1と6.2.2の分析を踏まえてみると、日本人と中国人女性大学生の初対面会話における話題選択の共通点として以下のものが挙げられる。

- (1) 一番多く選択されるのは大学生活に関する話題というカテゴリである。
- (2) 二番目に多いのは自己紹介である。
- (3) 「進路」「出身」「共通点」という3つの話題カテゴリが選択される傾向がある。
- (4) 「家族」<sup>45</sup>についての話題は選択されない傾向がある。

つまり、中日両方とも初対面会話においては選択される話題カテゴリはおおむね同じであるといえよう。

次に、6.3.2と6.3.3の分析を踏まえてみると、以下のことが明らかになった。日本人女性初対面会話における話題選択の戦略の基本状態はポジティブ・ポライトネス・戦略Pである。一方、日本人男性初対面会話における話題選択の戦略の基本状態はネガティブ・ポライトネス・戦略Nである。中国人初対面会話の場合は男女をとわず、話題選択の戦略の基本状態はポジティブ・ポライトネス・戦略Pである。

日本人女性、中国人女性と男性の協力者は同じ大学三年生であるため、初対面会話における話題選択の戦略の基本状態は同じくポジティブ・ポライトネス・戦略Pである。一方、日本人男性初対面会話の協力者は2組の社会人と4組の大学院生であるため、話題選択の戦略の基本状態はネガティブ・ポライトネス・戦略Nとなっている。つまり、同じ年齢層の協力者の話題選択の戦略に同じような傾向が見られるといえよう。

最後に6.4.1と6.4.2の分析を踏まえてみると、日本人初対面会話の典型的な展開パターンは以下の通りである。

あいさつ ⇒ 「名前、学部、専攻、学年」という個人情報の交換 ⇒ 今回の会話協力の経緯 ⇒ 実質的な会話(大学生活に関わる話題+大学生の勉強に関わる話題+出身)

一方、中国人初対面会話の典型的な展開パターンは次の通りである。

<sup>45</sup> 予備調査では「家族」という話題が出てきたが、本調査では出てこなかったことを説明した。

「名前、学部、専攻、学年」という個人情報の交換 ⇒ 今回の会話協力の経緯 ⇒ 実質的な会話(勉強や仕事に関わる話題 + 生活に関わる話題)

日本人と中国人の初対面会話における典型的な話題選択パターンは最初のあいさつを考えなければ、「名前、学部、専攻、学年」という個人情報の交換 ⇒ 今回の会話協力の経緯 ⇒ 実質的な会話という流れである。

要するに、最初は「名前、学部、専攻、学年」という個人情報を交換し、次に共通する体験に基づき今回の会話協力の経緯という共通の話題を選択し、それから大学生活などという実質的な話題に入る傾向があるといえよう。

言い換えれば、初対面の相手と会話する場合、日中とも最初に個人情報の交換というプロセスを経て探りあいながら会話を進め、次に P1：共通基盤を想定・喚起・主張せよというポジティブ・ポライトネス・ストラテジーを使って心的な距離を縮め、それから大学生活などという実質的な会話に入るという流れである。

## 第七章 話題導入に関する日中対照

第六章では話題の選択と展開について分析した。しかし、「具体的に、どのように話題を導入するのか」という話題の導入についてはまだ触れていない。宇佐美(2002a)ではディスコース・ポライトネスを構成する要素には、言語形式だけではなく、話題導入の頻度なども含むと指摘した。

したがって、本章では、日本人と中国人は話題導入における基本状態を同定するために、それぞれの話題導入の頻度を算出し、さらにどのように話題を導入するのかについて具体的に分析する。宇佐美(1998、2001ab、2002など)のDP理論に基づき、基本状態を同定した後、その離脱する有標行動に注目して、フォローアップアンケートを通して発話効果を探る。

### 7.1 話題導入のコーディングの基準について

量的分析を適応するために、本研究では宇佐美(1998)に倣い、日本人と中国人の会話データを発話文ごとに①挨拶(G)②話題導入(I)③非話題導入(N)という3つのカテゴリーによって分類する。具体的に例1のように話題導入のセルを設けてコーディングする。

例1 話題導入のコーディング例

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容	話題導入
1	1	*	JWB01	初めまして。	G
2	2	*	JWN01	初めましてよろしくお願いします。	G
3	3	*	JWB01	お名前は…。	I
4	4	*	JWN01	「JWN01 姓名」です。	N
5	5	*	JWB01	「JWN01 姓名」, 私は「JWB01 姓名」って言います。	N
6	6	*	JWN01	「JWB01 姓名」さん、<よろしくお願ひします>{<}。	G
7	7	*	JWB01	<お願ひします>{>}。	G
8	8	*	JWB01	何年生ですか。	I
9	9	*	JWN01	三年です。	N
10	10	*	JWB01	あっ、じゃ、ためて、<笑いながら>###で。	I
11	11	*	JWB01	三年、<笑いながら>タメ語で…。	N
12	12	*	JWN01	あ。	N
13	13	*	JWB01	えっ、何学部[↑]。	I
14	14	*	JWN01	教育…。	N
15	15	*	JWB01	教育なんだ、私、政経なんだけど<笑い>。	N

16	16	*	JWN01	あっ。	N
17	17	*	JWB01	何専攻…。	I
18	18	*	JWN01	えっと、こく、国語国文学科で。	N
19	19	*	JWB01	あ、そっか。	N
20	20	*	JWB01	じゃ、知り合いはいないなあ。	I
21	21	*	JWN01	ああ。	N

ただし、次のような場合は話題の導入と関係のある発話文として、以下のようにコーディングする。

- ① 話者 A の質問に対して話者 B が答えたあとで同じような質問をする場合、同じ大話題としてカウントする。ただし、話者 B の質問は小さな話題とみなし、I の形でコーディングする。例：ベース協力者が「サークルとかなにかやってる?。」と聞いて、会話相手はそれに答えた後、「なんかサークル入ってる?[↑]。」とベース協力者に聞き返す場合、同じサークルという大きな話題の下にある小さな話題と認められるため、「I」とコーディングする。
- ② 話者 A の質問→話者 B 回答→他の話題が挿入→話者 B が同じ質問という発話連鎖が出てくる場合、話者 B の質問は話題の回帰(R evolution) とみなし、R で表記する。

それぞれ初対面会話と友人同士会話の話題導入の基本状態を同定するため、さらに話題がどのように導入されるのか分析する必要があると思われる。したがって、話題導入(I)を以下の表1のように下位分類する。仁田(2010)によれば、文の分類には、構造的な分類と、意味的な分類がある。本研究では文のもつ伝達的な機能を重視するために、モダリティの観点から意味的な分類を採用する。表1の定義と例は仁田(2010:16-17)より引用したものである。

表1 話題導入の仕方について

質問文 (Q) Question 典型的には、話し手が疑問を解消するために、聞き手から情報を求める文である。	例：きみは学生ですか。 あの人、どこから来たの。
平叙文 (D) Declarative 判断や情報を話し手から聞き手へ伝達するという機能をもった文である。	例：あの人、代表に選ばれたらしいよ。
感嘆文 (E) Exclamatory 何らかの誘因によって引き起こされる、話し手の驚きや感動を表す文である。独立文が多い。	例：なんてきれいな花なんだろう。 きれい！
行為要求の文 (I) Imperative	例：静かにしろ。(命令) どうぞおかけください。(依頼)

話し手が聞き手に行為の実行を求める文である。命令、依頼、禁止などがある。	そこを動くな！(禁止)
意志文(V) sentences to express volition 話し手が行為を実現する意志を、聞き手に伝えることを特に意図せずに、発した文である。	例：今年こそは留学しよう。
勧誘文(A) sentences to express advice 話し手が行為を遂行することを前提として、聞き手に行為の実現を求める文である。	例：一緒に帰ろう。

一方、中国語の場合は黎志(2003)に従い、「疑問句(質問文 Q)、陈述句(平叙文 D)、感叹句(感嘆文<sup>46</sup>E)、祈使句(命令願望文)」という4つに分類した上で、さらに「祈使句(命令願望文)」を「行為要求の文(I)、意志文(V)、勧誘文(A)」という下位分類にする。つまり、中国語の分類は仁田(2010)と同様とした。コーディングする場合、同じ記号を使うこととした。

また、質問文には「はい」「いいえ」で答えられるY・N疑問文や、不明な情報が含まれていることを表すWH疑問文などいろいろな種類がある。従って、林(2008)(Q1-Q5)を参考にして、質問文を以下の表2のように下位分類する。

表2 質問文への下位分類

質問文(Q) Question	Q1WH 疑問文	地元どこですか。
	Q2Y・N 疑問文	やっぱり物価すごい安いですか。
	Q3 倒置疑問文	好きですか、旅行なんか。
	Q4 中途終了疑問文	お名前は…。
	Q5 選択疑問文	政治か経済かどっちなんですか。
	Q6 自問自答	誰が行った?、行ってないと思う。
	Q7 反問	これって高くない?。

具体的には例2のように、話題導入と認定される文(I)を下位分類のセルで上記の表1と表2の基準でコーディングする。

<sup>46</sup>中国語の感嘆文の判断基準は朱晓亚(1994)にならい、以下のとおりである。

1 特殊な標識のある感嘆文。①程度を表す副詞/指示代名詞+感嘆を中心とする形容詞・動詞構成文、②感嘆詞を含む文、③語気詞を含む文。2 標識のない感嘆文：前後の文脈から判断する。音のトーンが高く語尾が下がったり伸びたりする文など。



## 例2 話題導入文のコーディング

話者	発話内容	話題	下位分類
JWB01	お名前は…。	I	Q4
JWB01	何年生ですか。	I	Q1
JWB01	あっ、じゃ、ためで、〈笑いながら〉###で。	I	A
JWB01	えっ、何学部[↑]。	I	Q1
JWB01	何専攻…。	I	Q4
JWB01	じゃ、知り合いはいないなあ。	I	D
JWB01	2204 ‘にのにまるよん’ だったから、向こうの〈笑いながら〉二号館かな〜と思って。	I	D
JWB01	《沈黙 1 秒》えっ、中国語にいない?[↑]。	I	Q2
JWB01	それで 2 外はなに?。	I	Q1
JWB01	サークルとかなにかやってる?。	I	Q2
JWB01	小美術が好きなんだ。	I	D
JWB01	その、なんかうちお父さんが、博物館〈笑いながら〉で働いてるから。	I	D
JWN01	《沈黙 1 秒》なんかサークル入ってる?[↑]。	R	Q1
JWN01	《少し間》小美術に入ってた友達が入ってるときっと…。	I	D
JWN01	〈あと〉{ } もう一つは?。	R	Q1
JWB01	《沈黙 1 秒》どっか旅行とか好き?[↑]。	I	Q2
JWB01	いつ行った?、〈時期的に〉{ }。	I	Q1
JWN01	〈語学留学に行つてて〉{ }。	I	D
JWB01	《沈黙 1 秒》まあいいな、友達できた[↑]?。	I	Q2
JWB01	うん####、誰か行った?、行ってないと思う。	I	Q6

## 7.2 日本人会話の話題導入の頻度

この節では日本人会話の話題導入の頻度を分析する。7.1 節で紹介した話題導入のルールに従って、日本人会話データを①挨拶 (G) ②話題導入 (I) ③非話題導入 (N) に分類した。その中の 20% は第二評定者(男性、言語学博士)にコーディングしてもらい、評定者間信頼数係数をとったところ、カッパ係数 0.79 が得られたので、分類は妥当なもののみなすことができる。

### 7.2.1 日本人女性会話の話題導入の頻度

まず、日本人女性初対面の会話を見てみよう。全 6 会話の話題(大話題と小話題の合計)を集計し、平均した結果は表 3 の通りである。

表3 日本人女性初対面会話の話題導入の全体的な頻度

話者	G(あいさつ)			I(話題導入)			R(話題回帰)			N(非話題導入)		
	合計	平均	割合	合計	平均	割合	合計	平均	割合	合計	平均	割合
JWB	9	1.50	0.46%	212	35.33	10.92%	9	1.50	0.46%	1711	285.17	88.15%
JWN	9	1.50	0.50%	163	27.17	9.02%	8	1.33	0.44%	1627	271.17	90.04%
平均	9	1.50	0.48%	188	31.25	<b>10.01%</b>	9	1.42	0.45%	1669	278.17	89.06%

日本人女性初対面会話の話題導入(I)の割合は10.01%である。つまり、日本人女性初対面会話話題導入の基本状態は約1割程度である。

次に日本人女性友人同士の会話を見てみよう。全6会話の話題(大話題と小話題の合計)を集計し、平均した結果は表4の通りである。

表4 日本人女性友人同士会話の話題導入の全体的な頻度

話者	G(あいさつ)			I(話題導入)			R(話題回帰)			N(非話題導入)		
	合計	平均	割合	合計	平均	割合	合計	平均	割合	合計	平均	割合
JWB	0	0.00	0.00%	106	17.67	5.93%	11	1.83	0.61%	1672	278.67	93.46%
JWF	0	0.00	0.00%	111	18.50	6.27%	11	1.83	0.62%	1647	274.50	93.10%
平均	0	0.00	0.00%	109	18.09	<b>6.10%</b>	11	1.83	0.62%	1660	276.59	93.28%

日本人女性友人同士会話の話題導入(I)の割合は6.10%である。表3と表4を比べると、以下の結果が得られる。

- ① 日本人女性初対面会話の話題導入頻度(10.01%)は友人同士の会話の話題導入の頻度(6.10%)より高いことが分かった。
- ② 日本人女性友人同士の会話ではあいさつ(G)が出てこなかった。それは友人同士の距離が近いため、あいさつ抜きで気軽に会話を進めていくからである。会話終了後のフォローアップアンケートを調べると、日本人女性友人同士の会話では、あいさつ抜きに会話を始めることに対して不愉快に思っていなかったということである。宇佐美(1998、2001ab、2002)のDP理論からみれば、それはベース協力者と会話相手にとっては許容範囲に納まるため、ニュートラルの発話効果となる。つまり、あいさつ抜きに会話を進めるのが日本人女性友人同士の話題導入の基本状態だといえよう。

日本人女性の話題導入の特徴をみるため、表3と表4の結果を図1に示す。

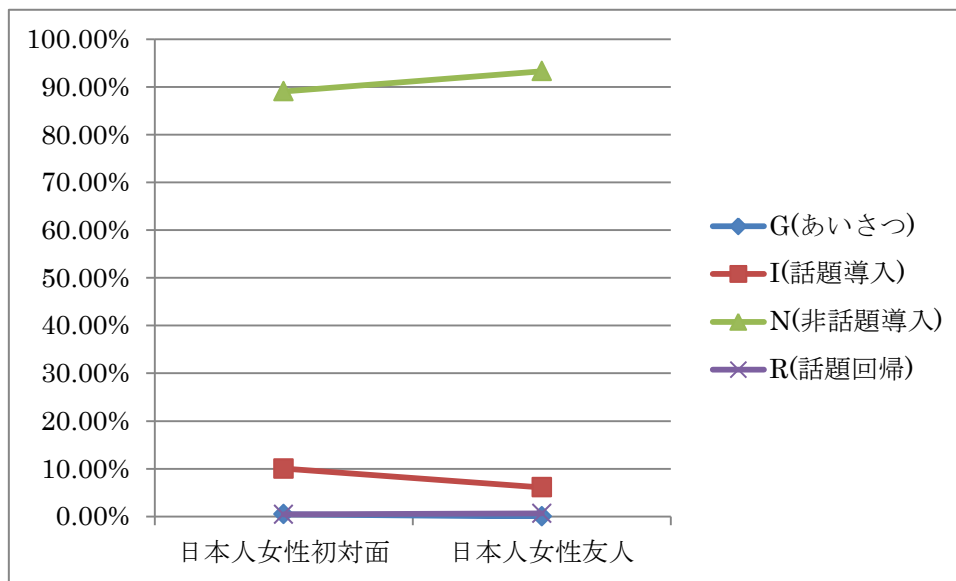


図1 日本人女性話題導入頻度の結果

図1をみると、日本人友人同士会話に比べると、初対面会話の話題導入の頻度が高いことが明らかになった。

さらに、具体的に日本人女性初対面の各会話の話題導入の頻度を見てみよう。集計の結果は表5に示すとおりである。

表5 日本人女性初対面会話の各会話の話題導入の頻度

会話 番号	G(あいさつ)		I(話題導入)		R(話題回帰)		N(非話題導入)	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	4	0.91%	33	7.50%	4	0.91%	399	90.68%
2	4	0.79%	31	6.13%	3	0.59%	468	92.49%
3	6	0.87%	81	11.79%	6	0.87%	594	86.46%
4	2	0.35%	62	10.93%	3	0.53%	500	88.18%
5	0	0.00%	98	11.11%	0	0.00%	784	88.89%
6	2	0.30%	70	10.51%	1	0.15%	593	89.04%
平均	3	0.48%	63	10.01%	3	0.45%	556	89.06%

表5に示したように日本人女性初対面会話の話題導入(I)の頻度の平均値10.01%より少ないのは会話1(7.5%)と会話2(6.13%)だけであった。この2つの会話は日本人初対面会話の話題導入の基本状態から離脱しているといえよう。この2つの会話をよく観察すると、他の会話と比べると発話文数が全体的に少ないことに気付く。文字化された内容を見てみると、沈黙と関係があると考えられる。そこで、日本人初対面会話の沈黙の時間を計算し、

発話文に占める割合を表6にまとめた。

表6 日本人女性初対面会話における沈黙の割合

会話番号	沈黙の時間(秒)	発話文番号	沈黙の割合
1	50	365	13.7%
2	35	469	7.5%
3	0	627	0.0%
4	35	530	6.6%
5	22	788	2.8%
6	34	594	5.7%

表6に示したように、会話1と会話2の沈黙の時間が全発話文に占める割合は他の会話より高いことが分かった。会話時間が同じ20分間の場合、沈黙時間が長いために、発話文数が少なくなり、話題導入の頻度がそれなりに少なくなる結果となったのであろう。会話後のフォローアップアンケートでは沈黙に対して不愉快に思っていなかったため、ニュートラルの発話効果となっているといえよう。その沈黙は日本人初対面会話においては新しい話題を探すストラテジーとして使われていると考えられる。

さらに、日本人女性友人同士の各会話の話題導入の頻度を見てみよう。集計の結果は表7に示すとおりである。

表7 日本人女性友人同士会話の各会話の話題導入の頻度

会話番号	I(話題導入)		R(話題回帰)		N(非話題導入)	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	20	4.67%	8	1.87%	400	93.46%
2	38	6.40%	2	0.34%	554	93.27%
3	43	6.17%	0	0.00%	654	93.83%
4	29	4.75%	7	1.15%	575	94.11%
5	46	6.73%	3	0.44%	635	92.84%
6	41	7.54%	2	0.37%	501	92.10%
平均	36	6.10%	4	0.62%	553	93.28%

表 7 に示したとおり、会話 1 の 4.67%と会話 4 の 4.75%という話題導入の頻度(I)は平均値の 6.10%より低いことが分かった。一方、話題回帰(R)の数値が会話 1 の 1.87%と会話 4 の 1.15%であり、平均値の 0.62%より高いことが観察された。これは話題導入の頻度が低くなったというよりは、むしろ一部分の話題が前の話題に回帰したのだと思われる。

会話 6 の場合は他の会話と違って、話題導入の頻度の 7.54%が平均値の 6.10%よりわずかに高い。例 3 に示したように、ベース協力者 JWB06 の父親が仕事を辞めて、社会人入試でもう一度大学に入り、現在大学一年生であるという特別な家庭の事情があるためである。

### 例 3

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容	話題
26	25	*	JWF06	え,お父さん一年生でしょう。	I
27	26	*	JWB06	一年生だよ<二人で笑い>。	N
28	27	*	JWB06	違う大学だから、後輩じゃないよ<笑い>。	N
29	28	*	JWF06	<笑い>後輩<笑い>。	N

会話相手 JWF06 はベース協力者 JWB06 の父親のことに興味をもっているために、例 4 のライン番号 49 のように、その話題に触れようとしている。一方、ベース協力者 JWB06 は映画の話題(50)という新しい話題を提供することによって、父親の話題を避けようとしている。しかし、会話相手 JWF06 は「え？中国の映画を専攻してるの？」(53)と言って、ベース協力者 JWB06 の父親の専攻の話題に持っていきようとしている。それに対して、ベース協力者 JWB06 は「さい、最初は、韓国史、韓国と日本の古代史をやっていたみたいなんだけど。」(57)と言って自分の父親のことを隠さずに会話相手 JWF06 に話すという自己開示をし始めた。会話相手 JWF06 はさらに「えっ、もともと大学でやってること?。」(59)「あっ、独学で?。」(61)「なんで?。」(63)などの質問を通して、ベース協力者 JWB06 の父親のことについていろいろ聞いた。このようなやり取りがあったために、小話題の数が多くなり、全体の話題導入の数が多くなったと考えられる。その後、ベース協力者 JWB06 は会話相手 JWF06 への自己開示の度合いが深くなり、ライン番号 66 では父親の経歴まで話したのである。そして、会話相手 JWF06 はベース協力者 JWB06 の家計を心配しているようで、「お母さん、働いてるの?。」(74)と聞いた。それに対してベース協力者 JWB06 は会話相手 JWF06 の父親の仕事という新しい話題に変えた。まとめてみれば、ベース協力者 JWB06 が新しい話題を導入するというのは自分の家庭の話題を回避するための戦略だと考えられる。一方、会話相手 JWF06 の質問詰めはベース協力者 JWB06 の家庭のことに興味を示すというポジティブ・ポライトネス・戦略の働きだといえよう。しかし、ベース協力者 JWB06 が回避しようとする話題に興味を持っているため、会話相手 JWF06 はあえてそれに触れようと

している。それはベース協力者 JWB06 の他人に邪魔されたくないというネガティブ・フェイスが侵害される行為だと思われる。しかし、会話後のフォローアップアンケートでは、互いに不愉快に思っていなかったため、それはニュートラルの効果として認められる。つまり、二人が友人同士であるために、会話相手 JWF06 の質問詰めのような発話もベース協力者 JWB06 の許容範囲に納まっていると思われる。

例 4

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容	話題
49	48	*	JWF06	そうか、お父さんなんか、なんかの、なんかの大学の一回生なんだよね。	R
50	49	*	JWB06	映画大好き<笑い>なんだけど。	I
51	50	*	JWB06	さ、最近、中国映画をいっぱい見ているよ、家で。	N
52	51	*	JWF06	え、そうなんだ<笑い>。	N
53	52	*	JWF06	え？中国の映画を専攻してるの？。	I
54	53	*	JWB06	いや、まだ、専攻とかないみたいだけど。	N
55	54	*	JWB06	うーん、東アジアの歴史についての映画を<笑いながら>###。	#
56	55	*	JWF06	<笑いながら>あ、そう、ピンポイントなんだ。	N
57	56	*	JWB06	さい、最初は、韓国史、韓国と日本の古代史をやっていたみたいんだけど。	N
58	57	*	JWF06	ああああ。	N
59	58	*	JWF06	えっ、もともと大学でやってること？。	I
60	59	*	JWB06	いや、ぜんぜん、最近<笑い>。	N
61	60	*	JWF06	あっ、独学で？。	I
62	61	*	JWB06	うーん。	N
63	62	*	JWF06	なんで？。	I
64	63	*	JWB06	大学、哲学学科だもん<笑い>。	N
65	64	*	JWF06	なんと勉強熱心だ。	N
66	65	*	JWB06	いや、なんか経歴豊かなひ、人なので。	I
67	66	*	JWF06	あ、そう、そうなんだ<笑い>。	N
68	67	*	JWB06	最初、こう、こう、高専だしね。	N
69	68	*	JWF06	えー、すごいです、なんか。	N
70	69	*	JWF06	異色の経歴だね。	N

71	70	*	JWB06	異色すぎるよ<二人で笑い>。	N
72	71	*	JWB06	今学生だしく二人で笑い。	N
73	72	*	JWF06	今学生って、なかなかすごいよ。	N
74	73	*	JWF06	お母さん、働いてるの？。	I
75	74	*	JWB06	パートタイム。	N
76	75	*	JWF06	うん、だよ。	N
77	76	*	JWB06	あれ、「JWF06」さんのお父さん、何やってるんだっけ？。	I
78	77	*	JWF06	普通の会社員<笑い>。	N
79	78	*	JWB06	普通の会社員<二人で笑い>。	N
80	79	*	JWF06	ごく普通に働いて。	N

### 7.2.2 日本人男性会話の話題導入の頻度

まず日本人男性初対面会話の話題導入の頻度を分析する。全6会話の話題(大話題と小話題の合計)を集計し、平均した結果は表8の通りである。

表8 日本人男性初対面会話の話題導入の全体的な割合

話者	G(あいさつ)			I(話題導入)			N(非話題導入)			R(話題回帰)		
	合計	平均	割合	合計	平均	割合	合計	平均	割合	合計	平均	割合
JBM	8	1.33	0.80%	88	14.67	8.78%	904	150.67	90.22%	2	0.33	0.20%
JSM	8	1.33	0.84%	103	17.17	10.76%	844	140.67	88.19%	2	0.33	0.21%
平均	8	1.33	0.82%	96	15.92	9.75%	874	145.67	89.23%	2	0.33	0.20%

日本人男性初対面会話の話題導入(I)の割合は9.75%である。あいさつ(G)と話題回帰はそれぞれ0.82%と0.20%にすぎない。日本人男性初対面会話の話題導入の頻度は全体の1割程度である。

次に日本人男性友人同士の会話を分析する。全6会話の話題(大話題と小話題の合計)を集計し、平均した結果は表9の通りである。

表9 日本人男性友人同士会話の話題導入の全体的な割合

話者	G(あいさつ)			I(話題導入)			R(話題回帰)			N(非話題導入)		
	合計	平均	割合	合計	平均	割合	合計	平均	割合	合計	平均	割合
JM01	0	0.00	0.00%	118	19.67	5.84%	8	1.33	0.40%	1895	315.83	93.77%
JM02	0	0.00	0.00%	117	19.50	5.75%	9	1.50	0.44%	1908	318.00	93.81%
平均	0	0.00	0.00%	118	19.59	5.80%	9	1.42	0.41%	1902	316.92	93.79%

つまり、日本人男性友人同士会話の話題導入(I)の割合は 5.80%である。2 つの表を比べると、以下の結果が得られる。

- ① 日本人男性初対面会話の話題導入の頻度(9.75%)は友人同士の会話の話題導入の頻度(5.80%)より高いことが分かった。日本人女性会話と同じような傾向が観察された。
- ② 日本人男性友人同士の会話ではあいさつ(G)が出てこなかった。初対面会話は友人同士の会話と比べると、会話を始めること自体がフェイス侵害度の高い言語行動となる。したがって、よりポライトな発話が必要である。あいさつはその役割を果たしていると考えられる。あいさつ抜きに会話を進めるのが日本人男性友人同士の話題導入の基本状態だといえよう。女性の結果と合わせて考えると、日本人友人会話の基本状態はあいさつ抜きに会話に入るというものである。

日本人男性話題導入の特徴をみるために、表 8 と表 9 の結果を図 2 に示す。

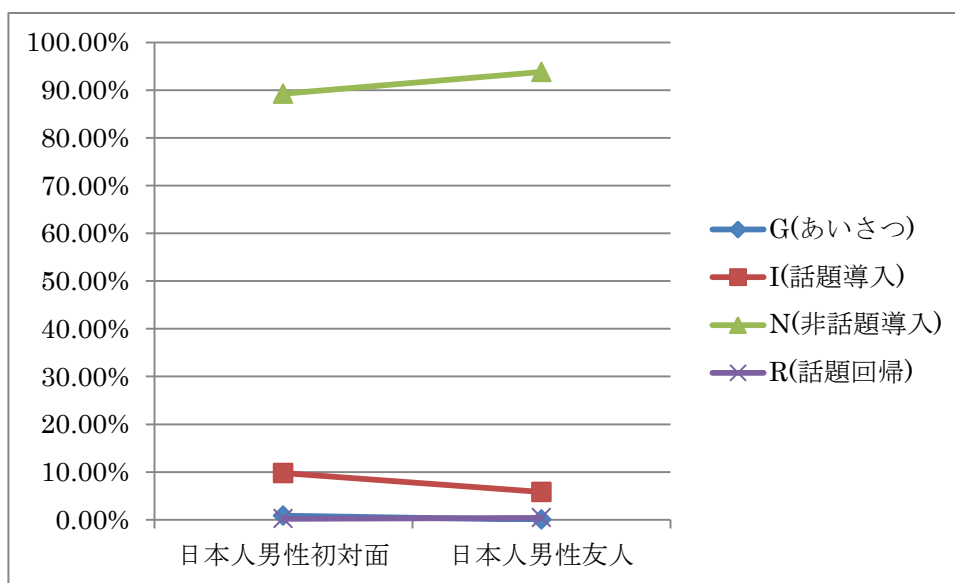


図 2 日本人男性会話の話題導入頻度の基本状態

図 2 をみると、日本人男性友人同士会話に比べると、初対面会話の話題導入の頻度が高いということが明らかになった。図 1 の日本人女性会話の話題導入の頻度の結果を合わせて考えれば、グローバルな観点からみていくと、日本人会話の話題導入の基本状態では、初対面会話の話題導入の頻度は友人同士の会話の話題導入の頻度より高いということである。また、日本人友人同士の会話は初対面会話と違って、あいさつ抜きに会話を進めていくのである。

次に、ローカルな観点から、日本人男性初対面と友人同士の各会話における話題導入の頻度を表 10 と表 11 にまとめた。



表 10 日本人男性初対面各会話における話題導入の頻度

会話番号	G(あいさつ)		I(話題導入)		R(話題回帰)		N(非話題導入)	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	3	0.97%	27	8.74%	0	0.00%	279	90.29%
2	4	1.26%	31	9.78%	0	0.00%	282	88.96%
3	3	1.12%	31	11.61%	3	1.12%	230	86.14%
4	2	0.60%	39	11.64%	0	0.00%	294	87.76%
5	2	0.70%	26	9.12%	0	0.00%	257	90.18%
<b>6</b>	<b>2</b>	<b>0.45%</b>	<b>37</b>	<b>8.30%</b>	<b>1</b>	<b>0.22%</b>	<b>406</b>	<b>91.03%</b>
平均	2.67	0.82%	31.83	9.75%	0.67	0.20%	291.33	89.23%

表 11 日本人男性友人各会話における話題導入の頻度

会話番号	I(話題導入)		R(話題回帰)		N(非話題導入)	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	43	6.72%	1	0.16%	596	93.13%
2	42	5.30%	5	0.63%	745	94.07%
3	30	5.08%	0	0.00%	561	94.92%
4	44	5.54%	6	0.76%	744	93.70%
5	33	5.20%	1	0.16%	601	94.65%
<b>6</b>	<b>43</b>	<b>7.13%</b>	<b>4</b>	<b>0.66%</b>	<b>556</b>	<b>92.21%</b>
平均	39.17	5.80%	2.83	0.41%	633.83	93.79%

表 10 を見てみると、会話 6 の話題導入の頻度は 8.30% であり、一番低いことがわかった。具体的に会話 6 を分析すると、「あいさつ⇒名前⇒所属⇒名前の確認⇒出身⇒会話協力の経緯⇒話者 1 の専攻⇒先生⇒話者 2 の専攻⇒研究の内容⇒明代⇒話者 1 の進路⇒授業⇒話者 2 の進路⇒NGO⇒単位交換制⇒大学 1 と大学 2 の距離⇒大学 1 の様子⇒講演会⇒文化祭⇒大学 2 の様子⇒大学 1 の学食⇒周辺の状況⇒生協⇒実家⇒通学⇒住い⇒大学の移転⇒移転前の住い⇒出身⇒天気⇒クーラー」という流れで会話が進んでいくのである。「専攻、授業、進路、大学の様子、生協」など大学生活に関わる話題がより多く選択されたようである。話者が同じ大学生なので大学生活という共通の話題についてより長く話す傾向があるため、選択された話題の数が他の会話より少ない結果となったのであろう。

一方、日本人男性友人同士の会話の場合、会話 6 の話題導入の頻度は 7.13% であり、平均値の 5.80% を上回る結果となった。具体的に会話 6 を分析すると、例 5 に示したように、二人は話者 JM19 の好きな女の子について話し合っている。話し方が敬語であるため、話者 JM20 は話者 JM19 の好きな人が年上なのかどうか聞いた (92)。次に、自分はバイト先で敬語で会話をするのが一般的である (96-98) という小話題になった。さらに、話者 JM19 がバイ

ト先での地位及び女の子との関係について触れた(99-102)。話者 JM20 は話者 JM19 に対してその子が好きなのかどうか再確認した(103-105)。つまり、例5に示したように、会話6ではこのようにして大話題の下位話題である小話題の数が比較的多いため、全体的に話題導入の頻度が高い結果となったと考えられる。

#### 例5

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容	話題
92	88	*	JM20	なに、その人年上なの？	I
93	89	*	JM19	年下。	N
94	90	*	JM20	年下[予想していない答えが返ってきた感じ]。	N
95	91	*	JM19	1個下かな？、1個下…。	N
96	92	*	JM20	敬語？〈軽い笑い〉。	I
97	93	*	JM19	なんか、バイトで、なんかね、敬語なのね、みんな。	N
98	94	*	JM19	みんなっつか、おれは〈笑い〉〈2人で笑い〉。	N
99	95	*	JM20	新参〈者だかね〉〈〉〈笑いながら〉。	I
100	96	*	JM19	〈新参者〉〈〉だから〈笑いながら〉。	N
101	97	*	JM19	ペーペーだから。	N
102	98	*	JM19	なんか、あの、前言ったけど、なんか、時間がずれてるから、なんか、あんま話すき、時もないからさ(あー)、そんな仲良くないんだよね。	I
103	99	*	JM20	でも、好き？[↓]。	I
104	100	*	JM19	でも、そう、好きだねって〈軽く笑いながら〉。	N
105	101	*	JM20	〈笑い〉。	#

### 7.2.3 日本人初対面会話と友人会話の話題導入の差

#### 7.2.3.1 親疎関係による日本人初対面会話と友人会話の話題導入の差

日本人女性初対面会話と友人同士会話(親疎関係)で話題導入のIに差があるかどうかについてt検定を行ったところ、5%の有意差が見られた( $t=3.79, df=5, p<.05$ )。一方、話題回帰のRに差があるかどうかt検定を行ったところ、有意差は見られなかった( $t=0.70, df=5, p>.05$ )。

日本人男性初対面会話と友人同士会話(親疎関係)で話題導入のIに差があるかどうかについてt検定を行ったところ、5%の有意差が見られた( $t=4.61, df=5, p<.01$ )。一方、話題回帰のRに差があるかどうかt検定を行ったところ、有意差は見られなかった( $t=0.62, df=5, p>.05$ )。

このことから対話者との親疎関係を顕著に反映しているのは、日本人は男女を問わず初対面会話と比べると、友人同士の会話の話題導入の頻度が有意に低いということである。初対面会話は相手への情報がゼロであるために、まず情報交換してから、会話を進めていく傾向がある。一方、友人同士の会話の場合、互いに共通の基盤があるために、最初のあいさつや基本情報の交換は必要ない。直接に会話に入ればいいのである。また、共通基盤があるため話題を展開しやすく、ひとつの話題で会話が長く続けられる、という側面もあるように思われる。したがって、初対面会話の話題導入の頻度が友人同士より高くなるわけである。

### 7.2.3.2 日本人初対面会話と友人会話の話題導入の性差

日本人女性初対面会話と男性初対面会話（性差）で話題導入の I に差があるかどうかについて  $t$  検定を行ったところ、有意差は見られなかった ( $t=0.23, df=5, p.>05$ )。また、話題回帰の R に差があるかどうか  $t$  検定を行ったところ、有意差は見られなかった ( $t=1.53, df=5, p.>05$ )。

同じく日本人女性友人会話と男性友人同士会話（性差）で話題導入の I に差があるかどうかについて  $t$  検定を行ったところ、有意差は見られなかった ( $t=0.38, df=5, p.>05$ )。しかも、話題回帰の R に差があるかどうか  $t$  検定を行ったところ、有意差は見られなかった ( $t=0.99, df=5, p.>05$ )。

つまり、話題導入においては日本人の初対面会話も友人同士会話も男女の性差は見られなかった。

## 7.3 中国人会話の話題導入の頻度

この節では中国人会話の話題導入の頻度を分析する。7.1 節で紹介した話題導入のルールに従って、中国人会話データを①挨拶 (G) ②話題導入 (I) ③非話題導入 (N) に分類した。その中の 20% は第二評定者 (男性、言語学博士) にコーディングしてもらい、評定者間信頼数係数をとったところ、カッパ係数 0.81 が得られたので、分類は妥当なものと思なすことができる。

### 7.3.1 中国人女性会話の話題導入の頻度

まず、中国人女性初対面の会話を見てみよう。全 6 会話の話題 (大話題と小話題の合計) を集計し、平均した結果は表 12 の通りである。

表 12 中国人女性初対面会話の話題導入の全体的な割合

話者	G(あいさつ)			I(話題導入)			N(非話題導入)			R(話題回帰)		
	合計	平均	割合	合計	平均	割合	合計	平均	割合	合計	平均	割合
CWN01	0	0.00	0.00%	170	28.33	11.92%	1246	207.67	87.38%	10	1.67	0.70%

CWB01	0	0.00	0.00%	118	19.67	8.88%	1204	200.67	90.59%	7	1.17	0.53%
平均	0	0.00	0.00%	144	24.00	10.45%	1225	204.17	88.93%	9	1.42	0.62%

中国人女性初対面会話の話題導入(I)の割合は10.45%である。しかも、初対面にもかかわらず、6 会話は全部あいさつ(G)なしに直接に会話に入ったのである。つまり、中国人女性初対面会話の基本状態はあいさつ抜きに会話を進めるものである。また、中国人女性初対面会話の話題導入の頻度は全体の1割程度である。

次に中国人女性友人同士の会話を分析する。全6 会話の話題(大話題と小話題の合計)を集計し、平均した結果は表13の通りである。

表13 中国人女性友人同士会話の話題導入の全体的な割合

話者	G(あいさつ)			I(話題導入)			N(非話題導入)			R(話題回帰)		
	合計	平均	割合	合計	平均	割合	合計	平均	割合	合計	平均	割合
CMB	0	0.00	0.00%	85	14.17	8.84%	868	144.67	90.23%	9	1.50	0.94%
CMF	0	0.00	0.00%	73	12.17	7.93%	837	139.50	90.88%	11	1.83	1.19%
平均	0	0.00	0.00%	79	13.17	8.39%	853	142.09	90.55%	10	1.67	1.06%

中国人女性友人同士会話の話題導入(I)の割合は8.39%である。初対面会話と同じようにあいさつ抜きに会話を始めるのが基本状態だといえよう。さらに、中国人女性初対面と友人会話の話題導入割合の2つの表を比べると、以下の結果が得られる。

- ① 中国人女性友人同士の会話の話題導入(I)の頻度(8.39%)は初対面会話の話題導入(I)の頻度(10.45%)より低いことが分かった。
- ② 中国人女性会話においては初対面と友人同士と両方ともあいさつ(G)が出てこなかった。会話終了後のフォローアップアンケートでは別に不愉快ともなんとも思っていなかったという結果であるため、ニュートラルの発話効果だと判断できる。

中国人女性会話の基本状態は初対面会話の話題導入の頻度が友人同士の会話より高いことである。また、親疎を問わず、あいさつ抜きに会話を進めるのだといえよう。

中国人女性会話の話題導入頻度をみるために、表12と表13の結果を図3に示す。

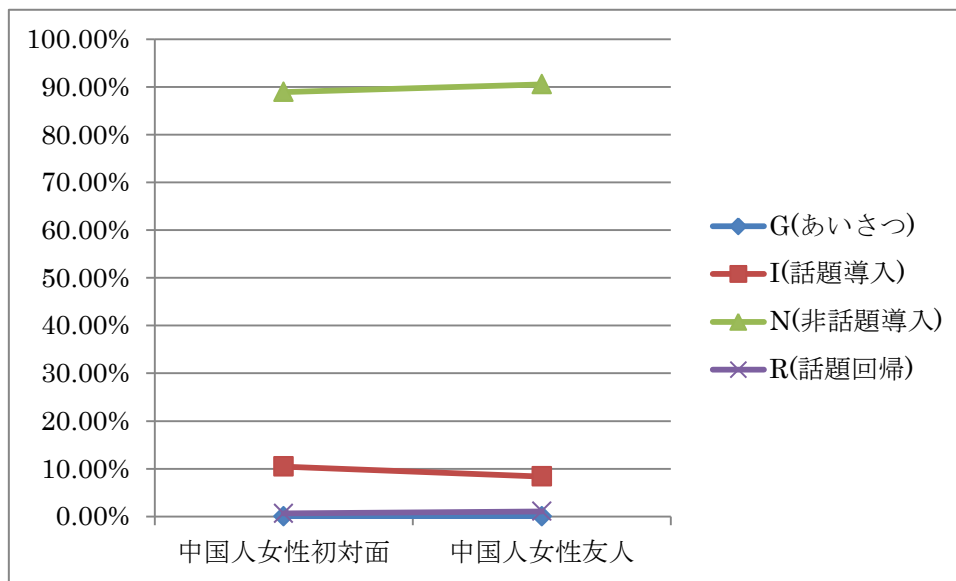


図3 中国人女性同士会話の話題導入頻度の基本状態

図3をみると、中国人友人同士会話に比べると、初対面会話の話題導入の頻度がやや高いことが明らかになった。

さらに、中国人女性初対面の各会話の話題導入の割合を具体的に見てみよう。集計の結果は表14に示すとおりである。

表14 中国人女性初対面会話の各会話の話題導入の割合

会話番号	I(話題導入)		N(非話題導入)		R(話題回帰)	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
会話1	46	10.50%	391	89.27%	1	0.23%
会話2	38	10.00%	340	89.47%	2	0.53%
会話3	32	6.77%	436	92.18%	5	1.06%
会話4	69	<b>15.47%</b>	376	84.30%	1	0.22%
会話5	54	10.34%	460	88.12%	8	1.53%
会話6	49	9.88%	447	90.12%	0	0.00%
平均	48	10.45%	408	88.93%	3	0.62%

中国人女性初対面会話4の話題導入(I)の割合15.47%が飛びぬけて高いことが分かった。会話終了後のフォローアップアンケートを調べた結果、会話4のベース協力者は「说话有时卡壳，还得想接下来要说什么，免得尴尬。(会話中途切れたりした。それを防ぐために、次に何を話したらいいのか考えたりしていた。)」と書かれていた。つまり、会話が途切れないように、どんどん新しい話題を提供し、会話を進めていったのであろう。そのために、

話題導入の頻度が他の会話より高い結果となったのである。

一方、具体的に中国人女性友人同士の各会話の話題導入の割合を見てみよう。集計の結果は表 15 に示すとおりである。

表 15 中国人女性友人同士会話の各会話の話題導入の割合

会話番号	I(話題導入)		N(非話題導入)		R(話題回帰)	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
会話 1	21	8.43%	225	90.36%	3	1.20%
会話 2	27	<b>9.57%</b>	244	86.52%	11	3.90%
会話 3	26	8.55%	273	89.80%	5	1.64%
会話 4	26	7.26%	332	92.74%	0	0.00%
会話 5	22	7.69%	263	91.96%	1	0.35%
会話 6	36	8.91%	368	91.09%	0	0.00%
平均	26	8.39%	284	90.55%	3	1.06%

中国人女性友人会話 4 の話題導入(I)の割合 9.57%が平均値の 8.39%より高いことが分かった。しかも、話者別の話題導入頻度をみると、ベース協力者 CWB04 は 73.08%に対して、会話相手 CWF04 は 26.92%に過ぎない。具体的な話題の内容を見てみると、会話の前半ではベース協力者 CWB04 は三回ほど電子版の小説を読まないで会話に集中しなさいと注意したのである。つまり、会話相手 CWF04 は電子版の小説を読みながら会話をしている様子が伺える。そのために、注意力が落ちて他の会話と違って一つの話題について長く話し合うことができないのである。話が途切れたら、ベース協力者 CWB04 は他の話題に転換するしかないのである。したがって全体の話題導入の頻度が他の会話より高い結果となったと推測できる。

### 7.3.2 中国人男性会話の話題導入の頻度

まず、中国人男性初対面の会話を見てみよう。全 6 会話の話題(大話題と小話題の合計)を集計し、平均した結果は表 16 の通りである。

表 16 中国人男性初対面会話の話題導入の全体的な割合

話者	G(あいさつ)			I(話題導入)			N(非話題導入)			R(話題回帰)		
	合計	平均	割合	合計	平均	割合	合計	平均	割合	合計	平均	割合
CMN	2	0.33	0.17%	183	30.50	14.87%	1042	173.67	84.65%	4	0.67	0.32%
CMB	2	0.33	0.17%	103	17.17	9.44%	979	163.17	89.73%	7	1.17	0.64%
平均	2	0.33	0.17%	143	23.84	<b>12.32%</b>	1011	168.42	87.04%	6	0.92	0.47%

表 16 に示したように、中国人男性初対面会話の話題導入(I)の割合は 12.32%である。中国人女性初対面会話の話題導入(I)の割合の 10.45%よりすこし高いのである。

次に中国人男性友人同士の会話を分析する。全 6 会話の話題(大話題と小話題の合計)を集計し、平均した結果は表 17 の通りである。

表 17 中国人男性友人同士会話の話題導入の全体的な割合

話者	G(あいさつ)			I(話題導入)			N(非話題導入)			R(話題回帰)		
	合計	平均	割合	合計	平均	割合	合計	平均	割合	合計	平均	割合
CMB	0	0.00	0.00%	88	14.67	8.44%	948	158.00	90.89%	7	1.17	0.67%
CMF	0	0.00	0.00%	70	11.67	7.35%	878	146.33	92.13%	5	0.83	0.52%
平均	0	0.00	0.00%	79	13.17	<b>7.92%</b>	913	152.17	91.48%	6	1.00	0.60%

表 17 に示したように、中国人男性友人同士会話の話題導入(I)の割合は 7.92%である。中国人女性友人同士会話の話題導入(I)の割合の 8.39%より少し低いのである。2 つの表を比べると、以下の結果が得られる。

- ① 中国人男性友人同士の会話の話題導入(I)の頻度(7.92%)は初対面会話の話題導入(I)の頻度(12.21%)より低いことが分かった。初対面においては互いに親しくないために、共通の話題が少ないのである。したがって、たえず新しい話題を導入することによって、相手の情報を把握した上で、会話を展開し、進めていくのである。友人同士の会話の場合、互いに共有の知識が多いために、共通する話題が見つかりやすいのであろう。つまり、話題導入というのは相手との心的な距離を縮めるためのストラテジーの一つだと考えられる。
- ② 中国人男性友人同士の会話ではあいさつ(G)が出てこなかった。それは友人同士の心的な距離が近いため、あいさつ抜きで気軽に会話を進めていくからである。それはベース協力者と会話相手にとっては許容範囲以内であるために、別に不愉快ともなとも思われない。それがニュートラルの発話効果であり、中国人男性友人同士の話題導入の基本状態だといえよう。

中国人男性同士会話の話題導入頻度をみるために、表 16 と表 17 の結果を図 4 に示す。

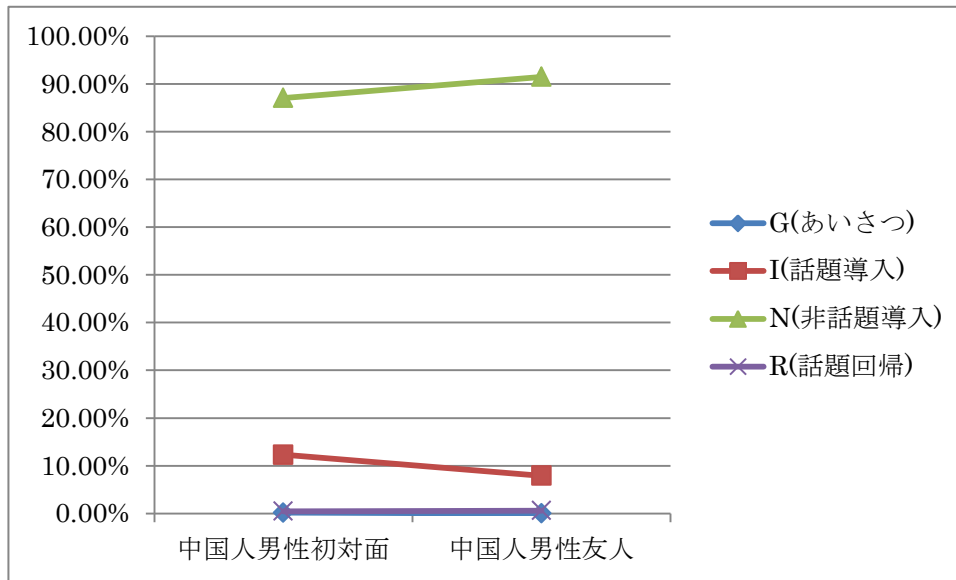


図4 中国人男性同士の話題導入頻度の基本状態

図4をみると、友人同士会話に比べると、中国人男性初対面会話の話題導入頻度が高いことが明らかになった。

グローバルな観点からみれば、女性と男性の結果をまとめると、中国人会話の話題導入の基本状態は日本人と同じような傾向が観察された。つまり、中国人初対面会話の話題導入の頻度は友人同士の会話の話題導入の頻度より高いということである。しかし、中国人初対面会話は日本人と違って、あいさつ抜きに会話を進めていくのが基本状態である。

さらに、ローカルな観点から具体的に中国人男性初対面の各会話の話題導入の割合を見よう。集計の結果は表18に示すとおりである。

表18 中国人男性初対面会話の各会話の話題導入の割合

会話番号	G(あいさつ)		I(話題導入)		N(非話題導入)		R(話題回帰)	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
会話1	0	0.00%	48	12.40%	339	87.60%	0	0.00%
会話2	0	0.00%	38	12.46%	264	86.56%	3	0.98%
会話3	0	0.00%	39	13.40%	250	85.91%	2	0.69%
会話4	0	0.00%	35	11.01%	281	88.36%	2	0.63%
会話5	4	<b>0.65%</b>	74	11.99%	535	86.71%	4	0.65%
会話6	0	0.00%	52	12.87%	352	87.13%	0	0.00%
平均	1	0.17%	47	12.32%	334	87.04%	2	0.47%

表18に示したように、中国人男性初対面会話では会話5だけあいさつ(G)が出てきた。



それ以外のデータにはあいさつ(G)は現れなかった。つまり、中国人男性初対面会話ではあいさつ抜きに直接に会話に入るといのが基本状態だといえよう。会話5であいさつをしてから会話を始めているのは基本状態から離脱する言語行動だと思われる。会話終了後のフォアアップアンケートでは不愉快に思っていないからみれば、その発話はニュートラルの効果をもたらしているといえよう。

一方、日本人男性初対面会話の場合、6 会話全部であいさつが観察された。日本人男性初対面の会話ではまずあいさつしてから会話を進めるのが基本状態だといえよう。それによって中国人と日本人男性の初対面会話における言語の習慣の違いがうかがえる。

次に、中国人男性友人同士会話における各会話の話題導入の頻度を見ると、表 19 に示すとおりであり、かなりのばらつきがある。話題導入(I)の割合が一番多いものでは 11.95%であり、一番少ない会話ではわずか 4.51%に過ぎない。

表 19 中国人男性友人同士会話の各会話の話題導入の割合

会話番号	I(話題導入)		N(非話題導入)		R(話題回帰)	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
会話 1	33	8.73%	343	90.74%	2	0.53%
会話 2	17	4.51%	360	95.49%	0	0.00%
会話 3	30	<b>11.95%</b>	216	86.06%	5	1.99%
会話 4	20	7.07%	263	92.93%	0	0.00%
会話 5	27	6.14%	409	92.95%	4	0.91%
会話 6	31	<b>11.61%</b>	235	88.01%	1	0.37%
平均	26	7.92%	304	91.48%	2	0.60%

話題導入が一番高い会話 3 に関しては、具体的に例 6 を見てみると、最初から話者の二人で話題選択において意見の食い違いが観察された。

例 6

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容	話題
1	1	*	CMB03	开始了, 开始了, 随便说吧, <b>我靠</b> , 快点儿。 (始めよう、始めよう、何でもいから何か話せ、 <b>畜生</b> 、早く!。)	I
2	2	*	CMF03	你说吧, 你。(お前話してよ、お前。)	N
3	3	*	CMB03	不用这么紧张, 不用这么紧张, 随便说, 你就当这个东西没有就行了。(そんなに緊張しなくていい、そんなに緊張しなくていい、なにか話せ、こいつがないと思って。)	N

4	4	*	CMF03	那也行,说你家乡吧。(それもいいが、お前のふるさとについての話しよう。)	N
5	5	*	CMB03	随便说呗。(なんでもいいから話せよ。)	N
6	6	*	CMF03	快点说啊,你别腾‘teng4’。 (早く話せ、ぐずぐずするな。)	N
7	7	*	CMB03	<边笑边说>你别紧张,随便说。 (<笑いながら>緊張しないで、なにか話せよ。)	N
8	8	*	CMB03	说啥呀。(何話そう。)	I
9	9	*	CMF03	说你家乡吧,你家乡咋样啊?。(お前のふるさとの話しよう、お前のふるさと、どうよ?。)	N
10	10	*	CMB03	说书吧,说书吧,这个比较熟悉。 (本の話しよう、本の話、それなら詳しいから。)	I
11	11	*	CMF03	说什么书啊?。 (本の話なんかするもんか。)	N
12	12	*	CMB03	你看过盗墓的盗墓的书呗。(墓を盗掘する、墓を盗掘する本、読んだことあるか。)	N
13	13	*	CMF03	别一说这个了,你就说一下你家乡得了。(この話題はやめよう。お前のふるさとの話を話しよう。)	R
14	14	*	CMB03	我靠,不想说。(畜生、言いたくないよ。)	N
15	15	*	CMF03	说一下吧。(話せよ。)	N
16	16	*	CMB03	家里也没啥说的。(ふるさとなんて何も話すことないよ。)	N
17	17	*	CMF03	你家乡那儿在哪啊,是。(ふるさと、どこ?)	N
18	18	*	CMB03	你,哪个宿舍的?。 (お前、お前どの宿舍に住んでるんだ?)	I
19	19	*	CMF03	你别废话。(無駄な話するなよ。)	N
20	20	*	CMB03	别说家乡了没劲。(ふるさとの話なんてやめよう、つまらないから)	R
21	21	*	CMB03	就说一下成绩吧。(成績のこと、ちょっと話そうか。)	I
22	22	*	CMF03	你别费事了,你看你这个人。(無駄なことをするな、お前ってやつは。)	R
23	23	*	CMB03	非得喜欢说家乡。(俺のふるさとを話すのが好きなのか。)	N
24	24	*	CMF03	别的没事了。(ほかに話すことないよ。)	N

ベース協力者 CMB03 は IC レコーダーをオンにしてから会話相手になにか話すように促した。しかも「我靠(畜生)」という罵り言葉が使われている。それに対して会話相手 CMF03 は自分ではなく、ベース協力者になにか話してほしいという気持ちを伝えた。ベース協力者

は初対面会話を録音した経験があるために、会話相手が緊張感を緩められるように IC レコーダーは無視していいよ(ライン番号 3)とアドバイスした。それを踏まえて、会話相手 CMF03 はベース協力者のふるさとについて話すこと(4)を提案した。しかし、ベース協力者 CMB03 はそれにふれてほしくないようで、その提案を完全に無視した(5)。

一方、会話相手 CMF03 はベース協力者 CMB03 に「早く話せ、ぐずぐずするな。(6)」と促した。ベース協力者 CMB03 は会話相手が緊張していると誤解して依然として「緊張しないで、なにか話せよ。(7)」と言った。それと同時に「何を話そう」と言って新しい話題を探した。

このとき、会話相手はさらにベース協力者のふるさとの話題を持ち出した。しかし、ベース協力者はそれを無視して、本という新しい話題を言い出した。ライン番号 10 から 12 まで本という話題について話してみたが、なかなか展開できず、会話相手はもう一度ベース協力者のふるさとの話題に触れた。

そのとき、ベース協力者の我慢の限界を超えたようで、「畜生、言いたくないよ。」という罵り言葉を使いながら、「ふるさとなんて何も話すことはないよ。」と本音を吐いた。しかしながら、会話相手はベース協力者のふるさとの話題に拘っているようで、さらに「ふるさとはどこ？」とベース協力者のふるさとの話題を展開しようとした。

それに対して、ベース協力者は完全に無視し、「お前どの宿舎に住んでいるんだ？」という新しい話題に変えようとした。しかし、会話相手は「無駄な話するなよ。」と言いながら、ベース協力者のふるさとの話題に戻そうとした。「ふるさとの話なんてやめよう、つまらないから」とベース協力者はさらに話したくない理由を強調した。ベース協力者は「成績のこと、ちょっと話そうか。」という新しい話題を提案したが、「無駄なことをするな、お前つてやつは。」という会話相手の催促によって仕方なく自分のふるさとの話題にもどった。

ベース協力者 CMB03 は相手の提案を無視したり、三回ほど新しい話題に変えたり、罵り言葉を使ったりして自分のふるさとの話題を避けようとした。しかし、すべての工夫が失敗に終わって、最終的にふるさとの話題にもどらざるを得なかった。ベース協力者 CMB03 は会話相手のふるさとという話題の提案に納得できていないことがうかがえる。そのため、非協力的な発話行為が観察された。

会話終了後のフォローアップアンケートでは「意識的にマイナスの話題や相手に不利の話題を避けようとした」とベース協力者が書いていた。ベース協力者は田舎の出身で、ふるさはマイナスの話題だと思っているため、触れてほしくなかったようである。一方、会話相手はベース協力者の他人に触れてほしくないというネガティブ・フェイスを侵害する危険を恐れずに、最後まで自分の意見を通した。それに対してベース協力者は罵り言葉(ライン番号 1 と 14)を使ったり、相手の話を無視したり(ライン番号 10、18、21)していた。会話相手は何回も(ライン番号 6、15、19、22)直接的にベース協力者にふるさとのことを話すように促した。つまり、会話の双方がフェイス侵害度がかなり高い言語行動を使用したといえよう。興味深いのは会話終了後のフォローアップアンケートでは互いに不愉快に思っていなかったことである。宇佐美(1998、2001ab、2002)の DP 理論から考えると、二人

は親友であるために、会話相手はストレートに自分の意見を述べるのが適切だと見積もられる。一方、ベース協力者は親友だからこそ、仲間言葉である罵り言葉を使ったり、相手の話を無視したりすることは相手の許容範囲内だと見積もっている。フォローアップアンケートの結果からみれば、このような非協力的な発話でも互いに許容範囲以内だと判断された場合は、会話全体でニュートラルの発話効果となるといえよう。他人からみれば非常に失礼な発話かもしれないが、話し手と聞き手は親しい関係であるため、「見積もりの差 (De 値)」の「許容できるずれ幅 ( $\pm \alpha$ )」がより広く、不快感をもたらさないことで、ニュートラルの発話効果となったのであろう。

このようにして最初の段階から話題を頻繁に変えたりしたことによって、会話全体の話題の出現数が多くなり、話題導入の割合が高くなったのである。

会話3のほかにも、会話6の話題導入の頻度は11.61%であり、かなり高い結果である。会話終了後のフォローアップアンケートを調べたが、中国人男性友人同士の会話の相手へ感じる親疎関係の判断の結果を次の表20にまとめた。他の会話と違って、会話6だけは相手との関係が最親友や親友ではなく、普通の友達だと判断されていた。したがって、話題導入の頻度は、親友同士の会話と比べると初対面会話寄りとなり、比較的高い結果となったのである。

表20 中国人男性友人同士会話の親疎関係

会話番号	ベース協力者	会話相手
会話1	親友	最親友
会話2	最親友	最親友
会話3	親友	親友
会話4	親友	最親友
会話5	親友	最親友
会話6	いわゆる友達	いわゆる友達

一方、会話2の話題導入頻度は4.51%であり、一番低い。表20に示したように、6会話の中でベース協力者と会話相手の親疎関係からみれば、会話2が一番近いことが分かる。親しくなると、同じ話題について話す時間が長くなり、話題導入の頻度が低くなる傾向があると思われる。したがって、会話2の話題導入の頻度が低くなる結果となったのであろう。つまり、話題導入の頻度はある程度話者の親疎関係を反映しているといえよう。

### 7.3.3 中国人初対面会話と友人会話の話題導入の差

#### 7.3.3.1 親疎関係による中国人初対面会話と友人会話の話題導入の差

中国人女性初対面と友人同士会話（親疎関係）で話題導入のIに差があるかどうかにつ

いて  $t$  検定を行ったところ、有意差は見られなかった ( $t=1.52, df=5, p.>05$ )。そして、話題回帰の R に差があるかどうか  $t$  検定を行ったところ、有意差は見られなかった ( $t=0.92, df=5, p.>05$ )。

さらに、中国人男性初対面と友人同士会話（親疎関係）で話題導入の I に差があるかどうかについて  $t$  検定を行ったところ、5%の有意差が見られた ( $t=3.82, df=5, p.<.05$ )。一方、話題回帰の R に差があるかどうか  $t$  検定を行ったところ、有意差は見られなかった ( $t=0.42, df=5, p.>05$ )。

このことから対話者との親疎関係を顕著に反映しているのは、中国人男性では初対面会話と比べると、友人同士の会話の話題導入の頻度が有意に低いということである。つまり、中国男性友人同士の会話は初対面会話より話題導入が有意に少ないと解釈できる。

### 7.3.3.2 中国人初対面会話と友人会話の話題導入の性差

中国人女性初対面と男性初対面会話（性差）で話題導入の I に差があるかどうかについて  $t$  検定を行ったところ、有意差は見られなかった ( $t=1.27, df=5, p.>05$ )。しかも、話題回帰の R に差があるかどうか  $t$  検定を行ったところ、有意差は見られなかった ( $t=0.50, df=5, p.>05$ )。

中国人女性友人会話と男性友人同士会話（性差）で話題導入の I に差があるかどうかについて  $t$  検定を行ったところ、有意差は見られなかった ( $t=0.05, df=5, p.>05$ )。しかも、話題回帰の R に差があるかどうか  $t$  検定を行ったところ、有意差は見られなかった ( $t=0.79, df=5, p.>05$ )。

つまり、話題導入においては中国人の初対面会話も友人同士会話も男女の性差が見られなかった。

## 7.4 日本人の話題導入の仕方

7.3 の分析からみれば、日本人と中国人会話において話題導入の頻度の共通点は両方とも初対面会話の話題導入の頻度が友人同士より高い傾向がある。初対面会話では互いの情報が少ないため、相手の身上を引き出しながら会話を進める必要がある。一方、友人同士の会話では共通の知識があるため、一つの話題について長く語り合うことができるのである。これを踏まえ、日本人と中国人会話の話題導入の仕方について以下のような仮説を立てることができる。①初対面会話では疑問文で新しい話題を導入する傾向があるのではないか。②一方、友人同士の会話では平叙文で話題を導入する傾向があるのではないか。この仮説を証明するために、実際の会話データに基づき、日本人会話と中国人会話という 2 つの側面から話題導入の仕方について分析する。

まず、この節では日本人会話の話題導入の仕方を分析する。7.1 節で紹介した話題導入の下位分類の基準に従って、日本人の会話では話題導入とコーディングする発話を①疑問文(Q)②平叙文(D)③感嘆文(E)④行為要求の文(I)⑤意志文(V)⑥勧誘文(A)に分類した。その

中の 20%は第二評定者(男性、言語学博士)にコーディングしてもらい、評定者間信頼数係数をとったところ、カッパ係数 0.78 が得られたので、分類は妥当なものともみなすことができる。

#### 7.4.1 日本人初対面会話の話題導入の仕方

まず、日本人初対面の話題導入の仕方について分析する。女性と男性という 2 つの部分からなっている。日本人女性初対面会話の話題導入の結果は以下の通りである。

表 21 日本人女性初対面会話の話題導入の下位分類の結果

導入の仕方	会話 1	会話 2	会話 3	会話 4	会話 5	会話 6
Q1	<b>29.27%</b>	22.58%	16.67%	<b>25.81%</b>	<b>28.57%</b>	12.86%
Q2	14.63%	<b>38.71%</b>	<b>21.21%</b>	<b>25.81%</b>	18.37%	<b>28.57%</b>
Q3	0.00%	0.00%	1.52%	14.52%	3.06%	2.86%
Q4	4.88%	0.00%	9.09%	4.84%	7.14%	5.71%
Q5	0.00%	0.00%	1.52%	0.00%	0.00%	0.00%
Q6	2.44%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
Q7	2.44%	0.00%	3.03%	0.00%	3.06%	4.29%
D	43.90%	38.71%	39.39%	24.19%	34.69%	42.86%
E	0.00%	0.00%	7.58%	4.84%	3.06%	2.86%
I	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
V	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	2.04%	0.00%
A	2.44%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

疑問文で話題導入する場合、その下位分類の 7 つの中で一番割合が高いものを太字で表す。表 21 に示したように、6 会話の中では 3 会話で Q1 という WH 疑問文の割合が高く、6 会話の中の 4 会話で Q2 という Y・N 疑問文の割合が高いということが分かった。WH 疑問文は相手から具体的な答えを引き出す疑問文である。初対面会話では相手への情報を引き出すためのポジティブ・ポライトネス・ストラテジーとして使われている。Y・N 疑問文は自然会話の中で必ずしも非周辺の役割に留まらず、むしろ会話の進行を促進する役割があるといわれている。それもポジティブ・ポライトネス・ストラテジーとして用いられている。

さらに、Q1-Q7 の疑問文をまとめて、6 つの大きな種類に分類した場合、以下のような結果となっている。

表 22 日本人女性初対面会話の話題導入の仕方の結果

導入の仕方	会話 1	会話 2	会話 3	会話 4	会話 5	会話 6	平均
Q	<b>53.66%</b>	<b>61.29%</b>	<b>53.03%</b>	<b>70.97%</b>	<b>60.20%</b>	<b>54.29%</b>	<b>58.91%</b>

D	43.90%	38.71%	39.39%	24.19%	34.69%	42.86%	37.29%
E	0.00%	0.00%	7.58%	4.84%	3.06%	2.86%	3.06%
I	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
V	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	2.04%	0.00%	0.34%
A	2.44%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.41%

平均からみて、疑問文(Q)の割合が一番高く、全体の58.91%を占めている。二番目に高いのは平叙文(D)であり、37.29%である。三番目の感嘆文(E)は3.06%である。意志文(V)と勧誘文(A)はほんのわずかである。つまり、日本人女性初対面会話の話題導入の基本状態は疑問文(Q)であり、全体の6割弱を占めている。次に多い平叙文(D)は4割弱である。

次に、日本人男性初対面会話の話題導入の結果を見てみると、以下の通りである。

表 23 日本人男性初対面会話の話題導入の下位分類の結果

導入の仕方	会話 1	会話 2	会話 3	会話 4	会話 5	会話 6
Q1	<b>18.52%</b>	3.23%	<b>22.58%</b>	15.38%	15.38%	8.11%
Q2	<b>18.52%</b>	<b>29.03%</b>	<b>22.58%</b>	<b>23.08%</b>	<b>23.08%</b>	8.11%
Q3	7.41%	0.00%	0.00%	11.54%	7.69%	13.51%
Q4	3.70%	0.00%	0.00%	11.54%	7.69%	<b>21.62%</b>
Q5	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	3.85%	0.00%
Q6	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
Q7	3.70%	3.23%	6.45%	7.69%	0.00%	0.00%
D	44.44%	54.84%	41.94%	26.92%	42.31%	40.54%
E	3.70%	9.68%	6.45%	0.00%	0.00%	8.11%
I	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
V	0.00%	0.00%	0.00%	3.85%	0.00%	0.00%
A	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

疑問文で話題導入する場合、その下位分類の7つの中で一番割合が高いものを太字で表す。表23に示したように、6会話の中で5会話はQ2というY・N疑問文の割合が高いということが分かった。6会話の中で2会話だけQ1というWH疑問文の割合が高い。残りの1会話はQ4という中途終了型発話の疑問文が一番高いという結果となっている。Y・N疑問文は自然会話の中で必ずしも非周延的な役割に留まらず、むしろ会話の進行を促進する役割があるといわれている。したがって、それはポジティブ・ポライトネス・ストラテジーとして用いられているといえよう。また、初対面会話ではWH疑問文は相手への情報を引き出すためのポジティブ・ポライトネス・ストラテジーとして使われている。一方、中途終了型発話の疑問文は省略して最後まで言わないというオフレコードとして機能しているといえよ

う。

さらに、Q1-Q7の疑問文をまとめて、6つの大きな種類に分類する場合、以下のような結果となっている。

表 24 日本人男性初対面会話の話題導入の仕方の結果

導入の仕方	会話 1	会話 2	会話 3	会話 4	会話 5	会話 6	平均
Q	<b>51.85%</b>	35.48%	<b>51.61%</b>	<b>69.23%</b>	<b>57.69%</b>	<b>51.35%</b>	<b>52.87%</b>
D	44.44%	<b>54.84%</b>	41.94%	26.92%	42.31%	40.54%	41.83%
E	3.70%	9.68%	6.45%	0.00%	0.00%	8.11%	4.66%
I	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
V	0.00%	0.00%	0.00%	3.85%	0.00%	0.00%	0.64%
A	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

平均からみて、女性会話と同じように、疑問文(Q)の割合が一番高く、全体の52.87%を占めている。二番目に高いのは平叙文(D)であり、41.83%である。三番目の感嘆文(E)は4.66%である。意志文(V)はほんのわずかである。つまり、日本人男性初対面会話の話題導入の基本状態は疑問文(Q)であり、全体の5割強を占めている。次の平叙文(D)は4割強である。

表 24 に示したように会話 2 だけ他の会話と違って平叙文(D)の割合が一番高く 54.84%を占めている。それは基本状態から離脱している会話だといえよう。具体的に会話 2 の話題について分析すると、あいさつ⇒名前⇒仕事⇒研究⇒会話協力の経緯⇒仕事の内容⇒商品業界⇒マスコミ論⇒ニュース⇒マスコミの信頼性⇒料理⇒賞味期限⇒商品表示法の変化⇒製造日のない食品⇒喫煙者⇒喫煙の場所⇒喫煙の量⇒新居での喫煙⇒大学での喫煙⇒大学の建物⇒夏休み⇒研究室⇒会話終了の確認というような流れで会話を進めているのである。話者 JSM01 は食品会社に勤めているが、その会社は食品安全問題でマスコミに批判されてしまった。太字で表記する話題は主に話者 JSM01 の仕事に関する話題である。それは相手から質問されるよりむしろ話者 JSM01 が自ら話題を提供し、積極的に自分の会社の潔白を説明しているのである。したがって、この部分の話題の導入においては平叙文の多用が観察された。さらに、その後、話者 JSM01 と会話相手の JBM03 は同じ喫煙者同士という共通の話題が見つかって会話がかなり盛り上がっている。斜体で表した話題はその喫煙に関するものである。共通の話題について二人が話し合う場合、疑問文よりむしろ平叙文で話題を導入することが多い。そこで、全体的にみると、会話 2 は平叙文(D)で話題を導入する割合が高くなる結果となっている。

まとめてみれば、日本人初対面会話は男女を問わず、話題導入の基本状態は疑問文(Q)であり、半分以上を占めている。実際の会話データで、7.4の仮説の日本人初対面会話の部分を裏付けたといえよう。疑問文で相手の情報を引き出すこと自体は相手の他人に邪魔されたくないというネガティブ・フェイスを侵害する発話行為である。しかし、初対面会話に



においては、疑問文での話題導入をしないと会話を進められないであろう。したがって、その FT の行動をとる場合、その疑問文自体は相手への関心を示すポジティブ・ポライトネス・ストラテジーとして使われている。ただし、その疑問文で話題導入の頻度にも適切な程度があるのである。それが初対面会話における話題導入の基本状態である。それを超えると、会話相手に不愉快をもたらす恐れがある。例えば：ずっと疑問文で相手の個人情報を引き出して、警察の訊問のような形になると、相手を不愉快にさせてしまう恐れがある。さらに、年齢、収入、体重などのプライバシーに関わる話題などを聞き出すことは不適切だと判断され、マイナス発話効果になる可能性がある。

#### 7.4.2 日本人友人同士会話の話題導入の仕方

次に、日本人友人同士の話題導入の仕方について分析する。女性と男性という 2 つの部分からなっている。日本人女性友人同士会話の話題導入の結果は以下の通りである。

表 25 日本人女性友人同士会話の話題導入の下位分類の結果

導入の仕方	会話 1	会話 2	会話 3	会話 4	会話 5	会話 6
Q1	4.00%	<b>7.89%</b>	<b>20.93%</b>	16.67%	8.16%	13.95%
Q2	<b>12.00%</b>	<b>7.89%</b>	<b>20.93%</b>	<b>19.44%</b>	<b>16.33%</b>	<b>16.28%</b>
Q3	0.00%	0.00%	6.98%	2.78%	0.00%	2.33%
Q4	0.00%	0.00%	2.33%	0.00%	0.00%	0.00%
Q5	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
Q6	0.00%	0.00%	0.00%	2.78%	0.00%	0.00%
Q7	0.00%	<b>7.89%</b>	6.98%	8.33%	4.08%	0.00%
D	28.00%	63.16%	34.88%	47.22%	67.35%	62.79%
E	56.00%	13.16%	6.98%	2.78%	4.08%	2.33%
I	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
V	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
A	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	2.33%

疑問文で話題導入する場合、その下位分類の 7 つの中で一番割合が高いものを太字で表す。表 25 に示したように、すべての会話において Q2 という Y・N 疑問文の割合が高いということが分かった。Y・N 疑問文は自然会話の中で必ずしも非周辺のな役割に留まらず、むしろ会話の進行を促進する役割があるといわれている。日本人女性友人会話の話題導入では Y・N 疑問文は会話を促進するポジティブ・ポライトネス・ストラテジーとして用いられているといえよう。

さらに、Q1-Q7 の疑問文をまとめて、6 つの大きな種類に分類する場合、以下のような結果となっている。

表 26 日本人女性友人同士会話の話題導入の仕方の結果

導入の仕方	会話 1	会話 2	会話 3	会話 4	会話 5	会話 6	平均
Q	16.00%	23.68%	<b>58.14%</b>	<b>50.00%</b>	28.57%	32.56%	34.83%
D	28.00%	<b>63.16%</b>	34.88%	47.22%	<b>67.35%</b>	<b>62.79%</b>	<b>50.57%</b>
E	<b>56.00%</b>	13.16%	6.98%	2.78%	4.08%	2.33%	14.22%
I	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
V	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
A	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	2.33%	0.39%

平均からみて、平叙文(D)の割合が一番高く、全体の 50.57%を占めている。二番目に高いのは疑問文(Q)であり、34.83%である。三番目の感嘆文(E)は 14.22%である。勧誘文(A)はほんのわずかである。つまり、日本人女性友人会話の話題導入の基本状態は平叙文(D)であり、全体の半分以上を超えている。疑問文(Q)は 3 割強である。

表 26 に示したように会話 3 と会話 4 は他の会話と違って疑問文(Q)の割合が一番高いのである。ただし、会話 4 の場合は疑問文(Q)の割合は 50%であり、平叙文(D)の 47.22%とほぼ同じぐらいである。会話 3 の場合、疑問文(Q)の割合は 58.14%であり、平叙文(D)の 34.88%より 10%以上も高い。それは基本状態から離脱している会話だといえよう。具体的に会話 3 について分析すると、次のような話題が選択された。授業をサボること、発表、アイスランド、地学、物理、ゲーム(モンハン)、公務員試験、進路、区役所の内定、新宿の区役所のこと、公務員宿舎、地震、共通の友人、カラオケ、誕生日プレゼント、日本未来科学館、ギネス、ネイルなどである。その話題の中にはプライベートに関する話題は一つもないようである。フォローアップアンケートを調べると、相手との関係の親密性については、二人とも親友を選んだ。しかし、親友にもかかわらず、ありふれた話題しか選ばれなかった。したがって、話題を導入する場合は、親密な話題と違って疑問文を使う傾向が見られたのである。

次に、日本人男性友人会話の話題導入の結果を見てみると、以下の通りである。

表 27 日本人男性友人会話の話題導入の下位分類の結果

導入の仕方	1	2	3	4	5	6
Q1	4.55%	4.26%	10.00%	6.00%	2.94%	12.77%
Q2	<b>20.45%</b>	<b>19.15%</b>	<b>16.67%</b>	<b>14.00%</b>	<b>11.76%</b>	<b>17.02%</b>
Q3	4.55%	4.26%	6.67%	6.00%	5.88%	4.26%
Q4	0.00%	0.00%	0.00%	4.00%	0.00%	0.00%
Q5	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
Q6	2.27%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

Q7	0.00%	8.51%	10.00%	6.00%	5.88%	2.13%
D	61.36%	48.94%	46.67%	48.00%	64.71%	55.32%
E	0.00%	10.64%	3.33%	12.00%	5.88%	4.26%
I	0.00%	0.00%	0.00%	4.00%	0.00%	0.00%
V	4.55%	2.13%	6.67%	0.00%	2.94%	0.00%
A	2.27%	2.13%	0.00%	0.00%	0.00%	4.26%

疑問文で話題導入する場合、その下位分類の 7 つの中で一番割合が高いものを太字で表す。表 27 に示したように、すべての会話で Q2 という Y・N 疑問文の割合が高いということが分かった。それは日本人女性友人同士会話と同じ傾向がみられた。

まとめると、日本人友人同士会話は男女を問わず、Q2 という Y・N 疑問文で話題を導入する傾向がある。それは自然会話の中で会話の進行を促進するというポジティブ・ポライトネス・ストラテジーとして用いられているといえよう。

さらに、Q1-Q7 の疑問文をまとめて、6 つの大きな種類に分類した場合、以下のような結果となっている。

表 28 日本人男性友人同士会話の話題導入の仕方の結果

導入の仕方	1	2	3	4	5	6	平均
Q	31.82%	36.17%	43.33%	36.00%	26.47%	36.17%	34.99%
D	<b>61.36%</b>	<b>48.94%</b>	<b>46.67%</b>	<b>48.00%</b>	<b>64.71%</b>	<b>55.32%</b>	<b>54.17%</b>
E	0.00%	10.64%	3.33%	12.00%	5.88%	4.26%	6.02%
I	0.00%	0.00%	0.00%	4.00%	0.00%	0.00%	0.67%
V	4.55%	2.13%	6.67%	0.00%	2.94%	0.00%	2.71%
A	2.27%	2.13%	0.00%	0.00%	0.00%	4.26%	1.44%

平均からみて、平叙文(D)の割合が一番高く、全体の 54.17%を占めている。二番目に高いのは疑問文(Q)であり、34.99%である。三番目の感嘆文(E)は 6.02%である。行為要求の文(I)、意志文(V)、勧誘文(A)はほんのわずかである。つまり、日本人男性友人会話の話題導入の基本状態は平叙文(D)であり、全体の半分を超えている。疑問文(Q)は 3 割強である。しかも 6 会話はすべて同じ傾向である。基本状態から離脱するものはないといえよう。

まとめてみれば、日本人友人同士会話の基本状態は男女を問わず、平叙文(D)であり、全体の半分を超えている。それは実際の会話データで 7.4 の仮説の日本人友人会話の部分を裏付けたといえよう。

## 7.5 中国人の話題導入の仕方

この節では中国人会話の話題導入の仕方を分析する。7.1 節で紹介した話題導入の下位分類の基準に従って、中国人の会話では話題導入とコーディングする発話を①疑問文(Q)②平

叙文(D)③感嘆文(E)④行為要求の文(I)⑤意志文(V)⑥勧誘文(A)に分類した。その中の20%は第二評定者(男性、言語学博士)にコーディングしてもらい、評定者間信頼数係数をとったところ、カッパ係数0.80が得られたので、分類は妥当なものといえる。

### 7.5.1 中国人初対面会話の話題導入の仕方

まず、中国人初対面の話題導入の仕方について分析する。女性と男性という2つの部分からなっている。中国人女性初対面会話の話題導入の結果は以下の通りである。

表29 中国人女性初対面会話の話題導入の下位分類の結果

導入の仕方	会話1	会話2	会話3	会話4	会話5	会話6
Q1	<b>14.89%</b>	15.00%	18.92%	<b>22.86%</b>	16.13%	10.20%
Q2	12.77%	<b>30.00%</b>	<b>21.62%</b>	18.57%	<b>27.42%</b>	<b>32.65%</b>
Q3	0.00%	2.50%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
Q4	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
Q5	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
Q6	0.00%	2.50%	0.00%	0.00%	3.23%	0.00%
Q7	0.00%	2.50%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
D	55.32%	45.00%	48.65%	44.29%	41.94%	46.94%
E	14.89%	2.50%	10.81%	11.43%	8.06%	10.20%
I	0.00%	0.00%	0.00%	1.43%	1.61%	0.00%
V	0.00%	0.00%	0.00%	1.43%	0.00%	0.00%
A	2.13%	0.00%	0.00%	0.00%	1.61%	0.00%

疑問文で話題導入する場合、その下位分類の7つの中で一番割合が高いものを太字で表す。表29に示したように、6会話の中の4会話でQ2というY・N疑問文の割合が高い。残りの2会話ではQ1というWH疑問文の割合が高いということが分かった。日本人女性の結果で一番高いのはQ1というWH疑問文であり、二番目に高いのはQ2というY・N疑問文である。

つまり、中国人女性は初対面会話において、WH疑問文は相手から具体的な答えを引き出す疑問文よりむしろ、Y・N疑問文で新しい話題を導入する傾向がある。Y・N疑問文は自然会話の中で必ずしも非周辺の役割に留まらず、むしろ会話の進行を促進する役割があるといわれており、ポジティブ・ポライトネス・ストラテジーとして用いられている。

さらに、Q1-Q7の疑問文をまとめて、6つの大きな種類に分類する場合、以下のような結果となっている。

表 30 中国人女性初対面会話の話題導入の仕方の結果

導入の仕方	会話 1	会話 2	会話 3	会話 4	会話 5	会話 6	平均
Q	27.66%	<b>52.50%</b>	40.54%	41.43%	<b>46.77%</b>	42.86%	41.96%
D	<b>55.32%</b>	45.00%	<b>48.65%</b>	<b>44.29%</b>	41.94%	<b>46.94%</b>	<b>47.02%</b>
E	14.89%	2.50%	10.81%	11.43%	8.06%	10.20%	9.65%
I	0.00%	0.00%	0.00%	1.43%	1.61%	0.00%	0.51%
V	0.00%	0.00%	0.00%	1.43%	0.00%	0.00%	0.24%
A	2.13%	0.00%	0.00%	0.00%	1.61%	0.00%	0.62%

平均からみて、平叙文(D)の割合が一番高く、全体の47.02%を占めている。それは李宇霞(2012)の中国人女性初対面会話の話題導入の結果と同じような傾向である。二番目に高いのは疑問文(Q)であり、41.96%である。三番目の感嘆文(E)は9.65%である。行為要求の文(I)、意志文(V)、勧誘文(A)はほんのわずかである。つまり、中国人女性初対面会話の話題導入の基本状態は平叙文(D)であり、全体の5割弱を占めている。次の疑問文(Q)は4割強であり、感嘆文(E)は1割程度である。

会話2と会話5は基本状態と違い、疑問文(Q)の割合は平叙文(D)より高い結果となっている。それは基本状態から離脱しているといえよう。会話終了後のフォローアップアンケートを調べると、会話2のベース協力者は「録音されていることを意識したか」という質問に対して「少し意識した」と答えた。さらに「話し方にどのように影響したと思うか」に対して「相手の話を聞き漏らす場合がある」との回答であった。一方、会話相手は録音されていることを特に意識しなかったとの答えであった。会話2の導入の仕方の中で疑問文(Q)で導入する話題は21個であり、その中で19個は会話相手の導入である。ベース協力者が疑問文で話題を導入したのはわずか2つしかない。つまり、ベース協力者は会話中録音されることを少し意識したため、会話に集中できていなかったといえる。一方、会話相手は録音されることをまったく意識してないため、自然に話せた。しかし、ベース協力者の聞き漏らしの時間を埋めるために、疑問文で新しい話題を導入しているため、全体の割合が高くなった結果となったのであろう。

また、会話5のベース協力者も「録音されていることを意識したか」という質問に対して「少し意識した」と答えた。さらに「話し方にどのように影響したと思うか」に対して「プライベートのことを心配している。初対面の相手に自分のプライベートに触れてほしくない」との回答であった。一方、会話相手は録音されていることをすこし意識したが、特に影響はなかったとの答えであった。

宇佐美・嶺田(1995)は男女各1名ずつのベースとなる被験者と、同性の「目上・同等・目下」、異性の「目上・同等・目下」に当たる6人の相手との30分間の会話を合計12会話収集し、そのうち有効データである11会話を分析した結果、1)目上が話題を導入して会話をリードする傾向が強く、その導入の仕方は初対面の会話ということもあり、質問形式が多

い、2)すべての会話は「導入部」「展開部」「終結部」で構成される、3)個々の話題の展開は、「質問-応答型」「相互話題導入型」の2通りのタイプに分けられる、という特徴が見られた。目上対目下の会話には「質問-応答型」が多く、弾んだ会話（同性、同等）は「相互話題導入型」が多く見られた。

本研究の中国人女性初対面会話5のベース協力者は自分のプライベートを守る傾向があるため、弾んだ会話の「相互話題導入型」という平叙文(D)で話題を導入するが少なくなつて、その代わりに「質問-応答型」という疑問文で話題導入を導入する割合が高くなつたのであろう。

次に、中国人男性初対面会話の話題導入の結果を見てみると、以下の通りである。

表 31 中国人男性初対面会話の話題導入の下位分類の結果

導入の仕方	会話 1	会話 2	会話 3	会話 4	会話 5	会話 6
Q1	<b>22.92%</b>	19.51%	17.07%	16.22%	<b>23.08%</b>	11.54%
Q2	31.25%	<b>31.71%</b>	<b>26.83%</b>	<b>32.43%</b>	17.95%	<b>25.00%</b>
Q3	0.00%	0.00%	7.32%	0.00%	6.41%	1.92%
Q4	4.17%	0.00%	2.44%	0.00%	0.00%	1.92%
Q5	0.00%	0.00%	4.88%	0.00%	0.00%	0.00%
Q6	4.17%	2.44%	0.00%	0.00%	0.00%	3.85%
Q7	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
D	29.17%	39.02%	24.39%	24.32%	32.05%	40.38%
E	8.33%	7.32%	14.63%	24.32%	20.51%	15.38%
I	0.00%	0.00%	0.00%	2.70%	0.00%	0.00%
V	0.00%	0.00%	2.44%	0.00%	0.00%	0.00%
A	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

疑問文で話題導入する場合、その下位分類の7つの中で一番割合が高いものを太字で表す。表31に示したとおり、6会話の中の4会話でQ2というY・N疑問文の割合が高い。残りの2会話ではQ1というWH疑問文の割合が高いということが分かった。中国人男性初対面の結果は女性と同じように、一番高いのはQ1というWH疑問文であり、二番目に高いのはQ2というY・N疑問文である。

まとめてみれば、中国人は男女を問わず、初対面会話において、WH疑問文の相手から具体的な答えを引き出す疑問文より、むしろY・N疑問文で新しい話題を導入する傾向がある。それは会話の進行を促進するというポジティブ・ポライトネス・ストラテジーとして用いられているといえよう。

さらに、Q1-Q7の疑問文をまとめて、6つの大きな種類に分類した場合、以下のような結果となっている。

表 32 中国人男性初対面会話の話題導入の仕方の結果

導入の仕方	会話 1	会話 2	会話 3	会話 4	会話 5	会話 6	平均
Q	<b>62.50%</b>	<b>53.66%</b>	<b>58.54%</b>	<b>48.65%</b>	<b>47.44%</b>	<b>44.23%</b>	<b>52.50%</b>
D	29.17%	39.02%	24.39%	24.32%	32.05%	40.38%	31.56%
E	8.33%	7.32%	14.63%	24.32%	20.51%	15.38%	15.08%
I	0.00%	0.00%	0.00%	2.70%	0.00%	0.00%	0.45%
V	0.00%	0.00%	2.44%	0.00%	0.00%	0.00%	0.41%
A	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

平均からみて、疑問文(Q)の割合が一番高く、全体の52.50%を占めている。二番目に高いのは平叙文(D)であり、31.56%である。三番目の感嘆文(E)は15.08%である。行為要求の文(I)、意志文(V)はほんのわずかである。つまり、中国人男性初対面会話の話題導入の基本状態は疑問文(Q)であり、全体の5割強を占めている。次の平叙文(D)は、3割強であり、感嘆文(E)は1.5割程度である。しかも6会話全てが同じ傾向である。基本状態から離脱する会話はないといえよう。実際の中国人男性初対面会話データで、7.4の仮説を裏付けたのである。

しかし、中国人女性会話の結果と比べてみると、分布が異なることが分かる。中国人女性初対面会話の話題導入の基本状態は平叙文(D)であり、全体の5割弱を占めている。次の疑問文(Q)は4割強であり、感嘆文(E)は1割程度である。中国人女性初対面会話は7.4の仮説と異なり、平叙文(D)の割合は疑問文(Q)より高い結果となっている。それは宇佐美・嶺田(1995)で言われた弾んだ会話に出てくる「相互話題導入型」がより多く出てきたためであろう。つまり、中国人女性初対面会話は話題導入において、男性よりもっと親密さを表す言語行動がより多く出てきたのだと推測できる。

### 7.5.2 中国人友人同士会話の話題導入の仕方

次に、中国人友人同士の話題導入の仕方について分析する。女性と男性という2つの部分からなっている。中国人女性友人同士会話の話題導入の結果は以下の通りである。

表 33 中国人女性友人同士会話の話題導入の下位分類の結果

導入の仕方	会話 1	会話 2	会話 3	会話 4	会話 5	会話 6
Q1	<b>4.17%</b>	<b>13.16%</b>	<b>6.45%</b>	<b>11.54%</b>	<b>8.70%</b>	<b>11.11%</b>
Q2	<b>4.17%</b>	2.63%	0.00%	<b>11.54%</b>	0.00%	<b>11.11%</b>
Q3	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	2.78%
Q4	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
Q5	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

Q6	<b>4.17%</b>	2.63%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
Q7	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
D	20.83%	18.42%	19.35%	7.69%	13.04%	8.33%
E	66.67%	50.00%	61.29%	65.38%	60.87%	61.11%
I	0.00%	10.53%	12.90%	3.85%	13.04%	5.56%
V	0.00%	2.63%	0.00%	0.00%	4.35%	0.00%
A	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

疑問文で話題導入する場合、その下位分類の 7 つの中で一番割合が高いものを太字で表す。表 33 に示したとおり、6 会話はすべて Q1 という WH 疑問文の割合が高いということが分かった。

さらに、Q1-Q7 の疑問文をまとめて、6 つの大きな種類に分類する場合、以下のような結果となっている。

表 34 中国人女性友人同士会話の話題導入の仕方の結果

導入の仕方	会話 1	会話 2	会話 3	会話 4	会話 5	会話 6	平均
Q	12.50%	18.42%	6.45%	23.08%	8.70%	25.00%	15.69%
D	20.83%	18.42%	19.35%	7.69%	13.04%	8.33%	14.61%
E	<b>66.67%</b>	<b>50.00%</b>	<b>61.29%</b>	<b>65.38%</b>	<b>60.87%</b>	<b>61.11%</b>	<b>60.89%</b>
I	0.00%	10.53%	12.90%	3.85%	13.04%	5.56%	7.65%
V	0.00%	2.63%	0.00%	0.00%	4.35%	0.00%	1.16%
A	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

平均からみて、感嘆文(E)の割合が一番高く、全体の 60.89%を占めている。二番目に高いのは疑問文(Q)であり、15.69%である。三番目の平叙文(D)は 14.61%である。行為要求の文(I)、意志文(V)はほんのわずかである。つまり、中国人女性友人同士会話の話題導入の基本状態は感嘆文(E)であり、全体の 6 割強を占めている。次の疑問文(Q)は、1.5 割強であり、平叙文(D)は 1.5 割程度である。しかも 6 会話全てで同じように一番高いのは感嘆文(E)である。基本状態から離脱する会話は無いといえよう。

次に、中国人男性友人同士会話の話題導入の結果を見てみると、以下の通りである。

表 35 中国人男性友人同士会話の話題導入の下位分類の結果

導入の仕方	会話 1	会話 2	会話 3	会話 4	会話 5	会話 6
Q1	<b>17.14%</b>	17.65%	<b>20.00%</b>	15.00%	0.00%	18.75%
Q2	14.29%	<b>41.18%</b>	5.71%	<b>20.00%</b>	<b>12.90%</b>	<b>25.00%</b>



Q3	0.00%	0.00%	0.00%	10.00%	0.00%	6.25%
Q4	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	3.13%
Q5	5.71%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	3.13%
Q6	0.00%	5.88%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
Q7	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
D	25.71%	29.41%	14.29%	20.00%	12.90%	0.00%
E	31.43%	5.88%	25.71%	35.00%	74.19%	37.50%
I	2.86%	0.00%	20.00%	0.00%	0.00%	0.00%
V	2.86%	0.00%	11.43%	0.00%	0.00%	3.13%
A	0.00%	0.00%	2.86%	0.00%	0.00%	3.13%

疑問文で話題導入する場合、その下位分類の 7 つの中で一番割合が高いものを太字で表す。表 35 に示したとおり、6 会話の中の 4 会話で Q2 という Y・N 疑問文の割合が高い。残りの 2 会話では Q1 という WH 疑問文の割合が高いということが分かった。中国人男性友人同士会話の結果は女性友人同士とは異なるが、男性初対面会話と同じような傾向がみられた。

さらに、Q1-Q7 の疑問文をまとめて、6 つの大きな種類に分類すると、以下のような結果となっている。

表 36 中国人男性友人同士会話の話題導入の仕方の結果

導入の仕方	会話 1	会話 2	会話 3	会話 4	会話 5	会話 6	平均
Q	<b>37.14%</b>	<b>64.71%</b>	<b>25.71%</b>	<b>45.00%</b>	12.90%	<b>56.25%</b>	<b>40.29%</b>
D	25.71%	29.41%	14.29%	20.00%	12.90%	0.00%	17.05%
E	31.43%	5.88%	<b>25.71%</b>	35.00%	<b>74.19%</b>	37.50%	34.95%
I	2.86%	0.00%	20.00%	0.00%	0.00%	0.00%	3.81%
V	2.86%	0.00%	11.43%	0.00%	0.00%	3.13%	2.90%
A	0.00%	0.00%	2.86%	0.00%	0.00%	3.13%	1.00%

平均からみて、疑問文(Q)の割合が一番高く、全体の 40.29%を占めている。二番目に高いのは感嘆文(E)であり、34.95%である。三番目の平叙文(D)は 17.05%である。行為要求の文(I)、意志文(V)、勧誘文(A)はほんのわずかである。つまり、中国人男性友人同士会話の話題導入の基本状態は疑問文(Q)であり、全体の 4 割強を占めている。次の感嘆文(E)は、3.5 割程度であり、平叙文(D)は 1.5 割強である。しかも 6 会話中 5 会話で一番高いのは疑問文(Q)である。会話 5 だけは一番高いのが感嘆文(E)であり、基本状態から離脱しているといえよう。

フォローアップアンケートを調べると、会話 5 のベース協力者は相手との関係を親友と選び、会話相手はベース協力者のことを最も親しい親友と判断している。二人はかなり親

しい友人であることがわかる。さらに、中国人男性友人会話における罵り言葉の使用実態を調べると、同じ 20 分間の会話の中で、罵り言葉の出現回数が最も高いのは会話 5 であった。ここでの罵り言葉は仲間言葉としてポジティブ・ポライトネス・ストラテジーとして使われている。その罵り言葉が他の会話より多用されることで、二人の会話が弾んでいることが窺える。宇佐美・嶺田（1995）で指摘されたように、弾んでいる会話の場合、「質問一応答型」より「相互話題導入型」のほうが多く観察される。したがって、会話 5 の感嘆文(E)による話題導入の割合は疑問文(Q)より高い結果となっている。

表 37 (第五章表 12 の再掲) 中国人男性友人会話における罵り言葉の使用実態

会話番号	出現回数	使用された罵り言葉 (ライン番号)
1	3	我靠 (97), 我操 (183), 屁 (271)
2	2	我靠 (87), 我去 (324)
3	5	我靠 (1), 我靠 (14), 我靠 (96), 我靠 (98), 我去 (221)
4	5	我靠 (3), 我靠 (9), 我靠 (26), 我靠 (35), 我靠 (103)
5	7	我靠 (62), 我靠 (269), 我靠 (309), 我靠 (313), 真操蛋 (337), 我靠 (393), 靠 (438)
6	3	靠 (3), 我靠 (214), 靠 (273)
合計	25	我靠 20, 我去 2, 我操 1, 屁 1, 真操蛋 1

中国人友人会話話題導入の結果は 7.4 の仮説と異なっている。中国人女性友人同士会話の話題導入の基本状態は感嘆文(E)であり、全体の 6 割強を占めている。疑問文(Q)は 1.5 割強であり、平叙文(D)は 1.5 割程度である。一方、中国人男性友人同士会話の話題導入の基本状態は疑問文(Q)であり、全体の 4 割強を占めている。次の感嘆文(E)は、3.5 割程度であり、平叙文(D)は 1.5 割強である。中国人友人同士会話の話題導入で一番多く現れたのは平叙文(D)ではなく、中国人女性の場合は感嘆文(E)であり、男性の場合は疑問文(Q)である。ただし、男性の場合は、疑問文(Q)での話題導入は 40.29%であり、感嘆文(E)の 34.95%との差は 5%程度であるため、大きな違いではないといえよう。

しかし、中国人女性友人会話の話題導入で一番多く出てくる感嘆文(E)は 60.89%であり、二番目の疑問文(Q)の 15.69%を大幅に上回っている。郝雪飞 (2004) では「感叹句最明显的语用特点是: 主要用于口语, 对语境依赖性较强(感嘆文の一番目立つ語用的な特徴は主に話し言葉として使われることで、自然会話で前後の文脈への依存性が非常に高い、筆者訳)」と指摘されている。つまり、感嘆文(E)で話題を導入する場合、前後の文脈との関係を考え

る必要がある。それは宇佐美（1998、2001ab、2002 など）の DP 理論で指摘されたように、話し手だけでなく、聞き手との相互作用を考えた上で分析する必要がある。次の例 7 は中国人女性友人同士の会話である。会話の最初で会話相手は最近気分がよくないため、自分の学部の建物を燃やしたいという話になっている。これは友人同士の会話だからこそ出てくる親密な話題である。友人同士の会話の場合は話し手と聞き手の社会的な距離が近いいため、親密な話題を選ぶことが多い。そこで、感嘆文での話題導入を可能にするのであろう。

#### 例 7

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
1	1	*	CWF01	你知道老大哪一天。 <sup>47</sup> （ボス、分かるでしょ、いつかさ。）
2	2	*	CWB01	啊。（ああ。）
3	3	*	CWF01	看，就是特别烦的地方，我想了一天，一把火把理学楼给烧了。（ほら、とつてもきもいところ、いつかさ、火で理学部の建物を燃やしちやいたい。）
4	4	*	CWB01	你别说这反动的话，啊，同志。（こんな反社会なことを言わないでね、ねえ、友よ。）
5	5	*	CWB01	真是的，你也就想想，我感觉你也不敢，你就是一，人一烦就容易冲动嘛。（まったく、考えるだけで、やる勇氣はないと思うね、あんたはね、気分が悪いとき衝動的になりやすいんだよ。）

また、朱晓亚(1994:127)は「感叹句有两种语用功能：一是传情。二是引起他人注意，期待听话人调整自己的感情，作出相应的反应，即影响听话人感情、态度的功能(感嘆文は二つの語用的な機能がある。一つは感情を表す。もう一つは他人の注意を引きつけ、聞き手に感情を調整し、その場に相応しい反応をしてほしいということを期待している。つまり聞き手の感情や態度に影響を与える機能である、筆者訳)」と指摘した。話し手と聞き手が初対面の場合、このように感嘆文で話題を導入すると、相手の感情をコントロールすることになり、ネガティブ・フェイスを侵害する言語行動になるおそれがある。そのため、日本人女性初対面は感嘆文での話題導入の割合がわずか 3.06%であり、男性初対面の場合は 4.66%である。一方、中国人女性初対面は感嘆文での話題導入の割合が 9.65%であり、男性初対面の場合はやや高く 15.08%である。つまり、日本人と中国人の初対面会話では感嘆文での話題導入の割合がかなり低い。しかし、中国人女性友人同士の会話では、感嘆文での話題

<sup>47</sup> ライン番号 1 を感嘆文とみなす。単なる発話内容だけでなく、音声を含めて判断した。朱晓亚（1994）に従い、前後の文脈を配慮し、話者の話す調子が興奮している様子で、声のトーンが高いため、無標識の感嘆文と判断できる。

導入の割合が一番高く、全体の 6 割強を占めている。会話終了後のフォローアップアンケートを調べた結果、感嘆文での話題導入に対して不愉快に思うというデータは一つもない。つまり、中国人女性友人同士では感嘆文での話題導入が基本状態であり、相手の許容範囲に収まってニュートラル発話効果となっている。これは話し手は積極的に聞き手の感情や態度に影響を与えるというポジティブ・ポライトネス・ストラテジーとして使われていると推測できる。

## 7.6 まとめ

7.3 の分析からみれば、日本人と中国人会話において話題導入の頻度の共通点は両方とも初対面会話の話題導入の頻度が友人同士より高い傾向がある。初対面会話では互いの情報が少ないため、相手の身上情報を引き出しながら会話を進める必要がある。一方、友人同士の会話では共通の知識があるため、一つの話題について長く語り合うことができるのである。

これをふまえ、7.4 節では日本人と中国人会話の話題導入の仕方について以下のような仮説を立てた。①初対面会話では疑問文で新しい話題を導入する傾向があるのではないか。②一方、友人同士の会話では平叙文で話題を導入する傾向があるのではないか。この仮説を証明するために、実際の会話データに基づき、日本人会話と中国人会話という 2 つの側面から話題導入の仕方について分析した。

7.4 と 7.5 の分析をまとめてみれば、日本人初対面会話は男女を問わず、話題導入の基本状態は疑問文(Q)であり、半分以上を占めている。つまり、実際の会話データで、7.4 の仮説の日本人初対面会話の部分を裏付けたといえよう。

一方、中国人男性初対面会話の話題導入の基本状態は疑問文(Q)であり、全体の 5 割強を占めている。次の平叙文(D)は、3 割強であり、感嘆文(E)は 1.5 割程度である。つまり、実際の会話データで、7.4 の仮説の中国人男性初対面会話の部分を裏付けたといえよう。

しかし、中国人女性初対面会話の話題導入の基本状態は平叙文(D)であり、全体の 5 割弱を占めている。次の疑問文(Q)は 4 割強であり、感嘆文(E)は 1 割程度である。それは中国人男性初対面会話と比べると、平叙文(D)の割合が高いことが明らかになった。宇佐美・嶺田(1995)で指摘されたように、弾んでいる会話の場合、「質問一応答型」より「相互話題導入型」のほうが多く観察される。つまり、中国人女性初対面会話は男性より会話が弾んでいることが窺える。

次に友人同士会話を見てみると、日本人の基本状態は男女を問わず、話題導入において一番多く現れるのは平叙文(D)であり、全体の半分を超えている。それは実際の会話データで 7.4 の仮説を裏付けたといえよう。

しかし、中国人女性友人同士会話の話題導入の基本状態は感嘆文(E)であり、全体の 6 割強を占めている。次の疑問文(Q)は、1.5 割強であり、平叙文(D)は 1.5 割程度である。一方、中国人男性友人同士会話の話題導入の基本状態は疑問文(Q)であり、全体の 4 割強を占めて

いる。次の感嘆文(E)は3.5割程度であり、平叙文(D)は1.5割強である。

言い換えれば、日本人会話の場合、初対面と友人同士の双方で仮説と同じ結果が観察された。しかし、中国人会話の場合、男性初対面以外は、仮説と異なる結果となっている。話題導入の仕方における親密さの程度からみれば、中国人男性初対面会話 < 中国人男性友人会話 < 中国人女性初対面会話 < 中国人女性友人会話である。

## 第八章 あいづちに関する日中対照

第六章と第七章では日本人と中国人の選択された話題や話題の導入の仕方を取り上げた。これまでは話し手を中心として分析してきたが、会話は話し手と聞き手の相互作用であり、聞き手の役割も分析する必要がある。そこで、この章では聞き手の分析としてあいづちの頻度や機能について考察する。

### 8.1 あいづち (uh-uhu) について

1980年代から、あいづちに関する研究が盛んに行われるようになってきた。今までの研究で扱われたテーマは、日本語のあいづちの表現形式 (小宮1986、黒崎1987、杉戸1987、堀口1988、松田1988、堀口1997等)、あいづちの機能 (小宮1986、Maynard1986、杉戸1987、1989、黒崎1987、水野1988、松田1988、メイナード1993、ザトラウスキー1993、堀口1997等)、あいづちの頻度 (小宮1986、ザトラウスキー1986、1987、黒崎1987、水谷1988、杉戸1989等)、あいづちのタイミング (黒崎1987、今石1992、杉藤1993、メイナード1993等) など数多く挙げられる。しかし、ポライトネスの観点からの研究はいまだ見当たらないようである。あいづちは円滑なコミュニケーションを維持するために重要な役割を果たしている。それがあって当たり前であり、それがなくなったとして初めてその大切さに気付くような無標ポライトネスの機能を果たしているといえよう。したがって、守られていて当たりの言語行動の基本状態として同定する必要がある。本研究ではそれに注目して、日本人と中国人のそれぞれ初対面会話と友人同士会話のあいづちの基本状態を同定することを目指す。

#### 8.1.1 あいづち (uh-uhu) の定義

まず、あいづちの定義について、堀口(1997)にならい、「あいづちは、話し手が発話権を行使している間に、聞き手が話し手から送られた情報を共有したことを伝える表現」とする。堀口(1997)は、繰り返し、言い換え、先取り発話もあいづちと同様の機能をもつものとして解釈しているが、本研究ではあいづちだけに絞って分析するため、実質的な内容が含まれているものをあいづちとして認めない。

したがって、杉戸(1987)で述べられているように、「実質的な内容を積極的に表現する言語形式を含まず」(p88)と考える。また、メイナード(1993)と同じように、あいづちを「話し手が発話権を行使している間に聞き手が送る短い表現(非言語行動を含む)で、短い表現のうち話し手が順番を譲ったとみなされる反応を示したものは、あいづちとしない」(p58)とする。例1に示すように、ライン番号21と25はあいづちとして認め、コーディングする場合、「u」で表記する。一方、ライン番号23「いいえ、いいえ」という文は否定の意味を表し、あいづちではないと判断するため、「n」で表記する。

例1 あいづちのコーディング例

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容	あいづち
20	20	*	JWB01	じゃ、知り合いはいないなあ。	n
21	21	*	JWN01	ああ。	u
22	22	*	JWB01	私教育心理とかだと、三・四人ぐらい、友達いるんだけど、遅れて<笑いながら>ごめんね。	n
23	23	*	JWN01	いいえ、いいえ。	n
24	24	*	JWB01	2204 ‘にのにまるよん’ だったから、向こうの<笑いながら>二号館かな~と思って。	n
25	25	*	JWN01	ああ。	u
26	26	*	JWB01	反対側からこうぐるって回っていた。	n

本研究では堀口(1997)(1~4)と杉戸(1987)(5)に倣い、あいづちを次のように操作的に定義する。

1. あいづちが出現する位置は、話し手の発話権の中である。
2. あいづちを行使するのは、聞き手である。
3. あいづちの機能は、聞いているということを伝える、分かったということを伝える、話の進行を助けるなどである。
4. あいづちを表す言語形式は短い。
5. あいづちは実質的な内容を積極的に表現する言語形式を含まない(杉戸 1987)。

したがって、宇佐美(2007)「改訂版:基本的な文字化の原則(Basic Transcription System For Japanese : BTSJ)」に従って文字化した日本語の会話資料では、一ラインに「あいづち+実質発話」がある場合、ターンを取る行動として見ることができ、聞き手から話し手へ変わるため、それはあいづちとして認めない。例2に示したように、ライン番号24ではあいづち「はい」の後ろに実質的な発話「ぜんぜん、なんかぼんやりしてて<笑い>。」が出てきたために、コーディングする場合、それはあいづちとして認めず、「n」で表記する。

例2

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容	あいづち
21	21	*	JWB02	《沈黙3秒》え、サークルとか入ってます[↑]。	n
22	22	*	JWN02	サークル入っていないんですよ。	n
23	23	*	JWB02	=あ、そうなんですか。	n

24	24	*	JWN02	はい、ぜんぜん、なんかぼんやりしてて<笑い>。	n
25	25	*	JWB02	いやいやいやいや。	n

また、相手の発話に重なる、短く、特別な意味を持たないあいづちは、音声的にはっきりしていないため、今回の研究対象としない。ライン番号 111 発話の中の「はい」とライン番号 112 発話の中の「(あー)」は JWN03 のあいづちであるが、音声的にはっきりしていないため、コーディングする場合、あいづちとして数えない。

### 例 3

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容	あいづち
111	99	*	JWN03	えっ、どうして中国語、べん、なんか(はい)やろうと思ったんですか、中国に興味あったんですか?。	n
112	100	*	JWB03	そうですね、私いま<笑いながら>中国文学講座なんですけど(あー)、文学部の<笑い>、で、もろなんで、<一応やらなければまずいって言うの>{<}>。	n
113	101	*	JWN03	<おー、そうか>{>}	u

本研究では録音資料を基に分析したため、言語的なあいづちのみを分析の対象とし、うなずきや手振り、身振りや、表情などの非言語行動は分析の対象としない。さらに、宇佐美(1998、2001ab、2002 等)の DP 理論に基づき、聞き手の観点からあいづちを分析するため、実質的な発話は含めずに、「あいづち詞」だけを研究対象とする。

日本語のあいづちの場合、小宮(1986)、黒崎(1987)、杉戸(1987)、堀口(1997)などを参考にして、以下のものをあいづちとコーディングする。

- ① 応答詞：はい、ええ、うん、ああ、はあ。
- ② 感動詞：まあ、えっ、へっ、わー。
- ③ 概念的表現：なるほど、ほんと(う)。
- ④ 応答的な発話：そう、そうか、そっか、そうなんだ、そうだよ、ねー、そうね。
- ⑤ 繰り返し：そうそうそう、なるほどなるほど。



具体的に次の例4に示したようにあいづちのセルを設けてコーディングする。

例4 日本語のあいづちのコーディング例

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容	あいづち
55	54	*	JWN02	ちょっと遠いですけどね。	n
56	55	*	JWB02	うんうん。	u
57	56	*	JWB02	あ、そうか、ええ、どれぐらいかかります?。	n
58	57	*	JWN02	まあ、一時間半から、うーん、なんかだらだらしてたら<笑いながら>2時間ぐらい。	n
59	58	*	JWB02	おー。	u
60	59	*	JWN02	でも頑張れば一時間半では。	n
61	60	*	JWB02	おー。	u
62	61	*	JWB02	一時間半大きいですよ。	n
63	62	*	JWN02	<笑い>電車の乗り換えがなんか、何回かあるとちょっと<面倒くさい>{<}</>。	n
64	63	*	JWB02	<うまくいかないよね>{<}</>。	n

中国語のあいづちの場合、楊晶(1997)、胡蓉(2013)などを参考にして、以下のものをあいづちとコーディングする。

- ① 応答詞：嗯，哦，噢，啊，哎。
- ② 感動詞：哎呀，天哪。
- ③ 概念的表現：对，是，就是，没错，应该是。
- ④ 応答的な発話：是呀，对呀。
- ⑤ 繰り返し：嗯嗯嗯，是是是，就是就是。

具体的に次の例5に示したようにあいづちのセルを設けてコーディングする。

例5 中国語のあいづちのコーディング例

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容	あいづち
1	1	*	CWN01	开始，咱们慢慢聊<笑>。 (始めましょう、私たちはゆっくり話し合ひましょう<笑い>。)	n
2	2	*	CWB01	聊啥啊。(何を話そう。)	n

3	3	*	CWN01	就是聊什么都行,他们说。(何でもいって彼らは言 ってました。)	n
4	4	*	CWN01	你叫什么呀?。(お名前はなんと言いますか。)	n
5	5	*	CWB01	我叫「CWB01」。(私は「CWB01」といいます。)	n
6	6	*	CWN01	<b>哦。(おー。)</b>	<b>u</b>
7	7	*	CWN01	我叫「CWN01」。(私は「CWN01」といいます。)	n
8	8	*	CWB01	<「CWN01」?><>。(「CWN01」ですか?><>。)	n
9	9	*	CWN01	<啊><>,「CWN01」。(「ええ」<>,「CWN01」です。)	n
10	10	*	CWB01	<b>哦。(おー。)</b>	<b>u</b>
11	11	*	CWN01	名字好记吧,「包含 CWN01 名字的成语」的那两字,就是 那两字。(私の名前は覚えやすいでしょう、「CWN01」の 名前を含めた四字熟語で、その2つの文字です。)	n
12	12	*	CWB01	我是,反正,我感觉我的名到日本直接拆开,「CWB01 的 名字分解后的汉字」就行了。(私はね、どうせ日本に 行ったら、そのまま漢字を分解すれば名前として使え るんです。)	n
13	13	*	CWN01	<笑>。(「笑い」。)	#

## 8.1.2 あいづちの分類

### 8.1.2.1 日本語のあいづちの分類

さらに、言語形式の観点から、日本語会話データに出てくるあいづちとコーディングするセルを下位分類する。小宮(1986)では「ハイ」「エー」「ン」「ヘー」「イーヤ」などのように感声的で概念を指さない表現を「感性的表現」としている。一方、「ホント」「ナルホド」を「概念的表現」としている。黒崎(1987)では感声的表現のほかに、「ソー」のかかわる形式が多種多様のあいづち表現を生み出しているとして「ソー形式表現」と分類し、「ホンマー」「ナルホド」などは「その他の表現」と分類している。杉戸(1987)は「ハー」「アー」「ウン」「アーソーデスカ」「サヨーデゴザイマスカ」「エーソーデスネー」などの応答詞や「エーッ!」「マア」「ホー」などの感動詞だけを取り扱っている。

本研究では日本語教育の立場から堀口(1988・1997)、松田(1988)と同じように、応答詞、感動詞あるいは感声的表現や概念的表現というようには分類せずに、一つの枠組みに入れている。具体的には宮崎(2002)に倣い、日本語会話データに出現するあいづちを次のように分類する。

- ① うん系：うん、うんうん(うん)、うーん、うーーん、ふーん、んーん<sup>48</sup>等
- ② ああ系：あ、あつ、ああ、あー、あん、あんあん等

<sup>48</sup> 音的に似ているために、「ふーん」「んーん」などは「うん系」に分類する。

- ③ 感動詞：伝統的な国語学を基盤とした文法論では、感動詞は文としては独立した成分で、一語のみで一文が形成できる、といった位置づけがなされている（鈴木 1973）。主に a 感動、例：「おや」「まあ」「あら」「さあ」 b 呼びかけ、例：「おい」「ねえ」「もしもし」 c 応答、例：「はい」「うん」「いいえ」 d 挨拶、例：「おはよう」「こんにちは」 e かけ声、例：「えい」「そら」という 5 つの種類に分けられる。ほかの項目と区別をつけるために、本研究では感動を表すあいづちのみ感動詞とみなす。

例：「なー」「わー」「ねー」「ですよね」等

- ④ そう系：そう、そうそうそう、そうですね、そうですね、そうね、そっか等  
⑤ ほんと系：ほんと、ほうとう等  
⑥ へー系：へえ、へー、へーへー等  
⑦ はい系：はい、はい等  
⑧ はあ系：はあ、ははは、はああ等  
⑨ ええ系：ええ、え、えー等  
⑩ なるほど系：なるほど  
⑪ おー系：おー、おお、ほー<sup>49</sup>、ほほー等

なお、「あ」「え」「うん」が「そう」「ほんとう」「なるほど」などと共起した場合は後半部分を発話の中心とし、分類上後半部分の「そう系」「ほんと系」「なるほど系」などに入れる。

例：あ、そう。

あ、そうなんだ。

あ、そっか。

「そう系」に分類する。

例：え、ほんとうに。

「ほんと系」に分類する。

例：うん、はいはいはい。

「はい系」に分類する。

### 8.1.2.2 中国語のあいづちの分類

また、中国語会話データに出てくるあいづちについては、楊晶(1999)、徐晓娟・刘春梅(2011)などを参考にして、次のように下位分類する。

- ① 哦系：哦，噢  
② 啊系：啊，啊啊  
③ 是系：是，是啊，是呀，是吧，是吗，是么，是嘛  
④ 嗯系：嗯，嗯嗯  
⑤ 对系：对，对对，对呀，对啊  
⑥ 就是系：就是，就是呀，就是嘛

<sup>49</sup> 音声的に似ているために、「ほー」「ほほー」などは「おー系」に分類する。

- ⑦呃系：呃，呃呃
- ⑧真的系：真的，真的呀
- ⑨哎系：哎，唉
- ⑩感動詞：哎呀，唉呀，哇，哇塞，喔，喲，哟

なお、「对」「嗯」「啊」が「就是」「真的」などと共起した場合は後半部分を発話の中心とし、分類上後半部分の「就是系」「真的系」などに入れる。

- 例：「对，就是。」  
「就是系」に分類する。
- 例：「嗯，真的。」  
「真的系」に分類する。

## 8.2 日本人会話におけるあいづちの頻度

本節では、日本人会話におけるあいづちの頻度について分析する。あいづちに関する先行研究（小宮 1986、杉戸 1987、黒崎 1987、水谷 1988 など）を踏まえながら、本研究では日本人のあいづちの頻度を以下の 2 つの観点から分析する。一つは総発話数に対するあいづちの比率（杉戸 1987、黒崎 1987 など）である。もう一つは時間当たりのあいづちの回数（小宮 1986、水谷 1988 など）である。

### 8.2.1 日本人会話の総発話数に対するあいづちの比率

日本人総発話数に対するあいづちの比率に関する先行研究では、杉戸(1987)の東京下町の調査では平均 0.557 という結果が出た。黒崎(1987)は兵庫県滝野町の調査で 14.9%という数値を出している。

#### 8.2.1.1 日本人女性会話の総発話数に対するあいづちの比率

本研究の調査対象は関東地域出身の大学生である。日本人女性初対面会話と友人同士会話という親疎関係が異なる会話である。それぞれの総発話数に対するあいづちの比率は表 1 と表 2 に示す通りであった。

表 1 日本人女性初対面会話総発話数に対するあいづちの比率

会話番号	あいづち数	総発話文数	割合
会話 1	138	365	37.81%
会話 2	161	468	34.40%
会話 3	144	627	22.97%
会話 4	162	530	30.57%
会話 5	270	788	34.26%
会話 6	160	594	26.94%
平均	173	562	30.78%

表2 日本人女性友人同士会話総発話数に対するあいづちの比率

会話番号	あいづち数	総発話文数	割合
会話1	80	403	19.85%
会話2	105	570	18.42%
会話3	111	674	16.47%
会話4	100	597	16.75%
<b>会話5</b>	<b>170</b>	<b>662</b>	<b>25.68%</b>
会話6	76	537	14.15%
平均	107	574	18.64%

グローバルな観点からみると、疎の関係である日本人女性初対面会話におけるあいづちの導入頻度 30.78%は、親の関係である日本人女性友人同士会話におけるあいづちの導入頻度 18.64%を上回っている。杉戸(1987)の研究結果と同じく、疎の関係にあるほうがあいづちが多くなるといえよう。

日本人女性会話のあいづちの基本状態からみれば、疎の関係にある初対面会話は親の関係にある友人同士の会話よりあいづちの頻度が高いといえよう。それは疎の関係にある場合は互いにきちんと聞いていることを表現する必要があるからだとして杉戸(1987)は解釈している。ポライトネスの観点からみれば、円滑なコミュニケーションを維持するためには、あいづちが一つの戦略となると考えられる。疎の関係である初対面会話では相手の基本情報を聞き出す必要があるため、親の関係にある友人同士の会話よりフェイス侵害度が高いということになり、よりポライトな戦略が必要である。その現れの一つがあいづちだといえよう。したがって、疎の関係である初対面会話では親の関係にある友人同士の会話よりあいづちがより多く出る結果となったのである。

さらに、疎の関係にある日本人女性初対面会話の話題について分析してみると、最初の段階では互いに学年、学部、専攻などの基本情報について探りあいながら会話を進めていくようになっていた。つまり、疎の会話である初対面の場合、相手と親しくなるために、相手の話を引き出すことを目的としているといえよう。話を引き出すことを目的とした談話においてはあいづちの頻度が高くなるという報告がある(水谷 1984、黒崎 1987)。ポライトネスの観点からみれば、相手の話を引き出すこと自体により相手の他人に邪魔されたくないというネガティブフェイスが侵害されるわけである。あいづちをうつという戦略はそのフェイス侵害行為を軽減するのではないかと思われる。

一方、日本人女性友人同士会話総発話数に対するあいづちの比率をみると、他の会話と比べると、会話5だけはあいづちの頻度が 25.68%であり、突出して高いことが分かる。フェイスシートを調べると、他の会話では二人の親疎関係への評価は「親友」か「最親友」であるのに対して、会話5だけは相手との関係が「いわゆる友達」と判断されていた。つまり、

会話 5 の親疎関係は初対面から親友（最親友）までの間に位置するため、あいづちの頻度も他の会話と比べて高くなったと解釈できる。

さらに、具体的に話者別のあいづち (u) の頻度と割合を見てみよう。まず日本人女性初対面会話のあいづちの頻度と割合は表 3 に示したように会話 1 (JWB01-JWN01) と会話 6 (JWB06-JWN06) を除いて、他の会話の場合、ベース協力者 (JWB) と会話相手 (JWN) のあいづちの割合は大体同じぐらいである。

表 3 日本人女性初対面会話あいづちの総計に占める話者別の割合

会話番号	話者	あいづち (u)		非あいづち (n)	
		頻度	割合	頻度	割合
会話 1	JWB01	42	30.43%	151	67.41%
	JWN01	96	69.57%	73	32.59%
会話 2	JWB02	94	58.39%	132	43.42%
	JWN02	67	41.61%	172	56.58%
会話 3	JWB03	78	54.17%	236	49.79%
	JWN03	66	45.83%	238	50.21%
会話 4	JWB04	78	48.15%	207	59.65%
	JWN04	84	51.85%	140	40.35%
会話 5	JWB05	145	53.70%	226	44.75%
	JWN05	125	46.30%	279	55.25%
会話 6	JWB06	64	40.00%	219	51.41%
	JWN06	96	60.00%	207	48.59%

会話 1 (JWB01-JWN01) の場合、話の最初の部分では会話相手 JWN01 と同じ学年だと分かって、ベース協力者 JWB01 は「タメ口」で話すことを提案した。その後、二人の会話はほとんど常体で進んでいった。この会話の基本状態はベース協力者 JWB01 の提案という有標の言語行動によって決まったのである。また、会話相手のあいづちの割合の 69.57% はベース協力者の 30.43% を上回る結果となった。それは会話 1 のパターンとしては、ベース協力者 JWB01 が主に話し手の役割を果たし、会話相手は聞き手としてあいづちを打ったりして、会話を進めていったことを反映している。

表 1 に示したように、会話 1 のあいづちの割合は 37.81% であり、平均の 30.78% を上回っている。会話のスピーチレベルだけでなく会話の内容からみれば、主に、旅行、サークルなどという気楽な話をめぐって会話を進めている。授業や単位、進路など深刻な話題にはまったく触れなかった。黒崎 (1987) で気楽な内容の話ではあいづちの頻度が高くなると指摘されたように、会話 1 は他の会話と比べると、自然にあいづちの頻度が高くなっているのである。

しかし、会話6 (JWB06-JWN06) の場合は会話1 (JWB01-JWN01) と違うようである。初対面会話終了後のフォローアップアンケートの結果を見ると、あいつちの多い会話相手 JWN06 の場合、「相手の方は、初対面の方として、話しやすかったか。」という質問に対して、「少し話しにくかった」という答えであった。さらに、「どうしてそう思ったか。」という質問に対して、「相手と相性が合わない感じだったから」という答えであった。一方、ベース協力者 JWB06 は「相手の方は、初対面の方として、話しやすかったか。」という質問に対して、「話しやすい方だった」という答えであった。その理由として「相手の学年が同じぐらいだったから」「相手が同性だったから」「相手がよく話す人だったから」「共通の話題が見つかりやすかったから」などが挙げられた。

宇佐美 (1998, 2001ab, 2002 等) の DP 理論の観点から考えると、ベース協力者は会話相手が話しやすい人だと考えているため、積極的に会話をするのが適切だと見積もっている。それに対して、会話相手はベース協力者の積極的な会話により、他人に邪魔されたくないというネガティブフェイスが侵害されていると考えているようである。あいつちを打つだけで、積極的に会話を進めようとしていないのである。フォローアップアンケートの結果からみれば、ベース協力者が積極的に会話を進めようとする言語行動は会話相手の見積もり (De) 値の  $-\alpha$  の許容度をこえていたと判断される。それによって、相手に不愉快を感じさせることで、マイナス発話効果となったのだといえよう。しかも、ベース協力者はそのことに気付いていないようである。結局、会話相手のあいつちの割合の 60%は、ベース協力者の 40%より高い結果となった。それはベース協力者が積極的に会話に参加しているのに対して、会話相手はあいつちを打つだけで会話を済ませるというように会話のあいつちがアンバランスとなっていたためであろう。

次に日本人女性友人同士会話のあいつちの頻度と割合は表 4 に示したように「会話 2 (JWB02-JWF02) と会話 6 (JWB06-JWF06) を除いて、他の会話の場合、ベース協力者 (JWB) と会話相手 (JWF) のあいつちの割合は大体同じ程度である。

表 4 日本人女性友人同士会話あいつちの総計に占める話者別の割合

会話番号	話者	あいつち (u)		非あいつち (n)	
		頻度	割合	頻度	割合
会話 1	JWB01	36	45.00%	155	52.72%
	JWF01	44	55.00%	139	47.28%
会話 2	<b>JWB02</b>	<b>69</b>	<b>65.71%</b>	<b>197</b>	<b>43.30%</b>
	<b>JWF02</b>	<b>36</b>	<b>34.29%</b>	<b>258</b>	<b>56.70%</b>
会話 3	JWB03	54	48.65%	277	50.00%
	JWF03	57	51.35%	277	50.00%
会話 4	JWB04	51	51.00%	254	51.94%
	JWF04	49	49.00%	235	48.06%

会話 5	JWF05	75	44.12%	251	53.75%
	JWB05	95	55.88%	216	46.25%
会話 6	JWB06	30	39.47%	236	51.87%
	JWF06	46	60.53%	219	48.13%

フォローアップアンケートを見ると、会話 2 のベース協力者 JWB02 と会話相手 JWF02 は録音されていることに対して、「かなり意識した」と「すこし意識した」と答えている。「話し方にどのように影響したと思うか」という質問に、ベース協力者 JWB02 は「話題選び。会話のときの声の抑揚のつけ方。いつもほど盛り上がらなかった気がする」と回答した。一方、会話相手の JWF02 は「あまり聞き取りにくいような発音や、意味のわかりにくいスラングなどはあまり使わないように話した」との答えである。しかし、具体的な会話の内容をみると、日本人女性友人 6 会話の中で会話 2 だけ唯一罵り言葉が観察されたのである。それについては第四章の文中スピーチレベルの際に既に分析したため、ここでは重複を避けたいと思う。ただし、会話 2 は他の会話と違ってオタク同士の会話の特別な話し方だと思われる。仲間言葉としての罵り言葉などの特徴が見られた。あいづちにおいては、ベース協力者 JWB02 のあいづちの使用率が 65.71%を占めているのは、話し手ではなくて、聞き手に回る割合が高かったからだといえよう。したがって、「いつもほど盛り上がらなかった気がする」感じを受けている。一方、会話相手 JWF02 は「あまり聞き取りにくいような発音や、意味のわかりにくいスラングなどはあまり使わないように話した」というように話し方に気を付けていることからみれば、話し手の役割を多く果たしている傾向があると伺える。

会話 6 (JWB06-JWF06) のベース協力者 JWB06 は録音されていることに対して、「すこし意識した」と答えている。しかし、会話への影響はなかったとの回答である。一方、会話相手 JWF06 は録音されていることを特に意識しなかったということである。会話の内容からみれば、会話相手 JWF06 は沖縄に行ったことがない。しかし、ベース協力者 JWB06 は小学校 5 年の時は既に行ったことがある。それについて話し合う場合、ベース協力者 JWB06 は話し手になり、会話相手 JWF06 は聞き手になっている。そのため、会話全体を見ると、会話相手 JWF06 のあいづちの割合は 60.53%であり、ベース協力者 JWB06 の 39.47%を上回る結果となっている。

### 8.2.1.2 日本人男性会話の総発話数に対するあいづちの比率

この節では日本人男性会話の総発話数に対するあいづちの比率を分析する。日本人男性初対面と友人同士会話の総発話数に対するあいづちの比率はそれぞれ表 5 と表 6 に示すとおりである。



表5 日本人男性初対面会話総発話数に対するあいづちの比率

会話番号	あいづち 数	総発話文数	割合
1	85	311	27.33%
<b>2</b>	<b>143</b>	<b>328</b>	<b>43.60%</b>
<b>3</b>	<b>93</b>	<b>273</b>	<b>34.07%</b>
4	60	343	17.49%
5	76	290	26.21%
6	117	452	25.88%
平均	96	333	28.83%

表6 日本人男性友人同士会話総発話数に対するあいづちの比率

会話番号	あいづち 数	総発話文数	割合
1	118	657	17.96%
2	126	816	15.44%
3	104	605	17.19%
4	93	831	11.19%
5	126	654	19.27%
<b>6</b>	<b>49</b>	<b>622</b>	<b>7.88%</b>
平均	103	698	14.76%

グローバルな観点からみると、疎の関係である日本人男性初対面会話におけるあいづちの導入頻度（28.83%）は親の関係である日本人男性友人同士会話におけるあいづちの導入頻度（14.76%）を上回っている。日本人女性会話と同じように疎の関係である初対面会話のほうがあいづちが多い。さらに、具体的な割合をみると、日本人男性初対面会話のあいづちの導入頻度（28.83%）は日本人女性初対面のあいづちの導入頻度（30.78%）よりやや低い。一方、日本人男性友人同士会話におけるあいづちの導入頻度（14.76%）は日本人女性友人同士会話のあいづちの頻度（18.64%）を下回る結果となった。

日本人会話のあいづちの全体像をみるために、表3、4、5、6の結果を図1に示す。

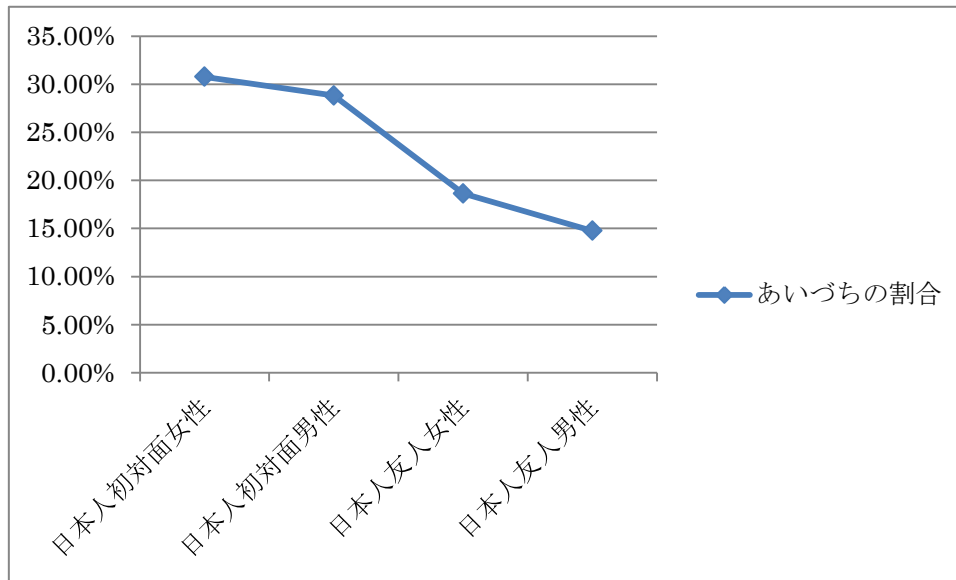


図1 日本人あいづちの使用状況

図1をみると、日本人は男女を問わず、友人同士会話のあいづちに比べると、初対面会話のあいづちの割合が高いことが明らかになった。また、男性に比べると、女性のあいづちの使用率は初対面か友人会話かにかかわらず、やや高いことが観察された。

以上の結果をまとめると、日本人会話のあいづちの基本状態は、疎の関係にある初対面会話は親の関係にある友人同士の会話よりあいづちの頻度が高いというものである。また、日本人男性会話（初対面と友人同士会話）は日本人女性会話のあいづちの導入頻度より低い。

ローカルな観点から表5を見てみると、会話2と会話3のあいづちの頻度は43.60%と34.07%であり、日本人男性初対面会話におけるあいづちの基本状態の28.83%より高いことが分かる。この2つの会話は35歳の日本人男性社会人の初対面会話である。他の大学院生（研究生）同士の会話と比べて、あいづちの頻度が高いのである。それは学生と比べると社会人のほうが改まった関係であるため、あいづちが多くなるのだといえよう。表6を見てみると、会話6はあいづちの割合が7.88%であり、平均値の14.76%より低いことが分かる。会話6で選択された話題を調べると、「スタート、最近のこと、救急車に運ばれたこと、事故にあった経緯、恋の悩みの相談、飲み会の醜態、授業、卒論、風俗、キャバクラ」などである。かなり親密な話題が選択されたことからみて、二人の関係がより近いことがうかがえる。親しい友人の場合、共通する話題が多いために、相手の会話をちゃんと聞いているというメッセージ（あいづち）を送らなくても相手の許容範囲に収まるのであろう。したがって、あいづちの割合が低い結果となったのだと推測できる。

## 8.2.2 日本人会話の時間当たりのあいづちの回数

水谷(1988)ではあいづちの頻度は個人差や相手との関係や場面などによって違いはあるが、平均すると1分当たり15~20回であると指摘した。しかし、具体的にどのような関係でどの場面でどのぐらいの頻度であいづちが打たれるのかには触れていなかった。そこで、本研究では条件統制された会話データに基づいて、初対面会話と友人同士会話という親疎関係が異なる会話を研究対象として、あいづちの具体的な回数について分析を行った。

### 8.2.2.1 日本人女性会話の時間当たりのあいづちの回数

まず、日本人女性初対面会話と友人同士会話の時間当たりのあいづち回数を表7と表8にまとめた。

表7 日本人女性初対面会話の時間当たりのあいづちの回数

会話番号	あいづち数	時間(分)	頻度(あいづち/分)
1	138	20	6.90
2	161	20	8.05
3	144	20	7.20
4	162	20	8.10
5	270	20	13.50
6	160	20	8.00
平均	173	20	8.63

表8 日本人女性友人同士会話の時間当たりのあいづちの回数

会話番号	あいづち数	時間(分)	頻度(あいづち/分)
1	80	20	4.00
2	105	20	5.25
3	111	20	5.55
4	100	20	5.00
5	170	20	8.50
6	76	20	3.80
平均	107	20	5.35

平均をみると、日本人女性初対面会話と友人同士会話は1分間当たりのあいづちの頻度はそれぞれ8.63回と5.35回であり、水谷(1988)の1分当たり15~20回より少ないことが分かった。それは水谷(1988)においては、あいづち的な「実質的な発話」もあいづちとしてみなされているためである。本研究では実質的な発話を除くあいづちだけを取り上げて分析したために、水谷(1988)の研究より少ない結果となった。

また、小宮(1986)では、あいづちだけを研究対象として、談話の時間を談話参加者のあいづちの総数で割ると、テレビの対談では 9.6 秒に一回、ラジオの電話教育相談では 6.1 秒に一回の割合であいづちが打たれていると指摘した。本研究の日本人女性会話でも、同じように会話時間 20 分、つまり 1200 秒をあいづちの総数で割ると、表 9 と表 10 に示す結果が出た。

表 9 日本人女性初対面会話のあいづち間の時間

会話番号	あいづち数	時間 (秒)	秒数 (秒/あいづち)
1	138	1200	8.70
2	161	1200	7.45
3	144	1200	8.33
4	162	1200	7.41
5	270	1200	4.44
6	160	1200	7.50
平均	173	1200	6.96

表 10 日本人女性友人同士会話のあいづち間の時間

会話番号	あいづち数	時間 (秒)	秒数 (秒/あいづち)
1	80	1200	15.00
2	105	1200	11.43
3	111	1200	10.81
4	100	1200	12.00
5	170	1200	7.06
6	76	1200	15.79
平均	107	1200	11.21

平均からみれば、日本人女性初対面会話では 6.96 秒に一回の割合であいづちが打たれている。これは小宮(1986)のテレビの対談での 9.6 秒に一回より短い、ラジオの電話教育相談での 6.1 秒に一回の割合より長いものである。ラジオは相手の顔や表情を見ることができないために、相手の話をちゃんと聞いているかどうかは音声的なあいづちで判断するしかないのである。一方、テレビの対談や初対面会話の場合、相手と面と向かって話しているために、音声だけではなく、表情や頷きなどの非言語的な要素で表すことも可能である。そのために、ラジオのあいづちの方が頻度が高かったのだと考えられる。テレビの対談の場合は司会者がゲストに質問して答えてもらうのが一般的である。したがって、一方的な発話が比較的多くなるようである。初対面会話の場合、互いに基本情報を交換しながら会話を進めており、あいづちは発話者双方から出てくるため、テレビの対談より頻度が

高いわけである。

一方、日本人女性友人同士の会話では 11.21 秒に一回の割合であいづちが打たれている。初対面の 6.96 秒に一回の割合より時間の間隔が長いようである。それは日本人女性友人同士の会話ではお互いの共有知識が多いため、特に聞いているという信号（あいづち）を送らなくても、聞き手は話し手の話している内容がすでに分かっているからであろう。つまり相手の発話を引き出す必要がなく、自然の流れで会話を進めていけるためだと考えられる。

### 8.2.2.2 日本人男性会話の時間当たりのあいづちの回数

この節では日本人男性会話の時間当たりのあいづちの頻度を分析する。日本人男性初対面会話と友人同士会話における時間当たりのあいづちの頻度は表 11 と表 12 に示す通りである。

表 11 日本人男性初対面会話の時間当たりのあいづちの回数

会話番号	あいづち数	時間(分)	頻度(あいづち/分)
1	85	15	5.67
2	143	15	9.53
3	93	15	6.20
4	60	15	4.00
5	76	15	5.07
6	117	15	7.80
平均	96	15	6.38

表 12 日本人男性友人同士会話の時間当たりのあいづちの回数

会話番号	あいづち数	時間(分)	頻度(あいづち/分)
1	118	23	5.13
2	126	20	6.30
3	104	23	4.52
4	93	23	4.04
5	126	22	5.73
6	49	23	2.13
平均	103	22	4.60

平均を見ると、日本人男性初対面会話では 1 分間当たりのあいづちの頻度は 6.38 回である。日本人女性初対面会話 1 分間当たりのあいづちの頻度の 8.63 回(表 7)を下回った。一方、日本人男性友人会話では 1 分間当たりのあいづちの頻度は 4.60 回である。日本人女性友人会話 1 分間当たりのあいづちの頻度の 5.35 回(表 8)より少ない。つまり、初対面会話でも友人同士の会話でも日本人女性は男性より 1 分間当たりのあいづちの頻度が高いこと

が明らかになった。日本人女性は男性より多く相手の話を聞いているというメッセージを送る傾向があるといえよう。

日本人男性と女性の会話データにおける 1 分間当たりのあいづちの頻度をまとめると、両方とも、初対面会話のあいづちの頻度は友人同士より高い。つまり、日本人会話における 1 分間当たりのあいづちの頻度の基本状態は、初対面会話のあいづちの頻度が友人同士より高いというものである。

また、小宮(1986)では、あいづちだけを研究対象として分析し、談話の時間を談話参加者のあいづちの総数で割って、テレビの対談では 9.6 秒に一回、ラジオの電話教育相談では 6.1 秒に一回の割合であいづちが打たれていると指摘した。本研究で使用される男性会話データは宇佐美監修 (2013) に収録されている会話データであるため、会話時間はばらばらである。日本人男性初対面の会話の場合、音声があるため、最初の 15 分間を研究対象として、コーディングした。会話時間 (15 分間 900 秒) を男性会話データから抽出したあいづち数で割ると次の表 13 のような結果となる。

日本人男性友人会話の場合、音声がないため、そのまま文字化資料を全部コーディングした。各会話の時間はデータにきちんと表示されているため、会話時間を男性会話データから抽出したあいづち数で割ると次の表 14 のような結果となる。

表 13 日本人男性初対面会話のあいづち間の時間

会話番号	あいづち数	時間 (秒)	秒数 (秒/あいづち)
1	85	900	10.59
2	143	900	6.29
3	93	900	9.68
4	60	900	15.00
5	76	900	11.84
6	117	900	7.69
平均	96	900	9.41

表 14 日本人男性友人同士会話のあいづち間の時間

会話番号	あいづち数	時間 (秒)	秒数 (秒/あいづち)
1	118	1364	11.56
2	126	1200	9.52
3	104	1413	13.59
4	93	1421	15.28
5	126	1321	10.48
6	49	1364	27.84
平均	103	1347	13.12

平均をみると、日本人男性初対面会話では 9.41 秒に一回の割合であいづちが打たれてい

る。これは日本人女性初対面会話の 6.96 秒に一回の割合より長い。つまり、日本人男性初対面会話におけるあいづちの間隔が女性より長いということである。それは小宮(1986)のテレビの対談での 9.6 秒に一回という結果よりわずかに短い。つまり、日本人男性初対面のあいづちの間隔はテレビの対談に近い状態である。

一方、日本人男性友人同士の会話では 13.12 秒に一回の割合であいづちが打たれている。女性友人同士の会話での 11.21 秒に一回の割合より長い。つまり、日本人男性友人同士会話におけるあいづちの間隔は女性より長いということである。

長さは異なるが、日本人女性会話と男性会話のあいづちの間隔には同じ傾向が観察された。つまり、日本人会話のあいづちの基本状態として、親の関係にある友人同士の会話は疎の関係にある初対面会話よりあいづちの間隔が長いということである。

### 8.3 日本人会話におけるあいづちの使用状況

さらに、言語形式の観点から、8.1.2.1 日本語のあいづちの分類の基準にしたがって、日本語会話データに出現するあいづちを下位分類する。その中の 20%は第二評定者(男性、言語学博士)にコーディングしてもらい、評定者間信頼数係数をとったところ、カッパ係数 0.81 が得られたので、分類は妥当なものともみなすことができる。

#### 8.3.1 日本人女性初対面会話におけるあいづちの使用状況

まず、日本人女性初対面会話におけるあいづちを下位分類し、6 会話の合計を集計すると、次の表 15 の通りとなる。

表 15 日本人女性初対面会話におけるあいづちの使用状況

	あいづち	出現数	割合
1	<b>うん系</b>	<b>288</b>	<b>27.83%</b>
2	ああ系	133	12.85%
3	感動詞	23	2.22%
4	<b>そう系</b>	<b>241</b>	<b>23.29%</b>
5	ほんと系	4	0.39%
6	へー系	117	11.30%
7	はい系	149	14.40%
8	はあ系	9	0.87%
9	ええ系	28	2.71%
10	なるほど系	25	2.42%
11	おー系	18	1.74%
	合計	1035	100%

表 15 に示したように、日本人女性初対面会話に出現するあいづちの中では、「うん系」が

一番多く全体の 27.83%を占めている。次いで多いのは「そう系」であり、23.29%を占めている。「はい系」と「ああ系」はそれぞれ 14.40%と 12.85%であり、三位と四位となっている。つまり、日本人女性初対面会話におけるあいづちの基本状態は「うん系」が一番多く、全体の 3割弱を占めている。次いで多いのは「そう系」であり、2割強を占めている。「はい系」「ああ系」はそれぞれ 1割強である。

次に具体的に各会話におけるあいづちの使用状況を見てみよう。日本人女性初対面会話の場合、下記の表 16 に示したとおりである。太字の部分には各項目における割合の上位 2 位のものである。会話 3 以外は「うん系」が上位 2 位以内に入っている。

表 16 日本人女性初対面会話の各会話におけるあいづちの使用状況

会話番号	1		2		3		4		5		6	
	出現数	割合	出現数	割合	出現数	割合	出現数	割合	出現数	割合	出現数	割合
うん系	83	60%	39	24%	4	3%	46	28%	85	31%	31	19%
ああ系	23	17%	20	12%	18	13%	32	20%	21	8%	19	12%
感動詞	0	0%	15	9%	4	3%	0	0%	0	0%	4	3%
そう系	13	9%	21	13%	64	44%	54	33%	44	16%	45	28%
ほんと系	1	1%	0	0%	3	2%	0	0%	0	0%	0	0%
へー系	8	6%	10	6%	0	0%	14	9%	63	23%	22	14%
はい系	3	2%	33	21%	39	27%	14	9%	44	16%	16	10%
はあ系	0	0%	4	2%	0	0%	2	1%	1	0%	2	1%
ええ系	6	4%	2	1%	9	6%	0	0%	4	1%	7	4%
なるほど系	1	1%	10	6%	3	2%	0	0%	5	2%	6	4%

日本人女性初対面会話 3 は基本状態から離脱する会話であるため、質的分析を行う。ベース協力者 JWB03 は自分の会話に出てくる 78 個のあいづちの中で、「はい系」が 31 個であり、40%を占めている。一方、「うん系」の使用は 0 である。「はい系」の使用がベース協力者



JWB03 の習慣なのかどうかを探るために、さらに友人同士の会話 3 を調べた。その結果、ベース協力者 JWB03 は友人同士の会話では自分の会話に出てくる 54 個のあいづちの中で、「うん系」が 17 個であり、31%を占めている。一方、「はい系」の使用は 0 である。つまり、ベース協力者 JWB03 は初対面会話では「はい系」のあいづちを、友人同士の会話では「うん系」のあいづちを使用している。距離の遠い初対面会話ではフォーマルなあいづちである「はい系」のあいづちで、距離の近い友人同士の会話ではインフォーマルなあいづちである「うん系」のあいづちでときちんと使い分けているといえよう。

また、会話終了後のフォローアップアンケートを調べると、日本人女性初対面会話 3 では、会話相手の JWN03 はベース協力者 JWB03 のことを年上だと判断している。そのために、表 17 に示したように、6 会話の中で、P の出現率は 51.13%であり、6 会話の中で一番高い。つまり、よりフォーマルな言葉遣いがなされている。したがって、ベース協力者 JWB03 のあいづちはそれに合わせて、よりフォーマルな「はい系」が多用されたのだといえよう。

表 17(第四章表 18 の再掲) 日本人女性初対面会話文末スピーチレベルの各項目の割合

会話番号	P(Polite form)		N(Non-polite form)		NM(No Marker)	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	9	2.49%	156	43.21%	196	54.29%
2	168	36.21%	90	19.40%	206	44.40%
<b>3</b>	<b>316</b>	<b>51.13%</b>	<b>129</b>	<b>20.87%</b>	<b>173</b>	<b>27.99%</b>
4	209	41.06%	101	19.84%	199	39.10%
5	273	35.23%	127	16.39%	375	48.39%
6	230	39.25%	127	21.67%	229	39.08%
平均	201	36.37%	122	22.04%	230	41.59%

### 8.3.2 日本人女性友人同士会話におけるあいづちの使用状況

一方、日本人女性友人同士の会話に出てくるあいづちを下位分類し、6 会話の合計を集計すると、次の表 18 の通りである。

表 18 日本人女性友人同士会話におけるあいづちの使用状況

あいづち	出現数	割合
<b>うん系</b>	<b>233</b>	<b>36.29%</b>
ああ系	78	12.15%
感動詞	23	3.58%
<b>そう系</b>	<b>222</b>	<b>34.58%</b>
ほんと系	0	0.00%
へー系	33	5.14%

はい系	6	0.93%
はあ系	3	0.47%
ええ系	25	3.89%
なるほど系	10	1.56%
お一系	9	1.40%
合計	642	100%

表 18 に示したように、日本人女性友人同士会話に出現するあいづちの中では、初対面と同じように、「うん系」が一番多く全体の 36.29%を占めている。初対面の 27.83%を 10%近く上回っている。次いで多いのは「そう系」であり、34.58%を占めている。初対面の 23.29%より 10%以上上回っている。日本人友人同士の会話は初対面会話と比べると、カジュアルスタイルのあいづちの「うん系」「そう系」の使用が大幅に多くなることが明らかになった。それは親の関係である友人同士の会話は疎の関係である初対面より、距離が近いためであろう。しかし、友人同士の会話ではカジュアルスタイルのあいづちの「ああ系」(内藤 2003) が第三位を占めている。一方、日本人女性初対面会話におけるあいづちの使用は第三位が「はい系」である。宮崎(2002)では「はい系」がフォーマルなあいづちとみなされている。初対面会話は友人同士の会話と比べると、ベース協力者は会話相手との距離が大きい。そのために、ポライトな発話が必要であり、よりフォーマルなあいづちである「はい系」が多用される結果となっているといえよう。

次に具体的に各会話におけるあいづちの使用状況を見てみよう。日本人女性友人同士の会話の場合、下記の表 19 に示したとおりである。太字の部分は各項目における割合の上位 2 位のものである。

表 19 日本人女性友人会話の各会話におけるあいづちの使用状況

会話番号	1		2		3		4		5		6	
	出現数	割合	出現数	割合	出現数	割合	出現数	割合	出現数	割合	出現数	割合
あいづち												
うん系	<b>33</b>	<b>41%</b>	<b>35</b>	<b>33%</b>	<b>33</b>	<b>30%</b>	<b>42</b>	<b>42%</b>	<b>75</b>	<b>44%</b>	<b>15</b>	<b>20%</b>
ああ系	5	6%	21	20%	11	10%	13	13%	24	14%	4	5%
感動詞	8	10%	2	2%	3	3%	4	4%	3	2%	3	4%
そう系	<b>22</b>	<b>28%</b>	<b>32</b>	<b>30%</b>	<b>43</b>	<b>39%</b>	<b>34</b>	<b>34%</b>	<b>52</b>	<b>31%</b>	<b>39</b>	<b>51%</b>
ほんと系	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
へー系	5	6%	2	2%	6	5%	5	5%	12	7%	3	4%
はい系	0	0%	1	1%	4	4%	0	0%	1	1%	0	0%
はあ系	1	1%	0	0%	1	1%	0	0%	0	0%	1	1%
ええ系	2	3%	6	6%	7	6%	1	1%	1	1%	8	11%

なるほど系	4	5%	2	2%	2	2%	1	1%	0	0%	1	1%
おー系	0	0%	4	4%	1	1%	0	0%	2	1%	2	3%
合計	80	100%	105	100%	111	100%	100	100%	170	100%	76	100%

表 19 に示したように、日本人女性友人同士の会話におけるあいづちの使用は主に「うん系」と「そう系」に集中している。一方、フォーマルなあいづちである「はい系」の使用はほとんど観察されなかった。表 18 に示したように、日本人女性友人同士の会話におけるあいづちの基本状態は、「うん系」と「そう系」がそれぞれ 3 割ぐらいを占めているというものである。

### 8.3.3 日本人男性初対面会話におけるあいづちの使用状況

さらに、日本人男性初対面の会話に出てくるあいづちを下位分類し、6 会話の合計を集計すると、次の表 20 の通りである。

表 20 日本人男性初対面会話におけるあいづちの使用状況

あいづち	出現数	割合
うん系	3	3.53%
ああ系	5	5.88%
感動詞	1	1.18%
そう系	11	12.94%
ほんと系	0	0.00%
へー系	6	7.06%
<b>はい系</b>	<b>44</b>	<b>51.76%</b>
はあ系	5	5.88%
ええ系	6	7.06%
なるほど系	4	4.71%
おー系	0	0.00%
合計	85	100%

表 20 を見てみると、日本人男性初対面会話に出てくるあいづちは「はい系」が一番多く、全体の半分以上の 51.76% を占めている。表 15 と比べると、日本人女性初対面会話に出てくるあいづちの「うん系」の 27.83% と「そう系」の 23.29% の合計より高い。つまり、日本人男性初対面会話におけるあいづちの基本状態は、フォーマルスタイルのあいづちの「はい系」(内藤 2003) の使用が大半を占めているのである。一方、女性初対面会話においてはカジュアルスタイルのあいづちの「うん系」(内藤 2003) が一番多い。あいづちの使用においては

男性<sup>50</sup>はより社会規範を守っているようである。それに対して、女性の場合社会規範よりも、相手と心的な距離を縮めるために、初対面の会話でもカジュアルスタイルのあいづち「うん系」が多用されているといえよう。

次に、具体的に各会話におけるあいづちの使用状況を見てみよう。日本人男性初対面の会話の場合、下記の表 21 に示したとおりである。太字の部分は各項目における割合の上位 2 位のものである。

表 21 日本人男性初対面会話の各会話におけるあいづちの使用状況

会話番号	1		2		3		4		5		6	
	出現数	割合	出現数	割合	出現数	割合	出現数	割合	出現数	割合	出現数	割合
うん系	3	4%	3	2%	16	17%	8	13%	9	12%	23	20%
ああ系	5	6%	12	8%	<b>19</b>	<b>20%</b>	8	13%	<b>12</b>	<b>16%</b>	17	15%
感動詞	1	1%	1	1%	2	2%	0	0%	2	3%	1	1%
そう系	<b>11</b>	<b>13%</b>	11	8%	13	14%	<b>14</b>	<b>23%</b>	10	13%	<b>35</b>	<b>30%</b>
ほんと系	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
へー系	6	7%	0	0%	4	4%	0	0%	4	5%	2	2%
はい系	<b>44</b>	<b>52%</b>	<b>18</b>	<b>13%</b>	<b>22</b>	<b>24%</b>	<b>23</b>	<b>38%</b>	<b>29</b>	<b>38%</b>	<b>35</b>	<b>30%</b>
はあ系	5	6%	7	5%	2	2%	1	2%	0	0%	0	0%
ええ系	6	7%	<b>81</b>	<b>57%</b>	13	14%	5	8%	3	4%	3	3%
なるほど系	4	5%	2	1%	2	2%	1	2%	2	3%	1	1%
おー系	0	0%	8	6%	0	0%	0	0%	5	7%	0	0%
合計	85	100%	143	100%	93	100%	60	100%	76	100%	117	100%

表 21 を見てみると、上位 2 位以内のあいづちには「はい系」が 6 会話全てにおいて入っている。そのほかに「ああ系」「そう系」「ええ系」が観察された。会話 2 以外の会話で「はい系」のあいづちが一番多い。会話 2 を観察すると、話者 JSM01 の「ええ系」の出現回数の 13 に対して会話相手の JBM03 の出現回数は 68 回に達している。一方、「はい系」の使用について話者 JSM01 では 18 回であるが、会話相手の JBM03 での出現回数は 0 である。同じ話者 JSM01 の参加する会話 1 では、話者 JSM01 の「ええ系」の出現回数は 6 回なのに対して、会話相手の JBM01 の出現回数は 0 である。一方、「はい系」の出現回数をみると、話者 JSM01 の出現回数は 29 回なのに対して、会話相手の JBM01 の出現回数は 15 回である。同じ話者 JSM01

<sup>50</sup>日本人男性初対面会話では 6 組中 2 組は社会人同士の会話であるため、学生同士の会話に比べると、社会的な規範を守る傾向があって、「はい系」のあいづちの多用が観察されたことにつながっていると考えられる。

において、使用されるあいづちが相手によって異なるのである。会話1では会話相手は「ええ系」のあいづちをまったく使用していない。従って、相手に合わせて「はい系」のあいづちの使用が多くなるわけである。それに対して、会話2では会話相手は「ええ系」のあいづちを多用し、「はい系」のあいづちが全く観察されていない。そこで、話者 JSM01 は相手に影響されて、「はい系」のあいづちを減少させ、「ええ系」のあいづちに移行する傾向があるといえよう。また、会話2で「ええ系」のあいづちの出現回数が多いのは、会話相手の JBM03 が「ええ系」のあいづちを多用するためである。

さらに、「はい」と「ええ」の先行研究を調べると、北川(1977)、日向(1979)では「はい」には「認知」、「ええ」には「同意」の機能があるとする。McGloin(1997)は「はい」の機能を「談話・場面を進行させる」、「ええ」の機能を「参加・協調」と付け加える。富樫(2002)は、「はい」の機能を「提示された情報に対し、それに関連した半活性化情報が多数呼び出されたことを示す」と定義している。二宮・金山(2006)は「はい」のみ使える文例、「はい」「ええ」が共に使用可能な文例について分析し、「はい」との比較を通して「ええ」の機能について考察した結果、「はい」「ええ」の使い分けには対話者が共有する情報の度合いが深く関与していることが分かった。共有する情報の度合いは話者間の関係を決定づけ、親疎・待遇関係へと密接に関わっていると考えられる。また、「ええ」は自己の主張・感情を積極的に表明する応答であり、「ええ」での応答は話者間の情報共有を表明し、相手に対し自らを同等の立場に位置づけると考えられる。そのため不適切に「ええ」を使ってしまうと親近感・同等感を超えて相手に失礼な印象を与える可能性もあることを指摘している。今回の日本人男性初対面会話データでは会話1と会話2は双方とも初対面という疎の関係である。ただし、宇佐美(1998、2001ab、2002など)のDP理論に基づき、フォローアップアンケートを調べた結果、会話2では会話相手の JBM03 は「ええ系」が多用されるにも関わらず、話者 JSM01 が不愉快に思っていないという結果から見れば、それは話者の許容範囲以内に納まっておりニュートラルの発話効果となったのだと判断される。

金山・二宮(2009)は、母語話者を対象に漫画を使用したアンケートを実施し、「はい」「ええ」の機能・効果、使い分けの判断の基準、意識の違いについて調査を行った。その結果、使い分けの要因を「話者の気持ち」とした回答が多く見られ、特に「ええ」の選択理由には、「話者の気持ち」、「話者のイメージ」、「『ええ』が持つイメージ」という回答が多かった。二宮・金山(2010)では、テレビ映像を用いたインタビュー調査を3名の被験者を対象に実施し、「はい」「ええ」の使い分け、および「ええ」の機能について考察を試みた。その結果、「はい」には、先行研究で言われているように、「フォーマルで丁寧」、「談話設立・維持・進行」の機能、「ええ」には「同意・共感」の機能があると再確認された。さらに「主張を込める」、「既知の情報に対する応答」などの「ええ」の機能を認識していると思われる回答が見られた。会話2では会話相手の JBM03 は日本語教師であるため、話者 JSM01 の仕事関係の食品安全の話題について「ええ系」のあいづちを使用しながら、「同意・共感」「参加・協調」の機能を果たしているといえよう。さらに「既知の情報に対する応答」などの

ニュアンスが含まれているようである。このようなやり取りが続いているため、会話相手の JBM03 の「ええ系」のあいづちが多用されているのだといえよう。

例6 あいづちの分類についての例

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容	あいづち	分類
54	54	*	JBM03	なんか食品業界って最近大変ですよ。	n	
55	55	*	JSM01	あ。	u	ああ
56	56	*	JBM03	なんかいろいろと。	n	
57	57	*	JSM01	おかげさまで、う、あの一、とんだとぼちりみたいなことを。	n	
58	58	*	JBM03	<笑い>。	#	
59	59-1	/	JSM01	あれは、[咳払い]あれはあの一、まあこういう表示とかも、	-	
60	60	*	JBM03	え一。	u	ええ
61	59-2	/	JSM01	あるとおり、いろいろ、添加物は当然のように入っているんですが、	-	
62	61	*	JBM03	ええ。	u	ええ
63	59-3	*	JSM01	あの一その添加物自体は買ってないんですよ。	n	
64	62	*	JBM03	ええ、ええ。	u	ええ
65	63-1	/	JSM01	その買ったものを作るとこ、ときに、もうすでにそれはそれを作る段階で、それが入ってた、	-	
66	64	*	JBM03	え一。	u	ええ
67	63-2	/	JSM01	とかいう、ま一二次被害みたいな、	-	
68	65	*	JBM03	え一。	u	ええ
69	63-3	*	JSM01	感じだったんですけど。	n	
70	66	*	JBM03	え一。	u	ええ
71	67-1	/	JSM01	あの一新聞にお詫びの広告を、	-	
72	68	*	JBM03	え一。	u	ええ
73	67-2	*	JSM01	出させていただいて。	n	
74	69	*	JBM03	あ一。	u	ああ

75	70	*	JSM01	出しまして。	n	
76	71	*	JBM03	ええ。	u	ええ

また、二宮・金山（2010）では、「はい」だけ使用した場合「固い」、「楽しさがない」、「話しにくい」などの被験者のコメントに、それぞれの応答詞の機能がマイナスに現れてしまった様子が見てとれる。しかし、宇佐美（1998、2001ab、2002 など）の DP 理論に基づき、フォローアップアンケートを調べた結果、会話 1 では話者 JSM01 は会話相手の JBM01 の「はい系」の使用に対して、不愉快に思っていないため、許容範囲以内に収まっており、ニュートラルの発話効果があったのだといえよう。

#### 8.3.4 日本人男性友人同士会話におけるあいづちの使用状況

最後に、日本人男性友人同士の会話に出てくるあいづちを下位分類し、6 会話の合計を集計すると、次の表 22 の通りである。

表 22 日本人男性友人同士の会話におけるあいづちの使用状況

あいづち	出現数	割合
うん系	353	57.31%
ああ系	79	12.82%
感動詞	44	7.14%
そう系	94	15.26%
ほんと系	1	0.16%
へー系	12	1.95%
はい系	12	1.95%
はあ系	2	0.32%
ええ系	2	0.32%
なるほど系	3	0.49%
おー系	14	2.27%
合計	616	100%

日本人男性友人会話に出てくるあいづちは「うん系」が一番多く、全体の半分以上の 57.31%を占めている。表 20 と比べると、日本人男性初対面会話に出てくるあいづちの「うん系」の 3.53%よりはるかに高い。つまり、日本人男性友人同士会話におけるあいづちの基本状態はカジュアルスタイルのあいづちの「うん系」（内藤 2003）の使用が大半を占めている。日本人男性友人同士の会話は初対面と同じようによく社会規範を守っているといえよう。親しくなると、無意識的にフォーマルスタイルのあいづちからカジュアルスタイルのあいづちへとシフトしている。

また、表 18 の日本人女性友人同士の会話と比べると、あいづちの使用状況は同じく一番高いのが「うん系」であり、二番目が「そう系」であり、三番目が「ああ系」である。しかし、具体的な割合を見てみると、男性友人会話では「うん系」が 57.31%であり、半分以上を占めている。それに対して、女性の場合は 36.29%である。一方、第二位の「そう系」の使用では女性は 34.58%であり、男性の 15.26%の約 2 倍になっている。

次に、具体的に各会話におけるあいづちの使用状況を見てみよう。日本人男性初対面の会話の場合、下記の表 23 に示したとおりである。太字の部分は各項目における割合の上位 2 位のものである。

表 23 日本人男性友人同士会話の各会話におけるあいづちの使用状況

会話番号	1		2		3		4		5		6	
	出現数	割合	出現数	割合	出現数	割合	出現数	割合	出現数	割合	出現数	割合
うん系	<b>75</b>	<b>64%</b>	<b>74</b>	<b>59%</b>	<b>63</b>	<b>61%</b>	<b>53</b>	<b>57%</b>	<b>76</b>	<b>60%</b>	<b>12</b>	<b>24%</b>
ああ系	8	7%	10	8%	<b>23</b>	<b>22%</b>	10	11%	13	10%	<b>15</b>	<b>31%</b>
感動詞	<b>14</b>	<b>12%</b>	2	2%	6	6%	10	11%	5	4%	7	14%
そう系	<b>14</b>	<b>12%</b>	<b>30</b>	<b>24%</b>	3	3%	<b>13</b>	<b>14%</b>	<b>23</b>	<b>18%</b>	11	22%
ほんと系	1	1%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
へー系	0	0%	1	1%	0	0%	1	1%	6	5%	4	8%
はい系	2	2%	2	2%	4	4%	2	2%	2	2%	0	0%
はあ系	0	0%	1	1%	1	1%	0	0%	0	0%	0	0%
ええ系	1	1%	0	0%	1	1%	0	0%	0	0%	0	0%
なるほど系	0	0%	0	0%	0	0%	3	3%	0	0%	0	0%
おー系	3	3%	6	5%	3	3%	1	1%	1	1%	0	0%
合計	118	100%	126	100%	104	100%	93	100%	126	100%	49	100%

表 23 を見てみると、上位 2 位以内のあいづちに「うん系」が 6 会話全てにおいて入っている。そのほかに「ああ系」、「そう系」、感動詞が観察された。会話 6 以外の会話は「うん系」のあいづちが一番多いのである。さらに、あいづちの出現回数から見れば、他の会話の 100 前後と比べると、会話 6 では 49 しかない。つまり、会話 6 は基本状態から離脱しているといえよう。

自己開示の観点から会話 6 について分析する。Jourard&Lasakow (1958) によって、はじめて用いられた自己開示 (Self-Disclosure) は、「自己についての心理的、個人的な情報を他者に伝えること、すなわち、自分の諸側面を他者に打ち明けることであり、一般に他者との結合を強める効果をもつ行為性をさしている」。特に、自分自身の情報を特定の他



者に対して言語を通して伝達する場合に、これを自己開示と言う。言い換えれば、自己開示とは自分のことを人に話すことである。自己開示に関する研究では、一つは開示される情報の深さの問題がある。例えば、性格のこと、金銭問題を他者に話す場合、趣味、学校生活などに比べて、表層的な感じより内面に深く入り込んだ情報とみることができる。

Jourard&Lasakow (1958) は開示度を測定する調査票 (JSDQ) を初めて用いたが、今日の自己開示研究は、ほとんどがその調査票をもとに作成されている。Jourard&Lasakow (1958) で問題としている開示領域は、趣味、身体 (身体や外観)、学校生活 (勉学)、性格、社会観 (意見や態度)、金銭の 6 領域である。加藤 (1977) や武内 (1982) の研究は「趣味 (関心)」「身体 (身体や外観)」「学校生活 (勉学)」「性格」「社会観 (意見や態度)」「友人関係」「異性関係」「金銭」の計 8 領域、40 項目とする調査票を用いた。

松原・齊藤 (2009) では、親しい同性の友人の方が一般的な友人よりも自己開示量が多いことが報告されている。また、開示対象者が、親しい友人のときと初対面の人のときでは、自己開示の深さの各レベルそれぞれの自己開示量に違いがみられることが指摘されている。

田中 (2013) では、主観的類似度、信頼感、好意度が自己開示を促進することが報告されている。また、開示対象者との親密化が進むにつれて自己開示量が増大し、開示内容は徐々に自己の深い領域に進むことが指摘されている。

丹羽・丸野 (2010) では、「自己開示の深さを測る尺度」が作成されている。これは Altman & Taylor (1973) が提唱した社会浸透理論の「深層的な自己開示を行う際の情報には、自分の弱点や社会的に望ましくない側面のような否定的内容が含まれるようになり、特定の状況下の個々の行動よりも性格特性のような、不変的な情報が含まれるようになる」という理論的枠組みを参考にしながら、「自己の深さにはいくつかのレベルがあり、レベルが深くなるにつれて自己の不定的な側面や特定の文脈を超えた自分の特性に関係したものになる」という記述に基づき、自己開示の深さを 4 つのレベルに分類して、それぞれの自己開示量を測定するものである。自己開示の深さを測る尺度の 4 つのレベルは以下のように構成されている。4 つの下位尺度のなかで最も浅いレベルとして、自分の趣味に関する情報の自己開示であるレベル I 「趣味」を設けている。レベル I よりも深い自己開示の下位尺度は、「つらい経験をどのように乗り越えてきたかということ」など、自分の困難な経験に関するものとしてレベル II 「困難な経験」がある。レベル II よりも深い自己開示の下位尺度としては、「直さなければならないと思っているが、なかなか直らないささいな欠点」など、自分の不偏的行動の決定的ではない欠点や弱点に関するレベル III 「決定的ではない欠点や弱点」を設けている。そして 4 つの下位尺度のなかで最も深いレベルとしては、「自分の性格のすごく嫌いなところ」など、自分の性格や能力などの否定的側面に関するものであるレベル IV 「否定的な性格や能力」を設定している。また、開示対象者が、親しい友人のときと初対面の人のときでは、自己開示の深さの各レベルそれぞれの自己開示量に違いがみられることが指摘されている。榎本 (1997) と岡田 (2007) では、開示しにくい側面は、男女と

もに、性的側面、血縁的自己だと指摘した。

日本人男性友人同士会話で選択された話題は以下の表 24 に示したとおりである。自己開示の観点から分析すると、会話 1 の「サッカー部の殴り合いや部員への不満」、会話 2 の「元彼女の話」、会話 3 の「電車での痴漢」、会話 5 の「メル友の自殺の話」などは自分や他人のつらい経験であり、レベルⅡの「困難な経験」にとどまっているといえよう。一方、会話 4 では「進級できないという悩みの相談」という自分の能力の否定的側面に関するものであるレベルⅣ「否定的な性格や能力」という自己開示の度合いが一番高いレベルに達しているといえよう。会話 6 では同じように「自分の飲み会の醜態」という自分の性格の否定的側面に関するものであるレベルⅣ「否定的な性格や能力」という自己開示の度合いが一番高いレベルになっている。さらに会話 6 では「風俗やキャバクラ」という性的側面の話題が出てきている。つまり、会話 6 は会話 4 よりもっと自己開示の度合いが高いといえよう。表 23 に示したように、会話 1、2、3、5 のあいづちの出現回数は 100 以上である。しかし、会話 4 のあいづちの出現回数は 93 であり、会話 6 のあいづちの出現回数は 49 にすぎない。要するに、自己開示の度合いが高くなるにつれて、あいづちの頻度が低くなる傾向があると推測できる。会話 6 では自己開示の度合いがより高いために、あいづちの出現回数が低くなるわけである。

表 24 日本人男性友人同士で選択された話題

1 (17)	キャンパス、学食、朝食、ジム、サークルの練習、試合、ドラマ、予備の話題、サークルの部員、知り合いの女の子、アニメ、自分の性格、進路、野球部、サッカー部の殴り合いのけんかのこと、部員への不満、飲み会
2 (16)	写真、プリクラ、彼女の話、サークル、話者の元彼女、デート、通学、会話相手の元の彼女、元彼女との奇遇、会話時間、予備の話題、学会、好きな子、好きなタイプ、サークルの部員、マネージャー
3 (15)	朝食、旅の計画、予算、絶叫マシン、彼女の作り方、旅行の準備、リュック、腹巻、『あいのり』、予備の話題、相手をもてもての話、尾行されたこと、電車での痴漢、共通の知人、うわさ話（○○君が○○子を狙っている）
4 (20)	バイト、お菓子の食べ方、予備の話題、レポート、進級できないこと、出席率、ダイエット、英語の授業、成績、試験、飲酒、飲み会、酔っ払いの時の醜態、金のネックレスをなくしたこと、二日酔い、飲み代、飲み屋、小説、勉強、共通の知人
5 (17)	調査について、留学の説明会、トイフル、会話時間、留学の場所、留学の同伴者、チャットと bbs の区別、メル友の自殺の話、(体の関係があるかどうかの確認)、予備の話題、共通の知人、好きなタイプ、彼女の作り方、恋の好み、プリクラ、サークル、ラジオ放送、この大学の学生の特徴

6 (20)	スタート、最近のこと、救急車に運ばれたこと、事故にあった経緯、恋の悩みの相談、飲み会の醜態、研究会、先生、アンケート、予備の話題、ライブ、授業、カラオケ、学園祭、サークルの仲間、試合、彼女との関係、風俗、キャバクラ、バイト
-----------	---

#### 8.4 中国人会話におけるあいづちの頻度

徐晓娟・刘春梅（2011）では親疎関係の異なるデータを収集し、中国人会話のあいづちの頻度を分析した。ただし、疎の関係に設定したのは実際の初対面会話ではなく、テレビの対談番組であり、親の関係の友人同士の会話と比較するうえで同じ次元のものではないように思われる。そこで、本研究ではベース協力者を設けてそれぞれの初対面会話と友人会話のあいづちの頻度を分析することにした。

日本人の会話データと同じように、中国人のあいづちの頻度についても2つの観点から分析する。一つは総発話数に対するあいづちの比率（楊晶 1997 など）である。もう一つは時間当たりのあいづちの回数（楊晶 1997 など）である。

##### 8.4.1 中国人会話の総発話数に対するあいづちの比率

###### 8.4.1.1 中国人女性会話の総発話数に対するあいづちの比率

中国人女性初対面会話と友人同士の会話という親疎関係が異なる会話におけるそれぞれの総発話数に対するあいづちの比率は、表 25 と表 26 に示す通りである。

表 25 中国人女性初対面会話総発話数に対するあいづちの比率

会話番号	あいづち 数	総発話文数	割合
1	117	450	26.00%
2	88	391	22.51%
<b>3</b>	<b>104</b>	<b>479</b>	<b>21.71%</b>
4	66	447	14.77%
5	82	525	15.62%
6	86	497	17.30%
平均	91	465	19.57%

表 26 中国人女性友人同士の会話総発話数に対するあいづちの比率

会話番号	あいづち 数	総発話文数	割合
1	24	251	9.56%
2	17	283	6.01%

3	76	309	24.60%
4	36	362	9.94%
5	39	284	13.73%
6	61	412	14.81%
平均	42	317	13.25%

グローバルな観点からみれば、中国人女性のあいづちの出現率は、疎の関係にある初対面会話の19.57%が親の関係である友人同士の会話の13.25%より高いことが分かった。つまり、中国人女性会話のあいづちの基本状態は、友人同士会話より初対面会話のほうがあいづちが多いというものである。日本人のあいづちの基本状態と比べると、出現率は日本人の方が高いが、疎の関係である初対面会話の方があいづちが多いという傾向は同じである。

中国人女性初対面と友人同士のあいづちの出現率を比べると、中国人の会話の中では会話3だけ、友人同士のあいづちの出現率の24.60%が初対面の21.71%を上回った。これは基本状態から離脱した言語行動だといえよう。そこで、具体的に友人同士の会話3(CWB03-CWF03)の例7を見てみよう。

例7

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
8	8	*	CWB03	你聊一下你跟豆豆复合的事吧。 (彼氏の「豆豆」とよりを戻した話を話しましょう。)
9	9	*	CWF03	不会吧。(まさか。)
10	10	*	CWB03	我真的很想知道。(だってすごく知りたいもん。)
11	11	*	CWF03	真想知道啊?。(本当に知りたいの?。)
12	12	*	CWB03	嗯, 没事儿, 说说吧。(うん、大丈夫だよ、話して。)
13	13	*	CWF03	也没什么其实。(実はなにもないの。)
14	14	*	CWB03	<边笑边说>咋回事呀, 他勾搭你呀, 还是你勾搭他呀?<笑>。 (<笑いながら>いったいどういうことなの? 彼が先にあなたを誘惑したの? それとも、あなたが先に彼を誘惑したの?<笑い>)
15	15	*	CWF03	你..., 你赶紧从实招来, 你那位, 谁呀?。(ねえ..., 早く教えてよ。あなたの彼は誰?)
16	16	*	CWB03	我没有, 我真没有人。(いないよ、本当にいないよ。)
17	17	*	CWF03	真的假的呀?。(ほんとなの?)
18	18	*	CWB03	真的没有。(ほんとにいない。)

19	19	*	CWF03	都说后边有一个人也不知道是谁，然后说，有那个什么。 (あなたにだれかいるといううわさを聞いたよ。で、あの……。)
20	20	*	CWB03	嗯，他是对我挺好的，但我不准备答应他。 (うん、彼は私のことが好きみたいだけど、断るつもり)
21	21	*	CWF03	谁呀?谁呀?。(誰、誰?)
22	22	*	CWB03	你先给我讲，讲完你跟豆豆的事儿我再告诉你，我先问的。 (まず彼氏の豆豆とのことを教えてくれたら話すよ。私が先に質問したからね)
23	23	*	CWF03	行，嗯，我们两个其实也没什么，就是后来也没联系嘛。 (うん、わかった。実は私たちは特になにもないんだよ。その後、連絡がないの。)
24	24	*	CWB03	嗯。(うん。)
25	25	*	CWF03	一直没联系。(ずっと連絡がないの。)
26	26	*	CWF03	然后是，我也不知道怎么着，反正就联系上了又，然后又联系，后来他又那个，对，他那个回家了嘛不是，然后就一直没联系，一直来了之后他就跟我联系嘛。 (で、その後、私もよく分からないけど、とにかく連絡が取れた。で、連絡してた。それから彼はね、あの、そう、実家に帰ったでしょう。その後、ずっと連絡がなくて、こっちに来てからまた連絡してくれたの。)

会話の最初の部分ではライン番号 8 でベース協力者の CWB03 は会話相手に彼氏である「豆豆」と分かれてからまたよりを戻したことについて話してほしいという気持ちを伝えた。ライン番号 10「我真的很想知道。(だってすごく知りたいもん。)」、ライン番号 12「嗯，没事儿，说说吧。(うん、大丈夫だよ、話してね。)」、ライン番号 14「咋回事呀，他勾搭你呀，还是你勾搭他呀?(いったいどういうことなの?彼が先にあなたを誘惑したの?それとも、あなたが先に彼を誘惑したの?)」というように、何回も相手に聞いたのである。つまり、それは相手の他人に邪魔されたくないというネガティブ・フェイスを侵害する行為だといえよう。

しかし、宇佐美 (1998、2001ab、2002 など) の DP 理論に基づき、フォローアップアンケートを調べた結果、会話相手の CWF03 は不愉快には思わなかったため、それは許容範囲以内だと判断されており、ニュートラル効果であったといえよう。

一方、会話相手の CWF03 はライン番号 15 では「你…，你赶紧从实招来，你那位，谁呀?。(あなた…、早く教えてね。あなたの彼は誰?)」というベース協力者の付き合っている人のことを聞きだそうとしている。自分と彼氏的话题を避けるために、まずベース協力者の

彼氏の話題に移そうとした。ベース協力者の CWB03 はまず彼氏がいることを否定したが、会話相手はそれを信じなかったため、ライン番号 20 では「嗯，他是对我挺好的，但我不准备答应他。（うん、彼は私のことが好きみたいだけど、断るつもり）」ということを教えた。「谁呀？谁呀？。（誰、誰？）」という問い詰めに対して、「你先给我讲，讲完你跟豆豆的事儿我再告诉你，我先问的。（まず彼氏の豆豆とのことを教えてくれたら話すよ。私が先に質問したからね）」(ライン番号 22)と答えた。そこで、その次は会話相手の CWF03 は彼氏とよりを戻した経緯を話した。

会話相手の CWF03 と彼氏の話が一段落すると、ベース協力者が約束通りに付き合っている人がいるかどうかという話題に戻るはずであったが、例 8 におけるライン番号 39 のようにベース協力者 CWB03 は「反正，我最近吧，感觉最近特别忙。（とにかく、最近はね、忙しく感じるの。）」という全く関係ない話題を話し始めた。

#### 例 8

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
39	38	*	CWB03	反正，我最近吧，感觉最近特别忙。（とにかく、最近はね、忙しく感じるの。）
40	39	*	CWF03	嗯。（うん。）
41	40	*	CWB03	一天到晚不停地忙，其实我也挺喜欢比较忙的生活。（朝から晩まで忙しくて、実は忙しい生活が好きなの。）
42	41	*	CWF03	嗯。（うん。）
43	42	*	CWB03	然后，就是，哎呀怎么说呢，有时候，然后今天中午就发现其实吧有时候你你这个事儿是堆在一起的，你让自己感觉很忙，其实你要做起来的话，其实也没那么忙。 （で、なんと言ったらいいいのか、ある時、で、今日の昼はね、やることがいっぱいあって忙しく感じるんだけど、実はね、やり始めると、そんなに忙しくはないのかも。）
44	43	*	CWF03	嗯。（うん。）
45	44	*	CWB03	我就感觉今天中午确实是特别着急，因为上午的话，曾导发短信让我下午拿着 PPT 过来。（今日の昼はね、確かにすごく焦っていたんだ、午前中はね、指導員の曾先生の携帯から午後 PPT を持ってきてというメッセージがきたんだ。）
46	45	*	CWF03	嗯。（うん。）
47	46	*	CWB03	然后周五就要答辩，就很突然，因为之前吴家斌跟我说他们周四答辩，我给书记打电话，他说可能推到下周了，先让我们做准备，

				但是我们俩，说实话，就没好好弄嘛。 （で、金曜日は中間発表があるって、いきなりだね、この前、吴家斌さんから木曜日に中間発表があるって聞いてたんで、書記 <sup>51</sup> に電話したら、来週に延ばすかも、でもまず準備しといてっていう返事だった、正直に言うと、うちらはちゃんとやっていないんだよ。）
48	47	*	CWF03	嗯。（うん。）
49	48	*	CWB03	然后，后来中午就也没吃饭，跑回宿舍弄那个，然后那个张艳不是<边笑边说>逃课了嘛，呵呵呵，然后她回去提前做一下 PPT，中午发给我，然后我又改了一下。 （で、昼ごはん食わずに寮に帰ってあれやってて、で、张艳さんが<笑いながら>授業をサボったの、あはは、で、彼女が PPT を作っというて、昼あたり私に送ってくれたから、で、さらにそれを修正したの。）
50	49	*	CWF03	你还没跟我说那个、那个、那个幕后的那。（あの、あの、あの陰であなたを支えている人のことはまだ話していないよね）

さらに金曜日の中間発表会のために、同級生と PPT を作ったりするとか、全く違う方向へと話題を展開しようとしている。会話相手 CWF03 はベース協力者 CWB03 の話を促すように、あいづち「うん」の多用(ライン番号 40、42、44、46、48)が観察された。

ベース協力者 CWB03 はなかなか彼氏の話に触れようとしないうちに、ライン番号 50 では会話相手 CWF03 はようやく「你还没跟我说那个、那个、那个幕后的那。（あの、あの、あの陰であなたを支えている人のことはまだ話していないよね）」と切り出した。つまり、会話相手はベース協力者の話を待っていたが、なかなか教えてくれなかったために、他人に邪魔されたくないというネガティブ・フェイス侵害行為に踏み出したのである。戴锦君・吴蕾（2012）で指摘されたように、話者にその話題をやめてもらうためには、あいづちを多用する傾向がある。ベース協力者が全く関係のない話をしているとき、会話相手は絶えずあいづちを打つことで、今の話に興味がないことを示している。あいづちというストラテジーでベース協力者にそういうメッセージを送っていたと考えられる。

しかし、ベース協力者はそのメッセージに気付いていないようで、ずっと違う話を進めたために、会話相手は仕方なくフェイス侵害度のより高い言語行動を取ったのである。宇佐美（1998、2001ab、2002 など）の DP 理論に基づき、会話終了後のフォローアップアンケートを調べた結果、そういうことに不愉快に思わなかったことからみれば、許容範囲以内におさまっており、ニュートラル効果となっている。こういうやり取りがあったために、

<sup>51</sup> 書記とは院長と同じような地位の責任者である。院長は行政上の職務であるのに対して、書記は共産党員のリーダーである。

会話 3 では友人同士会話全体のあいづちの出現率が高くなったのであろう。このようにして、会話 3 の友人同士のあいづちの出現率の 24.60%が初対面の 21.71%を上回る結果となったのだと解釈できる。

さらに、表 26 を分析してみると、会話 2 のあいづちの出現率は 6.01%であり、平均値の 13.25%の半分よりも低い結果となっている。具体的に中国人女性友人同士の会話 2 の発話内容を見てみると、主に大学院の志望校、希望する就職地域、先輩の大学院の入試の結果などという進路に関わる話題が選択されている。楊晶(1999)で指摘されたように、「非常に重要な話、新情報、相手のほうがより詳しい内容の場合には、(あいづちの)頻度が低くなる」としている。会話 2 では、大学院の希望校、希望する就職地域という人生において重要な話題、先輩の大学院の入試の結果という新情報に触れているために、他の会話と比べると、あいづちの頻度が低くなるのではないかと思われる。

#### 8.4.1.2 中国人男性会話の総発話数に対するあいづちの比率

中国人男性初対面会話と友人同士会話という親疎関係が異なる会話では、それぞれの総発話数に対するあいづちの比率は表 27 と表 28 に示す通りである。

表 27 中国人男性初対面会話総発話数に対するあいづちの比率

会話番号	あいづち数	総発話文数	割合
会話 1	69	391	17.65%
会話 2	76	310	24.52%
<b>会話 3</b>	<b>47</b>	<b>292</b>	<b>16.10%</b>
会話 4	65	326	19.94%
会話 5	127	642	19.78%
会話 6	97	409	23.72%
平均	80	395	20.25%

表 28 中国人男性友人同士会話総発話数に対するあいづちの比率

会話番号	あいづち数	総発話文数	割合
会話 1	49	370	13.24%
<b>会話 2</b>	<b>83</b>	<b>379</b>	<b>21.90%</b>
<b>会話 3</b>	<b>13</b>	<b>235</b>	<b>5.53%</b>
会話 4	35	282	12.41%
会話 5	48	448	10.71%
会話 6	37	260	14.23%
平均	44	329	13.37%



グローバルな観点からみれば、中国人男性のあいづちの出現率では疎の関係にある初対面会話の 20.30 %は親の関係である友人同士の会話の 13.37%より高いことが分かった。つまり、中国人男性会話のあいづちの基本状態は友人同士会話より初対面会話のほうがあいづちが多いということである。中国人女性と同じ傾向が観察された。

中国人のあいづちの使用状況の全体像をみるために、表 25、26、27、28 の結果を図 2 に示す。

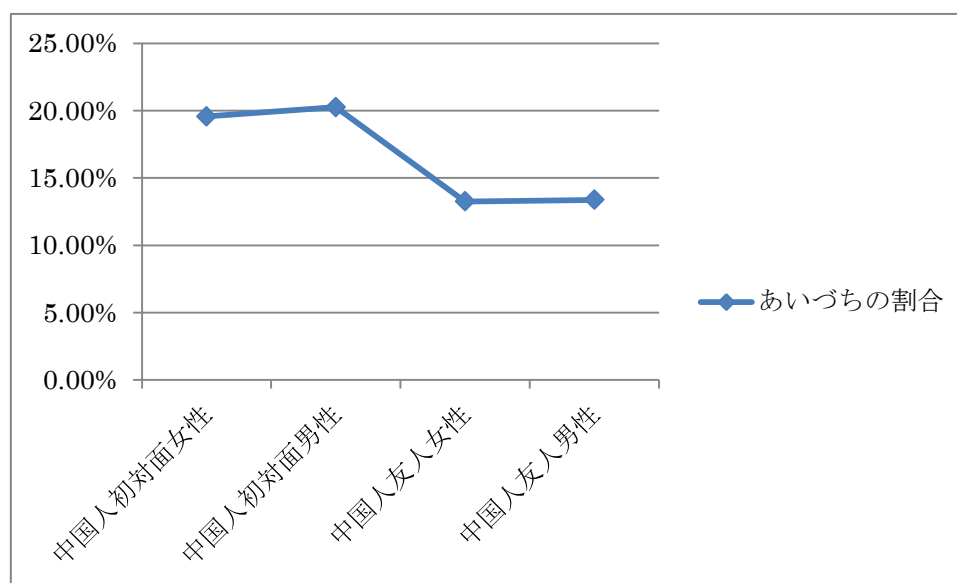


図 2 中国人のあいづちの使用状況

図 2 をみると、中国人は男女を問わず、友人同士会話のあいづちに比べると、初対面会話のあいづちの割合が高いことが明らかになった。これは日本人のあいづちと同じような傾向である。

まとめてみると、中国人会話の基本状態は初対面会話の方が友人同士よりあいづちの出現率が高いということである。それは徐晓娟・刘春梅 (2011) の研究結果と同じである。ただし、徐晓娟・刘春梅 (2011) では疎の関係に設定した研究対象は「杨澜访谈录」というテレビ番組であった。本研究は親疎関係の異なる自然会話で改めてその傾向を証明した。疎の関係である初対面の会話相手と話す場合は、親の関係である友人同士の会話と比べると、フェイス侵害度のより高い言語行動だと思われる。そのため、よりポライトな言語表現が必要である。あいづちはちゃんと相手の話を聞いているというメッセージとしてその役割を果たしているといえよう。

次に具体的に中国人男性のあいづちの比率をみる。2つの表を比べると、多少のばらつきがあるが、6 会話全てにおいて初対面会話のあいづちの出現率が友人同士より高い。初対面

のあいづちの出現率が一番低いのは会話3の16.10%である。平均値の20.25%という基本状態から離脱してしまっているといえよう。フォローアップアンケートを調べると、会話3だけはベース協力者CMB3と会話相手CMN3の双方とも相手と非常に話しやすいと判断していた。

ベース協力者CMB3は会話相手CMN3に対しての印象は「気さくな方だし、おしゃべりが好きだし、気が合うし、共通の話題が見つかりやすい」と親しみを感じている様子である。一方、会話相手CMN3はベース協力者CMB3に対しての印象は「気さくな方で、おしゃべりが好きだ」と答えた。つまり、二人は互いに好感度が高く親しみを感じているようである。したがって、あいづちの使用頻度は初対面会話より友人同士会話に近く比較的低い結果となったのであろう。宇佐美(1998, 2001ab, 2002など)のDP理論に基づき、会話終了後のフォローアップアンケートを調べた結果、不愉快に思わなかったということからみれば、疎の関係である初対面でも、気が合い親しみを感じる会話なら、あいづちをそれほど頻繁に打たなくても、許容範囲に収まり、ニュートラル効果となったのである。

さらに中国人男性友人同士のあいづちの比率をみると、一番高いのは会話2の21.90%である。友人同士の平均値の13.37%よりかなり高いと見られる。具体的に男性友人同士の会話2を分析すると、6会話の中では唯一最初から最後までゲームの話題で盛り上がっていたのである。楊晶(1999)で指摘されたように、「関心事、気楽な話、共有知識や共感を持つような話では(あいづちの)頻度が比較的高い」と考えられる。会話2ではゲームという双方が関心を持っている共通の気楽な話題をめぐって話し合っていた。そこで、他の会話と比べると、あいづちの頻度が高い結果となったのだといえよう。しかも、ベース協力者CMB02は会話相手CMF02よりゲームに詳しいため、ゲームの内容について説明する機会が多かったようである。会話相手CMF02がベース協力者CMB02の説明を理解していることを示すために、あいづちが多用されたと考えられる。したがって、表29に示したように、全体的に会話相手CMF02のあいづちの導入の頻度は66.27%となり、それに対してベース協力者CMB02のあいづちの導入の頻度はわずか33.73%にすぎない。

表29 中国人男性友人会話2における各項目の頻度及び割合

話者	u (あいづち)		n (非あいづち)	
	頻度	割合	頻度	割合
CMB02	28	33.73%	167	58.39%
CMF02	55	66.27%	119	41.61%
合計	83	100.00%	286	100.00%

つまり、中国人男性友人同士の会話2ではベース協力者CMB02は話し手の役割を、会話相手CMF02は聞き手の役割を果たしている場面が多い。しかも、話題導入の頻度は4.51%であり、6会話の中で一番低い。言い換えれば、同じ20分の会話で、一つの話題について

長く話し合う傾向があったのである。話し手であるベース協力者 CMB02 がゲームについて説明する時、ちゃんと理解していることを示すために、会話相手 CMF02 はたえずあいづちを打ったりする。しかも、宇佐美 (1998、2001ab、2002 など) の DP 理論に基づき、会話終了後のフォローアップアンケートを調べた結果、二人とも不愉快に思わなかったという結果からみれば、このような会話のパターンは友人である二人にとって許容範囲に収まっており、ニュートラルな発話効果となっているといえよう。

また、中国人男性友人同士の会話であいづちの出現率が一番低いのは会話 3 であり、5.53% しかない。具体的に会話 3 を見てみると、ベース協力者はふるさとの鉱山の採石のことを紹介したり、汽車に間に合わなかった経緯を話したり、ゲームの仲間のことを紹介したりして、独話的な発話が多い。つまり、相手に確認したりするようなあいづち的な発話を求める必要がないような話題である。そのため、結果としてあいづちの出現率が低くなったのであろう。宇佐美 (1998、2001ab、2002 など) の DP 理論に基づき、会話終了後のフォローアップアンケートを調べた結果、不愉快に思わなかったということで、中国人男性友人同士の会話では独話的な発話が多い場合、あいづちの頻度が低くても、許容範囲以内におさまっており、ニュートラル効果となると推測できる。

#### 8.4.2 中国人会話の時間当たりのあいづちの回数

楊晶 (1997) では、中国人会話のあいづちは平均して 5 秒に一回という結果を得ている。「そのうち、言語的表現の頻度に関してはかなりの個人差が観察され、人によっては 9.2 秒や 3.7 秒となる」と指摘した。ただし、楊晶 (1997) の研究対象は学校の事務室で初対面の女性事務員に情報を教えてもらうという場面である。この場合一方的に説明する必要があるために、聞き手側はあいづちの頻度が高くなると予想される。そこで、本研究では条件統制された中国人初対面と友人同士の会話データに基づいて、普段の自然会話のあいづちの頻度を分析する。

##### 8.4.2.1 中国人女性会話の時間当たりのあいづちの回数

まず、中国人女性初対面と友人の会話データを 3.3 節で述べた基準に従って、ラインごとに、コーディングし、あいづちと判断されるラインの数を集計した。さらに、会話時間 20 分つまり 1200 秒をあいづちの総数で割ると、その結果は表 30 と表 31 の通りである。

表 30 中国人女性初対面会話のあいづち間の時間

会話番号	あいづち数	時間 (秒)	秒数 (秒 / あいづち)	時間 (分)	分数 (分 / あいづち)
会話 1	117	1200	10.26	20	0.17
会話 2	88	1200	13.64	20	0.23
会話 3	104	1200	11.54	20	0.19

会話 4	66	1200	18.18	20	0.30
会話 5	82	1200	14.63	20	0.24
会話 6	86	1200	13.95	20	0.23
平均	91	1200	13.26	20	0.22

表 31 中国人女性友人同士会話のあいづち間の時間

会話番号	あいづち数	時間 (秒)	秒数 (秒 / あいづち)	時間 (分)	分数 (分 / あいづち)
会話 1	24	1200	50	20	0.83
会話 2	17	1200	70.59	20	1.18
会話 3	76	1200	15.79	20	0.26
会話 4	36	1200	33.33	20	0.56
会話 5	39	1200	30.77	20	0.51
会話 6	61	1200	19.67	20	0.33
平均	42	1200	28.46	20	0.48

表 30 に示したように、中国人女性初対面会話の場合は平均で 13.26 秒に一回の頻度であいづちが打たれる。一方、表 31 に示したように、中国人女性友人同士の会話では平均で 28.46 秒に一回の頻度であいづちが観察された。つまり、中国人女性友人同士のあいづち間の時間は初対面の場合より長いのである。

しかし、初対面会話も友人会話も楊晶(1997)の平均して 5 秒に一回という結果より時間的に長い。それは楊晶(1997)では言語的なあいづちだけでなく、うなずきなどの非言語的表現も入れたためである。さらに、あいづち詞のほかに、繰り返し、言い換え、先取り、話し手の話に対する感想や意見などの実質的な発話まであいづちと判断しており、つまり、広義にあいづちをとらえているのである。本研究は純粋なあいづち詞だけを研究対象としているため、初対面と友人の両方の場面であいづち間の時間が長くなったわけである。

#### 8.4.2.2 中国人男性会話の時間当たりのあいづちの回数

次に女性データと同じ手順で中国人男性初対面と友人同士の会話データをコーディングし、それぞれのあいづち間の時間を表 32 と表 33 にまとめた。

表 32 中国人男性初対面会話のあいづち間の時間

会話番号	あいづち数	時間 (秒)	秒数 (秒 / あいづち)	時間 (分)	分数 (分 / あいづち)
会話 1	69	1200	17.39	20	0.29

会話 2	76	1200	15.79	20	0.26
会話 3	47	1200	25.53	20	0.43
会話 4	65	1200	18.46	20	0.31
会話 5	127	1200	9.45	20	0.16
会話 6	97	1200	12.37	20	0.21
平均	80	1200	14.97	20	0.25

表 33 中国人男性友人同士会話のあいづち間の時間

会話番号	あいづち数	時間 (秒)	秒数 (秒 / あいづち)	時間 (分)	分数 (分 / あいづち)
会話 1	49	1200	24.49	20	0.41
会話 2	83	1200	14.46	20	0.24
会話 3	13	1200	92.31	20	1.54
会話 4	35	1200	34.29	20	0.57
会話 5	48	1200	25	20	0.42
会話 6	37	1200	32.43	20	0.54
平均	44	1200	27.17	20	0.45

表 32 に示したように、中国人男性初対面会話の場合は平均で 14.97 秒に一回の頻度であいづちが打たれている。一方、表 33 に示したように、中国人男性友人同士の会話では平均で 27.17 秒に一回の頻度であいづちが観察された。中国人男性の会話でも女性と同じような傾向が見られた。つまり、中国人男性友人同士のあいづち間の時間は初対面より長いのである。男性と女性のデータの結果をまとめると、中国人会話の基本状態は初対面会話より、友人同士会話のほうが、あいづち間の時間が長いのである。

## 8.5 中国人会話におけるあいづちの使用状況

さらに、言語形式の観点から、8.1.2.2 中国語のあいづちの分類の基準にしたがって、中国語会話データに出現するあいづちを下位分類する。その中の 20% を第二評定者(男性、言語学博士)にコーディングしてもらい、評定者間信頼数係数をとったところ、カッパ係数 0.82 が得られたので、分類は妥当なものといえる。

### 8.5.1 中国人女性初対面会話におけるあいづちの使用状況

まず、中国人女性初対面会話におけるあいづちを下位分類し、6 会話の合計を集計すると、次の表 34 の通りである。

表 34 中国人女性初対面会話におけるあいづちの使用状況

あいづち	出現数	割合
<b>哦系</b>	<b>99</b>	<b>18.23%</b>
<b>啊系</b>	<b>107</b>	<b>19.71%</b>
是系	13	2.39%
<b>嗯系</b>	<b>182</b>	<b>33.52%</b>
<b>对系</b>	<b>117</b>	<b>21.55%</b>
就是系	10	1.84%
呃系	1	0.18%
哎系	2	0.37%
感动词	12	2.21%
真的系	0	0.00%
合計	543	100%

表 34 に示したように、中国人女性初対面会話に出現するあいづちの中では、「嗯系」が一番多くて全体の 33.52%を占めている。次いで多いのは「对系」であり、21.55%を占めている。「啊系」と「哦系」はそれぞれ 19.71%と 18.23%であり、三位と四位となっている。つまり、中国人女性初対面会話におけるあいづちの基本状態は「嗯系」が一番多く全体の 3 割強を占めている。次いで「对系」であり、2 割強を占めている。三位と四位の「啊系」と「哦系」はそれぞれ 2 割弱を占めている。日本人女性会話のあいづちと同じように 4 種類のあいづちが多用されている。興味深いのは中日女性初対面会話におけるあいづちが一番多いのは「うん系」と「嗯(ng)系」の発音が類似していることである。

次に具体的に各会話におけるあいづちの使用状況を見てみよう。中国人女性初対面会話の場合、下記の表 35 に示したとおりである。太字の部分は各項目における割合の上位 2 位のものである。会話 3 と会話 6 以外は「嗯系」が上位 2 位以内に入っている。他の項目はかなりのばらつきが観察された。

表 35 中国人女性初対面会話の各会話におけるあいづちの使用状況

会話番号	1		2		3		4		5		6	
	出現数	割合	出現数	割合	出現数	割合	出現数	割合	出現数	割合	出現数	割合
哦系	7	6%	<b>40</b>	<b>45%</b>	11	11%	3	5%	13	16%	<b>25</b>	<b>29%</b>
啊系	<b>35</b>	<b>30%</b>	0	0%	<b>31</b>	<b>30%</b>	6	9%	6	7%	<b>29</b>	<b>34%</b>
是系	2	2%	2	2%	0	0%	3	5%	2	2%	4	5%
嗯系	<b>48</b>	<b>41%</b>	<b>27</b>	<b>31%</b>	20	19%	<b>43</b>	<b>65%</b>	<b>34</b>	<b>41%</b>	10	12%

対系	20	17%	18	20%	<b>39</b>	<b>38%</b>	3	5%	<b>22</b>	<b>27%</b>	15	17%
就是系	5	4%	0	0%	3	3%	1	2%	0	0%	1	1%
呃系	0	0%	1	1%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
哎系	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	2%	0	0%
感动词	0	0%	0	0%	0	0%	<b>7</b>	<b>11%</b>	3	4%	2	2%
真的系	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
合計	117	100%	88	100%	104	100%	66	100%	82	100%	86	100%

### 8.5.2 中国人女性友人会話におけるあいづちの使用状況

一方、中国人女性友人同士の会話に出てくるあいづちを下位分類し、6会話の合計を集計すると、次の表36の通りである。

表36 中国人女性友人同士会話におけるあいづちの使用状況

あいづち	出現数	割合
哦系	11	4.35%
<b>啊系</b>	<b>38</b>	<b>15.02%</b>
是系	19	7.51%
<b>嗯系</b>	<b>95</b>	<b>37.55%</b>
<b>对系</b>	<b>67</b>	<b>26.48%</b>
就是系	6	2.37%
呃系	0	0.00%
哎系	3	1.19%
感动词	11	4.35%
真的系	3	1.19%
合計	253	100%

表36に示したように、中国人女性友人同士会話に出現するあいづちの中では、初対面と同じように、「嗯系」が一番多く全体の37.55%を占めている。次いで多いのは「对系」であり、26.48%を占めている。第三位は「啊系」であり、全体の12.15%である。つまり、中国人女性友人同士会話における基本状態は「嗯系」が一番多く4割弱を占め、二番目の「对系」は3割弱であり、3番目の「啊系」は1割強である。一方、日本人女性友人会話におけるあいづちの上位3位はそれぞれ「うん系」「そう系」「ああ系」である。「うん系」「ああ系」の発音は「嗯系」「啊系」と似ている。「そう系」の意味は「对系」と類似しているところからみれば、中日女性友人会話におけるあいづちには共通性があるようである。

表36と表34を比べると、同じ一会話20分間の6会話では、中国人女性初対面会話におけるあいづちの出現総回数は534であり、一方、友人同士会話におけるあいづちの出現総

回数は 253 であり、およそ半分しかない。要するに、中国人女性友人会話におけるあいづちの出現総回数は初対面会話の半分に過ぎない。さらに、あいづちの種類をしてみると、中国人女性初対面会話のあいづちは主に「嗯系」「对系」「啊系」「哦系」という四つに集中しているのに対して、友人同士の会話は「嗯系」「对系」「啊系」という 3 つになっている。

次に具体的に各会話におけるあいづちの使用状況を見てみよう。中国人女性友人同士の会話の場合、下記の表 37 に示したとおりである。太字の部分は各項目における割合が一番高いものである。6 会話中の 3 会話は「对系」が一番多く観察された。それは中国人女性友人同士の会話では相手との共感を示す「对系」というポジティブ・ポライトネス・ストラテジーが多用される傾向があるといえよう。

表 37 中国人女性友人会話の各会話におけるあいづちの使用状況

会話番号	1		2		3		4		5		6	
	出現数	割合	出現数	割合	出現数	割合	出現数	割合	出現数	割合	出現数	割合
哦系	0	0%	5	29%	1	1%	1	3%	0	0%	4	7%
啊系	2	8%	0	0%	4	5%	14	39%	6	15%	12	20%
是系	0	0%	0	0%	16	21%	0	0%	1	3%	2	3%
嗯系	4	17%	7	41%	46	61%	11	31%	12	31%	15	25%
对系	15	63%	5	29%	8	11%	3	8%	13	33%	23	38%
就是系	3	13%	0	0%	0	0%	1	3%	0	0%	2	3%
呃系	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
哎系	0	0%	0	0%	0	0%	1	3%	1	3%	1	2%
感动词	0	0%	0	0%	1	1%	5	14%	4	10%	1	2%
真的系	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	5%	1	2%
合計	24	100%	17	100%	76	100%	36	100%	39	100%	61	100%

### 8.5.3 中国人男性初対面会話におけるあいづちの使用状況

さらに、中国人男性初対面の会話に出てくるあいづちを下位分類し、6 会話の合計を集計すると、次の表 38 の通りである。

表 38 中国人男性友人初対面会話におけるあいづちの使用状況

あいづち	出現数	割合
<b>哦系</b>	<b>55</b>	<b>11.43%</b>
<b>啊系</b>	<b>126</b>	<b>26.20%</b>



是系	18	3.74%
<b>嗯系</b>	<b>136</b>	<b>28.27%</b>
<b>对系</b>	<b>134</b>	<b>27.86%</b>
就是系	5	1.04%
呃系	2	0.42%
哎系	0	0.00%
感动词	5	1.04%
真的系	0	0.00%
合計	481	100%

表 38 に示したように、中国人男性初対面会話に出現するあいづちの中では、「嗯系」が一番多く全体の 28.27%を占めている。次いで多いのは「对系」であり、27.86%を占めている。「啊系」は 26.20%であり、三番目となっている。四番目は「哦系」であり、11.43%である。つまり、中国人男性初対面会話におけるあいづちの基本状態は「嗯系」が一番多く全体の 3 割弱を占めている。次いで多いのは「对系」と「啊系」であり、それぞれ 3 割弱を占めている。四番目は「哦系」であり、1 割強を占めている。割合は多少異なるが、中国人女性初対面のあいづちと同じ傾向が観察された。

次に具体的に各会話におけるあいづちの使用状況を見てみよう。中国人男性初対面会話の場合、下記の表 39 に示したとおりである。太字の部分は各項目における割合が一番多いものである。

表 39 中国人男性初対面会話の各会話におけるあいづちの使用状況

会話番号	1		2		3		4		5		6	
	出現数	割合	出現数	割合	出現数	割合	出現数	割合	出現数	割合	出現数	割合
哦系	6	9%	5	7%	1	2%	5	8%	27	21%	11	11%
啊系	9	13%	<b>24</b>	<b>32%</b>	<b>15</b>	<b>32%</b>	3	5%	<b>50</b>	<b>39%</b>	25	26%
是系	4	6%	4	5%	4	9%	1	2%	4	3%	1	1%
嗯系	16	23%	19	25%	11	23%	<b>37</b>	<b>57%</b>	20	16%	<b>33</b>	<b>34%</b>
对系	<b>34</b>	<b>49%</b>	21	28%	<b>15</b>	<b>32%</b>	16	25%	22	17%	26	27%
就是系	0	0%	0	0%	1	2%	2	3%	1	1%	1	1%
呃系	0	0%	2	3%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
哎系	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%

感动词	0	0%	1	1%	0	0%	1	2%	3	2%	0	0%
真的系	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
合計	69	100%	76	100%	47	100%	65	100%	127	100%	97	100%

#### 8.5.4 中国人男性友人会話におけるあいづちの使用状況

最後に、中国人男性友人同士の会話に出てくるあいづちを下位分類し、6 会話の合計を集計すると、次の表 40 の通りである。

表 40 中国人男性友人同士の会話におけるあいづちの使用状況

あいづち	出現数	割合
哦系	5	1.89%
<b>啊系</b>	<b>76</b>	<b>28.68%</b>
是系	7	2.64%
<b>嗯系</b>	<b>101</b>	<b>38.11%</b>
<b>对系</b>	<b>71</b>	<b>26.79%</b>
就是系	2	0.75%
呃系	0	0.00%
哎系	0	0.00%
感动词	3	1.13%
真的系	0	0.00%
合計	265	100.00%

中国人男性友人会話に出てくるあいづちは「嗯系」が一番多く、全体の 38.11%を占めている。次いで多いのは「啊系」であり、28.68%を占めている。第三位は「对系」であり、26.79%となっている。つまり、中国男性友人同士の会話におけるあいづちの基本状態で一番多いのが「嗯系」であり、4 割弱を占めている。第二位と三位の「啊系」と「对系」はそれぞれ 3 割弱を占めている。表 36 で示した中国人女性友人会話に出てくるあいづちと比べると、男女とも「嗯系」が一番多く、全体の 4 割弱を占めている。女性の場合は、二番目に多いのは「对系」であり、26.48%を占め、男性の割合とほぼ同じである。ただし、第三位は「啊系」であり、15.02%となり、男性の 28.68%を下回っている。語気詞「啊系」の使い方に関する研究は数多く挙げられる(孙汝建 1999, 齐沪扬 2002, 齐春红 2007, 谢群霞 2007, 郑岚心 2008, 孙雁雁 2013 など)。ただし、その中の大部分はあいづちではなく、文中、文末に使われている「啊系」についての研究である。その中で郑岚心(2008)は電話や会話などで「啊系」が自分が聞いていることを表すストラテジーとして使われていると指摘している。本研究での「啊系」はそのようなあいづちとしての使い方を指している。

表 40 と表 38 を比べると、同じ一会話 20 分間の 6 会話では、中国人男性初対面会話におけるあいづちの出現総回数が 481 である一方、友人同士会話におけるあいづちの出現総回数は 265 であり、およそ半分しかなく、中国人女性の会話データと同じような傾向が観察された。要するに、中国人会話におけるあいづちの基本状態は、友人同士会話におけるあいづちの出現総回数は初対面会話の半分にすぎない。

さらに、中国人男性初対面会話のあいづちの出現回数をみると、「嗯系」(28.27%)>「对系」(27.86%)>「啊系」(26.20%)>「哦系」(11.43%)である。それに対して、友人同士の会話では「嗯系」(38.11%)>「啊系」(28.68%)>「对系」(26.79%)となっている。順序は多少異なるが、中国人男性初対面会話のあいづちは女性と同じように主に「嗯系」「对系」「啊系」「哦系」という四つに集中しているのに対して、友人同士の会話は「嗯系」「对系」「啊系」という 3 つになっている。ただし、初対面会話の場合、「嗯系」「对系」「啊系」という 3 種類のあいづちの割合の差はほんのわずかである。しかし、友人同士の会話の場合、「嗯系」の割合は「对系」と「啊系」の割合より 10%近く高いことが明らかになった。郑燕芳(2007)では「嗯系」の機能の一つはターンの中で応答詞として使われ、会話の連続性を表していると指摘されている。友人会話は初対面会話と比べると、一つ的话题をめぐって長く話す傾向があると第七章で既に述べた。その話題の連続性を維持するため、「嗯系」のあいづちが用いられていると言えよう。したがって、初対面より友人同士会話の「嗯系」の使用率が高くなったのである。

次に、具体的に各会話におけるあいづちの使用状況を見てみよう。中国人男性友人同士会話の場合、下記の表 41 に示したとおりである。太字の部分には各項目における割合が一番高いものである。会話 2 と会話 6 を除くと、一番高いのは「嗯系」である。それは吴平(2001)の研究結果と同じである。ただし、吴平(2001)の場合、男女一人ずつをベースにしてそれぞれ配偶者、友人、同級生に話してもらった、合計 6 会話のあいづちの結果である。会話数が少ないし、話者の条件が統制されていないため、一般化できないのである。今回の条件統制された中国人男性友人会話データでその結果を裏付けたといえよう。

表 41 中国人男性友人同士会話の各会話におけるあいづちの使用状況

会話番号	1		2		3		4		5		6	
	出現数	割合	出現数	割合	出現数	割合	出現数	割合	出現数	割合	出現数	割合
哦系	0	0%	1	1%	0	0%	0	0%	0	0%	4	11%
啊系	8	16%	32	39%	4	31%	5	14%	13	27%	14	38%
是系	3	6%	1	1%	0	0%	0	0%	0	0%	3	8%
嗯系	24	49%	19	23%	8	62%	21	60%	22	46%	7	19%
对系	11	22%	30	36%	1	8%	8	23%	12	25%	9	24%
就是系	1	2%	0	0%	0	0%	0	0%	1	2%	0	0%

呃系	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
哎系	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
感动词	2	4%	0	0%	0	0%	1	3%	0	0%	0	0%
真的系	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
合計	49	100%	83	100%	13	100%	35	100%	48	100%	37	100%

まとめてみれば、中国人初対面会話のあいづちは男女を問わず、主に「嗯系」「对系」「啊系」「哦系」という四つに集中しているのに対して、友人同士の会話は「嗯系」「对系」「啊系」という3つになっている。張艶翠(2015)は「哦系」というあいづちは相手との人間関係を維持するためのポライトネス・ストラテジーとして使われていると指摘した。初対面会話は友人同士の会話と比べると社会的な距離が大きいため、よりポライトな発話が必要である。中国人初対面会話の「哦系」のあいづちの多用はそのポライトネス・ストラテジーの反映だといえよう。

## 8.6 まとめ

以上の分析からみれば、日本人と中国人会話におけるあいづちには以下のような共通点が挙げられる。

(1) 日本人と中国人は両方とも初対面会話のあいづちの頻度が友人同士より高い傾向がある。

(2) 日本人と中国人は両方とも初対面会話ではよりポライトなあいづちを使用する傾向がある。

(3) 日本人友人会話のあいづちの使用状況は一番高いのが「うん系」であり、二番目が「そう系」であり、三番目が「ああ系」である。一方、中国人友人会話のあいづちの使用状況は一番高いのが「嗯系」であり、次に「对系」「啊系」に集中している。音声的に考えると、日中双方で一番多く使われるあいづちの「うん系」と「嗯系」は発音がほぼ同じである。さらに、「ああ系」と「啊系」の発音もかなり近い。つまり、日本人と中国人は友人会話のあいづちの基本状態では音声的に近いものが使われる傾向がある。

## 第九章 総合的考察（親疎関係によるポライトネスの日中対照）

母(2015)は1979年以來の中国国内の学術雑誌に載ったポライトネスに関する日中対照研究の論文を抽出し、分析した結果、多くの論文が主に言語形式を中心に議論し、言語の機能に関する研究が少なく、言語の共通点に言及する研究も足りないことを指摘した。本研究は宇佐美(1998、2001ab、2002など)のDP理論に基づき、一文、一発話レベルだけでなく、長い談話レベルでのポライトネス(機能)を捉える。

さらに、宇佐美(2008a)では今までのポライトネス研究を概観し、その目的の違いによって「ポライトネス記述研究」と「ポライトネス理論研究」に分けて整理した。前者の「文化相対性を尊重し、多様な文化を記述することが重要で、普遍理論の構築は不可能である、或いは、目指す必要がない」とする立場を取る研究者は概して、(記述)言語学、会話分析(CA)の手法を取る研究者に多く、後者の「文化相対性の重要性は当然のこととして認めたと上で、言語行動の表層に表れる文化による多様性の背後にある、人間の対人コミュニケーション行動の動機と解釈のメカニズムとしてのポライトネスの普遍理論は、構築を目指す意義がある」とする立場を取る研究者には、社会心理学、認知心理学などの実証科学を背景とする研究者が多い(宇佐美2008a:7)。本研究はB&L(1987)のポライトネスの普遍性を追求するため、日中のポライトネスの共通点を見出だすことを目指した。この章では本研究の結果を研究設問に答える形で、節ごとに①日本人会話のスピーチレベルと中国人会話の語彙の丁寧度②日中の話題導入の仕方③日中のあいづちの使用状況という3つの観点から親疎関係によるポライトネスの日中対照研究の共通点をまとめていく。

### 9.1 日本人会話のスピーチレベルと中国人会話の語彙の丁寧度の共通点について

日本人会話データをスピーチレベルの観点から、中国人会話データを語彙の丁寧度の観点からコーディングし、分析した結果、日本人と中国人会話の共通点は、親しくなるとニュートラルな語彙(「です・ます体」)Pが有意に減少し、丁寧度が低く正式な場面で通常使わない(「だ体」)Nが増加する傾向がある。次にその詳細を述べる。

#### 9.1.1 日本人会話のスピーチレベルについて

設問 1. 日本人の場合、初対面の会話と友人同士の会話とでは、スピーチレベルの基本状態において如何なる相違が認められるか。この設問に対し、本研究ではスピーチレベルを文中と文末という2つの観点から分析した。

##### 9.1.1.1 文中のスピーチレベルの結果

まず、文中のスピーチレベルについてまとめる。以下の表1に示したように日本人初対面会話の文中のスピーチレベルの基本状態については、一番多く使用される言葉は特別に

マークする必要のない語彙（ニュートラルな語彙 P）である。女性は 91.30%であり、男性は 85.06%である。次に多く用いられるのは丁寧度が低く正式な場面で通常使わない語彙（N）（女性 6.44%；男性 9.41%）である。一番少ないのは敬語（S+SN）である。

日本人友人同士会話の文中のスピーチレベルの基本状態では、一番多く使用される言葉は特別にマークする必要のない語彙（ニュートラルな語彙 P）（女性 75.24%；男性 56.55%）である。次に多く用いられるのは丁寧度が低く正式な場面では通常使わない語彙（N）（女性 22.23%；男性 42.56%）である。敬語（S+SN）と罵り言葉（V）はほんのわずかではあるが、観察された。

表 1 日本文中スピーチレベルの基本状態

	P(Polite)	N(Non-polite)	S+SN	V/NV
日本人女性初対面	91.30%	6.44%	2.26%	0.00%
日本人男性初対面	85.06%	9.42%	5.52%	0.00%
日本人女性友人	75.33%	22.23%	2.41%	0.12%
日本人男性友人	56.55%	42.56%	0.84%	0.05%

つまり、日本人初対面会話の文中スピーチレベルの基本状態は特別にマークする必要のない語彙（ニュートラルな語彙 P）である。日本人友人会話では文中スピーチレベルの丁寧度は下がるが、特に男性会話では大幅に下がり、丁寧度が低く正式な場面で通常使わない語彙（N）が 4 割強に達している。半分には達していないため、日本人友人同士会話の基本状態は初対面と同じように特別にマークする必要のない語彙（ニュートラルな語彙 P）である。

初対面会話と友人同士会話とともに同じ傾向であるため、日本人会話の文中スピーチレベルの基本状態はニュートラルな語彙 P である。ただし、初対面会話での割合が 85%以上であるのに対して、友人会話の文中スピーチレベルの基本状態は、女性は 75%であり、男性は 56.55%である。

さらに、表 1 の結果を図で表すと、以下の図 1 で示すとおりである。

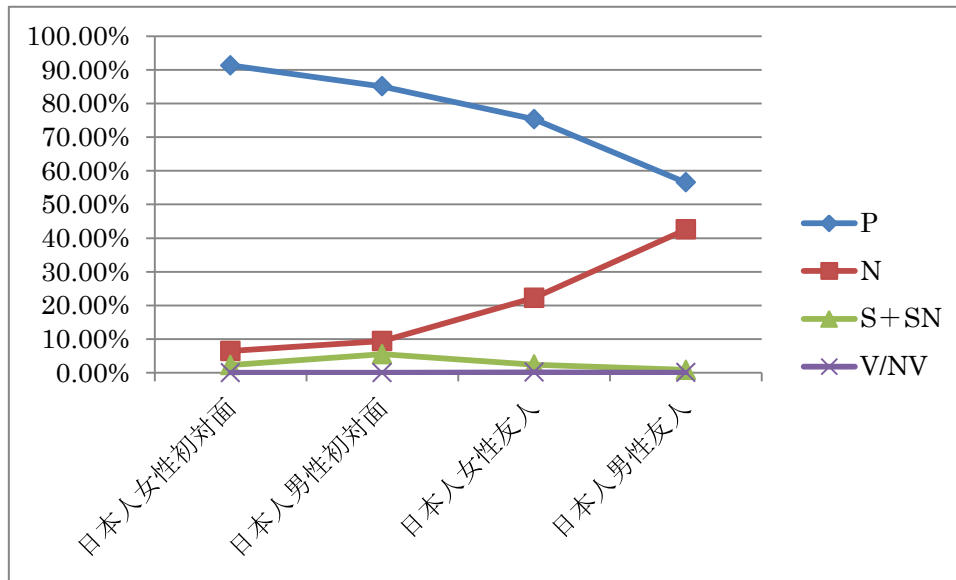


図1 日本文中スピーチレベルの基本状態

図1をみると、日本人初対面会話と友人会話の文中スピーチレベルの基本状態は特にマークする必要のない語彙（ニュートラルな語彙P）であることが明らかになった。B&L(1978)のポライトネス理論で予測されるような初対面会話の基本状態はPであるのに対して、友人同士会話の基本状態はNであるという結果とはなっていない。しかし、日本人会話は男女を問わず、初対面会話から友人会話へとみていけば、Pの割合の減少と、Nの割合の増加の傾向が観察された。

さらに、日本人会話の文中スピーチレベルの各項目を *t* 検定にかけた結果、親疎関係という社会的距離を顕著に反映しているのはニュートラル語彙 P の減少と正式な場面で通常使わない語彙 N の増加である。言い換えれば、話者の関係が親しくなると、ニュートラル語彙 P の使用が有意に減少し、正式な場面で通常使わない語彙 N の使用が有意に増加する傾向がある。

#### 9.1.1.2 文末のスピーチレベルの結果

次に、文末のスピーチレベルについてまとめる。以下の表2に示したように、日本人女性初対面会話における文末スピーチレベルの基本状態では、文末に丁寧度を示すマーカーがない発話文 (NM) が全体の4割強で、「です・ます」体 (P) は4割弱であり、常体 (N) は2割程度である。日本人男性初対面会話における文末スピーチレベルの基本状態では、「です・ます」体 (P) が全体の半分程度を占めており、文末に丁寧度を示すマーカーがない発話文 (NM) は全体の4割程度で、常体 (N) は1割弱である。半分を超える文末スピーチレベルの項目はないが、日本人初対面会話の文末のスピーチレベルの基本状態は「です・ます」体 (P) が常体 (N) より多いものであるといえよう。さらに、表3に示したように、文末

に丁寧度を示すマーカーがない発話文 (NM) を除くと、日本人初対面会話の文末のスピーチレベルの基本状態は「です・ます」体 (P) であることが明らかになった。

表 2 日本人会話における文末スピーチレベル基本状態

	P(Polite)	N(Non-polite)	NM(No Marker)
日本人女性初対面	36.37%	22.04%	41.59%
日本人男性初対面	48.47%	9.82%	41.71%
日本人女性友人	2.38%	64.19%	33.43%
日本人男性友人	2.89%	62.15%	34.96%

表 3 NMを除いた日本人会話における文末スピーチレベル基本状態

	P(Polite)	N(Non-polite)
日本人女性初対面	62.28%	37.72%
日本人男性初対面	83.15%	16.85%
日本人女性友人	3.58%	96.42%
日本人男性友人	4.44%	95.56%

また、表 2 に示したとおり、日本人女性友人会話における文末スピーチレベルの基本状態は常体「だ体」(N) であり、全体の 6 割強を占めている。文末に丁寧度を示すマーカーがない発話文 (NM) は全体の 3 割強で、「です・ます」体 (P) は 2.38%しかない。日本人男性友人会話における文末スピーチレベルの基本状態は、同じく常体「だ体」(N) であり、全体の 6 割強を占めている。文末に丁寧度を示すマーカーがない発話文 (NM) は全体の 3 割強であり、「です・ます」体 (P) は 2.89%しかない。つまり、日本人友人会話の文末のスピーチレベルの基本状態は男女を問わず常体「だ体」(N) (6 割強) である。

また、表 2 の結果を図で表すと、以下の図 2 で示すとおりである。



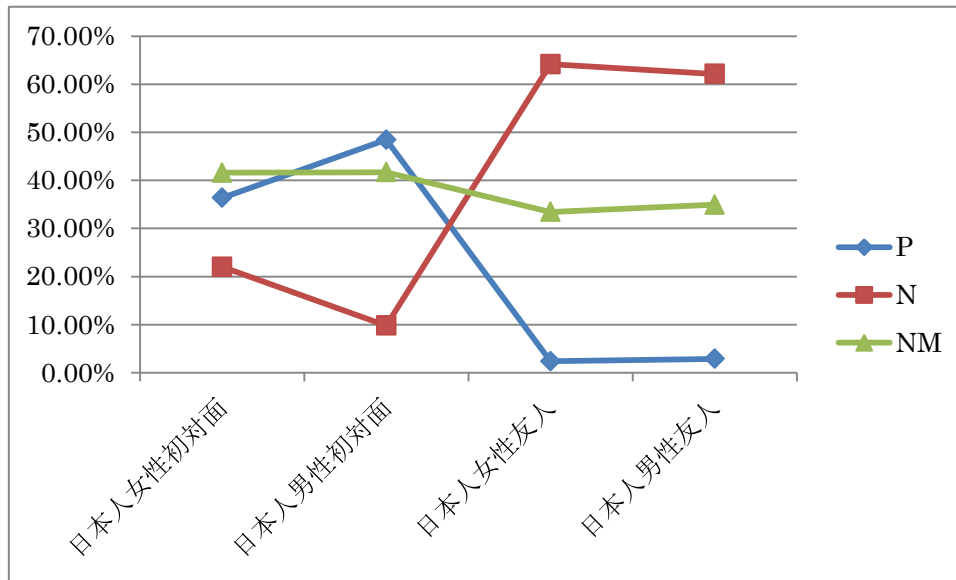


図2 日本人会話における文末スピーチレベル基本状態

図2をみると、日本人友人会話の文末スピーチレベルの基本状態は「だ」体Nであることが明らかになった。宇佐美(2001b:14)で指摘されたように、丁寧度を示すマーカのない発話を除外して考えると、丁寧度を示すマーカのある発話の本来の機能が、より明確に見えてくると同時に、中途終了発話などの丁寧度を示すマーカのない発話(NM)がディスコース・ポライトネスの中で果たす役割も探ることができるのである。したがって、NMを除いた結果を以下の図3に示す。

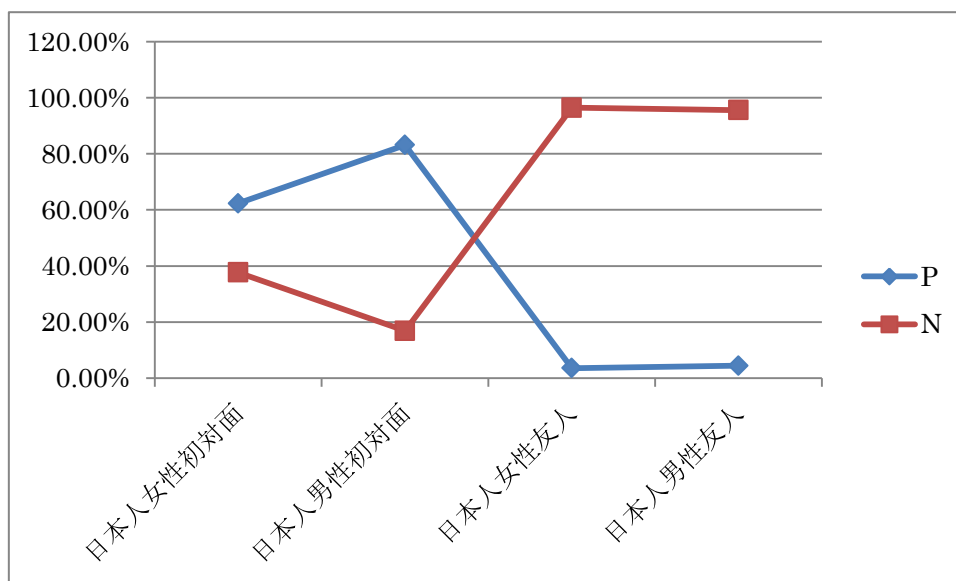


図3 NMを除いた日本人会話における文末スピーチレベル基本状態

図3をみると、日本人初対面会話の基本状態は男女を問わず、「です・ます」体Pである。一方、日本人友人同士会話の基本状態は男女を問わず、「だ」体Nであることが明らかになった。B&L(1978)のポライトネス理論で予測されるような結果と一致しているといえよう。

さらに、文末スピーチレベルの各項目を  $t$  検定にかけた結果、親疎関係という社会的距離を顕著に反映しているのは「です・ます」体Pの減少と「だ」体Nの増加である。言い換えれば、話者の関係が親しくなると、「です・ます」体Pが有意に減少し、「だ」体Nが有意に増加するのである。

### 9.1.2 中国人会話の語彙の丁寧度について

設問2. 中国人の場合、初対面の会話と友人同士の会話とでは、語彙の丁寧度の基本状態において如何なる相違が認められるか。

中国語には、日本語のような文末における敬体と常体の区別はないが、語彙レベルでは丁寧度の違いが存在する。中国人会話データをコーディングし、分析した結果、中国人会話の語彙の丁寧度の基本状態は、親しくなると丁寧度が下がる傾向がある。次にその根拠を詳述する。

以下の表4に示したように、中国人女性初対面会話の語彙の丁寧度の基本状態はP/Nの比率が8/2である。中国人男性初対面会話の語彙の丁寧度の基本状態はP/Nの比率がおよそ7/3である。2つの結果を比べると、男性の方が丁寧度が低く正式な場面で通常使わない語彙(N)の割合が高いことがうかがえる。つまり、言語形式においては中国人男性初対面会話は女性よりくだけた言い方が多いといえよう。まとめてみれば、中国人会話の語彙の丁寧度の基本状態は男女を問わずニュートラルな語彙(P)であり、それが丁寧度が低く正式な場面で通常使わない語彙(N)より多いということである。

表4 中国人会話における語彙の丁寧度の基本状態

	P(Polite)	N(Non-polite)	SNV+SN+NV+V
中国人女性初対面	80.12%	19.88%	0%
中国人男性初対面	69.93%	29.83%	0.24%
中国人女性友人	67.94%	31.90%	0.16%
中国人男性友人	41.71%	57.04%	1.25%

一方、表4のとおり、中国人女性友人同士の語彙の丁寧度の基本状態はP/Nの比率の7/3である。初対面会話の8/2と比べると、Nの比率が高くなっている。中国人男性友人同士の語彙の丁寧度の基本状態はP/Nの比率はおよそ4/6である。つまり、丁寧度が

低く正式な場面で通常使わない語彙 (N) の語彙が基本状態である。しかも 6 会話すべてで罵り言葉 (NV+V) が現れた。言語形式から見れば、罵り言葉は丁寧度が低く、インポライトネスとしてとらえるのが一般的である。そのような言葉の使用はフェイス侵害度の高い言語行動だと思われる。しかし会話終了後のフォローアップアンケートを調べると、それに対して不愉快に思うというデータは一つもなかったのである。宇佐美 (1998、2001ab、2002 等) の DP 理論から考えると、親の関係である中国人男性友人同士の会話においては罵り言葉は会話相手にとって仲間言葉だと思われ、ニュートラル効果となると判断できる。つまり、機能からみれば、罵り言葉は中国人男性友人同士の会話では仲間言葉として使用されており、会話相手にとって許容範囲に納まっているために、ニュートラル効果となるのであろう。

さらに、中国人友人会話の話題と合わせて分析した結果、中国人男性はゲームやアルバイトや卒業論文などの一般的な話題を選び、中国人女性は 6 会話中 4 会話は彼氏についての話、残りの 2 会話は悩みについての相談という親密な話題を選ぶ傾向がある。言語使用の丁寧度からみれば、中国人女性は初対面と友人同士両方ともニュートラルな語彙 (P) である。ただし、初対面の場合は友人同士より使用率が高い。一方、中国人男性の場合、初対面会話の基本状態はニュートラルな語彙 (P) であるが、友人同士会話の基本状態は丁寧度が低く正式な場面で通常使わない語彙 (N) である。つまり、中国人男性は言語形式の語彙の丁寧度をさげることで親しみを表すのに対して、中国人女性は彼氏についてなどの親密な話題を選択することによって親しみを表す傾向があるといえよう。

さらに、表 4 の結果を図で表すと、以下の図 4 で示すとおりである。

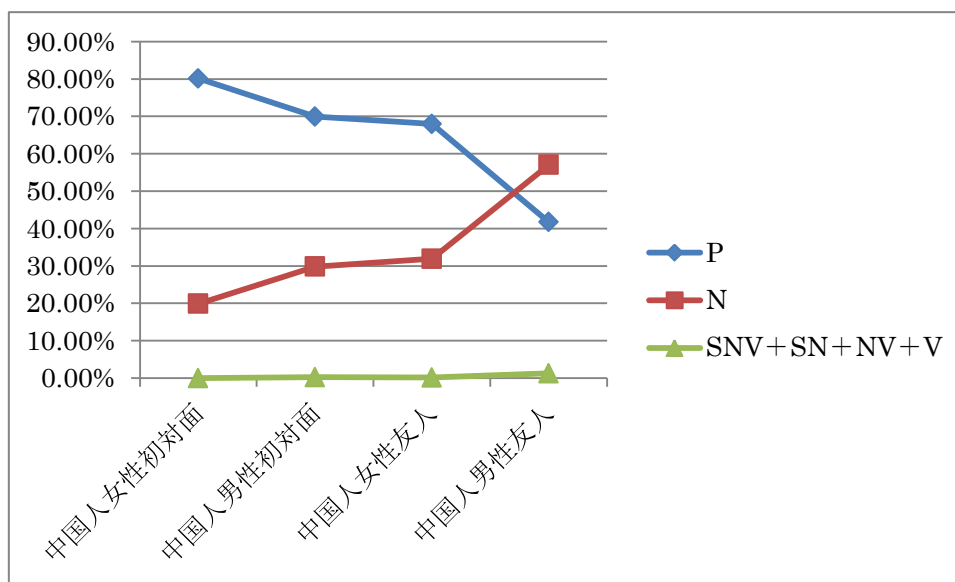


図 4 中国人会話における語彙の丁寧度の基本状態

図 4 をみると、中国人初対面会話の基本状態は男女を問わず、特別にマークする必要の

ない語彙（ニュートラルな語彙P）であることが明らかになった。一方、中国人女性友人同士会話の基本状態は特別にマークする必要のない語彙（ニュートラルな語彙P）であるのに対して、中国人男性友人同士会話の基本状態は丁寧度が低く正式な場面で通常使わない語彙（N）であることが分かった。B&L(1978)のポライトネス理論で予測されるような初対面会話の基本状態はPであるのに対して、友人同士会話の基本状態はNであるという結果とはなっていない。しかし、中国人会話は男女を問わず、初対面会話から友人会話へとみていけば、Pの割合の減少と、Nの割合の増加の傾向が観察された。また、中国人会話の語彙の丁寧度の各項目をt検定にかけた結果、親疎関係という社会的距離を顕著に反映しているのはニュートラル語彙Pの減少と正式な場面で通常使わない語彙Nの増加であることが明らかになった。要するに、中国人会話では、話者の関係が親しくなると、ニュートラル語彙Pの使用が有意に減少し、正式な場面で通常使わない語彙Nの使用が有意に増加する傾向があるといえよう。

### 9.1.3 日中の語彙の丁寧度の共通点に関する考察

設問3. 日本人と中国人は、それぞれ初対面の会話と友人同士の会話とでは、スピーチレベルの基本状態と語彙の丁寧度の基本状態において如何なる共通点が認められるか。

設問1と設問2の回答を踏まえて分析した結果、中国人と日本人会話の共通点は親しくなると、語彙の丁寧度が下がるということである。

B&L(1987)のポライトネス理論によると、「ストラテジーの選択に関わる要因」では、社会言語学的な3つの変数「社会的距離（D）」、「力関係（P）」、「相手にかかる負荷度（R）」とその3つの変数から計算されるFTAの負担度が説明されている。FTAの負担度を計算する公式は $W_x = D(S, H) + P(H, S) + R_x$ である。Pという力関係と $R_x$ という相手にかかる負荷度が同じである場合、Dという社会距離（親疎関係）が小さくなると、日本人と中国人は両方とも、語彙の丁寧度をさげることで親しみを表しているといえよう。図1から図4に示したとおり、ニュートラルな語彙（「です・ます体」）Pが有意に減少し、丁寧度が低く正式な場面で通常使わない（「だ体」）Nが増加する傾向がある。今まで報告されていた傾向を実際の日本人会話データで実証的に裏付けているといえよう。さらに、中国人会話データを通して、言語が異なっても同じような傾向があることが証明された。

## 9.2 日本人会話と中国人会話の話題導入の仕方の共通点

日本人と中国人会話データを話題導入の仕方の観点からコーディングし分析した結果、話題導入の頻度からみれば、日本人と中国人会話の共通点は、初対面会話の話題導入の頻度は友人同士会話より高いということである。話題導入の仕方からみれば、日本人と中国人会話の共通点は関係が親しくなると、疑問文での導入の割合が低くなる傾向がある。その代わりに、平叙文や感嘆文での話題導入の割合が高くなる。次にその詳細を説明する。

### 9.2.1 日本人会話の話題導入の仕方について

設問4. 日本人の場合、初対面の会話と友人同士の会話とでは、話題導入の仕方において如何なる相違が認められるか。

この設問に対して、日本人会話データを話題導入の仕方の観点からコーディングし分析した結果、日本人初対面会話の基本状態は疑問文(Q)（「質問－応答型」）で話題導入する傾向がある。一方、日本人友人同士の会話の基本状態は平叙文(D)（「相互話題導入型」）で話題導入するが多い。

まず、話題導入の頻度について、表5に示したように、日本人会話の話題導入の基本状態では、初対面会話の話題導入の頻度は10%程度であり、友人同士の会話の話題導入の頻度の6%程度より高いのである。

表5 日本人会話における話題導入の頻度

	G(あいさつ)	I(話題導入)	N(非話題導入)	R(話題回帰)
日本人女性初対面	0.48%	10.01%	89.06%	0.45%
日本人男性初対面	0.82%	9.75%	89.23%	0.20%
日本人女性友人	0.00%	6.10%	93.28%	0.62%
日本人男性友人	0.00%	5.80%	93.79%	0.41%

次に話題導入の仕方については、日本人初対面会話は男女を問わず、話題導入の基本状態は疑問文(Q)であり、半分以上を占めている。それに対して、日本人友人同士会話の基本状態は男女を問わず、平叙文(D)であり、全体の半分以上を超えている。宇佐美・嶺田（1995）で目上対目下の会話には「質問－応答型」が多く、弾んだ会話（同性、同等）では「相互話題導入型」であると指摘した。本研究の会話データは上下関係ではなく、親疎関係を変数としているが、初対面の場合は疑問文(Q)（「質問－応答型」）で話題導入する傾向がある。一方、友人同士の会話の場合は平叙文(D)（「相互話題導入型」）のほうが多いということである。

### 9.2.2 中国人会話の話題導入の仕方について

設問5. 中国人の場合、初対面の会話と友人同士の会話とでは、話題導入の仕方において如何なる相違が認められるか。

同じく中国人会話データを話題導入の仕方の観点からコーディングし、分析した結果、中国人男性初対面会話の基本状態は日本人と同じで疑問文(Q)（「質問－応答型」）で話題導入する傾向がある。それに対して、中国人男性友人同士の会話の基本状態も疑問文(Q)で話

題導入するが多い。一方、中国人女性初対面会話の話題導入の基本状態は平叙文(D)であり、友人同士会話の基本状態は感嘆文(E)である。朱晓亚(1994:127)は「感叹句有两种语用功能：一是传情。二是引起他人注意，期待听话人调整自己的感情，作出相应的反应，即影响听话人感情、态度的功能(感嘆文は二つの語用的な機能がある。一つは感情を表す。もう一つは他人の注意を引きつけ、聞き手に感情を調整し、その場に相応しい反応をしてほしいということを期待している。つまり聞き手の感情や態度に影響を与える機能である、筆者訳)」と指摘した。話し手と聞き手が初対面の場合、このように感嘆文で話題を導入すると、相手の感情をコントロールすることになり、ネガティブ・フェイスを侵害する言語行動になるおそれがある。そのため、日本人と中国人の初対面会話では感嘆文での話題導入の割合がかなり低い。しかし、中国人女性友人同士の会話では、感嘆文での話題導入の割合が一番高く、全体の6割強を占めている。会話終了後のフォローアップアンケートを調べた結果、感嘆文での話題導入に対して不愉快に思うデータは一つもなかった。つまり、中国人女性友人同士では感嘆文での話題導入が基本状態であり、相手の許容範囲に収まってニュートラル発話効果となっている。それは話し手は積極的に聞き手の感情や態度に影響を与えるというポジティブ・ポライトネス・ストラテジーとして使われていると推測できる。

次に、話題導入の頻度について、表6に示したように、中国人会話の話題導入の基本状態では、日本人と同じように、初対面会話の話題導入の頻度は1割強であり、友人同士の会話の話題導入の頻度の8%より高いのである。

表6 中国人会話における話題導入の頻度

	G(あいさつ)	I(話題導入)	N(非話題導入)	R(話題回帰)
中国人女性初対面	0.00%	10.45%	88.93%	0.62%
中国人男性初対面	0.17%	12.32%	87.04%	0.47%
中国人女性友人	0.00%	8.39%	90.55%	1.06%
中国人男性友人	0.00%	7.92%	91.48%	0.60%

そして話題導入の仕方については、中国人女性初対面会話の話題導入の基本状態は平叙文(D)であり、全体の5割弱を占めている。次の疑問文(Q)は4割強であり、感嘆文(E)は1割程度である。一方、中国人男性初対面会話の話題導入の基本状態は疑問文(Q)であり、全体の5割強を占めている。次の平叙文(D)は、3割強であり、感嘆文(E)は1.5割程度である。

中国人女性友人同士会話の話題導入の基本状態は感嘆文(E)であり、全体の6割強を占めている。一方、中国人男性友人同士会話の話題導入の基本状態は疑問文(Q)であり、全体の4割強を占めている。次の感嘆文(E)は、3.5割程度であり、平叙文(D)は1.5割強である。

### 9.2.3 日中の話題導入の仕方の共通点に関する考察

設問6. 日本人と中国人は、それぞれ初対面の会話と友人同士の会話とでは、話題導入の仕方において如何なる共通点が認められるか。

日本人と中国人の話題導入の頻度の全体像をみるために、表5と表6の結果を図5に示す。

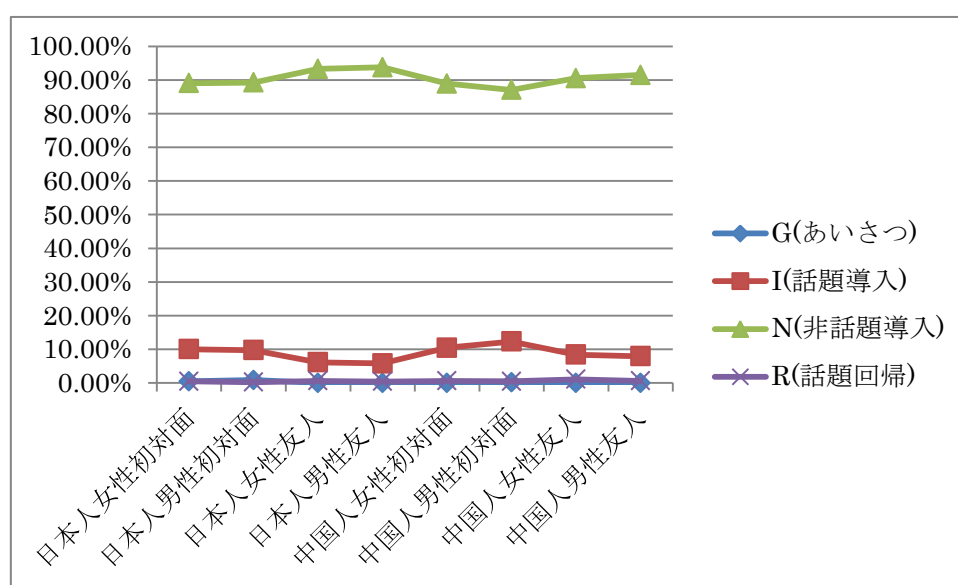


図5 日本人と中国人の話題導入の基本状態

まず、図5に示したように、話題導入の頻度からみれば、日本人と中国人の両方で初対面会話の話題導入の頻度は友人同士会話より高いという傾向がある。つまり、親しい関係になると、共通の知識を持っているため、一つの話題についてより長く話し合うことができるのだと考えられる。

次に、話題導入の仕方について、日本人初対面会話の場合は疑問文(Q) (「質問-応答型」) で話題導入する傾向がある。一方、日本人友人同士の会話の場合は平叙文(D) (「相互話題導入型」) のほうが多い。B&L(1987)のポライトネス理論によると、「ストラテジーの選択に関わる要因」では、社会言語学的な3つの変数「社会的距離(D)」、「力関係(P)」、「相手にかかる負荷度(R)」とその3つの変数から計算されるFTAの負担度が説明されている。FTAの負担度を計算する公式は  $W_x = D(S, H) + P(H, S) + R_x$  である。Pという力関係と  $R_x$  という相手にかかる負荷度が同じである場合、Dという社会距離(親疎関係)が小さくなると、宇佐美・嶺田(1995)で指摘された弾んだ会話に出てくる平叙文(D) (「相互話題導入型」) で

話題を導入する傾向がある。

一方、中国人会話の話題導入の仕方の基本状態は以下の表 7 に示したとおりである。中国人女性は初対面会話の平叙文(D)で話題を導入していたが、友人同士会話では感嘆文(E)での導入へと変わっている。それに対して、中国人男性の場合は初対面会話と友人同士両方とも疑問文(Q)での話題導入の割合が一番高い。ただし、友人同士の疑問文(Q)での話題導入の割合は初対面会話より低い。その代わりに感嘆文(E)で話題を導入する割合が初対面会話より高くなる傾向がある。

朱晓亚(1994:127)は「感叹句有两种语用功能：一是传情。二是引起他人注意，期待听话人调整自己的感情，作出相应的反应，即影响听话人感情、态度的功能(感嘆文には二つの語用的な機能がある。一つは感情を表すものであり、もう一つは他人の注意を引きつけ、聞き手に感情を調整し、その場に相応しい反応をしてほしいということを目指すものである。つまり聞き手の感情や態度に影響を与える機能である。筆者訳)」と指摘した。話し手と聞き手が初対面の場合、このように感嘆文で話題を導入すると、相手の感情をコントロールすることになり、ネガティブ・フェイスを侵害する言語行動になるおそれがある。したがって、中国人初対面会話では男女とも、感嘆文での話題導入の割合は 1.5 割程度にとどまっている。しかし、中国人女性友人同士の会話では、感嘆文での話題導入の割合が一番高く、全体の 6 割強を占めており、基本状態となっている。それは友人同士であり、社会的な距離が近いいため、話し手が積極的に聞き手の感情や態度に影響を与えるというポジティブ・ポライトネス・ストラテジーとして使われているのだと推測できる。

表 7 中国人会話の話題導入の仕方の基本状態のまとめ

会話の属性	話題導入の仕方の基本状態
中国人女性初対面	平叙文(D)であり、全体の 5 割弱を占めている。疑問文(Q)は 4 割強であり、感嘆文(E)は 1 割程度である。
中国人男性初対面	疑問文(Q)であり、全体の 5 割強を占めている。平叙文(D)は 3 割強であり、感嘆文(E)は 1.5 割程度である。
中国人女性友人同士	感嘆文(E)であり、全体の 6 割強を占めている。疑問文(Q)は 1.5 割強であり、平叙文(D)は 1.5 割程度である。
中国人男性友人同士	疑問文(Q)であり、全体の 4 割強を占めている。感嘆文(E)は 3.5 割程度であり、平叙文(D)は 1.5 割強である。

纏めると、日本人も中国人も関係が親しくなると、疑問文での導入の割合が低くなる傾向がある。その代わりに、平叙文や感嘆文での話題導入の割合が高くなる。

### 9.3 日本人会話と中国人会話のあいづちの使用状況の共通点

#### 9.3.1 日本人会話のあいづちの使用状況について



設問7. 日本人の場合、初対面の会話と友人同士の会話とでは、あいづちの使用状況において如何なる相違が認められるか。

日本人会話データをあいづちの観点からコーディングし、分析した結果、日本人あいづちの基本状態は友人同士より初対面会話の使用頻度が高いということである。

まず、あいづちの使用頻度をみると、表8に示したように、日本人初対面会話のあいづちは男女ともに3割程度である。一方、日本人友人同士会話のあいづちは男女を問わず2割未満である。つまり、日本人会話のあいづちの基本状態は、疎の関係にある初対面会話では親の関係にある友人同士の会話よりあいづちの頻度が高いというものである。

表8 日本人会話における総発話文に占めるあいづちの頻度

	あいづち数	総発話文数	割合
日本人初対面女性	173	562	30.78%
日本人初対面男性	96	333	28.83%
日本人友人女性	107	574	18.64%
日本人友人男性	103	698	14.76%

日本人のあいづちの使用状況をつかむために、表8を図6で示す。

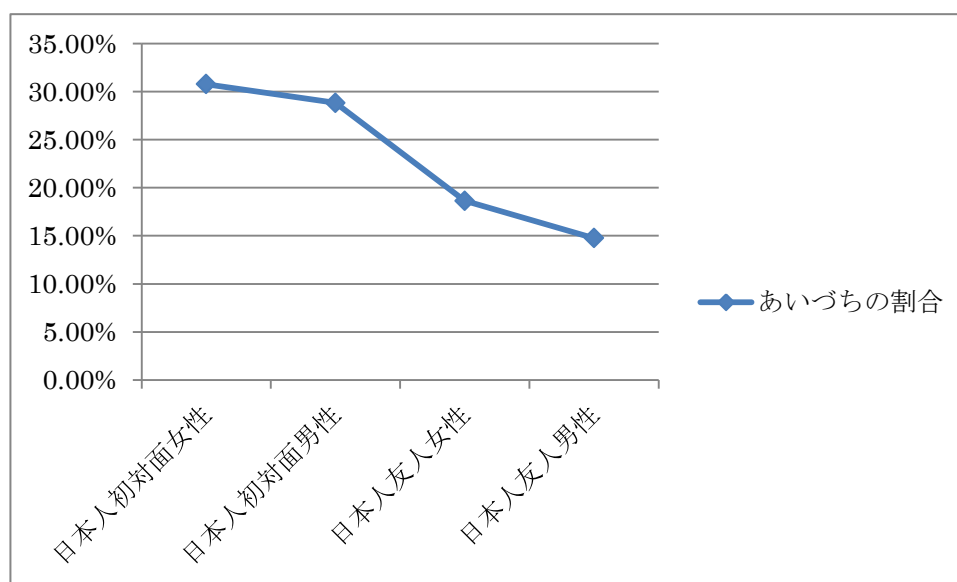


図6 日本人のあいづちの基本状態

図 6 をみると、男女を問わず、日本人の初対面会話に比べると、友人同士の会話におけるあいづちの使用率が低いということが明らかになった。また、初対面と友人同士会話両方とも、男性は女性よりあいづちの使用が低いことが分かった。

次にあいづちの使用状況について日本人女性初対面会話に出現するあいづちの中では、「うん系」が一番多く全体の 27.83%を占めている。次いで多いのは「そう系」であり、23.29%を占めている。「はい系」と「ああ系」はそれぞれ 14.40%と 12.85%であり、三位と四位となっている。一方、日本人女性友人同士の会話におけるあいづちの使用は主に「うん系」と「そう系」に集中しており、それぞれ約 3 割を占めている。フォーマルなあいづちである「はい系」の使用はほとんど観察されなかった。日本人女性のあいづち使用において半数を超えるものはないが、初対面会話のフォーマルスタイルのあいづちの「はい系」の使用は友人同士会話より高い。カジュアルスタイルのあいづちの「うん系」の使用は友人同士会話より低いという傾向がある。

それに対して、日本人男性初対面会話におけるあいづちの基本状態は、フォーマルスタイルのあいづちの「はい系」(内藤 2003)の使用が大半を占めているのである。日本人男性友人会話に出てくるあいづちはカジュアルスタイルのあいづちの「うん系」(内藤 2003)が一番多く、全体の半分以上である 57.31%を占めて基本状態となっている。つまり、日本人男性会話は初対面会話でフォーマルスタイルのあいづちを使用し、友人同士会話でカジュアルスタイルのあいづちを使うという社会規範を守っているといえよう。日本人男性は親しくなると、無意識的にフォーマルスタイルのあいづちからカジュアルスタイルのあいづちへとシフトしていると推測できる。

### 9.3.2 中国人会話のあいづちの使用状況について

設問8. 中国人の場合、初対面の会話と友人同士の会話とでは、あいづちの使用状況において如何なる相違が認められるか。

まず、あいづちの使用頻度をみると、表9に示したように、中国人初対面会話のあいづちは男女ともに2割程度である。一方、中国人友人同士会話のあいづちは男女を問わず1割強である。つまり、中国人会話のあいづちの基本状態は、日本人と同じように疎の関係にある初対面会話では親の関係にある友人同士の会話よりあいづちの頻度が高いということである。

さらに、表8と表9を比べると、日本人のあいづちの導入頻度は中国人より高い傾向があることが明らかになった。特に、初対面会話において、日本人は中国人よりあいづちの頻度が10%以上高いという結果となっている。

表9 中国人会話における総発話文に占めるあいづちの頻度

	あいづち数	総発話文数	割合
中国人初対面女性	91	465	19.57%
中国人初対面男性	80	395	20.25%
中国人友人女性	42	317	13.25%
中国人友人男性	44	329	13.37%

中国人のあいづちの使用状況をつかむために、表9を図7で示す。

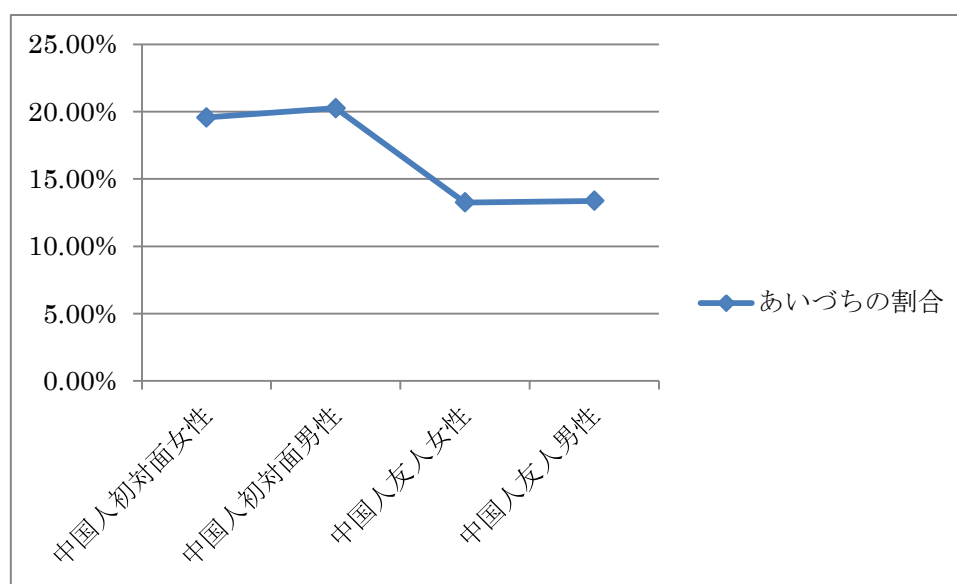


図7 中国人のあいづちの基本状態

図7をみると、男女を問わず、中国人の初対面会話に比べると、友人同士の会話におけるあいづちの使用率が低いということが明らかになった。また、初対面と友人同士会話両方とも、男性と女性のあいづちの使用がほぼ同じぐらいであることが分かった。

次に、あいづちの使用状況からみれば、中国人初対面会話のあいづちは主に「嗯系」「対系」「啊系」「哦系」という四つに集中しているのに対して、友人同士の会話は「嗯系」「対系」「啊系」という3つになっている。张艳翠(2015)は「哦系」というあいづちは相手との人間関係を維持するためのポライトネス・ストラテジーとして使われていると指摘した。初対面会話は友人同士の会話と比べると社会的な距離が大きいため、よりポライトな発話が必要である。中国人初対面会話の「哦系」というあいづちの多用がそのポライトネス・ストラテジー

の反映だといえよう。

### 9.3.3 日中のあいづちの使用状況の共通点に関する考察

設問9. 日本人と中国人で、それぞれ初対面の会話と友人同士の会話とでは、あいづちの使用状況において如何なる共通点が認められるか。

設問7と設問8の回答をまとめると、日本人と中国人会話におけるあいづちについて以下のような共通点が挙げられる。

(1) 日本人と中国人は両方とも初対面会話のあいづちの頻度が友人同士より高い傾向がある。

(2) 日本人と中国人は両方とも初対面会話ではよりポライトなあいづち（フォーマルスタイルのあいづち）を使用する傾向がある。

(3) 日本人友人会話のあいづちの使用状況で一番高いのが「うん系」であり、二番目が「そう系」であり、三番目が「ああ系」である。一方、中国人友人会話のあいづちの使用状況で一番高いのが「嗯系」であり、次に「対系」「啊系」に集中している。音声的に考えると、両方とも一番多く使われるあいづちの「うん系」と「嗯系」の発音はほぼ同じである。さらに、「ああ系」と「啊系」の発音もかなり近いようである。つまり、日本人と中国人は友人会話では音声的に近いあいづちが使われる傾向があるといえよう。

日中対照研究では文化の相対性が強調されるものが多いようである。日中両国の言葉は、系統を異にする言語である。しかし、本研究では文化の相対性を認めた上で、「日本語のスピーチレベル」と「中国語の語彙の丁寧度」、「日中の話題導入の仕方」、「日中のあいづちの使用状況」という3つの観点から、日本人同士会話と中国人同士会話を比較対照した結果、それぞれの異同、特に共通点が存在することが証明された。

まず「日本語のスピーチレベル」と「中国語の語彙の丁寧度」というように日本語と中国語の語彙の丁寧度の表現形式が異なるが、日中双方とも初対面から友人会話へとみていけば、Pの減少とNの増加が認められた。次に、話題導入の頻度に差があるにもかかわらず、日中双方とも初対面会話の話題度入の頻度は友人同士会話より高い傾向がある。また、日本語のあいづちの使用率は中国語より高いものの、日中双方とも友人同士のあいづちの頻度は初対面会話より低い傾向がある。

要するに、日本人と中国人の実際の会話データで量的分析を通して、敬語を有する言語である日本語と日本語のような敬語体系のない言語である中国語とのポライトネスを同じ枠組みで比較・検討することによって、B&L(1987)のポライトネスの普遍性があると裏付けたといえよう。

## 第十章 おわりに（DP理論の有効性と今後の課題）

DP理論についての研究は数多く行われている（宇佐美 1998、2001、2002、謝韞 2005、李恩美 2008、李宇霞 2008、2009、2012、2014、母育新・鄧永玮 2010、鄭榮美 2011、吳少華 2012、母育新 2014、时晓阳 2014、王荣 2015、鄭賢兒 2015、张若楠 2016、马浦珍 2016、李瑶 2016、野村琴菜 2017、张潇尹・熊红芝 2017、李宇霞・張志剛 2017、刘恋 2017、宋敏 2017 など）。しかし、実際の会話データに基づき、実証研究を行ったものは少ないようである（刘恋 2017、宋敏 2017 など）。しかも、刘恋(2017)と宋敏(2017)は中国語の会話データだけを取り、日本語の会話データは収集しなかった。したがって、本研究は条件統制された日本人と中国人の会話データを収集し、実証研究を通して、「ポライトネス理論研究」に貢献することを目指した。

具体的には宇佐美（1998、2001ab、2002等）のDP理論に基づき、第四章での日本人会話のスピーチレベルと第五章での中国人会話の語彙の丁寧度、第六章での日中の話題選択と展開パターン、第七章での日中の話題導入の仕方、第八章での日中のあいづちの使用状況という観点から、それぞれの基本状態を同定した。さらに基本状態から離脱した有標行動に焦点を当てて、フォローアップアンケートとインタビューの結果を通して、話し手と聞き手の見積り差をとらえたうえで、その発話効果を分析した。次に具体例を挙げながら、宇佐美（1998、2001ab、2002等）のDP理論の有効性を論じる。

### 10.1 日本人会話のスピーチレベルとDP理論

宇佐美(2001a)は「ある特定のディスコース・ポライトネスの基本状態というものは、理論的には、例えば、「初対面の会話」というような活動の型のみによって規定されるのではなく、個々の会話ごとに、話者間で交渉されつつ形成されていった『談話』を分析することによって、初めて同定できるものと捉える。すなわち、スピーチレベルを例にとると、ある特定の談話のスピーチレベルの基本状態は、その談話の要素である一つ一つの発話のスピーチレベルを分類し集計した結果としての、各々のスピーチレベルの構成比であるとされる」と指摘した。

本研究は日本人会話データを文中と文末のスピーチレベルの観点からコーディングし、各項目を集計した上で、初対面会話と友人会話のそれぞれ男性と女性のスピーチレベルの基本状態を同定した(第四章)。その中で日本人女性初対面会話を例にとると、その文末スピーチレベルの基本状態は、中途終了型発話など文末スピーチレベルを示すマーカのない発話を除くと、6会話の平均値が「敬体6：常体4」であった。無標文末スピーチレベルは敬体であると同定できる。しかし、その中で日本人女性初対面会話1だけの構成比は「敬体0.5：常体9.5」であり、文末スピーチレベルの基本状態から離脱しているものだといえよう。しかし、その会話1を分析すると、常体(N)で会話をするのは二人の話し合いによって決まった基本状態だと思われる。つまり、グローバルな観点からみていくと、この会

話1は日本人女性初対面会話の基本状態から離脱するものである。しかし、ローカルな観点からみれば、会話1の文末スピーチレベルの基本状態は常体 (N) である。

具体的に会話1を分析すると、会話の最初の部分では二人が同じ学年だとわかった時点で、ベース協力者は「タメ語で…」と提案したのであった。それは文末の基本状態を変える重要な発話だと思われる。その提案に従うのか、規範に従うのかにおいて最初は会話相手の中で迷いがあったが、ベース協力者 JWB01 が常に常体 (N) で話しかけることにより、会話相手がそれに合わせて常体で会話を進めていくようになった。そこで、「タメ語で…」というベース協力者の発話は会話1の中での有標行動だと捉えられる。その有標行動がもたらす発話効果を探るために、会話終了後のフォローアップアンケートを調べた結果、会話相手はそれに対して全く不愉快に感じなかったという答えであった。しかも、相手と「気が合うような感じだった」と書いている。宇佐美 (1998、2001ab、2002 等) の DP 理論の観点からみて、不快感をもたらさないということで、話し手と聞き手の「見積もり差」が、「許容できるずれ幅 ( $\pm \alpha$ )」の範囲内に収まる行動である「適切行動」とみなされる。ポライトネス効果の観点からは、プラス効果を生むか、ニュートラル効果になる。会話相手のフォローアップアンケートの答えから判断して、基本状態から離脱する有標行動はここではプラス効果となっていると思われる。

その有標行動は文末スピーチレベルだけでなく、第四章で指摘されたように文中スピーチレベルにも影響を与えたのである。提案者であるベース協力者 JWB01 は文中スピーチレベルにおいて、丁寧度の低く正式な場面で通常使わない語彙の使用率は91.67%であり、会話相手 JWN01 の8.33%を大きく上回っていることが明らかになった。宇佐美 (2001b) で指摘されたように「文中のスピーチレベルは話者自身の言葉遣いの特徴の指標となる」。つまり、親密関係を表すタメ語を提案したベース協力者 JWB01 は文末だけでなく、自身の言葉遣いの丁寧度を下げている傾向がある。一方、宇佐美 (2001b) で指摘されたように、「文末スピーチレベルは対話相手への配慮、心的距離の調節、待遇の指標となる」。会話相手 JWN01 は相手への配慮を考えたうえで、文末スピーチレベルを下げることを選んだといえよう。しかし、二人の会話が初対面会話であるために、会話相手 JWN01 は社会規範に従い、自分自身の言葉遣いの丁寧度は下げないようである。言い換えれば、会話相手 JWN01 の場合は文中スピーチレベルで社会規範を守りつつ、文末スピーチレベルで心的距離を縮め、相手への配慮をしていたと解釈できる。

## 10.2 中国人の語彙の丁寧度と DP 理論

中国語には、日本語のような文末における敬体と常体の区別はないが、語彙レベルの丁寧度が存在する。したがって、本研究の第五章では中国人会話データを語彙の丁寧度の観点からコーディングし、各項目を集計した上で、初対面会話と友人会話のそれぞれ男性と女性のスピーチレベルの基本状態を同定した。中国人友人会話を例にとると、すべての男性友人会話に罵り言葉が出てきた。言語形式からみれば、罵り言葉はインポライトネスと

してとらえられるのが一般的である。特に性に関わる罵り言葉は丁寧度が低く、文レベルからみればインポライトである。しかし、会話終了後のフォローアップアンケートを調べると、全 6 会話に出てくる罵り言葉に対して不愉快に思う会話は一つもなかった。宇佐美 (1998、2001ab、2002 等) の DP 理論で分析すると、二人は親の関係である友人であるために、話し手と聞き手の「見積もりの差」が許容できる範囲に収まる「適切行動」とみなされ、不快感をもたらさない。対人コミュニケーションの発話機能からみれば、ここでの罵り言葉は、友人であるからこそ使える仲間ことばであり、ポジティブ・ポライトネス・ストラテジーとして使用されており、ニュートラルの発話効果があると考えられる。

一方、中国人女性友人同士の会話にも罵り言葉が出てきた。それはベース協力者 CWB02 と会話相手 CWF02 の会話 2 である。会話の最初から笑ったり拍手したりしているベース協力者 CWB02 は興奮している状態だとうかがえる。リラックスした雰囲気の中で会話を始めようとしているために、かえって「あんた出て行け」というような丁寧度の極端に低い罵り言葉が出てきたと考えられる。会話後のフォローアップアンケートでは会話相手 CWF02 はそういう発話に対して不愉快に思うという答えであった。二人の関係についてベース協力者 CWB02 と会話相手 CWF02 は両方とも「最親友」を選んだ。

宇佐美 (1998、2001ab、2002) の DP 理論から考えると、二人は最親友であるために、会話相手 CWF02 は一般的に丁寧度の低い言葉 (N) を使うのが適切だと見積もっている。しかし、ベース協力者 CWB02 は最親友だからこそ、最も丁寧度の低い罵り言葉を使ったのである。それが聞き手である会話相手の見積もりより低すぎて、見積もり差 (De) 値が  $-\alpha$  の許容範囲を超えてしまったと考えられる。したがって、会話相手に「失礼だ」と感じさせることになるかと解釈できる。つまり、いくら親しくても会話相手の許容範囲を超える発話が出る場合、マイナスの発話効果をもたらすことがあるのである。特に丁寧度の低い罵り言葉は中国人女性友人同士の会話 2 では許容範囲を超える発話だと判断できる。会話の最初の段階では親しい友人でも、罵り言葉は会話相手にとってはフェイス侵害度の高い言語行動であり、相手の許容範囲を超える発話となるために、マイナスの発話効果をもたらしたのだと推測できる。要するに、罵り言葉に対しての許容範囲は中国人男性のほうが女性より広いといえよう。それは宇佐美 (2006) で指摘されたように、「礼儀正しきの規範からの逸脱への社会の許容度が、女性は男性より遥かに低いとしている」と同じである。

### 10.3 日中の話題導入の仕方と DP 理論

宇佐美 (2001a) で指摘されたように、「ディスコース・ポライトネスを構成する要素は、言語形式としてのスピーチレベルだけでなく、適切なあいづちの打ち方や頻度、話題導入の頻度、発話連鎖パターンなどの談話行動も含んでいる。」

この節では話題導入の仕方の観点から、10.4 節ではあいづちの使用状況という順番に、宇佐美 (1998、2001ab、2002 等) の DP 理論の有効性を論じる。

本研究は日本人と中国人会話データを話題導入の観点(第七章)からコーディングし、各項目を集計した上で、初対面会話と友人会話のそれぞれ男性と女性の話題導入の基本状態を同定した。中国人男性友人会話の話題導入の頻度を例に取って説明する。中国人男性友人同士会話における話題導入の頻度の基本状態は7.92%である。会話3の話題導入が一番高く11.95%に達している。つまり、会話3は基本状態から離脱した有標行動だといえよう。ローカルな観点から会話3について分析すると、会話の最初から話者の二人は話題選択において意見の食い違いが観察された。ベース協力者CMB03はICレコーダーをオンにしてから会話相手になにか話すように促した。しかも「我靠(畜生)」という罵り言葉が使われている。それに対して会話相手CMF03は自分ではなく、ベース協力者になにか話してほしいという気持ちを伝えた。ベース協力者は初対面会話を録音した経験があるために、会話相手が緊張感を緩められるようにICレコーダーは無視していいよとアドバイスした。それを踏まえて、会話相手CMF03はベース協力者のふるさとについて話すことを提案した。しかし、ベース協力者CMB03はそれにふれてほしくないようで、その提案を完全に無視した。一方、会話相手CMF03はベース協力者CMB03に「早く話せ、ぐずぐずするな」とさらに促した。ベース協力者CMB03は会話相手が緊張していると誤解して依然として「緊張しないで、なにか話せよ。」と言った。それと同時に「何を話そう」と言って新しい話題を探した。このとき、会話相手はさらにベース協力者のふるさとの話題を持ち出した。しかし、ベース協力者はそれを無視して、本という新しい話題を言い出した。二人は本という話題についてちょっと話してみたが、なかなか展開できず、会話相手はもう一度ベース協力者のふるさとの話題に触れた。そのとき、ベース協力者の我慢の限界を超えたようで、「畜生、言いたくないよ。」という罵り言葉を使いながら、「ふるさとなんて何も話すことはないよ。」と本音を吐いた。しかしながら、会話相手はベース協力者のふるさとの話題に拘っているようで、さらに「ふるさとはどこ？」とベース協力者のふるさとの話題を展開しようとした。それに対して、ベース協力者は完全に無視し、「お前どの宿舎に住んでいるんだ？」という新しい話題に変えようとした。しかし、会話相手は「無駄な話するなよ。」と言いながら、ベース協力者のふるさとの話題に戻そうとした。「ふるさとの話なんてやめよう、つまらないから」とベース協力者はさらに話したくない理由を強調した。ベース協力者は「成績のこと、ちょっと話そうか。」という新しい話題を提案したが、「無駄なことをするな、お前ってやつは。」という会話相手の催促によって仕方なく自分のふるさとの話題にもどった。

ベース協力者CMB03は相手の提案を無視したり、三回ほど新しい話題に変えたり、罵り言葉を使ったりして自分のふるさとの話題を避けようとした。しかし、すべての工夫が失敗に終わって、最終的にふるさとの話題にもどらざるを得なかった。ベース協力者CMB03は会話相手のふるさとという話題の提案に納得できていないことがうかがえる。そのため、非協力的な発話行為が観察された。

会話終了後のフォローアップアンケートでは「意識的にマイナスの話題や相手に不利の話題を避けようとした」とベース協力者が書いていた。ベース協力者は田舎の出身で、ふる



さとはマイナスの話題だと思っているため、触れてほしくなかったようである。一方、会話相手はベース協力者の他人に触れてほしくないというネガティブ・フェイスを侵害する危険を恐れずに、最後まで自分の意見を通した。それに対してベース協力者は罵り言葉を使ったり、相手の話を無視したりしていた。会話相手は何回も直接的にベース協力者にふるさとのことを話すように促した。つまり、会話の双方がフェイス侵害度がかなり高い言語行動を取ったといえよう。興味深いのは会話終了後のフォローアップアンケートでは互いに不愉快に思っていなかったことである。宇佐美 (1998、2001ab、2002) の DP 理論から考えると、二人は親友であるために、会話相手はストレートに自分の意見を述べるのが適切だと見積られる。一方、ベース協力者は親友だからこそ、仲間言葉である罵り言葉を使ったり、相手の話を無視したりすることは相手の許容範囲内だと見積もっている。フォローアップアンケートの結果からみれば、このような非協力的な発話でも互いに許容範囲以内だと判断された場合は、会話全体でニュートラルの発話効果となるといえよう。他人からみれば非常に失礼な発話かもしれないが、話し手と聞き手は親しい関係であるため、「見積もりの差(De 値)」の「許容できるずれ幅( $\pm \alpha$ )」がより広く、不快感をもたらさないことで、ニュートラルの発話効果となったと推測できる。

このようにして最初の段階から話題を頻繁に変えたりしたことによって、会話全体の話題の出現数が多くなり、話題導入の割合が高くなったのである。

会話 3 のほかにも、会話 6 の話題導入の頻度は 11.61%であり、かなり高い結果である。会話終了後のフォローアップアンケートを調べたが、中国人男性友人同士の会話の相手へ感じる親疎関係の判断の結果からみれば、他の会話と違って、会話 6 だけは相手との関係が最親友や親友ではなく、いわゆる友達だと判断されていた。したがって、話題導入の頻度は、親友同士の会話と比べると初対面会話寄りとなり、比較的高い結果となったのである。

#### 10.4 日中のあいづちの使用状況と DP 理論

本研究は日本人と中国人会話データをあいづちの観点(第八章)からコーディングし、各項目を集計した上で、初対面会話と友人会話のそれぞれ男性と女性のあいづちの基本状態を同定した。日本人女性会話のあいづちの比率を例に取って説明する。

グローバルな観点からみると、疎の関係である日本人女性初対面会話におけるあいづちの導入頻度 30.69%は、親の関係である日本人女性友人同士会話におけるあいづちの導入頻度 18.65%を上回っている。杉戸(1987)の研究結果と同じく、疎の関係にあるほうがあいづちが多くなるといえよう。

日本人女性会話のあいづちの基本状態は、疎の関係にある初対面会話は親の関係にある友人同士の会話よりあいづちの頻度が高い。それは疎の関係にある場合は互いにきちんと聞いていることを表現する必要があるからだとして杉戸(1987)は解釈している。ポライトネスの観点からみれば、円滑なコミュニケーションを維持するためには、あいづちが一つのス

トラテジーとなると考えられる。疎の関係である初対面会話では相手の基本情報を聞き出す必要があるため、親の関係にある友人同士の会話よりフェイス侵害度が高いということになり、よりポライトなストラテジーが必要である。その現れの一つがあいづちだといえよう。したがって、疎の関係である初対面会話では親の関係にある友人同士の会話よりあいづちがより多く出る結果となったのである。

さらに、疎の関係にある日本人女性初対面会話の話題について分析してみると、最初の段階では互いに学年、学部、専攻などの基本情報について探りあいながら会話を進めていくようになっていた。つまり、疎の会話である初対面の場合、相手と親しくなるために、相手の話を引き出すことを目的としているといえよう。話を引き出すことを目的とした談話においてはあいづちの頻度が高くなるという報告がある(水谷 1984、黒崎 1987)。ポライトネスの観点からみれば、相手の話を引き出すこと自体により相手の他人に邪魔されたくないというネガティブフェイスが侵害されるわけである。あいづちをうつというストラテジーはそのフェイス侵害行為を軽減するのではないかと思われる。

一方、日本人女性友人同士会話総発話数に対するあいづちの比率をみると、他の会話と比べると、会話 5 だけはあいづちの頻度が 25.68%であり、突出して高いことが分かる。フェイスシートを調べると、他の会話では二人の親疎関係への評価は「親友」か「最親友」であるのに対して、会話 5 だけは相手との関係が「いわゆる友達」と判断されていた。つまり、会話 5 の親疎関係は初対面から親友(最親友)までの間に位置するため、あいづちの頻度も他の会話と比べて高くなったと解釈できる。

## 10.5 本研究と DP 理論の鍵概念との関連性

宇佐美(1998、2001ab、2002 等)の DP 理論には 7 つの鍵概念がある。(1) ディスコース・ポライトネス (2) 基本状態 (3) 有標ポライトネスと無標ポライトネス (4) 有標行動と無標行動 (5) ポライトネス効果 (6) 見積もり差と行動の適切性、ポライトネス効果の関係 (7) 相対的ポライトネスと絶対的ポライトネス、の 7 つである。この節ではこれらの鍵概念と本研究との関係を述べたい。

### (1) ディスコース・ポライトネス

「ディスコース・ポライトネス」とは、一文レベル、一発話行為レベルでは捉えることのできない、より長い談話レベルにおける要素、及び、文レベルの要素も含めた諸要素が、語用論的ポライトネスに果たす機能のダイナミクスの総体であると定義されている(宇佐美 2001、2002)。

本研究の 4.1.2.2 日本人友人会話の文中のスピーチレベルの基本状態という節では、日本人女性友人会話 2 に出現する罵り言葉は基本状態から離脱した有標行動である。それについて分析する場面を例に取って説明する。

日本人友人会話 2 の流れからみると、二人の話者が就職活動について話し合っている。

就活というのは心が重い話だと JWF02 は感じているようである。しかし、ベース協力者 JWB02 にとってはどうでもいいと話したところからみると、二人の就活に対する態度のギャップが読み取れるであろう。そのために、口げんかになり、会話相手 JWF02 が「君は実にバカだな。」という発話をしていた。一発話文レベルからみれば、「君は実にバカだな。」という発話は丁寧度が低くてインポライトであり、失礼な発話にあたるのであろう。しかし、会話終了後のフォローアップアンケートでは全く不愉快に感じないという答えであった。宇佐美 (1998、2001ab、2002 等) の DP 理論の観点からみれば、互いに不快感をもたらさないということで、話し手と聞き手の「見積もり差」は、「許容できるずれ幅 ( $\pm \alpha$ )」の範囲内に収まる行動である「適切行動」とみなされる。つまり、談話レベルからみれば、この罵り言葉は漫画版ドラえもんのせりふとして有名な煽り言葉の引用であるため、仲間言葉として使用され、日本人女性友人同士の会話では相手の許容範囲内に納まって、ニュートラルな効果となっている。ここでは、一文レベル、一発話行為レベルでは捉えることのできない、より長い談話レベルにおける要素、及び、文レベルの要素も含めた諸要素が、語用論的ポライトネスに果たす機能のダイナミクスの総体であるという宇佐美 (1998、2001ab、2002 等) 「ディスコース・ポライトネス」理論の重要性が改めて示されたといえよう。

## (2) 基本状態

「基本状態」には、以下の2種類がある。

- ① 特定の「活動の型」における談話の「失礼のない典型的な状態」
- ② その談話の基本状態を構成する要素としての「特定の言語行動や言語項目それぞれの典型的な状態」

本研究は中国人と日本人の会話データを対象として、宇佐美 (2001a) のような研究方法で、第四章での日本人会話のスピーチレベル、第五章での中国人会話の語彙の丁寧度、第七章での日本人会話と中国人会話の話題導入の仕方、第八章での日本人会話と中国人会話のあいさつの使用状況という4つの「活動の型」における談話の「失礼のない典型的な状態」つまり、それぞれの基本状態を同定した (第九章を参照に)。

さらに、第六章では日本人初対面会話と中国人初対面会話の典型的な話題展開パターン (「特定の言語行動や言語項目それぞれの典型的な状態」) をまとめた。日本人初対面会話の典型的な話題展開パターンは、あいさつの後、「名前、学部、専攻、学年」という個人情報交換し、今回の会話協力の経緯を話してから、実質的な会話に入る傾向がある。一方、中国人初対面会話の典型的な話題展開パターンは、あいさつ抜きで、直接「学部、学年、専攻、出身」という個人情報交換し、今回の会話協力の経緯を話してから、実質的な会話に入る傾向がある。日本人会話と違って、あいさつ抜きであるだけでなく、名前すら聞かずに会話を進めるのが普通である。

西田 (1998) では「表面的な話題」とは、身上調査的な基本情報であり、「親密な話題」とは、より個人的な話題を指す。本研究の「名前、学部、専攻、学年」という個人情報は「表面的な

話題」にあたり、「大学の勉強や仕事に関わる話題」「大学生活に関わる話題」は「親密な話題」にあたるといえよう。そこで、日本人初対面会話の典型的な話題展開パターンはあいさつ→「表面的な話題」→「親密な話題」である。これは実際の会話データで西田(1998)のアンケート調査の結果を証明しているといえよう。

一方、中国人初対面会話の典型的な話題展開パターンはあいさつ抜きに直接に「表面的な話題」に入り、その後、実質的な会話となる。この結果は張(2006)の台湾人大学生の初対面会話と同じ傾向が見られた。ただし、実質的な会話の内容をみると、中国人女性は「大学生活に関わる話題」という一般的な「親密な話題」のみならず、人間関係の悩みや電話番号の交換や噂話などさらに自己開示の度合いの高い話題が選択される傾向がある。それに対して、中国人男性は「親密な話題」だけでなく、「政治、経済、社会問題など大学生活に全く関係のない話題」が選択される傾向がある。つまり、中国人初対面会話の典型的な話題展開パターンは「表面的な話題」→「親密な話題」+ $\alpha$ である。本研究は実際の会話データに基づき、実証研究を通して、それぞれの日中の初対面会話の話題展開パターンの基本状態を同定したといえよう。

### (3) 有標ポライトネスと無標ポライトネス

Brown & Levinson (1987) のポライトネス理論では依頼行為などのように、相手のフェイスを脅かす「フェイス侵害行為」を行わざるを得ないときに、「相手のフェイス侵害度を少しでも軽減するためにとるストラテジー」としてポライトネスが捉えられていると位置づけている。しかし、我々の日常生活には、「フェイス侵害度行為」にかかわらないタイプのポライトネスもある。それは、「特定の状況で、あつて当たり前で、それが現れないときに初めてそれが意識され、ポライトではないと捉えられる」という類のものである。

DP理論ではこの両者を区別し、前者のような「フェイス侵害度の軽減行為」としてのポライトネスを「有標ポライトネス」と呼び、後者のようなタイプのポライトネスを「無標ポライトネス」と呼んでいる。

本研究は第四章での日本人会話の文中と文末のスピーチレベル、第五章での中国人会話の語彙の丁寧度、第六章での日中の初対面会話における典型的な話題展開パターン、第七章での日中の話題導入の仕方、第八章での日中のあいづちの使用状況のそれぞれの各項目の基本状態を同定すること自体が「無標ポライトネス(相手のフェイスを侵害しない状態)」を調べる作業であると捉えることができる。

### (4) 有標行動と無標行動

談話の「基本状態」は「無標ポライトネス」である。そして、談話の「基本状態」を構成する要素としての言語行動を「無標行動」、各々の要素の基本状態から離脱する言語行動、或いは、基本状態とは異なる談話レベルから見た一連の行動を、「有標行動」と呼ぶ。

本研究の各章では、基本状態を同定した上で、その基本状態から離脱した有標行動を具体的な会話例で分析してきた。

ここで中国人女性友人同士の会話を例にして説明する。その基本状態は P / N の比率がおよそ 7 / 3 である。つまり、中国人女性友人同士の会話ではニュートラル語彙 P で会話するのが基本状態である。しかし、6 会話の中で 1 会話文だけ敬語 (S) と丁寧度が低く正式な場面で通常使わない語彙 (N) が同時に現れたのである。それは基本状態から離脱する「有標行動」といえよう。会話データを調べると、それは中国人女性友人会話 1 のベース協力者 CWB01 の発話である。

CWB01 は家が貧乏で、両親が大学の学費を出すためにずいぶん苦勞したという話をしていた。同級生の〇〇さんは成績が優秀で学校の一等の奨学金だけでなく、国家助成金や国家奨学金など多額の奨学金をもらったために、親はほとんど学費を払わずにすんだということである。

それを踏まえて、CWB01 は父親に「あなた (S) の娘 (N) はそういう能力はないです。」と話した。ここでは父親に対して尊敬語の「您」が使われていた。一方、自分のことを言うのに娘という言葉のぞんざいな言い方が使われているので、「N」とコーディングする。さらにそのときの口調について説明した。それは「優秀な娘が生まれなかった」っていうんじゃないで、笑いながら「お父さん (S) にたくさんのお金を稼いであげることができなくて (ごめんなさい)」という感じであった。

この会話文は中国人女性会話データの中では唯一尊敬語が使われるところである。しかも、この尊敬語が使われるのは初対面会話ではなくて友人同士の会話である。ただし、尊敬語の使用対象は会話の相手ではなくて、話者が父親に直接話した言葉の引用である。つまり、第三者への尊敬語である。

この長い発話文の中で 2 箇所の尊敬語が出てきた。まず最初は「あなた (S) の娘 (N) にそういう能力はないです。」と話者が自分の能力が足りないということで悔やんでいることが伺える。次の「お父さん (S) にたくさんのお金を稼いであげることができなくて (ごめんなさい)」という言葉がさらにその悔しさを表しているといえよう。

つまり、父親に対して申し訳ない気持ちが含まれているのであろう。貧乏な家庭にとっては学費を支払ってくれる親の大変さがつくづく感じられ、奨学金をもらえたらどれほど救われるのか話者は百も承知である。しかし、なかなか思う通りにいい成績が取れなかったために、悔しい気持ちが自然に現れてきた。ところが、そういう気持ちを父親に伝えることはフェイス侵害行為になる。それを軽減するために、よりポライトな言語行動が求められたのである。したがって、話者は父親に対して尊敬語を使ったのではないかと考えられる。一方、自分のことを話す場合、娘という言葉のぞんざいな言い方を使うことによって、話者の自虐的な心理が反映されているのではないかと思われる。宇佐美 (201b:23) では、「有標行動という『動き』が生み出す機能という観点からポライトネスを分析することによって、構造の異なる諸言語のポライトネスを、単なる言語形式の丁寧度の問題と

してや、間接的な表現方法か否かというような言語表現の仕方の問題として比較対照するだけではなく、その背後にある人間の心理や動機の共通性を見出すという観点から、比較対照することが可能になるからである」と指摘している。以上の有標行動の例では、話者CWB01の心理や発話動機がリアルに反映されているといえよう。

#### (5) ポライトネス効果

DP理論において、この「ポライトネス効果」とは、「談話の基本状態や話し手の言語行動、選択されたストラテジーに対する話し手と聞き手の『見積もり差 (Discrepancy in estimations: De 値) 』によって引き起こされる聞き手側からの認知を表わしている。ポライトネス効果には、①プラス効果、②ニュートラル効果、③マイナス効果の3つがあるとされる。

本研究の各章では会話終了後のフォローアップアンケート(インタビュー)を利用して、基本状態から離脱する言語行動の発話効果を確認したのである。

(4)の中国人女性友人会話1のベース協力者CWB01の発話である有標行動について、フォローアップアンケートの結果を調べると、会話相手が不愉快に思わないことからみて、ニュートラル効果と認められる。

#### (6) 見積もり差と行動の適切性、ポライトネス効果の関係

「見積もり (estimation) 」には、以下の3種がある。

- ①「ある有標行動のフェイス侵害度」の見積もり
- ②「談話の基本状態」が何であるかについての見積もり
- ③「フェイス侵害度に応じて選択されたポライトネス・ストラテジー」についての見積もり

本研究は基本状態から離脱する言語行動を分析する際、この3つを用いた。さらに、第六章では日本人と中国人の話題導入におけるポライトネス・ストラテジーについて分析した。

#### (7) 相対的ポライトネスと絶対的ポライトネス

「絶対的ポライトネス」とは、「行く」より「いらっしゃる」のほうが丁寧度が高い、というような言語形式に焦点をあてた研究や、その他の条件が一定ならば直接的表現より間接的表現のほうがより丁寧であるというような捉え方である。しかし、現実には、「敬語」の使用がかえって皮肉やいやみになるということも起こりうる。宇佐美(2008a:164)で述べられているように、実質的に「ポライトネスの効果」を生み出すのは、「言語形式」それ自体の丁寧度ではなく、ある特定の「談話」の「基本状態」からの離脱や回帰という言語行動の「動き」や、特定の場面においてどのような言語行動が適切であると考えているかという「基本状態」、「当該の言語行動や談話行動の有標性の度合い」、及び「フェイス侵害度に応じて選択されたポライトネス・ストラテジー」の話し手と聞き手の「見積も

り差（ずれ）」から生まれるということが分かる。これが、「相対的ポライトネス」という捉え方である。

本研究ではすべての中国人男性友人会話において罵り言葉が観察された。「絶対的ポライトネス」の観点からみれば丁寧度が極端に低い言葉である。そのような言葉を使うと相手に失礼だと感じさせてしまう恐れがある。しかし、会話終了後のフォローアップアンケートによると、それに対して不愉快に思わないということで、プラス効果かニュートラル効果になっていたといえよう。それは「相対的ポライトネス」の観点からみれば、友人関係であるため、仲間言葉として使用されていて、適切な言語行動だと捉えられているのである。

## 10.6 今後の課題

宇佐美（2008a）では「DP 理論では、それを適用する社会生活における人間関係を、その言語使用への影響という観点から、以下の 2 種類に分けて考える。a. 人間関係を確立・維持する必要性、希望、見通しがある関係。b. 人間関係が継続する必要性、希望、見通しのない関係。DP 理論は、この双方を視野に入れ、人間の行動原理の体系化を目指しているが、まずは a. の関係にある人同士のやりとりを前提として論を展開している。」と指摘している。本研究では、横断的な研究をただけであり、これから同じ協力者に対し、時間を置けばどのようなポライトな発話行為の変化があるのかという縦断的な研究をする必要があると思われる。しかも、今回の中国人女性初対面会話では電話番号を交換するという言語行動が観察された。つまり、その人間関係を維持する見通しがある関係だと思われるため、DP 理論に貢献するためにも、さらなる研究を行う必要がある。

また、本研究で使用する日本人男性会話データは宇佐美まゆみ監修(2013)に収録されているものである。その中で、日本人男性初対面会話データは 6 会話中 2 会話は 35 歳前後の社会人であり、残りの 4 会話は大学院生の会話である。条件統制されていないため、結果に多少影響を与えてしまった恐れがある。また、今回得られた結果は会話数の制約があるために、一般化するには限界がある。今後はさらにデータの量を増やす必要があると思われる。

今後の課題としてこの 2 点が挙げられるため、これから更なる研究を行っていきたい。

## 謝辞

本論文を作成するにあたり、指導教官の宇佐美まゆみ教授から、丁寧かつ熱心なご指導を賜りました。ここに感謝の意を表します。また、東京外国語大学の名誉教授の井上史雄教授、ならびに同大学の三宅登之教授、加藤晴子教授、谷口龍子准教授には、この論文の執筆にあたり、様々なご指導・ご鞭撻を賜りました。ここに深謝いたします。また、会話データを収集する際に被験者を快く引き受けてくださり、そして多くのご指摘を下さいました宇佐美ゼミの先輩・同期・後輩の皆様には感謝いたします。



## 日本語参考文献

- 足立さゆり(1995)「日本語の会話におけるスピーチ・レベル・シフト」『拓殖大学日本語紀要』5号、拓殖大学留学生別科、pp. 73-87
- 安達太郎(1997)「「だろう」の伝達的な側面」『J T 日本語教育 D』95、pp. 85-96
- 李恩美(2008)『日本語と韓国語の初対面二者間会話における対人配慮行動の対象研究』東京外国語大学地域文化研究科博士論文
- 庵功雄(2009)「推量の「でしょう」に関する一考察-日本語教育文法の視点から-」『日本語教育』142号、日本語教育学会、pp. 58-68
- 石田靖彦(1998)「友人関係の親密化に及ぼすシャイネスの影響と孤独感」『社会心理学研究』第14巻第1号、pp. 43-53
- 生田少子・井出祥子(1983)「社会言語学における談話研究」『月刊言語』12巻12号、pp. 77-84
- 伊集院郁子(2004)「母語話者による場面に応じたスピーチスタイルの使い分け—母語場面と接触場面の相違—」『社会言語科学』6巻2号、pp. 12-26
- 今石幸子(1992)「談話における聞き手の行動 —あいつちのタイミングについて—」『日本語教育学会創立30周年・法人設立15周年記念大会予稿集』、pp. 147-151
- 宇佐美まゆみ・嶺田明美(1995)「対話相手に応じた話題導入の仕方とその展開パターン：話者間の力関係による相違-日本語の場合」『日本語学・日本語教育論集』第2号、名古屋学院大学留学生別科、pp. 130-145
- 宇佐美まゆみ(1993)「初対面二者間会話における会話のストラテジーの分析：対話相手に応じた使い分けという観点から」『学苑』647、昭和女子大学近代文化研究所、pp. 37-47
- (1995)「談話レベルから見た敬語使用-スピーチレベルシフト生起の条件と機能」『学苑』662、昭和女子大学近代文化所、pp. 27-42
- (1998)「初対面二者間会話における「ディスコース・ポライトネス」」『ヒューマン・コミュニケーション研究』第11号、日本コミュニケーション学会、pp. 49-61
- (1999)「談話の定量的分析-言語社会心理学的アプローチ」『日本語学』18、明治書院、pp. 40-56
- (2001a)「ポライトネスの談話理論構想」『談話のポライトネス』、第7回国立国語研究所国際シンポジウム報告書、pp. 9-58
- (2001b)「ディスコースポライトネス」という観点から見た敬語使用の機能—敬語使用の新しい捉え方がポライトネスの談話理論に示唆すること—」『語学研究所論集』第6号、東京外国語大学語学研究所、pp. 1-29
- (2001c)「ポライトネス理論から見た<敬意表現>—どこが根本的に違うのか」『月刊言語』30(12)、pp. 18-25
- (2002)「ポライトネス理論の展開」『月刊言語』第31巻第1号-第5号、第7号-第13号連載

- (2006)「ジェンダーとポライトネス—女性は男性よりポライトなのか? —」  
日本語ジェンダー学会編、佐々木瑞枝監修『日本語とジェンダー』ひつじ書房、pp. 21-37
- (2007)「改訂版：基本的な文字化の原則 (Basic Transcription for Japanese:BTSJ)2007年3月31日改訂版」について『談話研究と日本語教育の有機的統合のための基礎的研究とマルチメディア教材の試作』平成 15-18 年度科学研究費補助金基盤研究 B(2)研究成果報告書(課題番号 15320064)、pp. 17-36
- (2008a)「ポライトネス理論研究のフロンティア-ポライトネス理論研究の課題とディスコース・ポライトネス理論」『社会言語科学』第 11 巻第 1 号、pp. 4-22
- (2008b)「相互作用と学習-ディスコース・ポライトネス理論の観点から」西原 鈴子・西郡仁朗編『講座社会言語科学 第 4 巻 教育・学習』、ひつじ書房、pp. 150-181
- (2011)「改訂版：基本的な文字化の原則 (BTSJ: Basic Transcription System for Japanese)2011 年版」<http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/usamiken/btsj2011.pdf>
- (2015)「『総合的会話分析』の趣旨と方法-量的分析と質的分析の必然的融合-」『日本語教育』162 号、日本語教育学会、pp. 34-49
- 宇佐美まゆみ・肖婷婷・戴琦・高娃・李宇霞・仇晓妮(2007)「基本的な文字化の原則 (BTS J) の中国語への応用について」『談話研究日本語教育の有機的統合のための基礎的研究とマルチメディア教材の試作』平成 15-18 年度科学研究費補助金基盤研究 B(2)研究成果報告書(課題番号 15320064)、pp. 83-103
- 宇佐美まゆみ監修(2013)「BTSJによる日本語会話コーパス (トランスクリプト・音声) 2013 年版」『自然会話リソースバンク構築による世界的教材共有ネットワーク実現のための総合的研究』平成 23 年度~26 年度科学研究費補助金基盤研究 (A) 研究代表者: 宇佐美まゆみ(課題番号 23242027) 研究成果
- 王鉄橋(1989)「現代中国語の敬語表現-日本語との比較-」『言語と文科』第 2 号、pp.25-48
- 奥田靖雄(1984)「おしはかり (一)」『日本語学』第 3 巻 12 号、pp. 54-69、明治書院
- 奥山洋子(2000)「韓・日同国人女子大学生同士の初対面の会話—質問及び自己開示の時間帯による分析を中心に—」『日本學報』45、pp. 117-132
- カヴァナ、バリー (2010)「普通体と丁寧体の使用法についての考察」『青森保健大雑誌研究ノート』第 11 巻、pp. 87-92
- 榎本博明(1997)『自己開示の心理学的研究』北大路書房
- 大河内康憲(1997)『中国語の諸相』白帝社
- 岡田 努 (2007)『現代青年の心理学—若者の心の虚像と実像』世界思想社
- 加藤好崇(2008)『日本語を媒体とした接触場面における規範の研究』平成 17 年度-19 年度科学研究補助金(基盤研究(C))研究成果報告書(課題番号 17520355)
- 加藤隆勝(1977)『心理学モノグラフ 14 青年期における自己意識の構造』東京大学出版会
- 金山泰子・二宮理佳(2007)「『はい』『ええ』の使い分けに関する意識調査」『ICU 日本語教育研究 3』pp. 3-31 国際基督教大学日本語教育研究センター

- 金山泰子・二宮理佳(2009)「『はい』『ええ』の使い分けに関する調査—漫画を使用したアンケートを通して—」『ICU 日本語教育研究 5』pp. 19-44 国際基督教大学日本語教育研究センター
- 北川千里(1977)「『はい』と『ええ』」『日本語教育』33号、日本語教育学会、pp. 65-72
- 黒崎良昭(1987)「談話進行上の相づちの運用と機能—兵庫県滝野方言について」『国語学』150号、国語学会、pp. 15-28
- (1998)「会話を進展させる表現」『日本語学』第17巻3号、明治書院
- 小宮千鶴子(1986)「相づち使用の実態—出現傾向とその周辺—」大東文化大学語学教育研究所『語学教育研究論集』3号、大阪大学言語文化学会、pp. 43-62
- 蔡諒福(2011)「社会人初対面会話における話題選択に関する一考察—日台中のデータをもとに—」『大阪大学言語文化学』20、pp. 103-115
- 佐藤 勢紀子(1999)「日本語の談話におけるスピーチレベルシフトの機構とその指導法」東北大学1998年度～1999年度 基盤研究(C) 研究課題番号：10680302
- ザトラウスキー・ポリー(1986, 1987)「談話の分析と教授法(I)(II)(III) -勧誘表現を中心に-」『日本語学』第5巻第11号、第12号、第6巻第1号、明治書院
- (1993)『日本語の談話の構造分析—勧誘のストラテジーの考察—』くろしお出版
- 三枝令子(2003)「「だろう」の意味と働き：助動詞から終助詞まで」『一橋大学留学生センター紀要』6、pp. 63-76
- 謝韞(2005)「日本人女子大学生同士と中国人女子大学生同士の初対面会話」『日本中国語学会第55回全国大会 予稿集』、pp. 296-300
- 杉藤美代子(1993)「効果的な談話とあいづちの特徴及びそのタイミング」『日本語学』第12巻4号、pp. 11-20、明治書院
- 杉戸清樹(1987)「発話のうけつぎ」『国立国語研究所報告 92 談話行動の諸相—座談資料の分析』三省堂
- (1989)「ことばのあいづちと身ぶりのあいづち」『日本語教育』67号、pp. 48-59
- 鈴木孝夫(1973)『ことばと文化』岩波書店
- 武内信子(1982)「女子大学生における自己開放性の特徴と性格類型による検討」『ノートルダム清心女子大学紀要』、6、pp. 29-37.
- 田中健史朗(2013)「自己開示を促進する要因の検討—開示者の被開示者に対する類似の認知に着目して」『心理臨床学研究』31(3)、pp. 500-504
- 張瑜珊(2006)「台日女子大生による初対面会話の対照分析—初対面会話フレームの提案を目指して—」『人間文化論叢』御茶ノ水大学大学院人間文化研究科9、pp. 223-233
- (2007)「初対面会話における対人関係構築プロセスの研究概観：会話データからの研究を中心に」『言語文化と日本語教育』増刊特集号、日本言語学文化研究会、pp. 94-118
- 陳文敏(2003)「同年代の初対面同士による会話に見られる「ダ体発話」へのシフト—生起しやすい状況とその頻度をめぐって—」『日本語科学』14号、pp. 7-28

- 鄭榮美 (2011) 「友人間の会話における「誘い行動」の日韓対照研究-ディスコース・ポライトネス理論の観点から-」東京外国語大学博士論文
- 鄭賢児 (2015) 「友人間の「謝罪談話」における日韓対照研究-ディスコース・ポライトネス理論の観点から-」東京外国語大学博士論文
- 唐麗燕・易紅艷(2011) 「日本語と中国語の敬語に関する一考察」『福井工業大学研究紀要』第41号、pp. 521-528
- 富樫純一 (2002) 「『はい』と『うん』の関係をめぐって」定信利之編『「うん」と「そう」の言語学』ひつじ書房、pp. 127-157
- 内藤真理子 (2003) 「あいづちのスピーチレベルとそのシフトについて-日本語母語話者と韓国入学習者の相違-」『世界の日本語教育』13号
- 中山晶子 (2003) 『親しさのコミュニケーション』くろしお出版
- 西田司(1998) 『異文化の人間関係』多賀出版
- 仁田義雄 (2010) 『仁田義雄日本語文法著作選』第3巻(語彙論的統語論の観点から)、ひつじ書房
- 丹羽空・丸野俊一(2010) 「自己開示の深さを測定する尺度の開発」『パーソナリティ研究』18(3)、pp. 196-209
- 日高・伊藤(2007) 「スピーチレベルシフトの表現効果-シナリオ「12人の優しい日本人」を題材に-」『秋田大学教育文化研究紀要 人文科学・社会科学』62、秋田大学教育文化学部、pp. 1-12
- 日向茂男 (1979) 「談話における『はい』と『ええ』の機能について」『国立国語研究所報告』65号、pp. 215-229 国立国語研究所
- 二宮理佳・金山泰子(2006) 「『ええ』の機能についての一考察-『はい』との比較を通して-」 「ICU日本語教育研究2」国際基督教大学日本語教育研究センター、pp. 51-63
- 二宮理佳・金山泰子(2010) 「「はい」「ええ」の使い分けに関する考察-テレビ映像を使用したインタビュー調査を通して-」 「ICU日本語教育研究2」国際基督教大学日本語教育研究センター、pp. 3-24
- 星野祐子(2008) 「コミュニケーションストラテジーとしての引用表現-発話末の「みたいな」の表現効果-」 『お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科人間文化創成科学論叢』11、pp. 133-142
- 堀口純子(1988) 「コミュニケーションにおける聞き手の言語行動」『日本語教育』64号、pp. 13-26
- (1997) 『日本語教育と会話分析』、くろしお出版
- 松田陽子 (1988) 「対話の日本語教育-あいづちに関連して-」『日本語学』第7巻第13号、pp. 59-66、明治書院
- 松原詩緒・齊藤 勇(2009) 「自己開示の性差、開示対象者による相違および健康なパーソナリティとの関係」『応用心理学研究』34(2)、pp. 126-136

- 水谷信子(1984)「日本語教育と話しことばの実態—あいづちの分析—」『金田一春彦博士古稀記念論文集 第二巻 言語学編』、pp. 261-279
- 水谷信子(1988)「あいづち論」『日本語学』第7巻第13号、pp. 4-11、明治書院
- 水野義道(1988)「中国語のあいづち」『日本語学』7巻13号、pp. 18-23、明治書院
- 村上恵・熊取谷哲夫(1995)「談話トピックの結束性と展開構造」『表現研究』62、pp. 101-111
- 宮崎幸江(2002)「日本語の電話と対面会話におけるあいづち」『小出記念日本語教育研究会論文集』10、pp. 71-86
- 宮武かおり(2007)「日本人友人間の会話におけるスピーチレベルの使用実態」『TUFS 言語教育学論集』2、東京外国語大学大学院地域文化研究科言語教育学講座、pp. 19-31
- 三上章(1963)『日本語の構文』、くろしお出版
- 三牧陽子(1993)「談話の展開標識としての待遇レベル・シフト」『大阪教育大学紀要』42巻1号、大阪教育大学第I部門人文科学、pp. 39-51
- (1999)「初対面会話における話題選択スキーマとストラテジー—大学生会話の分析—」『日本語教育』103、pp. 49-58
- (2002)「待遇レベル管理から見た日本語母語話者間のポライトネス表示—初対面会話における「社会的規範」と「個人のストラテジー」を中心に—」『社会言語科学』5巻1号、pp. 56-74
- (2013)『ポライトネスの談話分析-初対面コミュニケーションの姿としくみ』くろしお出版
- メイナード・泉子・K(1993)『会話分析』、くろしお出版
- 楊晶(1997)「会話における相づちの中日対照研究：形態、頻度、機能を中心に」第13回日本言語文化学会発表、『平田悦朗先生退官記念号』、pp. 210-214
- (1999)「中国語と日本語の電話会話における相づち使用の一比較：形式と頻度の観点から」『言語文化と日本語教育』、pp. 1-13
- 楊虹(2015)「初対面会話における話題上の聞き手行動の日中比較」『日本語教育』162号、日本語教育学会、pp. 66-81
- 李宇霞(2008)「大学生初対面会話における話題選択-中国人日本語学習者同士の会話を通して-」『2008年度日本語教育学秋季大会予稿集』日本語教育学会、pp. 61-66
- (2009)「大学生初対面会話における話題導入の仕方-中国人日本語学習者同士の会話を通して-」『社会言語科学会第23回大会発表論文集』、pp. 64-67
- (2012)「中国人日本語学習者同士の初対面会話における話題展開パターン—日本語と中国語の会話を通して」『日本語／日本語教育研究[3]』、pp. 145-159、ココ出版
- 李宇霞・張志剛(2017)「ポライトネス理論からみる日本人大学生会話研究—あいづちを中心に—」『東アジア文化研究』第3号、pp. 64-87
- 劉建華(1987)「電話でのアイズチ頻度の中日比較」『月刊言語』11月号、pp. 12-16

劉丹丹(2012)「勧誘会話における中日のあいづち対照研究」第9回国際日本語教育・日本研究シンポジウム

林河運(2008)「日韓初対面会話の質問による話題導入の対照研究-ポライトネスの観点から-」『現代社会文化研究』No4、pp. 149-166

母育新(2001)「待遇行動における日本人と中国人の比較の比較-ポライトネスの視点からの考察」『麗澤大学紀要』73、pp. 209-22

## 英語、中国語参考文献

- Altman, I. & Taylor, D. A. (1973). *Social penetration: The development of interpersonal relationships*. New York: Holt, Rinehart & Winston.
- Brown, G. and Yule, G. (1983). *Discourse analysis*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Brown, P. & Levinson, S. C. (1987). *Politeness: Some Universals in Language Usage*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Coulthard, M. (1985). *An introduction to discourse analysis*. Harlow: Longman.
- Goffman, Erving. (1955). On face-work: An analysis of ritual elements in social interaction. *Psychiatry*, 18 (3): 213–231.
- Goffman, E. (1967). *Interaction Ritual: Essays on Face-to-Face Interaction Behavior*. Garden City, NY: Doubleday.
- Grice, H. Paul (1975). Logic and Conversation. *Syntax and Semantics*, Vol. 3, *Speech Acts*, ed. by Peter Cole and Jerry L. Morgan. New York: Academic Press, 41–58.
- Ho, David Yau-Fai. (1976). On the concept of face. *American Journal of Sociology*, 81, 867–84.
- Jourard, S. M. & Lasakow, P. (1958). Some factors in self-disclosure. *Journal of Abnormal Social Psychology*, 56: 91–98.
- Jourard, S. M., & Lasakow, P. (1958). Some factors in self-disclosure. *The Journal of Abnormal and Social Psychology*, 56(1).
- Lakoff, Robin. (1973). Language and Woman's Place. *Language in Society*, 2(1): 45–80. Cambridge University Press.
- Leech, Geoffrey, N. (1983). *Principles of Pragmatics*. London: Longman.
- Maynard, S. (1989). *Japanese Conversation: Self-contextualization through Structure and Interactional Management*. Norwood, NJ: Ablex.
- Maynard, Senko, K. (1986). On back-channel behavior in Japanese and English casual conversation. *Linguistics*, 24, 1079–1108.
- McGloin, Naomi H. (1991). Hai and Ee : An Interactional Analysis. *Japanese Korean Linguistics*.
- Tannen, D. (1986). *Gender and Discourse*. Oxford: Oxford University Press.
- Usami, M. (1999). *Discourse politeness in Japanese conversation: Some implications for a universal theory of politeness*. Unpublished doctoral dissertation. Harvard University.
- White, S. (1989). *Backchannels across Cultures: A Study of Americans and Japanese*. Center for Development of Education Kamehamcha Schools, Honolulu. Lang. Soc. 18: 59–76.
- 戴锦君·吴蕾 (2012) 「QQ 聊天里的语气词和“嗯”“哦”反馈项」『海外英语』、pp. 251–252
- 方梅 (2000) 「自然口语中弱化连词的话语标记功能」『中国语文』第 5 期、pp. 459–470
- 方梅 (2002) 「指示词“这”和“那”在北京话中的语法化」『中国语文』第 4 期、pp. 343–356
- 郝雪飞 (2004) 「感叹句原型类别及基本句式分析」『北京地区第三届对外汉语教学学术研讨

- 会论文选』北京大学出版社
- 胡蓉(2013)「浅谈日汉语附和语的类型比较」『外语研究』第8期、南昌教育学院、pp. 55-56
- 胡士云(1997a)「骂人话及骂人话杂谈」『语言教学与研究』第3期、北京语言文化大学出版社、pp. 83-90
- (1997b)「汉语骂人话简论」『中国語学論文集』、東方書店、pp. 315-335
- 黄伯荣·廖序东(2002)『现代汉语(下册)第三版』、高等教育出版社、pp. P49
- 李健(2003)「会话中礼貌的中日对比研究-从以FT价为中心、意义公式的观点-」西安交通大学硕士论文
- 李霞(2006)「人称代词+“啊”的语用分析」『修辞学习』第1期、pp. 42-43
- 李行健(1995)『河北方言词汇编』、商务印书馆
- 李瑶(2016)「『新編日本語 1-4』における敬語の扱いに関する一研究-ポライトネス理論とディスコース・ポライトネス理論の視点から」『日本学研究』pp. 336-351
- 李宇霞(2014)「用“礼貌原则”理论探讨中日话题选择的问题——以燕山大学日语专业为例」『韶关学院学报』第3期、pp. 185-188
- 刘恋(2017)「非難場面におけるインポライトネス使用実態の中日対照研究」西安外国语大学硕士论文
- 刘全花(2011)『现代汉语礼貌语言研究』郑州大学出版社
- 罗国忠(1998)「现代中日敬语比较」『四川外语学院学报』第2期总第68期、pp. 54-59
- 马浦珍(2016)「女性朋友间电话邀约行为的中日对照研究-基于“礼貌策略理论”的观点-」西安外国语大学硕士论文
- 马庆株(1997)「指人参与者角色关系趋向与汉语动词的一些小类」胡壮麟、方琰主编『功能语言学在中国的进展』、清华大学出版社、pp. 136-142
- 齐春红(2007)「语气副词与句末语气助词的共现规律研究」『云南师范大学学报』第39卷第3期、pp. 125-130
- 齐沪扬(2002)「情态语气范畴中语气词的功能分析」『南京师大文学院学报』第3期、pp. 141-152
- 时晓阳(2014)「话语礼貌理论视角下的日语拒绝行为研究」『日语学习与研究』第3期、pp. 43-48
- 宋敏(2017)「女性初次见面对话中的语体转换」西安外国语大学硕士论文
- 孙汝建(1999)「句中语气词的选择限制」『南通师范学院学报』第15卷第2期、pp. 66-71
- 孙雁雁(2013)「句末“啊”的交际功能分析——以《家有儿女》语料为例」『语言教学与研究』第3期、pp. 99-105
- 唐聿文(2012)『东北方言大词典』、长春出版社
- 王荣(2015)「话语礼貌理论在日语教学中的应用」『科教文汇(上旬刊)』总第307期、pp. 179-180
- 吴平(2001)「汉语会话中的反馈信号」『当代语言学』第3卷第2期、pp. 119-126
- 吴少华(2012)「以《明暗》为例试析夏目漱石手稿修改的原因」『日语教育与日本学』第2期、pp. 85-92



- 吴文洁(2015)「中日敬语的异同分析」『考试周刊』第84期、pp. 18-19
- 毋育新(2014)『现代日语礼貌现象研究』浙江工商大学出版社
- (2015)「近四十年来的汉日对比研究综述-以礼貌现象为焦点-」『汉日语言对比研究论丛』第6辑、华东理工大学出版社、pp. 84-95
- 毋育新·鄧永玮(2010)「基于话语礼貌理论的日语请求行为研究」『外语教学』第31卷第4期、pp. 39-43
- 『现代汉语词典』第7版、商务印书馆
- 谢群霞(2007)「话题后“啊”的语用功能研究」上海师范大学硕士论文
- 熊子瑜·林茂灿(2004)「“啊”的韵律特征及其话语交际功能」『当代语言学』第6卷第2期、pp. 116-127
- 许家金(2008)「汉语自然会话中话语标记“那(个)”的功能分析」『语言科学』第7卷第1期、pp. 49-57
- 徐辉(2012)「现代汉语敬语的分类」『现代交际』总第338期、pp. 56
- 徐晓娟、刘春梅(2011)「附和表现的中日对比研究-以表现形式和使用频率为中心-」『剑南文学(经典教苑)』、pp. 113-114
- 野村琴菜(2017)「日中接触場面の日本語依頼談話展開-ディスコース・ポライトネス理論の観点から-」『汉日语言对比研究论丛』第8辑、pp. 115-124
- 曾小燕(2013)「浅析汉语敬语的界定」『现代语文(语言研究版)』、pp. 118-120 张艳翠(2015)「网络聊天中应答词“哦”的语用功能」『齐齐哈尔大学学报(哲学社会科学版)』10月、pp. 96-98
- 张若楠(2016)「基于礼貌原则的中日“拒绝”表现对比研究」云南大学硕士论文
- 张潇尹·熊红芝(2017)「话语礼貌理论视角下的中日“请求-拒绝”行为对比研究」『浙江外国语学院学报』第1期、pp. 54-64
- 张艳翠(2015)「网络聊天中应答词“哦”的语用功能」『齐齐哈尔大学学报』第10期、pp. 96-98
- 郑岚心(2008)「论叹词“啊”的语用功能」『现代语文(语言研究版)』12月、pp. 46-47
- 郑燕芳(2007)「“嗯”的话语功能分析」『南方论刊』第10期、pp. 56-57
- 周筱娟(2008)『现代汉语礼貌语言研究』、中国社会科学出版社
- 中国国务院(1956)「关于推广普通话的指示」『人民日报』
- 朱晓亚(1994)「现代汉语感叹句初探」『徐州师范学院学报』、pp. 124-127